

# 大学院履修案内・講義要綱

平成 16 年度

(2004 年度)

慶 應 義 塾 大 学 大 学 院

經 濟 学 研 究 科

本案内は、大学院経済学研究科における履修の方法、手続きと講義内容を記載したものです。学生諸君は本案内を熟読したうえで、履修する授業科目を決定し、指定された期間に必ず申告してください。履修申告後の履修授業科目の変更は認められません。

本案内を読んでなお、疑問や不明な点があれば下記の学習指導担当より説明を受けることができます。

領域	分野	学習指導担当
	1：経済理論 2：計量・統計	教授 瀬古美喜
	3：学史・思想史 4：経済史	教授 柳沢遊
	5：産業・労働 6：制度・政策	教授 中村慎助
	7：現代経済 8：国際経済	教授 竹森俊平
	9：環境関連 10：社会関連	教授 金子勝



# 目 次

学事関連スケジュール.....	4
振 鈴 表.....	5
ま え が き.....	6
一般注意事項.....	8
履修申告方法.....	17
学事 Web システム .....	20
分野番号表.....	26
履 修 要 項.....	27
開講科目と単位数.....	28
課程修了にいたるまでの要件.....	33
指 導 教 授.....	34
学位請求論文の提出.....	34
休学・留学・退学.....	36
単位取得退学及び在学期間延長.....	37
修士課程設置科目講義要綱 .....	39
博士課程設置科目講義要綱 .....	81
国際センター夏季講座.....	110
国際センター設置講座.....	112
知的資産センター設置講座 .....	147
関係規程抜粋.....	149

## 平成16 (2004) 年度 学事関連スケジュール

成績証明書発行 (2年生以上)	4月1日 (木) 12時30分～	
教育実習事前指導 (今年度実習予定者)	4月5日 (月) 15時～16時	533 番教室
入学式	4月7日 (水) 9時～	西校舎ホール
履修案内等資料配付	4月7日 (水) 10時～11時30分	314 番教室
ガイダンス 修士課程	4月7日 (水) 13時～13時30分	313 番教室
博士課程	4月7日 (水) 13時30分～14時	313 番教室
学習指導オフィスアワー	4月7日 (水) 13時30分～15時	大学院校舎 4 階
教職課程ガイダンス (大学院生)	4月7日 (水) 16時～18時	517 番教室
教職課程ガイダンス (来年度実習予定者)	4月7日 (水) 18時～19時	513 番教室
春学期授業開始	4月8日 (木)	
Web による履修申告期間 (春学期)	4月15日 (木) 10時～17日 (土) 11時	
履修申告用紙による履修申告日 (春学期)	4月16日 (金) 8時30分～18時10分	学事センター前受付ボックス
Web による登録科目一覧提出締切	4月17日 (土) 14時	
開校記念日【休講】	4月23日 (金)	
授業料納入期限 (全納・春学期分納)	4月30日 (金)	
履修申告科目確認表送付 (本人宛)	5月上旬 (詳細後日揭示)	
修士課程2年生 修了見込証明書発行	} 5月6日 (木)～	
博士課程3年生 単位取得退学見込証明書発行		
履修申告修正受付	5月6日 (木)～10日 (月) 予定	
早慶野球戦【第2時限以降休講】	5月下旬	
春学期休学願提出期限	5月31日 (月)	
春学期末試験時間割発表 (修士課程基礎科目)	7月上旬 (詳細後日揭示)	
春学期授業終了	7月14日 (水)	
春学期補講日	7月15日 (木)～16日 (金)	
春学期末試験 (修士課程基礎科目)	7月17日 (土)～27日 (火)	
春学期末追加試験申込受付 (修士課程基礎科目)	7月中 (詳細後日揭示)	
春学期末追加試験 (修士課程基礎科目)	8月5日 (木)～6日 (金)	
夏季休業	7月28日 (水)～9月21日 (火)	
三田一斉休暇	8月9日 (月)～16日 (月)	
春学期学業成績表送付 (本人宛)	9月中旬	
秋学期授業開始	9月25日 (土)	
秋学期履修申告期間	10月上旬 (詳細後日揭示)	
9月学位授与式	9月29日 (水)	
授業料納入期限 (秋学期分納)	10月29日 (金)	
早慶野球戦【第2時限以降休講】	11月上旬	
秋学期補講日(1)	11月18日 (木) 午前	
三田祭 (準備・本祭・片付を含む)【休講】	11月18日 (木) 午後～11月24日 (水)	
秋学期休学願提出期限	11月30日 (火)	
冬季休業	12月23日 (木)～1月5日 (水)	

三田一斉休暇	12月27日(月)～1月5日(水)
授業開始	1月6日(木)
秋学期末試験時間割発表(修士課程基礎科目)	1月上旬(詳細後日掲示)
福澤先生誕生記念日【休講】	1月10日(月)
秋学期月曜代替講義日	1月11日(火)
秋学期授業終了	1月19日(水)
秋学期補講日 <sup>(2)</sup>	1月20日(木)・21日(金)
秋学期末試験(修士課程基礎科目)	1月22日(土)～2月4日(金)
秋学期末追加試験申込受付(修士課程基礎科目)	1月中(掲示します)
福澤先生命日	2月3日(木)
春季休業	2月上旬～3月下旬
秋学期末追加試験(修士課程基礎科目)	2月下旬(詳細後日掲示)
学業成績表送付(本人宛)	3月中旬
学位授与式	3月29日(火)

(注1) 印の期間には学事センター窓口業務を執り行いません。証明書発行等も行わないので注意してください。

(注2) 事情により、日程・教室等は変更があり得るので、掲示板等に注意してください。

## 振 鈴 表

時 限	授業振鈴時間	定期試験振鈴時間
第1時限	9:00～10:30	9:30～10:30
第2時限	10:45～12:15	10:45～12:15
第3時限	13:00～14:30	13:00～14:30
第4時限	14:45～16:15	14:45～16:15
第5時限	16:30～18:00	16:30～18:00
第6時限	18:10～19:40	18:15～19:45

(注) 2004年度より、三田の授業振鈴時間に変更になりました。

知的資産センター設置講座のみ。

修士課程基礎科目のうち学部設置科目と併設している科目については、定期試験期間中に定期試験を行うことがあります。

# 経済学研究科履修案内の配布にあたって

経済学研究科委員長 池尾和人

大学院での日常生活を学部でのその単なる延長として過ごしてはならない。慶應義塾大学経済学研究科は、経済分野の専門的研究者、もしくは経済学の専門知識を有した高度な職業人を養成することを使命としている。こうした使命が果たされるためには、大学院生諸君が、強い目的意識を持って、質・量ともに濃い研究内容をこなすことが求められる。常に自分の頭で考え、執拗に問題を追及し解決しようとする姿勢が重要である。問題を発見し、それを自分で解明した時の醍醐味は、研究者でなければ味わえないものである。大学院で学ぶ諸君は、そうした経験ができることを目指すべきである。

また、経済学を学ぶものである以上、希少な時間をできるだけ有効に活用することを考えなければならない。いくら意欲があっても、無手勝流に勉強に取り組むだけでは、さほど効果はあがらない。系統的に学習を進めることが重要である。こうした観点から、現在のカリキュラムでは、修士課程の段階においては、細分化された特定の科目を学ぶことよりも、むしろ基礎的な知識を順序立って学ぶことが求められている。基礎科目の履修が必要とされているのは、まさにこのためである。

修士課程の段階でより広く基礎的事項を学ぶことによって、自分が専攻したい研究分野への視野も広がることが期待されている。そして、研究テーマが定まり、研究の内容を深めて行くときには、指導教授とのかかわりが大切になる。

指導教授は、自分が選んだテーマの先達であり、研究を進める上での助言者である。修士課程の場合、6月に「指導教授希望届」を提出してもらうことになっている。したがって、それまでに十分熟慮し、どの教授に指導を依頼するのが最も適切かを慎重に考えておかれたい。もし指導教授の選択に関して悩みや迷いが生じた場合には、5つの領域ごとの各学習指導担当者に相談すればよい。正式に指導教授が決まるのは、6月下旬である。

後期博士課程の目標は、もちろん博士学位の取得を目指して研鑽を重ね、博士論文を仕上げることである。1999年度以降に後期博士課程に入学した学生は、入学後3年間の内に「学位論文予定題目および研究計画書」を提出しなければならないことになっている。研究計画書提出後は、指導教授と研究科委員会が選出した論文指導担当者から論文指導を受けることになる。なお、博士論文を提出するためには、その一部（ないしは全部）が査読（レフリー）制度のある専門刊行物に掲載されている（あるいは掲載予定である）ことが必要条件とされている。こうした提出要件にも十分留意されたい。

本研究科の大学院生諸君には、志を高くもって、学問的精進を遂げることを期待する。

# 学 科 目 履 修 に あ た っ て

経済学研究科は、幅広い視野に支えられた高度な専門知識と研究能力の育成を目指している。これは、言うに易くして行うに難い課題である。「幅広い視野」ということは、往々にして「浅薄な雑学」になりやすく、また「高度な専門知識と研究能力」は、「専門馬鹿」のしるしと見られがちである。しかし、経済学は社会科学の一分野であり、意味のある社会科学は、この両者の幸せな結合なくしては成り立たない。

この点、現在の経済学は、それ自身が、数学的なものから歴史的なものまで大変に広い守備範囲を備えている。このような経済学の特質を生かし、本研究科で学ぶ諸君は、自分の専門分野を深く追求すると同時に、他の経済学の諸分野に対する十分な知識を備えてもらいたい。少なくとも、経済学内部で、異分野間の専攻者が意味のあるアカデミックな会話を交わせるようになることが、われわれの学問の土壌として望ましいのである。本研究科では、とりわけ修士課程においては、複数分野に亘る履修を求めているが、これは、このような必要性を考えての要求である。履修に当たっては、この点を考え、設置科目を利用して自らの能力を十分に拡大してもらいたい。

とはいうものの、大学院の最終目標が「高度な専門知識と研究能力の育成」にあることは言うまでもない。そして、その各段階での到達目標が修士論文、博士論文の作成である。このためには、学部段階とは異なった各人の積極的な研究姿勢が重要である。もちろん、本研究科の指導体制は、この論文作成に導くように組まれてはいるが、それのみでは不十分であり、教室を離れた場で個々人が最大限の勢力を自らの研究に傾注することが求められている。

しかし、個々の専門的研究は、始めてみると、行き詰まりや自信喪失の連続である。そのような時に、自分の殻の中で萎縮してはならない。まず、第一に必要なことは、行き詰まりの前に立つ壁を越える道を捜して、休まずに試行錯誤を続けることである。第二には、指導教授や学習指導をはじめとする教授陣と、自発的に、緊密かつ率直に研究上の相談や議論をする必要がある。修士課程では一年次六月に「指導教授登録用紙」を提出することになっているが、それは、それまでに指導を希望する教授等に会い、自分の研究について自発的に相談していることを当然の前提としている。大学院では、それだけの積極性が求められているのである。第三には、同じ研究科の学生同士で、読書会など様々な機会を作り、相互に刺激しあうことも有効な手段であることを忘れてはいけない。つまり、大学院においては、自分の殻に閉じこもらずに教授陣や友人達との間の「多事争論」を自ら作り出して行く積極性も必要なのである。

最後に、円滑な大学院生活を送るためには、事務的な諸手続きにかんしてつねに責任ある対応を望みたい。大学院も社会の一制度であり、その制度を活用してゆくためには、甘えることなく、求められる諸手続きを期限を守り適切に行ってゆかなければならない。言わずもがなのことだが、念のために付言しておく。

大学院経済学研究科学習指導

# 一 般 注 意 事 項

## 学生証（身分証明書）

1. 学生証は、諸君が慶應義塾大学大学院生であることを証明する身分証明書です。同時に慶應義塾大学学生健康保険互助組合員証、および本塾図書館入館票を兼ねています。
2. 学生証は次のような場合に必要となるので、登校の際常に携帯しなければなりません。
  - (1) 本塾教職員の請求があった場合
  - (2) 各種証明書および学割証の交付を受ける場合
  - (3) 各種試験を受験する場合
  - (4) 通学定期券または学生割引乗車券購入の際、およびそれを利用して乗車船し係員の請求があった場合
3. 再交付手続  
学生証を紛失したり、汚損した場合は、写真（縦4cm 横3cm、カラー光沢仕上げ、最近3ヶ月以内に撮影したもの）1枚を添えて学事センターで再交付を受けてください。新しい学生証は原則、当日発行いたします。ただし、機械のメンテナンス、故障等により当日発行できないこともありますのでご了承ください。  
学生証の紛失、裏面シールの紛失については、手数料として2,000円が必要です。
4. 返却  
再交付を受けた後、前の学生証が見つかった場合や退学・修了などで離籍した場合はただちに学事センターへ返却しなければなりません。

## 掲示板

1. 学生諸君への通達事項は、すべて大学院校舎1階の掲示板に掲示されます。毎日機会あるごとに、掲示板に注意してください。掲示に注意しなかったために、諸君自身が不利益を被ることもあります。  
なお、他研究科・学部設置科目を履修した場合は、その科目を設置している研究科・学部の掲示板を見てください。諸研究所、各センター設置科目・講座等については共通掲示板に注意してください。
2. 主な掲示事項は、授業の休講・補講、時間割の変更、教室の変更等毎日の授業に直接関係のある緊急通達、各試験の実施要領、学事日程、呼出し等です。休講・補講、呼出しについてはインターネットに繋がるパソコンまたは携帯電話（i-modeのみ）により学事Webシステム（<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>）においても確認できます。  
また、試験の実施要領、各種発表・通達の一部については塾生ページ（<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>）において確認できます。

## 試験・レポート・成績

### 1. 試験

随時授業時間内に行われます。別途指示がある場合には掲示されることがありますので、掲示板にも留意してください。

なお、学部と併設する修士課程基礎科目については学部に基づき定期試験を行うことがあり、追加試験の対象ともなります。掲示を確認してください。

### 2. レポート

レポート提出は、教室および研究室で直接教員に提出する場合と、学事センターに提出する場合があります。学事センターへの提出を指示された場合は、学事センター指定のレポート提出用紙（2枚複写）に必要な事項を記入し、添付してください（2枚とも）。レポート提出用紙は学事センター窓口および西校舎1階学部掲示板前に備えてあります。

### 3. 学位請求論文（修士論文・博士論文）

履修要項34ページ参照。

### 4. 成績通知

学業成績表は9月上旬および3月中旬に本人宛に発送します。（ただし、取得した科目の成績が成績証明書に記載されるのは翌年度の4月以降となります。）

## 諸届

下記事項はすべて学事センターで取り扱います。

### 1. 休学願・就学届・退学届・国外留学申請

履修要項36ページ参照。

### 2. 住所変更届（本人・保証人）、保証人変更届、改姓（名）届

各届とも所定の用紙に記入のうえ速やかに学事センターに届け出てください。学生証の記載事項変更も同時に行ってください。なお、郵便および電話による届け出は受け付けません。

必要書類

- ・住所変更届：在学カード
- ・保証人変更届：変更届、在学カード、誓約書（本人・保証人押印）、保証人住民票
- ・改姓（名）届：改姓（名）届、在学カード、誓約書（本人・保証人押印）、戸籍抄本、学生証再交付願

なお、履修上の連絡、あるいはその他の重要な事柄の処理に際し、これらの変更届が出されない場合は、極めて重大な支障をきたすことがありますので、十分に注意してください。

## 各種証明書

証明書の発行、申し込み、受け取りいずれの場合でも学生証が必要です。

授業料が未納の場合、すべての証明書が発行できません。

1. 証明書自動発行機で即時発行する証明書（和文）

証明書	発行開始日	発行手数料 (1通あたり)
在学証明書	4月1日 12時30分～	200円
修了見込証明書	5月6日～	200円
成績証明書	4月1日 12時30分～	200円
修了見込付成績証明書	5月6日～	400円
履修科目証明書	6月1日～	200円
学割証	4月1日 12時30分～	無料
健康診断証明書	6月中旬～(年度末まで)	200円

料金は改定されることがあります。

稼働時間

学事センター事務室内発行機：学事センター事務取扱い時間内

南校舎1階設置発行機：9時～20時 [休日および大学休業日は除く]

メンテナンス、故障等により、証明書発行機を停止することがあります。使用する時期や枚数に注意し、あらかじめ早めに準備してください。

学割証は1人1年間10枚まで発行。有効期限は発行日から3か月以内（有効期限内でも離籍した場合は無効）。各種学生団体の課外活動に必要な学割証は学事センターに申し出てください。

各種証明書等で厳封を必要とする場合には、学事センターに申し出てください。（自動発行機で発行した証明書は厳封できません。）

成績証明書には、本年度取得の成績は春学期取得分も含め次年度以降反映されます。

健康診断証明書は、6月中旬以降、定期診断受診者を対象に発行されます。なお、奨学金申請等で6月中旬以前に証明書が必要な場合は、保健管理センター三田分室受付に相談してください。

2. 学事センター窓口で即時発行する証明書（英文）

証明書	発行開始日	発行手数料 (1通あたり)
英文在学証明書	4月1日 12時30分～	200円
英文修了見込証明書	5月6日～	200円
英文成績証明書	4月1日 12時30分～	200円

料金は改定されることがあります。

3. 学事センター窓口で申し込み、日数を要して発行する証明書・文書

前記以外の証明書・文書等（例：英文履修科目証明書、他大学院受験等のための形式指定の調査書等）の発行に関しては、余裕をもって学事センターで相談のうえ申請してください。なお、交付には和文書類は申請後標準3日、英文書類は申請後標準1週間日数を要します。

## 学事センターの窓口

### 1. 学事センター事務取り扱い時間

- (1) 授業期間中は次のとおり取り扱います。

平日…… 8時30分～18時10分

〔なお、各学部・研究科に関する相談・問い合わせは、次の時間帯でお願いします。〕  
8時30分～16時30分

土曜日…… 8時30分～11時30分、12時30分～14時

- (2) 休業期間中は次のとおり取り扱います。

平日…… 8時30分～11時30分、12時30分～16時

土曜日…… 8時30分～11時30分、12時30分～14時

事務取り扱い時間を変更する場合、および事務室の閉室については、掲示等でお知らせします。

### 2. 窓口業務

- (1) 学籍・成績・履修に関すること
- (2) 授業・試験・レポート等に関すること
- (3) 時間割に関すること
- (4) 休講・補講に関すること
- (5) 追加試験の申し込み（一部の修士課程基礎科目）
- (6) 休学願・国外留学申請・退学届・住所変更届・保証人変更届・改姓（名）届等
- (7) 学生証の発行
- (8) 成績証明書・在学証明書等各種証明書の発行（和文はおもに証明書自動発行機）
- (9) 教室に関すること
- (10) 通学証明書の発行

落とし物は学生総合センター学生課が取り扱います。

修了後および単位取得退学後の成績証明書等の申込・発行は、塾員センター（北館3階）で行います。

## 教員を訪ねる場合

授業のある日に研究室または教員室を訪ねてください。

専門科目担当（三田）専任教員（教授・助教授・専任講師）……研究室（三田研究室棟）

他地区専任教員および塾外からの出講者（講師）……教員室（南校舎2階）

## 学生総合センター窓口

学生総合センターには、主に課外活動・課外教養を担当する学生課、奨学金および学生健康保険互助組合を担当する厚生課、就職進路指導を行う就職課があります。ここでは、学生総合センターの窓口業務について紹介します。

## 学 生 課

### 学生談話室 A・B の使用申し込み受付

授業・ゼミ以外の会合のために学生談話室 A・B を使用したい時は、使用希望日の 4 日前までに申し込んでください。休日の使用はできません。

### 山食・西校舎食堂ホール・北館学生食堂の使用申し込み受付

公認学生団体・教職員・OB 等が、山食・西校舎食堂ホール・北館学生食堂をパーティー等で利用したい場合は、学生課に使用申し込みをし、予約してください。さらに、予約後 1 週間以内に学内集会届を提出し、許可を得る必要があります。学内集会届の提出を怠った場合、予約は取り消されますので注意してください。なお、日曜日・祝日は利用できません。

### 学外行事届の受付

公認学生団体が、合宿、コンサート、パーティなどの学外行事を行う場合には、その 4 日前までに届け出てください(学生教育研究災害傷害保険の項参照)。なお、団体割引、減税証明書等の必要があれば申し出てください。合宿等で団体割引が必要な場合についても学生課で受け付けています。

### 学内における掲示・配布

ポスターやチラシ・パンフレット等を学内で掲示・配布する場合は、学生課に届け出て、場所等の指示を受けることが必要です。

### 備品使用申請の受付

ステッカー、ワイヤレスマイク、塾旗、水差、椅子、机等を借用したい場合は、使用希望日の 4 日前までに申請してください。

### 車両入構申請の受付

塾生の車両入構は認められていませんが、やむを得ず車両入構の必要がある場合は、入構希望日の 4 日前までに申請してください。

### 学生ラウンジの使用

南校舎 1 階の学生ラウンジは、個人での利用ができます。開室時間は 8 時 45 分～21 時です。室内での飲食はできません。

### 伝言板および「DENGON」の利用

学生ラウンジ横の黒板および第一校舎南西角の伝言板「DENGON」は、塾生間の連絡用として自由に利用してください。B5 用紙 1 枚のみ掲示可能ですが、必ず伝言者の研究科・学年・氏名・連絡先を明記してください。

### そ の 他

学生総合センター「大学生生活懇談会」では見学会、講演会、討論会等の催物を随時行っていますので、積極的に参加してください。また、学生課の窓口には、財団法人大学セミナーハウス、展覧会の招待券・割引券等も置いてあります。

遺失物は学生課の窓口で取り扱っています。

## 厚 生 課

### 奨 学 金

厚生課窓口において、概ね 4 月初旬から奨学金案内を配布し、出願受付を行います。

・慶應義塾大学奨学金 [給費]

5月下旬に出願受付を行います。募集日程は西校舎ロビー学生総合センター掲示板に掲示します。

・日本学生支援機構(旧日本育英会)奨学金 [貸費]

4月中旬に出願受付を行います。第1種(無利子)と、1999年度から設置された第2種(きぼう21プラン)(有利子)があります。その他に家計急変者を対象とした緊急採用(無利子)・応急採用(有利子)があります。

・地方公共団体、社・財団法人等の各種奨学金 [給費・貸費]

募集は主に4・5月に行います。募集日程はそのつど、西校舎ロビー学生総合センター掲示板に掲示します。

・指定寄付奨学金 [給費]

募集は主に4月に行います。募集日程はそのつど、西校舎ロビー学生総合センター掲示板に掲示します。

奨学融資制度 [奨学金付き学費ローン]

学生諸君の学費の調達の手助けになるよう配慮した制度で、学生本人に金融機関が低金利で学費を直接貸し出しする方式です。在学生であれば、誰でも応募することが可能です。在学中の借り入れに伴う利子は、規程に従い、慶應義塾が奨学金として給付します。

入学年度等により、適用制度が異なりますので、詳細は厚生課窓口までお問い合わせください。

学生健康保険互助組合

保険証を使用し、病院や診療所で受診した場合、健康保険が適用された自己負担分について、学生健保から医療費給付が受けられます。給付方法は銀行振込となりますので、口座の届出をしてください。受領口座が未登録の場合には、給付金は振り込まれません。給付を受けるための手続きは、医療機関によって異なりますので、以下に従って手続きしてください。

(1) 慶應病院で受診した場合

病院で診察を受ける際、保険証と学生証を提示してください。また「医療給付金振込口座届」を厚生課へ提出し、振込口座を登録してください。通院は受診月の翌月20日に、入院は翌々月20日に、給付金が振り込まれます。

(2) 一般病院で受診した場合

厚生課に置いてある「医療費領収証明書」に、病院で1か月ごとの診療内容を記入してもらい、塾生記入欄を各自記入して、厚生課へ提出してください。ただし、「学生氏名」「保険点数または保険適用金額」「負担割合」の3点が明示された領収証が発行されている場合は領収証の添付でかまいませんが、必ず「医療費領収証明書」に保険者番号、傷病名等を記入して提出してください。受診月を含め、4か月以内に提出されない場合は無効になります。振込日は証明書を提出した月の翌月20日です。

組合ではこのほか、契約旅館に対する宿泊費補助や、海の家、スキーハウスの設置などを行っています。さらに、日吉塾生会館内にトレーニングルームも設置しています。詳しくは、入学時に配付した「健保の手引き」(学生総合センターにも置いてあります)をご参照ください。

## 就 職 課

就職課は、就職活動に関するさまざまな情報を収集して提供しています。企業からの求人票・説明会案内をはじめ、会社案内、OB・OG名簿などを、南校舎地下1階の就職課事務室、1階の就職資料室にて、自由な利用に供しています。就職課のホームページには求人企業一覧やさまざまな説明会案内などを掲載しています。

また就職活動支援の一貫として、10月から2月にかけて多様な専門家等による講演会、就職ガイダンス、公務員志望者のための説明会、OB・OGや内定者によるディスカッションなどを開催しています。こうした催しはビデオテープに収録し、後日貸し出しも行っています。

就職課は就職活動の進め方を解説した『就職ガイドブック』を作成し、修士1年生全員に配布しています。また皆さんが就職活動をするなかでわからないこと、困ったことがあった場合など、いつでも個別相談に応じています。

就職課を皆さんの進路決定や就職活動におおいに利用してください。

### 学生相談室（西校舎地下2階）

学生相談室は、学生生活の中で当面するさまざまな問題や悩みについての個別の相談に応じています。それと共に、小集団の中で自己をみつめることで自己成長を促す「サイコドラマ」や「エンカウンター・グループ」の行事も行っています（このスケジュールは相談室に問い合わせてください）。

相談内容に関しては、それがいかなる種類のものであっても個人の秘密を厳守しますし、すべては来談者とカウンセラーの間のこととして扱われますので、気軽に相談に来てください。

### 各課窓口取り扱い時間

学生課・厚生課・就職課

平 日..... 8時30分～16時20分

土曜日..... 8時30分～14時20分

都合により閉室することがあります。

学生相談室

平 日..... 9時30分～16時30分

土曜日..... 9時30分～14時30分

昼休み.....11時30分～12時30分

### 学生教育研究災害傷害保険について

諸君の教育研究活動中の不慮の災害事故補償のために、大学で保険料の全額を負担し、日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険」に加入しています。

この保険の適用を受ける「教育研究活動中」とは次の場合をいいます。

#### (1) 正課を受けている間

講義、実験・実習、演習または実技による授業（総称して以下「授業」という）を受けている間をいい、次に掲げる間を含みます。

指導教員の指示に基づき、卒業論文研究または学位論文研究に従事している間。ただし、もっぱら被保険者の私的生活にかかわる場所において、これらに従事している間を除きます。

指導教員の指示に基づき、授業の準備もしくは後片付けを行っている間、または授業を行う場所、大学の図書館・資料室もしくは語学学習施設において研究活動を行っている間。

(2) 学校行事に参加している間

大学の主催する入学式、オリエンテーション、卒業式など教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間。

(3) (1)(2)以外で学校施設内にいる間

大学が教育活動のために所有、使用または管理している施設内にいる間。ただし、寄宿舍にいる間、大学が禁じた時間もしくは場所にいる間、大学が禁じた行為を行っている間を除きます。

(4) 学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間

大学の規則に則った所定の手続きにより、大学の認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動または体育活動を行っている間。ただし山岳登はんやハンググライダーなどの危険なスポーツを行っている間を除きます。

保険金は本人（被保険者）の申請に基づき支払われますので、上記活動中に万一事故があった場合は、学生課で相談の上、所定の手続きを行ってください。また、本保険の適用が円滑に行われるため、ゼミ合宿を学外で行う場合、および学内学生団体が学外で活動する場合は、その都度「学外行事届」を提出してください。

その他この保険に関する詳細については、直接学生課窓口で尋ねてください。

任意加入の補償制度について

任意加入の補償制度としては、保険と共済の2つがあり、加入希望の場合は直接それぞれに申し込むかたちになっています。

「学生総合補償」保険は、(株)慶應学術事業会（慶應義塾関連会社）に、「学生総合共済」保険は慶應生活協同組合に、資料請求してください。

連絡先：(株)慶應学術事業会 TEL. 03-3453-6098、慶應生活協同組合 TEL. 045-563-8489

学生カードの提出について

次に従って提出してください。

1. 提出学年

全学年

2. 提出方法

提出日：4月末日まで

提出先：学生総合センター学生課窓口

3. 記入上の注意

学生カードは諸君の在学中に活用する資料ですので必ず提出してください(やむをえず提出日に提出できなかった場合は、後日学生課に提出してください)。

## 緊急時における授業の取り扱いについて

交通機関ストライキ、台風・大雨・大雪・地震などの各種自然災害により鉄道等交通機関の運行が停止した場合や、大規模地震対策特別措置法（大震法）に基づく警戒宣言が発せられた場合などの授業の取り扱いは次の通りとします。

### 1. 鉄道等交通機関運行停止時の授業の取り扱い

#### 【対象事由】

1. 交通機関のストライキ
2. 台風・大雨・大雪・地震などの各種自然災害によるもの

#### 【対象路線】

- ・山手線 ・中央線（東京 高尾間） ・京浜東北線（大宮 大船間） ・東急（電車に限る）  
のいずれか1路線の全区間または一部区間において運行停止となった場合は下記の通りとします。

#### 【時間・対応策】

1. 午前6時30分までに運行を再開した場合は、平常通り授業を行います。
2. 午前8時までに運行を再開した場合は、第2時限から授業を行います。
3. 午前10時30分までに運行を再開した場合は、第3時限から授業を行います。
4. 正午までに運行を再開した場合は、第4時限から授業を行います。
5. 正午を過ぎても運行が再開されない場合は、当日の授業を休講とします。

#### 【その他】

授業開始後に運行停止となるような場合は、状況により授業の短縮や早退など別途措置を講じません。

掲示や構内放送、下記のホームページによる大学からの指示に従ってください。

交通機関の運行状況に係わらず、大規模な災害（大震災、洪水など）が発生した場合の授業の取り扱いについては、状況によりその都度指示することとします。

### 2. 大震法に基づく警戒宣言が発せられた場合の授業の取り扱い

首都圏・東海地方を中心とする大規模な地震発生が予想され、大規模地震対策特別措置法（大震法）に基づく「警戒宣言」が発せられる場合の授業の取り扱いは下記の通りとします。

[1] 「警戒宣言」が発せられた場合、ただちに全学休校とします。

[2] 地震が発生することなく「警戒宣言」が解除されたときの対応は、交通機関運行停止時の場合に準じます。

## 早慶野球戦が行われた場合の授業について

授業は1時限のみとし、2時限以降は応援のため休業とします（3回戦以降もこれに準じます）。

# 履修申告方法

具体的な履修については、本書熟読の上、各自の指導教授又は、各領域の学習指導担当と必ず相談して決定してください。また、履修申告用紙（Web 登録科目一覧を含む）は、指導教授の認印を受けた上で期日までに提出してください。なお、それでも不明な点がある場合は、各領域の学習指導担当者または学事センター経済学研究科係に問い合わせてください。

博士課程の在学期間延長者に限り科目履修を望まない場合は、指導教授の認印のみ押印した履修申告用紙の提出が必要になります。それ以外の者は、修了に必要な単位を取得していても、修学の意志を示すため 1 科目以上は必ず申告してください。

期日までに申告せず、休学・退学の願い出もなく修学の意志が確認できない時は、退学処分となります。（学則第 161 条）

## 1 履修申告について

### (1) 履修申告方法について

Web 履修申告システムを推奨します。Web 履修申告システムによる登録ではマークミスを未然に防止でき、即時にエラーチェックおよび学則による履修判定が行われ、メッセージが表示されます。（科目選択をせずに登録を行うと、現在の取得状況による学則判定が行われ、修了単位に不足している科目が分かります。）ただし、最終的な履修科目およびエラー等の確認は、自宅宛に送付する履修申告科目確認表で行ってください。

履修申告用紙による申告を希望する者には、履修申告用紙を配付しますが、履修申告用紙による申告と Web 履修申告を併用することはできません。履修するすべての科目をどちらか一方の申告方法により申告してください。

### (2) 指導教授の認印について

指導教授印欄に指導教授の認印が必要です。Web による履修申告をした場合は、画面を印刷し、その用紙の所定欄に認印を受けたものを期日までに提出してください。

なお、修士課程 1 年生の春学期申告時には、学習指導担当より認印を受けてください。

### (3) 履修申告日時について

履修申告は、必ず指定された期日に行ってください。

春学期

Web 履修申告システムを利用する場合

申告期間 4月15日（木）10：00～17日（土）11：00

履修申告（登録科目一覧）提出

締切日時：指導教授の承認印を得た上で、4月17日（土）14：00

場 所：学事センター前受付ボックス

履修申告用紙を利用する場合

履修申告提出

締切日時：指導教授の承認印を得た上で、4月16日（金）8：30～18：10

場 所：学事センター前受付ボックス

秋学期（詳細後日掲示）

Web 履修申告システムを利用する場合・履修申告用紙を利用する場合

申告期間

10月上旬（予定）

- (4) 経済学研究科設置の科目については、春学期の履修申告では春学期の科目を申告し、秋学期の履修申告では秋学期の科目を申告してください。  
ただし、他研究科および学部設置の通年・秋学期開講科目についてはすべて春学期に申告してください。通年開講の科目を申告した場合、秋学期の申告では時間等の重複がないように注意してください。通年科目と秋学期開講科目が同一の曜日時限で申告された場合は、履修中の通年科目を優先し、秋学期科目の申告を無効とします。
- (5) 申告後は、履修科目の変更・追加・取り消しを認めません。また、閲覧・照会にも応じません。  
Web 履修申告システムによる登録後、登録科目一覧画面を印刷、あるいは履修申告用紙をコピーし、時間割とともに控えとして保管してください。
- (6) 履修申告科目確認表は春学期は5月上旬、秋学期は10月中旬に送付します。確認のうえ、年度末まで大切に保管してください。この確認を怠ったために生じた問題（誤登録による申告漏れ等）については大学側は一切責任を持ちません。確認期間は送付後約1週間（詳しくは掲示により指示します）とし、この期間経過後は確認が終了したものとみなします。
- (7) 時間割は変更することがありますので、掲示を確認のうえ申告してください。なお、履修申告の時点で時間割の定まっていない科目については申告できません。
- (8) 登録されていない授業科目を受験しても一切無効です。単位は取得できません。
- (9) 学則124条による留学が認められた者および予定の者の履修申告については、学事センター経済学研究科係まで問い合わせてください。（履修要項36ページ参照）

## 2 登録番号および分野について

- (1) 授業科目名、担当者名と登録番号（5桁）を十分確認してください。
- (2) 1つの授業科目には1つの登録番号が付いています。  
集中講義等で複数の曜日・時限にわたって開講している授業科目についても、1か所の登録番号をマークすることで全ての時限について登録されます。
- (3) 履修科目により登録番号を登録するだけで自動的に分野が登録される場合（履修申告用紙では「A欄」と、各自分野を選択しなければならない場合（履修申告用紙では「B欄」）があります。各自分野を選択して申告する際には、履修申告用の2桁のB欄分野を登録します。分野番号表（26ページ）を確認してください。

〈登録番号のみ申告する科目（履修申告用紙では「A欄」）〉

- ・1997年度以降入学の修士課程在籍者は経済学研究科修士課程の時間割に記載されている科目
- ・博士課程在籍者は経済学研究科博士課程の時間割に記載されている科目および修士課程の時間割に記載されている科目

〈B欄分野を申告する科目（履修申告用紙では「B欄」）〉

- ・1996年度以前入学の修士課程在籍者は経済学研究科修士課程の時間割に記載されている科目
- ・他研究科，学部および研究所等設置科目

### 3 Web による履修申告方法について

詳細は次項「学事 Web システムの利用方法」の「3. 学事 Web システムの操作説明」（21ページ）を参照してください。

### 4 履修申告用紙（マークシート）の記入方法について

(1) HB か B の鉛筆を使用してください。誤記・記入漏れがないように、丁寧に記入してください。特に「0」と「1」のマークミス等に注意してください。

(2) 学籍等の記入方法

修士・博士の欄はどちらかに 印をつけ、研究科・学年・氏名・学籍番号および提出日を記入してください。学籍番号は数字で記入するとともに、該当する数字をマークしてください。なお専攻欄の記入は不要です。

(3) A欄記入上の注意事項

形態欄：その科目の形態（春学期・秋学期）を で囲み、曜日・時限を記入します。

科目名・教員名を記入します。複数の教員が担当する科目は、時間割上段に記載されている教員名を記入します。

登録番号欄：履修する授業科目の時間割表記載の登録番号（5桁）を記入し、マークします。

(4) B欄記入上の注意事項

形態欄：その科目の形態（春学期・秋学期・通年）を で囲み、曜日・時限を記入します。

科目名・教員名を記入します。

登録番号欄：履修する授業科目の時間割表記載の登録番号（5桁）を記入し、マークします。

分野欄：分野番号表（26ページ）記載のB欄分野（2桁）を記入し、マークします。

(5) 「無効マーク」（A欄・B欄に共通）にマークすると、その枠内について無効にすることができません。訂正は消しゴムを使用して修正することができますが、跡が残ったり、黒くこすれたりした場合は、「無効マーク」を利用してください。

(6) 履修申告用紙の再交付について

無効マーク欄を使用して無効にしたうえで正しい科目を登録しても訂正し切れない場合は用紙を交換しますので、その履修申告用紙を持参のうえ、学事センターに申し出てください。

交付された履修申告用紙では記入欄が足りない場合も学事センターに申し出てください。

# 学事 Web システム

## 1. 学事 Web システム (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) について

学内のパソコンからは無論のこと、自宅などからでもインターネットに繋がるパソコンがあれば、学事 Web システムを利用して履修申告や登録済科目の確認、休講・補講情報の確認などができます。

学事 Web システムを利用するためには ID (学籍番号) と事前に通知したパスワードが必要です。このパスワードは途中変更は可能ですが、離籍するまでの間使用することになります。全て個人管理になるので忘れないように十分注意してください。

学事 Web システムには以下の 5 つの機能があります。

- ・履修申告
- ・登録済科目確認
- ・休講・補講情報
- ・パスワード変更
- ・メールアドレス登録・変更

また、携帯電話 (i-mode のみ) では、休講・補講情報の確認、パスワード変更が可能です。

### ...注 意...

もし学事 Web システムのパスワードを忘れてしまった場合には、4月7日 (水) 16:00 までに学事センターでパスワード変更申請の手続きを行ってください。(2003年度以前に入学した在学生の初期パスワードは、変更していない場合、2004年3月に送付した学業成績表に印字されています。)

また、学内のパソコンを利用するための Windows パスワードを忘れてしまった場合は、インフォメーションテクノロジーセンター (ITC: 大学院棟地階) で変更申請の手続きを行ってください。

学事 Web システムのユーザー名とパスワードは、ITC 発行の Windows アカウントのユーザー名とパスワードとは異なりますので注意してください。

学事 Web システムのユーザー名 : 学籍番号

Windows アカウントのユーザー名 : m \*\*\*\*\* (修士) または d \*\*\*\*\* (博士)

## 2. 学事 Web システム操作上の注意

- ・複数のブラウザを起動して同時にログインしないでください。
- ・学事 Web システムにログインした後は、ブラウザの [戻る] および [進む] ボタンは使用しないでください。誤ってクリックしてしまい画面が正しく表示されなくなった場合には、[更新] ボタンを押してリロードしてください。
- ・学事 Web システムは30分間何も操作しないと自動的に切断されます。インターネットサービスプロバイダーによっては、これよりも短い時間でタイムアウトする場合がありますので注意してください。
- ・ブラウザの [戻る] ボタンや [進む] ボタンを何度も押ししたり、30分間何も操作をしなかったためタイムアウトになった場合、画面にアクセスエラーと表示されたり、真っ白な画面になる場合があります。そのような場合には、一旦ブラウザを終了し、10秒程度待ってから再度ブラウザを起動し直してください。このような場合、最後に履修申告メイン画面の [登録] ボタンを押した時点のデータ更新までが反映されています。
- ・学事 Web システムは、Cookie を使用していますので、お使いのブラウザに Cookie を受け付ける設定をしてください。
- ・学事 Web システムは、SSL による暗号通信を行います。学事 Web システムにアクセスすると、新しいサイトの証明書を受け付けるか否かの確認ウィンドウが表示されますので設定してください。
- ・お使いのブラウザが、Proxy Server を経由する設定になっている場合、設定を解除しないと正しく接続できない場合があります。そのような場合には、一時的に Proxy Server の設定を変更してください。
- ・氏名等に難しい字が使われている場合、画面上にうまく表示できない場合がありますが、システム上問題はありませぬ。
- ・Cookie, SSL, Proxy の設定、履修エラーメッセージ詳細説明、Q&A (質問回答集)、Web 履修にあたっての注意事項 (地区/学部別) については、学事 Web システムブラウザ用トップページ ([http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/index\\_br\\_top.html](http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/index_br_top.html)) からのリンクを参照してください。

### 3. 学事 Web システムの操作説明

#### (1) 履修申告

学事 Web システムを利用しての2004年度の履修申告期間と学事 Web システムの URL は以下の通りです。

[春学期履修申告期間] 4月15日(木) 10:00~17日(土) 11:00  
(毎日4:00~5:00はメンテナンスのため稼働を停止します)  
[秋学期履修申告期間] 10月上旬(予定)  
学事 Web システムの URL <http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>

受付期間中に時間割が変更される場合があります。各キャンパスの掲示板に注意し、必要であれば締め切りまでに再申告(申告の修正)を行ってください。

#### 学事 Web システムトップページ

上記 URL にアクセスし [ブラウザー用] をクリックしてください。履修申告は「Internet Explorer」や「Netscape」などの標準ブラウザーを使用してください。i-mode からは操作できません。



#### 学事 Web システムブラウザー用トップページ

学事 Web システムの操作方法(特にログインできない場合などの解説)や、よくある質問についての回答などは、このページに用意されています。[ログイン画面へ] ボタンをクリックしてください。



#### ログイン

「ID(学籍番号)」と、事前に通知したパスワードを入力し、[ログイン] ボタンをクリックしてください。画面がうまく表示されない場合は、前述の画面の「ログインできない時は」のリンク先で、ブラウザーの設定方法等を確認してください。

この画面以降ブラウザーの「進む」「戻る」ボタンは使用しないでください。

複数のブラウザーを起動して同時にログインしないでください。



## トップメニュー画面

「メールアドレス登録・変更」で、必ず履修申告前に登録されているメールアドレスを確認してください。履修登録後に自動送信される受付確認メールの宛先となります。必要に応じ、メールアドレスを登録・変更してください。変更する場合には、新たに登録するメールアドレスを2箇所入力し（再入力欄にも同じものを入力する）、[登録] ボタンをクリックしてください。

メールアドレスの登録間違いにより、受付確認メールが届かないケースが多発しています。

学事 Web システムには大学配付のメールアドレス（\*\*\*\*\*@mita.cc.keio.ac.jp 等）を登録し、個人所有のメールアドレスに送りたい場合は、転送設定を利用してください。

メールアドレスのユーザー名（例：「\*\*\*\*\*@mita.cc.keio.ac.jp」の\*\*\*\*\*部分）のみ登録しても届きません。すべて入力してください。

## 履修申告メイン画面

[履修申告] ボタンをクリック後、[Web による履修申告上の注意] をクリックし、必ず注意文を熟読してください。その後、[履修申告メイン画面へ進む] ボタンをクリックしてください。



## 科目の選択

(a) と (b) の2通りの方法で科目の選択ができます。

### (a) 時間割から科目を選択するとき

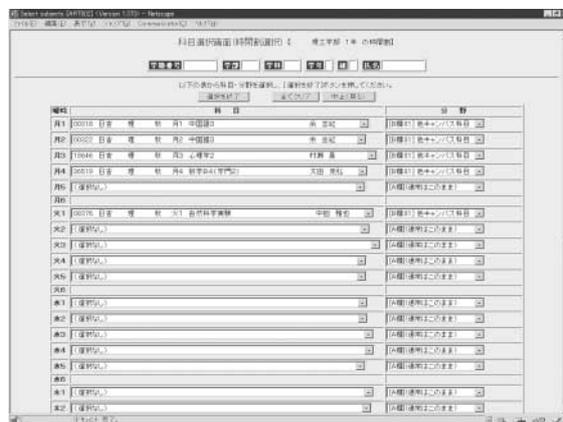
履修申告メイン画面で、[時間割から選択] ボタンの右側のドロップダウンリストから設置学部・学科・学年を選択してから、[時間割から選択] ボタンをクリックしてください（初期設定では、所属する研究科および学年が自動的に指定されています）。

科目選択画面（時間割選択）が表示されますので、曜日時限毎に科目および分野をドロップダウンリストから選択してください。

他学部の科目を履修する場合など、B欄分野を選択しなければならない場合は前項「履修申告のしかた」の「2. 登録番号および分野について」（18ページ）および「分野番号表」（26ページ）をよく読んでください。選択が完了したら、[選択を終了] ボタンをクリックしてください。

### (b) 登録番号から科目を選択するとき

[登録番号で選択] ボタンをクリックしてください。科目選択画面（登録番号）が表示されますので、時間割表に記載されている5桁の登録番号を入力してください。[科目名を確認] ボタンを押し、科目情報欄に表示される科目名、曜日時限などの情報を確認したうえで、最後に [選択を終了] を押ししてください。



他学部科目を履修する場合など、B欄分野を選択しなければならない場合は前項「履修申告のしかた」の「2. 登録番号および分野について」(18ページ)および「分野番号表」(26ページ)をよく読んでください。選択が完了したら、[選択を終了]ボタンをクリックしてください。

(a)(b)の手順は、連続して行うことができます。同一の曜日時限に春学期と秋学期の科目を一度に選択することはできません。その場合、一度[選択を終了]を押し、再度時間割または登録番号から科目を選択してください。



### 選択した科目の確認

で選択した科目が、一覧表示されますので確認してください。ただし、[登録]ボタンを押すまで有効になりません。(状態欄に「未登録」と表示されています。)



### 選択した科目を取り消す場合

の画面から、取り消したい科目の登録No.の左側にチェックをつけ、[選択の取消]ボタンをクリックしてください。その後、一覧表から削除されたことを確認してください。ただし、[登録]ボタンを押さなければ完全に削除されません。

### 選択した科目の登録

選択されている科目を確認したら、画面一番下の[登録]ボタンを押してください。  
(選択) および (取消) で行った内容はこの[登録]ボタンを押すまで有効になりません。

### 登録結果表示の確認

[登録]ボタンを押すと、選択した科目について、曜日時限の重複や不足科目等のエラーチェックが行われ、その結果が表示されます。各科目の「エラー」の欄にメッセージが表示されていないか確認してください。(エラーメッセージの詳細については、の「履修申告メイン画面」のSTEP2の右側にある[エラーの詳細説明]をクリックし、参照してください。)



次に右端の「状態」欄が「登録済」と表示されていることを確認してください。「状態」欄が「保留中」と表示されている場合、エラー科目があるためにすべての科目が未登録です。エラー内容を確認して登録し直してください。「保留中」と表示されている科目は履修申告期間終了後に登録が取り消されます。

さらに、上部の「現在の登録状況」に必要な条件不足・不備等のメッセージが表示されていないか確認してください。不足・不備がある場合、登録し直してください。この画面を控としてプリントアウトしておくことをお勧めします。

登録内容を変更したい場合は、[履修申告画面へ戻る]ボタンをクリックし、からの手続きを再び行ってください。登録内容がこれで良ければ、[履修申告を終了する]ボタンを押してください。

ここで Web ブラウザーを終了しないでください。(ブラウザーの右上の×印をクリックして閉じないでください。)

### 受付確認メール

「登録」ボタンを押した後、正常にログアウトする際、 で登録されているメールアドレスに受付確認メールが自動送信されます。

でメールアドレスの登録を行っていない場合は、今回の受付確認メールのみの一時的な送信先を指定できる画面が表示されますので、メールアドレスを入力し [指定する] ボタンを押してください。受付確認メールの送信先が表示され、そのアドレス宛に送信されます。メールアドレスの間違いにより受付確認メールが届かないことがあります。入力する際は注意してください。(この場合、メールアドレスは登録されません。)

なお、hotmail (@hotmail.com) のアドレスを指定した場合、受付確認メールが文字化けすることがあります。また、携帯電話のメールアドレスを指定すると正しく送信されない場合があります。

今回のみの一時的な指定を行わず、 で登録を行っているメールアドレスに送信する場合は、 [指定しない] ボタンを押してください。

### ログアウト

[ログアウト] ボタンをクリックして、ログアウトしてください。

## (2) 登録済科目確認

履修申告で正しく登録された科目は、4月下旬(予定)より、学事 Web システムを利用して再度確認することができます。確認できる日程や詳細などは掲示および塾生ページ (<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>) に掲載します。ただし、5月上旬に本人宛送付する「履修申告科目確認表」で必ず最終確認を行ってください。

前述(1)の (トップメニュー画面) までは、同様の操作です。画面上の [登録済科目確認] ボタンを押して、履修申告科目を確認してください。

## (3) 休講・補講情報の確認

学事 Web システムから、全キャンパスの休講・補講情報を確認することができます。またこのサービスは、i-mode 対応の携帯電話からも同様に見ることができます。

ただし、公式の情報は科目設置学部・研究科のキャンパスの掲示板とします。休講・補講情報は変更することがありますので、必ず直前に掲示板を確認するようにしてください。

代替講義日の休講は、通常講義と異なり学事 Web システムの休講情報では対応していませんので、塾生ページ (<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>) および各キャンパスの掲示板で確認してください。

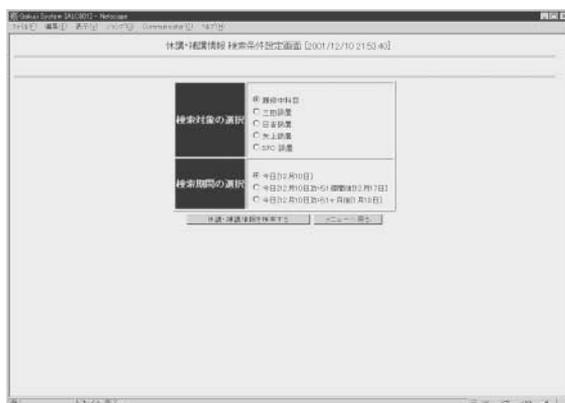
### [ブラウザ編]

(1)の から までを参照して、学事 Web システムにログインしてください。

(1)の の画面(トップメニュー画面)から [休講補講情報] ボタンをクリックしてください。

自分の履修科目、あるいは他キャンパス設置の科目など、検索するキャンパスの対象を選択してください。

また、検索期間の選択も同様に行ってください。選択が終了したら、 [休講・補講情報を検索する] ボタンをクリックしてください。



科目名	曜日	時間	担当	備考	備考
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(1)~(2)	月	9:00-10:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(3)	月	10:00-11:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 法字(法字専攻)	月	11:00-12:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 法字(法字専攻)	月	12:00-13:00	藤田 雅之	この日に休講。本編目に振り替ります。	
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(4)	月	13:00-14:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(5)	月	14:00-15:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(6)	月	15:00-16:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(7)	月	16:00-17:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(8)	月	17:00-18:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(9)	月	18:00-19:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(10)	月	19:00-20:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(11)	月	20:00-21:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(12)	月	21:00-22:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(13)	月	22:00-23:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(14)	月	23:00-24:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(15)	月	24:00-25:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(16)	月	25:00-26:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(17)	月	26:00-27:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(18)	月	27:00-28:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(19)	月	28:00-29:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(20)	月	29:00-30:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(21)	月	30:00-31:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(22)	月	31:00-32:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(23)	月	32:00-33:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(24)	月	33:00-34:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(25)	月	34:00-35:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(26)	月	35:00-36:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(27)	月	36:00-37:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(28)	月	37:00-38:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(29)	月	38:00-39:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(30)	月	39:00-40:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(31)	月	40:00-41:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(32)	月	41:00-42:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(33)	月	42:00-43:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(34)	月	43:00-44:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(35)	月	44:00-45:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(36)	月	45:00-46:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(37)	月	46:00-47:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(38)	月	47:00-48:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(39)	月	48:00-49:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(40)	月	49:00-50:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(41)	月	50:00-51:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(42)	月	51:00-52:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(43)	月	52:00-53:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(44)	月	53:00-54:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(45)	月	54:00-55:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(46)	月	55:00-56:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(47)	月	56:00-57:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(48)	月	57:00-58:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(49)	月	58:00-59:00	藤田 雅之		
2007-12-10 第1 国語 基礎編1-1(50)	月	59:00-60:00	藤田 雅之		

休講・補講情報を確認してください。科目名のヘッドに【取消】が入っているのは、休講が取り消された(したがって通常通り実施する)科目となりますので注意してください。確認後は [ログアウト] ボタンをクリックして、ログアウトしてください。

[i-mode 編]

学事 Web システムの URL (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) を携帯電話の i-mode 画面から入力し、(1) の画面上で [i-mode 用] を選択してください。以後、Web 休講補講情報を繰り返して利用する場合には、上記の学事 Web システムの URL を i-mode のブックマーク等に登録しておく便利です。(詳しくは使用している携帯電話の説明書で確認してください。)

[サーバー 1] もしくは [サーバー 2] のどちらかを選択してください。選択は任意です。

「学籍番号」と(1)で説明のあった「学事 Web システムパスワード」を入力し、[ログイン] ボタンを押してください。

この画面から [休講情報] [補講情報] ボタンを押してください。

パスワードの変更もこの画面からできますが、ここでは説明を省きます。後述の(4)を参照してください。

自分の履修科目の休講・補講情報、あるいは他キャンパス設置の科目など、検索するキャンパスの対象を選択してください。検索期間は検索日から1週間後までの情報が表示されます。休講・補講情報の確認が終了したら、[検索画面へ戻る] ボタンを押してください。

#### (4) パスワードの変更

初期パスワードは紙面に印刷されているため、セキュリティ上パスワードを変更することを推奨しています。以下の操作で行ってください。

前述(1)の画面(トップメニュー画面)から、[パスワード変更] ボタンをクリックしてください。

「現在のパスワード」を入力し、「新パスワード」を2箇所入力後(再入力欄にも同じものを入力する)、[パスワード変更] ボタンをクリックしてください。

#### 【注意】

パスワードは英数字半角で入力してください(大文字/小文字を区別します)。生年月日や学籍番号など、予想できそうなパスワードは設定しないでください。また変更したパスワードは、必ず忘れないようにしてください。特に、学内のパソコンを利用するための Windows アカウントのパスワードと混同しないよう注意してください。

## 分野番号表

修士課程 (1997年度以降入学者)

科目名称		分野	申告用 B 欄分野
基礎科目	ミクロ経済学	01-01-01	/
	マクロ経済学	01-01-02	
	計量経済学中級	01-01-03	
	数理統計学	01-01-04	
	欧米経済史・日本経済史	01-01-05	
	経済学説・経済思想	01-01-06	
	認定科目 (ミクロ経済学)	01-01-51	
	認定科目 (マクロ経済学)	01-01-52	
	認定科目 (計量経済学中級)	01-01-53	
	認定科目 (数理統計学)	01-01-54	
	認定科目 (欧米経済史・日本経済史)	01-01-55	
認定科目 (経済学説・経済思想)	01-01-56		
専攻科目	分野 1 に属する各科目	01-02-01	/
	分野 2 に属する各科目	01-02-02	
	分野 3 に属する各科目	01-02-03	
	分野 4 に属する各科目	01-02-04	
	分野 5 に属する各科目	01-02-05	
	分野 6 に属する各科目	01-02-06	
	分野 7 に属する各科目	01-02-07	
	分野 8 に属する各科目	01-02-08	
	分野 9 に属する各科目	01-02-09	
	分野 10 に属する各科目	01-02-10	
演習科目	01-03-01	/	
プロジェクト科目	01-04-01		
関連科目 (他研究科設置科目)	01-05-01	51	
自由科目 (学部・研究所科目)	09-01-01	91	

修士課程 (1996年度以前入学者)

科目名称	分野	申告用 B 欄分野
理論経済学専攻科目	01-01-01	11
経済史専攻科目	01-02-01	21
経済政策専攻科目	01-03-01	31
指定科目	01-04-01	41
自由科目	09-01-01	91

博士課程

科目名称	分野	申告用 B 欄分野
特論科目	01-01-01	/
演習科目	01-02-01	
プロジェクト科目	01-03-01	
自由科目	09-01-01	91

# 履 修 要 項

## (修士課程・博士課程)

修士課程は1997年度より、大学院指導体制を見直し、3専攻体制を廃止し、経済学専攻1専攻体制に改組しました。

博士課程は経済学専攻1専攻体制を継続し、1999年度入学者から修士課程新学則に対応した学則の改正を行い、新学則を適用しています。1998年度以前に入学した学生適用の旧学則については、2001年3月末日をもって廃止しました。

授業構成のみならず、諸手続き（休学・留学等）をはじめ、博士学位の申請方法等も従前とは異なりますので、必ず本書で確認の上、不明な点は、学習指導担当または学事センターで確認してください。また、本書で未掲載の部分については掲示で連絡しますので、注意してください。

## 第1 開講科目と単位数

2004年度（平成16年度）経済学研究科に開講される科目と単位数は次のとおりです。

講義は週1回の半期（春学期または秋学期）科目を原則とします。なお、科目により秋学期の履修は春学期の履修を前提にする科目もあります。講義要綱を参照してください。

修士課程在籍者が博士課程設置科目を履修することはできません。

### 1. 修士課程設置の科目

#### (1) 基礎科目

科 目 名	単 位	備 考
ミ ク ロ 経 済 学	2	ミクロ経済学
マ ク ロ 経 済 学	2	マクロ経済学
計 量 経 済 学 中 級	2	計量経済学
数 理 統 計 学	2	確率・統計 <sup>(1)</sup>
欧 米 経 済 史 ・ 日 本 経 済 史	2	欧米経済史，日本経済史
経 済 学 説 ・ 経 済 思 想	2	

(注) 備考欄に科目名が記載されている科目は、今年度併設されている経済学部設置科目です。

<sup>(1)</sup> 新井益洋君のみ経済学部設置科目と併設。

#### (2) 専攻科目

分野	科 目 名	単 位	備 考
1	ミ ク ロ 経 済 学 上 級	2	
	マ ク ロ 経 済 学 上 級	2	
	数 理 経 済 学	2	数理経済学
	経 済 数 学	2	解析学 数理経済学特論 [微分方程式論] " [確率論]
2	計 量 経 済 学 上 級	2	
	応 用 計 量 経 済 学	2	
3	経 済 学 史	2	
	社 会 思 想	2	
	経 済 思 想	2	
4	欧 米 経 済 史	2	
	日 本 経 済 史	2	
	ア ジ ア 経 済 史	2	

5	産 業 組 織 論	2	
	労 働 経 済 論	2	
	社 会 政 策 論	2	
	工 業 経 済 論	2	
	農 業 経 済 論	2	
6	経 済 政 策 論	2	
	金 融 論	2	
	財 政 論	2	本年度休講
	公 共 経 済 学	2	
	ア ジ ア 経 済 と 日 本	2	アジア経済と日本
7	現 代 日 本 経 済 論	2	本年度休講
	現 代 資 本 主 義 論	2	
8	世 界 経 済 論	2	
	国 際 貿 易 論	2	本年度休講
	開 発 経 済 論	2	
	国 際 金 融 論	2	
	国 際 マ ク ロ 経 済 学	2	国際マクロ経済学
9	経 済 地 理 学	2	本年度休講
	都 市 経 済 論	2	
10	環 境 経 済 論	2	
	社 会 史	2	
	人 口 論	2	

(注) 備考欄に科目名が記載されている科目は、今年度併設されている経済学部設置科目です。

## (3) 演習科目

科 目 名	単 位	備 考
ミクロ経済学演習	2	
マクロ経済学演習	2	
数理経済学演習	2	
経済数学演習	2	
計量経済学演習	2	
経済学史演習	2	
社会思想演習	2	
経済思想演習	2	
経済史演習	2	
古文書演習	2	
産業論演習	2	
産業組織論演習	2	
労働経済論演習	2	
社会政策論演習	2	本年度休講
経済政策論演習	2	
金融論演習	2	
財政論演習	2	
公共経済学演習	2	
日本経済論演習	2	
国際経済論演習	2	
都市経済論演習	2	
環境経済論演習	2	
社会史演習	2	
社会科学分析演習	2	
産業社会論演習	2	

## (4) プロジェクト科目

科 目 名	単 位	備 考
プロジェクト	2	本年度休講

成績評語は「P」（合）または「D」（否）の2種類です。

## 2. 博士課程設置の科目

### (1) 特論科目

科 目 名	単 位	備 考
ミクロ経済学特論	2	
マクロ経済学特論	2	
数理経済学特論	2	
計量経済学特論	2	
経済学史・思想史特論	2	
経済史特論	2	
制度・政策論特論	2	
国際経済論特論	2	
社会・環境論特論	2	

### (2) 演習科目

科 目 名	単 位	備 考
ミクロ経済学演習	2	
マクロ経済学演習	2	
数理経済学演習	2	
経済数学演習	2	
計量経済学演習	2	
経済学史・思想史演習	2	
経済史演習	2	
制度・政策論演習	2	
国際経済論演習	2	
社会・環境論演習	2	

### (3) プロジェクト科目

科 目 名	単 位	備 考
プロジェクト	2	本年度休講

成績評語は「P」（合）または「D」（否）の2種類です。

### 3. 関連科目（修士課程在籍者のみ）

他研究科設置科目で、指導教授が履修を必要と認める科目については関連科目として履修することができます。関連科目は4単位まで修了の単位に含まれます。

### 4. 認定科目（修士課程1年生のみ）

修士課程基礎科目は、年度により経済学部設置の基本科目と併設されている場合があります。併設されていた年度に、学部設置科目（基本科目）としてすでに履修し成績が「A」の場合にのみ、基礎科目として認定されます。この場合の修士課程における成績評語は「P」、単位は2単位となります。

ただし、基礎科目として修了に必要な10単位（1科目4単位を限度）には含まれますが、必要最低総単位数30単位には含まれません。（認定科目2単位と同一名称の科目を4単位取得すると合計6単位となりますが、基礎科目として修了に必要な10単位は1科目4単位を限度としますので、超過分の2単位は基礎科目として修了に必要な10単位に含まれません。）

認定科目を申請する場合は、4月12日（月）までに「大学院認定科目申請用紙」（学事センターにて交付）に記入のうえ、成績証明書を持参して学習指導担当と面接し学事センターに提出してください。なお、認定された科目については履修申告の必要はありません。

認 定 科 目	認定単位	学部の基本科目	併 設 年 度
ミ ク ロ 経 済 学	2	ミ ク ロ 経 済 学	2001・2002（須田伸一君のみ）・2003
	2	ミ ク ロ 経 済 学	2001～2003
マ ク ロ 経 済 学	2	マ ク ロ 経 済 学	2001～2003
	2	マ ク ロ 経 済 学	2002（前多康男君のみ）
計 量 経 済 学 中 級	2	計 量 経 済 学	2001～2003
数 理 統 計 学	2	確 率 ・ 統 計	2001～2003
欧米経済史・日本経済史	2	欧 米 経 済 史	2001～2003
	2	日 本 経 済 史	2001～2003
経済学説・経済思想	2	経 済 学 史	2001
		社 会 思 想 史	2003

### 5. 自由科目

上記以外の科目は自由科目としての履修が認められ、学業成績表にも記載されますが、課程修了に必要な単位には含まれません。

## 第2 課程修了にいたるまでの要件

### 1. 修士課程（1997年度以降入学者）（大学院学則第27，28，29，30，109条参照）

- (1) 2年間以上経済学研究科修士課程に在籍し、経済学研究科が指定する下記の科目を含む合計30単位以上を履修・合格すること。
- (2) 学位論文（修士論文）の審査及び最終試験に合格すること。
- (3) 修了に必要な科目
  - 基礎科目 10単位以上（同一科目4単位を限度）
  - 専攻科目 3分野以上にまたがり10単位以上
  - 演習科目 6単位以上， ， を満たした上で、合計30単位（必要最低総単位数）以上を履修・合格すること。
- (4) 「関連科目」は合計4単位まで必要最低総単位数（30単位）に含みます。
- (5) 「プロジェクト科目」「自由科目」「認定科目」は必要最低総単位数（30単位）に含みません。
- (6) 「認定科目」の単位は、基礎科目10単位に含めることができますが、(5)のように修士課程修了の必要最低総単位数（30単位）に算入することはできません。したがって、基礎科目単位に充当した「認定科目」の単位数は、その他の基礎科目が専攻科目または演習科目の単位で充足しなければなりません。

### 2. 修士課程（1996年度以前入学者）

2年間以上経済学研究科修士課程に在籍し、各自が所属する専攻の開講科目20単位を含む合計30単位以上を履修・合格すること。

学位論文（修士論文）の審査及び最終試験に合格すること。

1996年度以前入学者が、1999年度以降も在籍する場合には、1998年度までに取得した科目については、旧学則で対応します。大学院旧学則第27，28，29，30，109条を参照してください。

また、今年度の履修科目の申告については、指導教授と相談して決定してください。指導教授または学習指導担当に、履修する科目の該当する（旧）専攻を確認し、その分野を申告してください。

なお、修士論文の提出の手順については、「第4：学位請求論文の提出（34ページ）」を参照してください。

### 3. 博士課程（大学院学則第35，36，37，109条参照）

3年間以上経済学研究科博士課程に在籍し、合計12単位以上を履修・合格すること。

学位論文（博士論文）の審査及び最終試験に合格すること。

なお、上記要件のうち、学位論文の審査および最終試験を除き、所定の教育課程を終えた段階で修了する場合「単位取得退学者」として扱われます。（第6：単位取得退学及び在学期間延長（37ページ））

### 第3 指導教授

- (1) 経済学研究科では、学生は特定の指導教授の指導を受けることを基本とし、その指導教授の指示により、複数の教員の指導を受けられるように指導します。
- (2) 修士課程1年生の指導教授は春学期の間、学習指導担当が担当します。なお、6月中旬の所定期日までに「指導教授登録用紙」を提出してください。これに基づき春学期末に指導教授を決定します。詳細は掲示します。

### 第4 学位請求論文の提出

#### 1. 修士学位申請と修士論文の提出

修士の学位は、大学院前期博士課程を修了した者に与えられる。(学位規程第3条)

第3条の規定に基づき修士学位を申請する者は、学位論文3部を指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。(同第7条)

修士論文提出及び学位申請に関しての手順は次のとおりです。

#### (1) 「修士論文予定題目並びに要旨」の提出(7月17日締切予定)

修士論文を提出しようとする者は、提出予定年度の所定の期日までに、「修士論文予定題目並びに要旨(所定用紙:学事センターにて交付)」を提出してください。詳細については6月中旬に掲示にて指示します。なお、この届を提出した後に申請を取り下げの場合は、必ず研究科委員長宛文書にて学事センターに申し出てください。

#### (2) 予備審査(論文報告会)(10月上旬~11月下旬)

詳細は掲示します。

なお、予備審査に合格した者は、経済学研究科博士課程入学試験出願資格が与えられます。

#### (3) 「修士学位申請書および論文題目届」の提出(12月18日締切予定)

詳細は掲示します。

#### (4) 論文提出(1月下旬予定)

詳細は掲示します。なお、提出論文の題目は(3)で提出した題目(副題目も含む)から変更はできません。

博士課程に進学を希望する者は、あわせて出願手続が必要です。出願手続については2005年度経済学研究科入学試験要項を参照してください。

#### (5) 修士学位審査(3月上旬)

論文審査および面接が行われます。論文審査により面接許可者が決定します。面接許可者および修士学位審査合格者はそれぞれ学事センター内の掲示にて発表します。日程等詳細は掲示します。

#### (6) 三田メディアセンターからの修士論文複写許諾協力依頼

三田メディアセンター(図書館)では修士論文を保存し利用に供しています。利用者が修士論文を学術目的のために「複写する」ことに対し、現行の著作権法下では、事前に著作権者からの許諾を必要としています。

修士論文を学事センターに提出する際に、「修士論文複写に関するお願い」をお渡しします。趣

旨に賛同いただける方は「修士論文複写許可回答」に必要事項を記入の上、三田メディアセンター（図書館）受付カウンターに、学位授与式までに提出してください。なお、今年度の学位授与名簿に記載されなかった場合は、メディアセンターが責任をもって廃棄します。

## 2. 博士学位の申請

### (1) 課程による博士学位（「課程博士」）

博士の学位は、大学院博士課程を修了した者に与えられる。（学位規程第4条）

第4条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部及び所定の書類を添え、指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。（同第7条）

入学後6年以内に提出された博士学位請求論文についてのみ、課程博士（甲）としての申請を認めます。ただし、留学期間については、留学期間の2分の1（最大2年間）を猶予期間として認めます。

博士論文提出及び学位申請に関する手順は次の通りです。

課程博士（甲号）の学位を取得しうるのは、1999年度以降入学の学生より、入学後6年以内に学位請求論文を提出したものとす。

後期博士課程正規の在籍期間に「学位論文題目および研究計画書」を提出する。

学位論文提出の条件

1. 後期博士課程所定の単位を取得済みであること。（大学院学則第35条）
2. 論文提出までに、査読制度のある刊行物に1点以上の既刊あるいは審査を通過した刊行予定の論文があること。あるいは、それに相当する研究成果発表の機会をもったものであること。
3. 以上を勘案し、論文指導担当者2名が提出を許可したものであること。
4. 論文提出に際しては、所定の手続きに加え、論文指導担当者の提出許可書を添付させる。

### (2) 論文による博士学位（「論文博士」）

博士の学位は、研究科委員会の承認を得て学位論文を提出して論文の審査に合格し、かつ大学院博士課程の修了者と同等以上の学識があることを確認（以下「学識の確認」という）された者に与えられる。（学位規程第5条）

論文の提出については、経済学研究科委員の推薦理由書を必要とします。

論文博士の審査は、論文審査ならびに面接審査によって行われます。

論文博士を申請する場合の審査料については、学位規定第9条を参照してください。

第5条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部及び所定の書類を添え、その申請する学位の種類を指定して、学長に提出しなければならない。（同第8条）

博士論文を提出する場合は、学事センターで提出書類、手続方法について確認してください。なお、博士論文の審査については、「博士の学位論文の審査並びにこれに関連する試験及び学識の確認等は、論文受理後1年以内に終了するものとする」（学位規程第10条）と規定されています。

### 3. 学位請求論文体裁について

学位請求論文については三田メディアセンター（図書館）及び国立国会図書館（博士論文のみ）に所蔵しますので、下記の体裁に整えてください。なお、資料等の都合で規定の大きさに入らない場合は、これに従って表紙を付けて製本してください。既に公刊されている書物等を学位請求論文とする場合についてはこの限りではありません。

本文の縦書き・横書きにかかわらず、原則としてA4判縦で製本してください。（縦書きの場合は右綴じ、横書きの場合は左綴じとします。）

製本の表紙の表示は、本文が縦書きの場合は縦書き、横書きの場合は横書きとします。

製本の背文字は、本文の縦書き、横書きにかかわらず縦書きとします。

製本時のレイアウト、表示内容は、裏面の見本を参照してください。

製本は黒表紙で、白文字とします。

製本の業者は指定しません。

## 第5 休学・留学・退学

### 1. 休学（学則第125条）

病気その他やむを得ない理由により欠席が長期にわたる場合には休学することができます。

本年度休学希望者は、指導教授と相談の上、「休学願」に事由を証する書類（病気の場合は医師の診断書、語学研修等の場合は入学願書の写し等）を添えて、原則として履修申告日までに学事センターに提出してください。履修申告後の休学願提出期限は、春学期は5月末日、秋学期は11月末日です。必要に応じて学習指導担当との面接を指示することがあります。

休学は学期（春学期は4月1日から9月21日、秋学期は9月22日から3月31日）を単位として許可し、休学期間は修了に必要な在学年数に算入しません。

休学が次の学期におよぶ場合は、改めて許可を得なければなりません。

休学期間が終了した場合は、速やかに就学届を提出しなければなりません。なお、病気を理由に休学していた場合はあわせて医師の診断書の提出が必要です。

なお、学費については休学期間中も同額となります。ただし、病気による休学が長期にわたる場合、減免されることがあります。学生総合センター厚生課に相談してください。

### 2. 留学（学則第124条）

研究科委員会が教育上有益と認めるときは、休学することなく外国の大学の大学院に留学することを許可することがあります。

留学に関する手続き（「国外留学申請書」の提出）は、指導教授と相談の上、あらかじめ学事センターで相談・確認し、遅くとも出発の1ヶ月前には所定の手続きを済ませてください。必要に応じて学習指導担当との面接を指示することがあります。

学則による留学は1回の申請につき学期を単位として2期（留学開始日より1年）を限度とし、延長は全留学期間3年まで許可されます。また、留学期間が3年を超えて更に継続する場合は、休学届

を提出しなければなりません。その際も早目に学事センターで手続き等の詳細を確認してください。

留学した期間は、1年を限度として修了に必要な在学年数に算入することができますので、希望する場合は学事センターに申し出てください。なお、申し出がない場合は在学年数に算入しません。

留学の期間が終了した場合は、速やかに就学届を提出しなければなりません。

なお、学費については留学期間中も同額となります。ただし、留学の延長が許可された場合、学費が減免されることがあります。

### 3. 退 学 (学則第 126 条)

病気その他の事由により退学したい者は、指導教授と相談の上、速やかに「退学届」に学生証を添えて学事センターに提出してください。

### 4. 注意事項

経済学研究科では、学年毎の進級条件を設けていませんので、休学または留学していても学年は年度毎に最高学年（修士2年、博士3年）まで加算されます。

1996年度以前入学の修士課程在籍者については、1998年3月31日をもって旧学則を停止しましたが、修士論文審査を除き、旧学則で対応します。

## 第 6 単位取得退学及び在学期間延長（博士課程在籍者のみ）

以下の取扱いについては巻末諸規程抜粋を合わせて参照してください。

### 1. 単位取得退学

博士課程修了に必要な単位を取得し、規定の教育課程期間（3年）を満了した場合、単位取得退学者として扱われます。2月末日（予定）までに「単位取得退学届」を学事センターに提出してください。詳細は11月中旬に掲示します。

年度の途中で単位取得退学を希望する場合は退学届を提出し、その旨申し出てください。

課程博士（第4の2参照）は原則として博士課程在学中に論文を提出し合格した場合ですが、入学後6年以内に提出された博士学位請求論文についてのみ、課程博士（甲）としての申請を認めます。ただし、留学期間については、留学期間の2分の1（最低2年間）を猶予期間として認めます。なお、課程博士として学位申請するためには、博士課程の正規の在籍期間（入学後3年目の3月末日まで）に「学位論文題目および研究計画書」を学事センターに提出してください。

### 2. 在学期間延長許可願

3年間の在学中に博士課程修了に必要な単位を取得した者で、博士論文作成にまだ時間を要する場合、1年を単位として在学最長年限を超えない範囲で在学を許可することがあります（3回まで）。2月末日（予定）までに指導教授の承認を得た上で「在学期間延長許可願」を学事センターに提出しなければなりません。詳細は11月中旬に掲示します。

関連規程	1 - 1	学位規程
	1 - 2	学位の授与に関する内規
	4 - 2	大学院在学期間延長者取扱い内規
	4 - 3	大学院在学期間延長者の学費に関する取扱い内規

### 3. 単位取得退学後のメディアセンターの利用

3年以内に博士論文を提出する目処がある場合に限り、三田メディアセンターの図書貸出を受けることができる「塾員貸出券」(有料)を発行しています。詳細は図書館1階メインカウンターまでお尋ねください。

有効期間：申込日より6ヶ月もしくは1年

サービス範囲：三田メディアセンターに関しては大学院生と同等の貸出規則を適用する。

日吉，理工学，湘南藤沢の各メディアセンター，白楽サテライトライブラリーへの入館・閲覧が可能。

他大学図書館への紹介状の発行。

## 修士課程設置科目講義要綱

おおむね下記のように構成されています。

学則に示される科目名（具体的な科目名）*1	担当者名
1. 授業形態*2	}
2. 当科目の目標・意義・方法	
3. 授業内容	
4. テキスト	
5. リーディング・リスト	

\*1：（ ）内の記載がないもの、および項目の記載のないものはそれぞれ省略されています。

\*2：本書作成後に変更される場合がありますので、時間割及び掲示を参照してください。

注：同一名称の科目については、担当者名五十音順で並べられています。

## 基礎科目

### ミクロ経済学

教授 長 名 寛 明

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

ミクロ経済学における規範的分析に重点を置いて講義する。この講義は経済学部設置「ミクロ経済学Ⅱ」の前半部分（春学期）に対応する。

授業内容：

1. 競争市場の効率性
2. 市場の欠陥

成績評価はレポート（60%）、期末試験（40%）に基づく。

テキスト：

教科書は使用しない。

リーディング・リスト：

プリントを配布し、その中で、参考文献を指示する。

### ミクロ経済学

教授 長 名 寛 明

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

ミクロ経済学における規範的分析に重点を置いて講義する。この講義は経済学部設置「ミクロ経済学Ⅱ」の後半部分（秋学期）に対応する。

授業内容：

3. 厚生基準と社会的厚生関数
4. 経済活動の誘因

成績評価はレポート（60%）、期末試験（40%）に基づく。

テキスト：

教科書は使用しない。

リーディング・リスト：

プリントを配布し、その中で、参考文献を指示する。

### ミクロ経済学

教授 川 又 邦 雄

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

ミクロ経済学は、個々の経済主体の市場活動を通じて、資源配分決定の仕組みについて分析するものであ

る。これは価格機構の役割について分析することに他ならない。またその裏面として、市場機構の機能について評価するという役割を担うものである、この授業では、経済学部で 1 年間ミクロ経済学初級を学んだ学生を想定し、ミクロ経済学とゲーム理論の基礎的な概念と理論の理解をはかり応用力を身につけさせるとともに、産業組織論やミクロ的経済政策の基礎となる考え方を講義する。経済学部設置「ミクロ経済学Ⅰ」を補完する内容をもつものである。分析用具としては微分積分学の初歩的な知識を想定する。

授業内容：

1. 経済環境と競争市場の均衡  
消費者と生産者の特性。期待効用理論。完全競争均衡。
2. 効率的資源配分の条件  
資源配分の効率性の条件。競争均衡の最適性。厚生経済学の基本定理。基本定理の政策的意義。
3. 独占・寡占の古典的理論と協力ゲームの理論  
独占の理論。クールノーの複占。ナッシュ均衡。コア
4. 外部効果と公共財  
私的限界代替率と社会的限界代替率。ピグーの課税（補助金）ルール。コースの定理。サミュエルソン条件。リンダール均衡とフリーライダー問題。
5. 市場機構と政治プロセス  
個人の評価と社会的選択。一般不可能性定理。合理的社会選択の可能性。

### ミクロ経済学

教授 川 又 邦 雄

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

主として、産業組織や情報の経済理論の諸問題を、戦略形ないし展開形ゲームのモデルによって分析する。

授業内容：

- ・完備情報ゲームの理論
- ・不完備情報ゲームの理論
- ・不完全競争の理論
- ・情報とインセンティブ

以上の各項目について 2～4 回の予定で講義する。

リーディング・リスト：

川又邦雄『市場機構と経済厚生』創文社、1991

奥野正寛・鈴木興太郎『ミクロ経済学Ⅱ』岩波書店、

1988

中山幹夫『はじめてのゲーム理論』有斐閣, 1997

R. ギボンズ (福岡・須田訳)『経済学のためのゲーム理論入門』創文社, 1995

E. Wolfstetter, *Topics in Microeconomics*, Cambridge University Press, 1999

---

**ミクロ経済学**

---

教授 須田 伸一

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

ミクロ経済学は、個々の経済主体の市場活動を通じて、資源配分決定の仕組みについて分析する学問である。これは価格機構の役割について分析することに他ならない。この科目では、学部で 1 年間ミクロ経済学を学んだ学生を想定して講義を進める。

授業内容：

1. 消費者行動
2. 生産者行動
3. 不確実性下の経済行動

リーディング・リスト：

奥野正寛・鈴木興太郎『ミクロ経済学 I, II』岩波書店, 1985, 1988

西村和雄『ミクロ経済学』東洋経済新報社, 1990

---

**ミクロ経済学**

---

教授 須田 伸一

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

ミクロ経済学は、個々の経済主体の市場活動を通じて、資源配分決定の仕組みについて分析する学問である。これは価格機構の役割について分析することに他ならない。この科目では、学部で 1 年間ミクロ経済学を学んだ学生を想定して講義を進める。なお、この科目は春学期に開講される「ミクロ経済学」の内容を前提としている。

授業内容：

1. 完全競争市場
2. 厚生経済学の基本定理
3. 通時的経済モデル

リーディング・リスト：

奥野正寛・鈴木興太郎『ミクロ経済学 I, II』岩波書店, 1985, 1988

西村和雄『ミクロ経済学』東洋経済新報社, 1990

---

**ミクロ経済学**

---

助教授 玉田 康成

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

本講義では、ミクロ経済学の基本的内容について、理論的側面に重点を置いて講義を行う。具体的には、個別の経済主体（消費者・企業）の市場における意思決定問題を理論的に分析する。また、不確実性下での意思決定についても詳しく議論する。本講義の内容と分析手法は、あらゆる（応用）ミクロ経済分析の根幹をなすものであり、経済学を学ぶ上で欠かすことのできないものである。本講義は初級のミクロ経済学の学習を想定している。また、講義内容は学部「ミクロ経済学 I」と同じである。

授業内容：

1. 消費者行動の理論
2. 企業行動の理論
3. 不確実性下の意思決定（期待効用理論）

成績評価方法

- ・ 数回の宿題（20%）
- ・ 春学期末試験（80%）

リーディング・リスト：

- ・ 奥野正寛・鈴木興太郎『ミクロ経済学 I, II』岩波書店, 1985, 1988
- ・ 西村和雄『ミクロ経済学』東洋経済新報社, 1990
- ・ Hal R. Varian, *Microeconomic Analysis*, 3rd edition, Norton, 1992
- ・ Geoffrey A. Jehle and Philip J. Reny, *Advanced Microeconomic Theory*, 2nd edition, Addison-Wesley, 2001

---

**ミクロ経済学**

---

助教授 玉田 康成

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

本講義では、ミクロ経済学の基本的内容について、理論的側面に重点を置いて講義を行う。具体的には、市場での競争均衡とその効率性や、一般均衡理論の枠組みを用いたトピックについて厳密な議論を行う。本講義の内容と分析手法は、あらゆる（応用）ミクロ経済分析の根幹をなすものであり、経済学を学ぶ上で欠かすことのできないものである。本講義は初級のミクロ経済学の学習を想定している。また、講義内容は学部「ミクロ経済学 I」と同じである。

授業内容：

1. 競争市場と均衡，および余剰分析（部分均衡分析）
2. 完全競争均衡の効率性：厚生経済学の基本定理（一般均衡分析）
3. 一般均衡分析の拡張 1：通時的な意思決定と先物市場
4. 一般均衡分析の拡張 2：不確実性

成績評価方法

- ・数回の宿題（20%）
- ・秋学期末試験（80%）

リーディング・リスト：

- ・奥野正寛・鈴木興太郎『ミクロ経済学Ⅰ，Ⅱ』岩波書店，1985，1988
- ・西村和雄『ミクロ経済学』東洋経済新報社，1990
- ・Hal R. Varian, *Microeconomic Analysis*, 3rd edition, Norton, 1992
- ・Geoffrey A. Jehle and Philip J. Reny, *Advanced Microeconomic Theory*, 2nd edition, Addison-Wesley, 2001

---

マクロ経済学

講師 酒井良清

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

マクロ経済現象を分析するための基礎知識を解説する。現実が発生している経済現象をモデル解析する手段を提示する。

授業内容：

テキストにあげた『新しい金融理論』を基に，金融取引のミクロ的基礎から金融システムの設計に至るまでの考え方を説明する。現代のマクロ経済学の議論は，ゲーム理論，情報の経済学を基礎としているので，そうした知識の入門的解説も行うつもりである。

テキスト：

酒井良清・前多康男『新しい金融理論』有斐閣，2003年

リーディング・リスト：

- 酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム [改訂版]』有斐閣，2000年
- 酒井良清・前多康男『金融システムの経済学』東洋経済新報社，2004年

---

マクロ経済学 (1) 月曜日 1 時限 (2) 金曜日 1 時限

助教授 白井義昌

授業形態：春学期 2 単位・講義 [月曜日 1 時限・金曜

日 1 時限いずれも履修しなければなりません。]

目標・意義・方法：

マクロ経済学の基本的知識を身につける。

授業内容：

教科書にそって講義を行う。毎週の宿題提出と小テスト，そして中間および期末試験の合計によって成績評価を行う。詳しくは，<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/yshirai/macro1/>を見よ。

テキスト：

Abel and Bernanke, *Macroeconomics*, 5th edition, Addison-Wesley

---

マクロ経済学

教授 前多康男

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

中級レベルのマクロ経済学を講義する。授業目的としては，標準的なマクロ経済学の内容を理解し，実際の経済分析に自由に使用できるようになることに重点を置いている。マクロ経済学は，政策的含意が重要であるので，政策的な応用面を重視する。

授業内容：

講義の内容としては，財市場，金融市場，IS=LMモデル，新古典派モデル，消費・投資と期待，金融市場と期待などを含む。

成績評価は，春学期末試験期間において，試験を行い，その成績をもとに決定する。試験は，持ち込み不可の筆記試験の形態で行う。最終的な成績の決定に際しては，平常点を加味することもあり得る。

テキスト：

ブランシャール著『マクロ経済学』（東洋経済新報社）を使用する。

---

計量経済学中級

教授 蓑谷千風彦

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

計量経済学の方法を，応用にも意を注ぎ，講義する。統計学，微・積分，行列と行列式の知識は前提とする。具体例は主としてマクロ経済学の分野からとる。たとえば，消費関数，投資関数，輸出・入関数，フィリップス曲線，貨幣需要関数等々である。予備知識として学部の「計量経済学概論」あるいは基本科目の「計量経済学Ⅰ」もしくは同等のレベルを前提とする。TSP を用いてパソコンによる演習を行う。TSP

に関する予備知識は必要としない。遅刻する、眠る、サボる人はサヨウナラ。

**授業内容：**

1. 回帰モデル
  - (1) 最小 2 乗法と最尤法
  - (2) 決定係数
  - (3) 仮説検定
2. 自己相関
  - (1) 自己相関の発生
  - (2) 自己相関の結果
  - (3) 自己相関の検定
  - (4) パラメータ推定—2 SPW, ML
  - (5) RESET テスト
3. 不均一分散
  - (1) 不均一分散の結果
  - (2) 不均一分散の検定
  - (3) パラメータ推定
4. 関数形の選択
  - (1) 対数変換
  - (2) Box-Cox 変換

**テキスト：**

1. 蓑谷千風彦『計量経済学』（第 2 版）多賀出版
2. 蓑谷千風彦『計量経済学の理論と応用』日本評論社

**リーディング・リスト：**

- (1) 計量経済学  
入門書として
  - 1 Ramanathan, R., *Introductory Econometrics with Applications*, 4th ed., The Dryden Press, 1998
  - 2 Gujarati, D. N., *Basic Econometrics*, 4th ed., McGraw-Hill, Inc., 2003
 応用面から
  - 3 高木・秋山・田中『応用計量経済学 I』多賀出版
 ECM（エラー修正モデル）の説明と応用も示してある書として
  - 4 Thomas, RL, *Introductory Econometrics: Theory and Applications*, 2nd ed., Longman, 1993
 時系列（共和分）のもっぱら応用を重視した文献として
  - 5 Harris, R., *Cointegration Analysis in Econometric Modelling*, Prentice Hall, 1995
 時系列分析の理論をきわめていねいに説明した

書として

- 6 Hamilton, G.D., *Time Series Analysis*, Princeton University Press, 1994
- (2) 統計学  
入門から中級レベルの入口ぐらいまでを
  - 7 蓑谷千風彦『統計学入門』1, 2, 東京図書  
中級レベルの文献として
  - 8 Hogg, R. V. and E. A. Tanis, *Probability and Statistical Inference*, Prentice Hall International, 2001
  - 9 Mood, A. M., Graybill, F. A., and Boes, D.C., *Introduction to the Theory of Statistics*, 3rd ed., McGraw-Hill, 1974
 パソコンを用いての計量分析の方法として（Excel と TSP の解説）
  - 10 蓑谷・野村・斎藤・大津『パソコンによる数量分析』（改訂版）多賀出版  
を奨める。

---

**計量経済学中級**

---

教授 蓑谷 千風彦

**授業形態：**秋学期 2 単位・講義

**目標・意義・方法：**

計量経済学の方法を、応用にも意を注ぎ、講義する。統計学、微・積分、行列と行列式の知識は前提とする。具体例は主としてマクロ経済学分野からとる。たとえば、消費関数、投資関数、輸出・入関数、フィリップス曲線、貨幣需要関数等々である。予備知識として学部の「計量経済学概論」あるいは基本科目の「計量経済学 I」もしくは同等のレベルを前提とする。TSP を用いてパソコンによる演習を行う。TSP に関する予備知識は必要としない。遅刻する、眠る、サボる人はサヨウナラ。

**授業内容：**

1. 時系列分析
  - (1) 定常過程
  - (2) みせかけの回帰
  - (3) 和分の次数検定（単位根の検定）
  - (4) 単位根検定から DGP を探る
  - (5) 共和分とエラー修正モデル
  - (6) ヨハンセン検定

**テキスト：**

1. 蓑谷千風彦『計量経済学』（第 2 版）多賀出版
2. 蓑谷千風彦『計量経済学の理論と応用』日本評論社

リーディング・リスト：

(1) 計量経済学

入門書として

- 1 Ramanathan, R., *Introductory Econometrics with Applications*, 4th ed., The Dryden Press, 1998
- 2 Gujarati, D. N., *Basic Econometrics*, 4th ed., McGraw-Hill, Inc., 2003

応用面から

- 3 高木・秋山・田中『応用計量経済学 I』多賀出版

ECM (エラー修正モデル) の説明と応用も示してある書として

- 4 Thomas, RL, *Introductory Econometrics: Theory and Applications*, 2nd ed., Longman, 1993

時系列 (共和分) のもっぱら応用を重視した文献として

- 5 Harris, R., *Cointegration Analysis in Econometric Modelling*, Prentice Hall, 1995

時系列分析の理論をきわめていねいに説明した書として

- 6 Hamilton, G.D., *Time Series Analysis*, Princeton University Press, 1994

(2) 統計学

入門から中級レベルの入口ぐらいまでを

- 7 養谷千風彦『統計学入門』1, 2, 東京図書  
中級レベルの文献として

- 8 Hogg, R. V. and E. A. Tanis, *Probability and Statistical Inference*, Prentice Hall International, 2001

- 9 Mood, A.M., Graybill, F.A., and Boes, D. C., *Introduction to the Theory of Statistics*, 3rd ed., McGraw-Hill, 1974

パソコンを用いての計量分析の方法として (Excel と TSP の解説)

- 10 養谷・野村・斎藤・大津『パソコンによる数量分析』(改訂版) 多賀出版  
を奨める。

---

数理統計学

産業研究所教授 新井益洋

授業形態：春学期 2 単位・講義および演習

目標・意義・方法：

観察によって得られたデータをどのように整理して

簡単な知識の形にまとめ、その解釈を助ける統計的手法は「記述統計」と呼ばれる。また、観察データの背景に研究目的あるいは仮説としての母集団を想定し、観察データはこの仮説母集団からの無作為標本と見なし、この標本から母集団特性を認識する統計的手法を「推測統計」と呼ぶ。統計学の目的は集団の規則性の探究であるが、この目的のためには、前者は多くの場面で限界を生じ、後者の新しい統計理論を要請し、これを数学的に整理したものが数理統計学である。

数理統計学は観測されたデータが、何らかの確率的法則にしたがう確率変数の 1 つの実現値であると見なすことによって、これら进行分析する方法を与える。すなわち、現実の対象に対して 1 つの確率モデルを想定し、それに基づいてデータを分析する方法である。したがって、数理統計学の方法を有効に適用できるか否かは、想定された確率モデルが現実を適切に表現しているか否かにかかっている。

想定されるモデルがパラメタと呼ばれる未知の要素を含んでおり、確率分布を完全には決定していない。そして、偶然性を含むデータを通して必然的な法則性を知ることは、未知の部分を含む確率分布にしたがう確率変数の実現値から、その分布を決定する確率法則を知ることである。これが数理統計学の方法である。

以上のことを踏まえ、計量経済学や理論専攻をする者にとって最小限必要と思われる内容を講義形式で授業を行う。また、学んだ内容の理解の確認およびその内容をより深めるために、演習を充実させていく。

授業内容：

春学期の内容は以下の通りとし、後半を秋学期に継続する。確率/確率変数/分布関数/密度関数/確率法則

テキスト：

Harold J.Larson, *Introduction to Probability Theory And Statistical Inference*, THIRD EDITION, Naval Postgraduate School Monterey, California

---

数理統計学

産業研究所教授 新井益洋

授業形態：秋学期 2 単位・講義および演習

目標・意義・方法：

春学期「数理統計学」の内容についての知識は十分あるものとする。授業形式は春学期「数理統計学」と同じである。

授業内容：

講義の内容は以下の通りとする。結合分布/記述統

計／推測統計／パラメタの推定／仮説の検定

テキスト：

Harold J. Larson, *Introduction to Probability Theory And Statistical Inference*, THIRD EDITION, Naval Postgraduate School Monterey, California

---

## 数理統計学

---

教授 マッケンジー, コリン

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

経済の実証分析における経済モデルの推定や経済理論の検証を行う上で、数理統計学の知識は必要不可欠である。理論経済学の分野でも、数理統計学で用いる確率の理論は経済の理論モデルの構築などに重要な役割を果たしている。本講義は基本的に、講義式で行うが、受講者が積極的に議論に参加してもらいたい。

成績は学期末の筆記試験によって決定される。

授業内容：

1. 記述統計
2. 確率
  - (a) 確率の定義と性質
  - (b) 同時, 周辺, 条件付確率, 独立
  - (c) ベイズの定理
3. 確率変数と確率分布
  - (a) 離散型確率分布
  - (b) 連続型確率分布
  - (c) 期待値, 積率母関数
4. 多変量確率分布
  - (a) 共分散, 相関係数
  - (b) 条件付確率分布
  - (c) 確率変数の変換
5. 標本分布
  - (a) 互いに独立な確率変数の和の分布
  - (b) 大数の法則
  - (c) 中心極限定理
6. 母数の推定
  - (a) モーメント法
  - (b) 最尤法
  - (c) 最尤推定量の漸近的性質
7. 仮説検定
  - (a) ネイマン - ピアソンの補題
  - (b) 尤度比検定
  - (c) 適合度検定
  - (d) ノンパラメトリック検定

テキスト：

Robert V. Hogg and Elliot A. Tanis, *Probability and Statistical Inference*, 6th edition, Prentice Hall

---

## 数理統計学

---

教授 マッケンジー, コリン

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

経済の実証分析における経済モデルの推定や経済理論の検証を行う上で、数理統計学の知識は必要不可欠である。理論経済学の分野でも、数理統計学で用いる確率の理論は経済の理論モデルの構築などに重要な役割を果たしている。本講義は基本的に、講義式で行うが、受講者が積極的に議論に参加してもらいたい。

成績は学期末の筆記試験によって決定される。

授業内容：

1. 記述統計
2. 確率
  - (a) 確率の定義と性質
  - (b) 同時, 周辺, 条件付確率, 独立
  - (c) ベイズの定理
3. 確率変数と確率分布
  - (a) 離散型確率分布
  - (b) 連続型確率分布
  - (c) 期待値, 積率母関数
4. 多変量確率分布
  - (a) 共分散, 相関係数
  - (b) 条件付確率分布
  - (c) 確率変数の変換
5. 標本分布
  - (a) 互いに独立な確率変数の和の分布
  - (b) 大数の法則
  - (c) 中心極限定理
6. 母数の推定
  - (a) モーメント法
  - (b) 最尤法
  - (c) 最尤推定量の漸近的性質
7. 仮説検定
  - (a) ネイマン - ピアソンの補題
  - (b) 尤度比検定
  - (c) 適合度検定
  - (d) ノンパラメトリック検定

テキスト：

Robert V. Hogg and Elliot A. Tanis, *Probability and Statistical Inference*, 6th edition, Prentice Hall

---

**欧米経済史・日本経済史**

---

助教授 飯田 恭

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

古代から近代に至るヨーロッパの社会経済史について、「農村」を中心に考察する。ヨーロッパの史的発展の世界史における特異性と、その地域的多様性の根源を、農村史の中に探求することを主たる目標とした。

授業内容：

講義の概要は以下の通り。

序 ヨーロッパ社会経済史の段階区分と地帯区分：聖ペテルブルク＝トリエステ線の歴史的意義

## I. 古代農村の概観

1. 農業の発達と母系制・父系制
2. 古代における農業共同体の史的発展

## II. 中世・近世の農村

## 1. 西欧及び中欧

- (1) 封建的農業制度の理念型
  - ・領主制の法経済的構造
  - ・村落共同体：フーフエ制，三圃制など
  - ・農民世帯：新居制，ヨーロッパ的結婚類型，相続・隠居制，奉公人制など

## (2) 封建的農業制度の生成

## (3) 領主制の史的展開と地域差

## (4) 農地相続制度の地域差とその史的含意

## (5) 農村における階層形成と階層分化

## 2. 東欧（ロシア）：西欧・中欧との比較

- (1) 農奴制の成立と展開
- (2) ミール共同体：土地割替慣行の成立と展開
- (3) 農民世帯：父系制，非ヨーロッパ的結婚類型，家産共有，養子慣行など

## III. 近代の農村

1. 西欧・中欧における農民解放とその帰結：農業の個人主義化の諸経路
2. 東欧（ロシア）における農奴解放と農業改革：農業共産主義の史的前提

テキスト：

特に定めない。

リーディング・リスト：

講義で一覧表を配布するほか，可能な限り三田メディアセンター（図書館）リザーブブックのコーナーに陳列する。

---

**欧米経済史・日本経済史**

---

助教授 飯田 恭

授業形態：秋学期 2 単位・講義

授業内容 他：

春学期参照

一年間で講義が完結するので，春学期と併せて履修することが望ましい。

---

**欧米経済史・日本経済史**

---

名誉教授 岡田 泰男

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

アメリカ経済史を講義する。

授業内容：

1. 発展の概観
2. 人口と資源
3. 南部と北部
4. 工業化の道
5. 資本と企業

以上のトピックを扱う。

テキスト：

岡田泰男『アメリカ経済史』慶應義塾大学出版会

---

**欧米経済史・日本経済史**

---

名誉教授 岡田 泰男

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

アメリカ経済史を講義する。

授業内容：

6. 労働者と移民
7. 女性の役割
8. 農民のゆくえ
9. 都市の成長
10. 政府と経済
11. 国際経済

以上のトピックを扱う。

テキスト：

岡田泰男『アメリカ経済史』慶應義塾大学出版会

---

**欧米経済史・日本経済史**

---

(1) 火曜日 1 時限 (2) 火曜日 2 時限

教授 杉山 伸也

授業形態：春学期 2 単位・講義 [火曜日 1・2 時限いずれも履修しなければなりません。]

目標・意義・方法：

本講義では、17世紀の徳川幕府成立前後の時期から1970年代まで約400年にわたる日本経済の変化をマクロ的に概観する。講義では、とくに日本の経済発展の国際的・国内的環境と発展のメカニズムの解明に重点をおき、民間経済の動向とともに、政府の対外政策、財政・金融政策、産業政策について考察する。

この授業はWeb上で配信された講義の予習を前提とするもので、実際の授業では、特定のテーマに関する講義、グループ・ディスカッションおよびグループ・プレゼンテーション、ビデオ鑑賞を行なう。

**授業内容：**

講義は、以下のテーマにそって、最近の論争も紹介しながらすすめる。なお、授業のレジュメは、原則として1週間前にホームページで公開している。

- (1) 日本経済史へのアプローチ：最近の研究動向
- (2) 徳川期の経済システムと「鎖国」体制
- (3) 徳川幕府の財政・経済政策：17～18世紀前半期の政治と経済
- (4) 徳川期の農業発展と商業的農業の展開
- (5) 徳川期における市場経済化の進展
- (6) 徳川社会の崩壊：19世紀前半期の政治と経済
- (7) 幕末「開港」の国際的背景と経済的影響
- (8) 明治初期の財政・経済政策：「由利財政」から「大隈財政」へ
- (9) 明治政府の工業化政策
- (10) 1870年代の政治と経済：「大隈財政」から「松方財政」へ
- (11) 1880年代の政治と経済：「松方財政」と「企業勃興」期
- (12) 「日清戦後経営」と条約改正
- (13) 「日露戦後経営」と国際収支の悪化
- (14) 日清・日露戦後経営期の日本経済
- (15) 日本の「公式」「非公式」帝国：台湾と朝鮮の植民地化
- (16) 第一次世界大戦と日本経済
- (17) 大震災から金融恐慌へ：1920年代の日本経済
- (18) 「井上財政」と世界恐慌
- (19) 「高橋財政」と1930年代の日本経済
- (20) 1930年代後半期の日本経済：政府と民間企業
- (21) 「準戦時体制」「戦時体制」下の日本経済
- (22) 「戦後改革」から高度経済成長の時代へ：戦前・戦後の連続と断絶

[履修者へのコメント]

Web講義へのアクセス方法など授業のすすめ方については、4月13日の最初の授業の際に説明するの

で、履修を希望する受講者はかならず出席すること。履修者数は最大100名を予定しているため、受講者を制限することもある。

講義に関して詳しくは、<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/sugiyama/>を参照すること。

[成績評価方法]

レポート、プレゼンテーション、出席、春学期末試験などを考慮して、総合的に評価する。

**リーディング・リスト：**

- 中村隆英『日本経済』（第3版）東京大学出版会  
 新保博『近代日本経済史』創文社  
 梅村又次他編『日本経済史』全8巻、岩波書店  
 安藤良雄『近代日本経済史要覧』（第2版）東京大学出版会

---

**経済学説・経済思想**

---

教授 池田幸弘

授業形態：春学期2単位・講義

**目標・意義・方法**

経済思想史・経済学史についての基礎的講義。経済思想や経済学史を専攻する者だけを対象にするものではなく、他の領域を専攻する研究者にとっても有意義で、各々の分析視角を広げるような観点を提供することを目的とする。理論的な方法によるか、あるいは歴史的な方法によるかは、参加者の顔ぶれや問題関心を見てから考えてみたい。参加希望者は、かならず初回の授業に出席されたい。

**授業内容：**

カール・メンガーからはじまり現代オーストリア学派に至るオーストリア学派について講ずる。半期の講義で、一応この学派について鳥瞰図が持てるように努力したい。講義形式だが、適宜質問やディスカッションの時間を設ける。

**テキスト：**

尾近裕幸・橋本努編著『オーストリア学派の経済学』日本経済評論社、2003年

**リーディング・リスト：**

毎回の授業の際に指示する。

---

**経済学説・経済思想（スコットランド啓蒙における経済学の形成）**

---

教授 坂本達哉

授業形態：春学期2単位・講義

**目標・意義・方法：**

この講義では、スコットランド啓蒙の主役の一人、

ヒューム (David Hume, 1711-76) に焦点をあて、彼における経済思想の形成と確立を文明社会認識の生成過程として詳細に跡づける。アダム スミスの親友であり、彼の最大の導き手でもあったヒュームにおける社会科学の形成過程は、近代の経済学的思惟が政治学、歴史学、法学などの関連諸科学や哲学、倫理学などの人文諸科学との密接な関連においてのみ理解されうることを明瞭に示すであろう。

テキスト：

坂本達哉『ヒュームの文明社会』（創文社、1995年）を用いるので、各自用意すること。

## 専攻科目

### ミクロ経済学上級

教授 長 名 寛 明

教授 須 田 伸 一

授業形態：春学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

経済学部設置の「ミクロ経済学Ⅰ」および「ミクロ経済学Ⅱ」を履修した者を対象として、個別経済主体行動の基本的性質について講義する。

授業内容：

1. 消費者行動
2. 生産者行動
3. 不確実性下の経済行動

テキスト：

Mas-Colell, Whinston, and Green, *Microeconomic Theory*, Oxford University Press, 1995

### ミクロ経済学上級

教授 塩 澤 修 平

助教授 玉 田 康 成

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

春学期に開講される「ミクロ経済学上級」に引き続き、ミクロ経済学の理論について講義する。

授業内容：

1. 競争均衡の存在，局所的一意性，安定性
2. 厚生経済学の基本定理
3. 競争均衡とコア

テキスト：

Mas-Colell, Whinston and Green, *Microeconomic Theory*, Oxford University Press, 1995

### マクロ経済学上級

助教授 伊 藤 幹 夫

授業形態：秋学期 2 単位・講義

授業内容：

最近 10 年間ほどのマクロ経済学の理論・実証の両面における展開を，トピックを絞り込んで講義する。

1. 近年のマクロ経済学の実証で用いられるいくつかの計量テクニック
2. リカードの中立性命題をめぐる展開（消費関数の実証）

### 3. CCAPM と危険プレミアム・パズル

文献の指定などは最初の講義の時間に行う。また、講義資料などは順次 <http://www.econ.keio.ac.jp/staff/ito/lecture> において公開する。

---

#### マクロ経済学上級

---

教授 前多康男  
助教授 白井義昌

授業形態：春学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

この講義では、マクロ経済学の動学的な側面を理論的に扱う。モデルとしては、主に離散型の世代重複モデルを使用する。講義の目的は、世代重複モデルの基本的な枠組みを理解し、実際のモデル構築に自在に使用できるようになることにある。特に、政府の政策が資源配分に与える影響について、講義の重点が置かれる。分析のための数学ツールをマスターすることも本講義の目的とする。受講者には、積極的に学習する態度が望まれる。

この授業では、期末試験を、持ち込み不可の筆記試験の形式で行う。各試験の出題の範囲は当該試験以前の講義および宿題で扱ったすべての項目を含む。

本講義の成績は以下のウエイトで決定する。(宿題の提出状況 30%，出席状況：10%，期末試験 60%)

テキスト：

教科書は特に使用しない。

リーディング・リスト：

以下の文献を、適宜参考文献として使用する。

マッキヤンドレス・ウォレス著、川又・國府田・酒井・前多訳「動学マクロ経済学」創文社、1994 年（原書：*Introduction to Dynamic Macroeconomics*, Harvard）を使用する。

Azariadis, C., *Intertemporal Macroeconomics*, Blackwell, 1993

Sargent, T. J., *Dynamic Macroeconomic Theory*, Harvard, 1987

---

#### 数理経済学（I）

---

商学部教授 小宮英敏

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

本講義では経済学において動学アプローチをとる場合必要となる数学の理論として、線形常微分方程式の基礎理論の知識を前提として、自励的非線形常微分方程式すなわち力学系の基礎理論を講義する。力学系の

解の基本的性質の理解から始め、均衡の様々な様相を検討する。引き続き力学系の族に対する分岐理論、閉軌道に関する理論に進む。さらに、離散力学系の理論も扱い、カオスの初歩も学ぶ。

授業内容：

1. 線形常微分方程式の復習
2. 自励的非線形常微分方程式の解の存在と一意性および解の初期値とパラメタに対する連続依存性
3. 力学系
4. 自励的非線形常微分方程式の線形化
5. 力学系の均衡の諸相
6. 力学系の均衡の安定性
7. 分岐
8. 閉軌道と極限集合
9. 離散力学系の諸相

テキスト：

使わない。

リーディング・リスト：

1. 俣野博，常微分方程式入門，岩波書店，2003 年
2. N. P. Bhatia and G. P. Szegő, *Stability Theory of Dynamical Systems*, Springer, 1970
3. J.K. Hale, *Ordinary Differential Equations*, Wiley-Interscience, 1969
4. M. W. Hirsh, S. Smale and R. L. Devaney, *Differential Equations, Dynamical Systems and An Introduction to Chaos*, Second Edition, Elsevier, 2004
5. J. W. Weibull, *Evolutionary Game Theory*, MIT Press, 1995 (訳本あり)

---

#### 数理経済学（II）

---

教授 須田伸一

授業形態：秋学期 2 単位・講義

授業内容：

春学期に開講される「数理経済学（I）」の知識を前提として、動学的経済分析の諸モデルについて講義する。ミクロ・マクロ経済学の中で、動学的数学理論が応用されるいくつかの場面を取りあげ、それらを数学的に精密な形で理解することを目標としている。具体的には、以下の項目を取り上げる。

1. 競争均衡の安定性
2. 最適成長理論
3. 世代重複モデル

テキスト：

教科書は使わない。

リーディング・リスト：

参考書として以下のものを挙げる。

1. A. de la Fuente, *Mathematical Methods and Models for Economists*, Cambridge UP, 2000.
2. Giancarlo Gandolfo, *Economic Dynamics* (3rd ed), Springer, 1996.
3. Ronald Shone, *Economic Dynamics* (2nd ed), Cambridge UP, 2002.

---

### 数理経済学 (Ⅲ)

---

講師 高橋 明彦

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

数理ファイナンスの基礎事項を習得すること。

授業内容：

条件付請求権や最適ポートフォリオに関する理論的・数値的話題を講義する。

テキスト：

特になし。

リーディング・リスト：

授業中に指示する。

---

### 経済数学 (Ⅰ)

---

講師 山崎 昭

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

測度論の枠組みで表現された経済の母集団 (population) の上に構築される経済理論モデルの定式化に関して必要となる可測対応の積分論および位相解析等について講義すると同時に、測度論および確率論の一般均衡モデルについて講義する。

授業内容：

現在予定している講義項目は以下の通り。

1. 普遍選好集合と位相
2. 可測構造
3. 経済変数の連続性と可測性
4. 経済変数の集計による効果

テキスト：

Werner Hildenbrand, "CORE AND EQUILIBRIA OF A LARGE ECONOMY," Princeton University Press

山崎 昭『数理経済学の基礎』創文社

リーディング・リスト：

講義のときに適宜配布する予定。

---

### 経済数学 (Ⅱ-A)

---

(1) 木曜日 1 時限

理工学部教授 菊池 紀夫

授業形態：秋学期 2 単位・講義〔木曜日 2 時限の「経済数学 (Ⅱ-B)」も履修しなければなりません。〕

目標・意義・方法：

Lebesgue 積分・関数解析を通して数理経済学の問題のモデリングとその解析。

授業内容：

Lebesgue 積分及び関数解析入門の平易な講義を試みるが数理経済学に現われる微分方程式・変分問題を取り上げたい。

I 位相空間

距離空間, 完備性と Baire・Category 原理, コンパクト集合, 連結集合, Banach・Hilbert 空間

II 測度と積分・微分

測度, 可測集合・関数, Lebesgue 積分と収束定理, Fubini の定理, Radon-Nikodym 微分, Lebesgue・Sobolev 空間

III 関数解析と変分問題

リーディング・リスト：

水田義弘『実解析入門』培風館

Jurgen Jost 『Postmodern Analysis』Springer

---

### 経済数学 (Ⅱ-B)

---

(2) 木曜日 2 時限

理工学部教授 菊池 紀夫

授業形態：秋学期 2 単位・講義〔木曜日 1 時限の「経済数学 (Ⅱ-A)」も履修しなければなりません。〕

目標・意義・方法：

Lebesgue 積分・関数解析を通して数理経済学の問題のモデリングとその解析。

授業内容：

Lebesgue 積分及び関数解析入門の平易な講義を試みるが数理経済学に現われる微分方程式・変分問題を取り上げたい。

I 位相空間

距離空間, 完備性と Baire・Category 原理, コンパクト集合, 連結集合, Banach・Hilbert 空間

II 測度と積分・微分

測度, 可測集合・関数, Lebesgue 積分と収束定理, Fubini の定理, Radon-Nikodym 微分, Lebesgue・Sobolev 空間

III 関数解析と変分問題

リーディング・リスト：

水田義弘『実解析入門』培風館

Jurgen Jost 『Postmodern Analysis』Springer

### 経済数学 (III-A)

教授 丸山 徹

授業形態：春学期 2 単位・講義

授業内容：

動学的経済理論を支える数学的基礎のうち、とくに有効と思われる次の項目について述べる。

- I 解析学・線形代数学からの準備
- II 線形常微分方程式の基礎理論
- III 景気変動と微分方程式の周期解
  1. Poincaré-Bendixson の定理
  2. Hopf の分岐定理
  3. 景気変動の解析
- IV Ljapunov の第二法と均衡の安定性
  1. 安定性の諸概念
  2. Ljapunov の第二法
  3. 競争的一般均衡の安定性

### 経済数学 (III-B)

教授 丸山 徹

授業形態：秋学期 2 単位・講義

授業内容：

「経済数学 (III-A)」の続論

### 経済数学 (IV-A)

講師 黒田 耕嗣

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

random walk, Poisson process 等の確率過程の性質を概観し、離散確率空間における information structure, conditional expectation について解説する。またこれらのファイナンスへの応用について述べる。

授業内容：

- ① 離散確率分布 (二項分布, Poisson 分布, 幾何分布) について
- ② 連続型確率分布 (正規分布, 指数分布, t-分布,  $\chi^2$ -分布, F-分布) について
- ③ random walk とその応用
- ④ compound Poisson process と損保数理への応用
- ⑤ 生保数理概説
- ⑥ 多期間市場モデル
- ⑦ 平衡価格速度と裁定戦略について
- ⑧ Black Sholes 公式について

テキスト：

特になし。

リーディング・リスト：

Dothan, *Prices in Financial Markets*, Oxford Univ. Press

### 経済数学 (IV-B)

講師 黒田 耕嗣

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

確率過程, 特に Brown 運動の基本的性質を理解し, ファイナンスへの応用について考える。

授業内容：

- ① Riemann 積分より Lebesgue 積分へ
- ② Lebesgue 積分と Lebesgue の収束定理について
- ③ 測度論的確率論の概要 (確率変数列の収束, 大数の法則, 中心極限定理)
- ④ Random walk から Brown 運動へ
- ⑤ Brown 運動の基本的性質 (path の性質, scale property)
- ⑥ Brown 運動の Markov 性
- ⑦ Martingale とは
- ⑧ 確率積分と Ito の公式について
- ⑨ ファイナンスへの応用 (数理ファイナンスへの序論)

テキスト：

特になし。

リーディング・リスト：

Björk, *Arbitrage Theory in Continuous Time*, Oxford Univ. Press

### 経済数学 (V)

教授 丸山 徹

授業形態：春学期 2 単位・講義

授業内容：

1. ユニタリ作用素の一径数群のスペクトル表現
2. 弱定常確率過程のスペクトル表現  
Slutsky-Frisch の景気変動理論を Fourier 解析の立場から基礎づける試み

### 計量経済学上級

教授 養谷 千風彦

授業形態：春学期 2 単位・講義および演習

目標・意義・方法：

講義, 履修者の報告, 補足説明, コンピュータあるいはパソコン演習の形式を, 春学期, 秋学期とも採り入れる。

授業内容：

1. 予備知識の復習
  - (1) 行列と行列式
  - (2) 2次形式の分布
  - (3) 最尤推定量の性質
2. 古典的正規線形回帰モデルのまとめ
  - (1) パラメータ推定法
  - (2) 説明力
  - (3) 仮説検定
  - (4) 制約つき最小2乗法
  - (5) 一般化最小2乗法
  - (6) 包括テスト
3. 回帰診断
4. 影響分析
5. 応用時系列分析
  - (1) 非定常過程
  - (2) 共和分
  - (3) 応用

テキスト：

1. 蓑谷千風彦『計量経済学の理論と応用』日本評論社
2. 蓑谷千風彦『計量経済学の新しい展開』多賀出版
3. Patterson, K., *An Introduction to Applied Econometrics — A Time Series Approach*, Macmillan Press, 2000

リーディング・リスト：

1. Judge, G. G., Hill, R. C., Griffiths, W. E., Lutkepohl, H., Lee, T. C., *Introduction to the Theory and Practice of Econometrics*, 2nd ed., John Wiley & Sons, 1988
2. 1と同じ著者達による  
*The Theory and Practice of Econometrics*, 2nd ed., John Wiley & Sons, 1985
3. Davidson, R., Mackinnon, J. G., *Estimation and Inference in Econometrics*, Oxford University Press, 1993
4. Griffiths, W. E., Hill, R. C., Judge, G. G., *Learning and Practicing Econometrics*, John Wiley & Sons, 1993
5. Spanos, A., *Statistical Foundations of Econometric Modelling*, Cambridge University Press, 1986
6. Hendry, D. F., *Dynamic Econometrics*, Oxford University Press, 1995
7. Hamilton, J. D., *Time Series Analysis*, Princeton University Press, 1994

計量経済学上級

教授 蓑谷 千風彦

授業形態：秋学期2単位・講義および演習

目標・意義・方法 他：

春学期参照

応用計量経済学（パネルデータの計量経済学）

【経商 COE 連携科目】

教授 辻村 和 佑

助教授 宮内 環

助教授 河井 啓 希

授業形態：春学期2単位・合同講義

目標・意義・方法：

春学期と秋学期を通じて、パネルデータを用いた実証分析に必要な計量経済学の方法を講義する。

なおこの授業は、21世紀COEプログラム「市場の質に関する理論形成とパネル実証分析—構造的経済政策の構築にむけて—」の連携科目として設置され、商学研究科の「計量経済学」（修士課程）（担当は新保一成助教授）と合同で行う。

授業内容：

授業の計画

- 1 パネルデータの特徴と既存のパネルデータ
- 2 資料発生機構、構造、識別、統御実験
- 3 通常最小二乗法の前提と推定量の性質
- 4 観測されない変数を含む線形モデル  
一般化最小二乗法と実行可能一般化最小二乗法  
ランダム効果と固定効果  
1元配置と2元配置  
特定化検定
- 5 パネルデータモデルと一般化積率法
- 6 漸近理論と最尤推定法

春学期と秋学期の両方を履修することが望ましい。  
成績評価方法は、各学期末に各自の研究と計量経済学との関連について述べたタームペーパーを提出してもらう。

テキスト：

Paul A. Ruud, *An Introduction to Classical Econometric Theory*, Oxford University Press

リーディング・リスト：

Jefferey M. Wooldridge, *Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data*, MIT Press

Badi H. Baltagi, *Econometric Analysis of Panel Data*, Wiley

小尾恵一郎『計量経済学入門』日本評論社

## 応用計量経済学（パネルデータの計量経済学）

### 【経商 COE 連携科目】

教授 辻村和佑  
助教授 宮内環  
助教授 河井啓希

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

#### 目標・意義・方法：

春学期と秋学期を通じて、パネルデータを用いた実証分析に必要な計量経済学の方法を講義する。

なおこの授業は、21 世紀 COE プログラム「市場の質に関する理論形成とパネル実証分析—構造的経済政策の構築にむけて—」の連携科目として設置され、商学研究科の「計量経済学」（修士課程）（担当は新保一成助教授）と合同で行う。

#### 授業内容：

##### 授業の計画

- 1 パネルデータと不均一分散
- 2 パネルデータと系列相関
- 3 パネルデータと多変量回帰
- 4 パネルデータと同時方程式体系
- 5 離散的選択モデル
- 6 打ち切りデータと切断データ
- 7 動学的パネルデータ分析
- 8 その他のパネルデータに関する話題  
不完全パネルデータ、擬似パネルデータ、非定常パネルデータなど

春学期と秋学期の両方を履修することが望ましい。  
成績評価方法は、各学期末に各自の研究と計量経済学との関連について述べたタームペーパーを提出してもらう。

#### テキスト：

Paul A. Ruud, *An Introduction to Classical Econometric Theory*, Oxford University Press

#### リーディング・リスト：

Jefferey M. Wooldridge, *Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data*, MIT Press

Badi H. Baltagi, *Econometric Analysis of Panel Data*, Wiley

小尾恵一郎『計量経済学入門』日本評論社

## 経済学史

講師 的場昭弘

授業形態：秋学期 2 単位・講義

#### 目標・意義・方法：

マルクスのフランス三批判（『フランスの内乱』、

『ルイ・ボナパルトのブリュメールの 18 日』、『フランスにおける階級闘争』）を講義します。

#### 授業内容：

##### 講義予定

- 1) マルクスの政治学
- 2) フランス三批判の位置付け
- 3) フランス三批判の文献学的位置付け
- 4) 『フランスにおける階級闘争』
- 5) 『フランスにおける階級闘争』
- 6) 『ルイ・ボナパルトのブリュメールの 18 日』
- 7) 『ルイ・ボナパルトのブリュメールの 18 日』
- 8) 『フランスの内乱』
- 9) 『フランスの内乱』
- 10) レーニンの『国家と革命』
- 11) 国家論論争

#### テキスト：

岩波文庫版、国民文庫、あるいは全集版を講義までに読んでおくこと。

## 社会思想

教授 高草木 光 一

授業形態：春学期 2 単位・講義

#### 目標・意義・方法：

サン＝シモンの思想を中心にして、18 世紀思想から 19 世紀思想への転換を考察する。

#### 授業内容：

『サン＝シモン著作集』（全 5 巻）および仏語・英語・邦語の研究文献を題材に使い、サン＝シモンにおける「科学」「産業」「宗教」などの独自性を考察する。必要に応じて、参加者にはリポーターの役割を果たしてもらう。

#### テキスト：

森博編訳『サン＝シモン著作集（全 5 巻）』恒星社厚生閣

#### リーディング・リスト：

デュルケム（森博訳）『社会主義およびサン＝シモン』恒星社厚生閣

マニユエル（森博訳）『サン＝シモンの新世界（上・下）』恒星社厚生閣

シャルレティ（沢崎・小杉訳）『サン＝シモン主義の歴史』法政大学出版局

## 経済思想（日本社会経済思想史）

教授 小室正紀

授業形態：秋学期 2 単位・講義

**目標・意義・方法：**

山片蟠桃『夢の代』を輪読しながら、懐徳堂朱子学の経済思想としての射程を考える。山片蟠桃は懐徳堂を代表する町人学者であるが、彼の著作には、幕藩制に基礎をおいた大坂大商人のイデオロギーと同時に、新たな経済状況の中でいかに自己を確立してゆくかといった思想との両面があった。この講義では『夢の代』を読みながら、近代日本経済思想の原点を考えてみたい。また、関連して山片蟠桃関係の文献につき、履修者に報告を求めることもある。なお、小室担当の「経済思想演習（日本社会経済思想史演習）」とあわせて履修することが望ましい。

---

**欧米経済史**

名誉教授 岡田 泰 男

授業形態：春学期 2 単位・講義

**目標・意義・方法：**

経済史研究の課題と方法。

今日、経済史研究の対象は、時代、地域ともに拡大しており、方法もさまざまである。しかし、経済史研究の多様性、細分化のみを強調すべきではなく、共通の関心もまた育ちつつある。

個々の研究テーマは、しばしば偶然によって決定された特殊なものであることが多いが、それを経済史研究の大きな問題群と関連させることにより、より豊かな研究成果が期待できる。

この講義では、問題の立て方、研究史とのつながり、史料の扱い方、叙述と分析の方法などを、論文や書物の輪読と討論を通じて、具体的に検討する。また必要に応じ、論文作成のための助言を与える。なお対象は欧米経済史と限定しない。

---

**欧米経済史**

名誉教授 岡田 泰 男

授業形態：秋学期 2 単位・講義

**目標・意義・方法：**

春学期参照

---

**欧米経済史**

教授 矢野 久

助教授 飯田 恭

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

**目標・意義・方法：**

本科目では、社会経済史の視点から、欧米を中心とする各地の歴史を考察する。とりわけ「日常」にかか

わる具体的な歴史事象を、社会経済の「構造」と関連づけながらとらえる方法を陶冶することを目的としつつ、活発に討論したい。

**授業内容：**

本科目で取り上げる（担当教員が専門とする）テーマは、およそ次のようなものである。

- ・生活環境と生活水準
- ・労働と消費生活
- ・家族・親族・共同体と個人主義
- ・人的移動の諸相

受講者の専門・研究テーマ・興味関心が広い意味でこれらのテーマと重なり合えば、問題はない。また、考察対象地域についても、欧米に限定するものではない。

演習形式を採用する。参加者には、本科目の趣旨を踏まえた上で、各自の専門領域の研究史・研究動向を幅広くしかも詳細に紹介し、その中での自らの研究の位置づけを明らかにするような報告を求める。この報告を参加者全員で共有し、それについて議論したい。このことを通じて、何よりも参加者各自の研究が刺激され、またそれが同時に参加者全員への刺激となることが望まれる。

---

**欧米経済史**

教授 矢野 久

助教授 飯田 恭

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

**目標・意義・方法：**

本科目では、社会経済史の視点から、欧米を中心とする各地の歴史を考察する。とりわけ「日常」にかかわる具体的な歴史事象を、社会経済の「構造」と関連づけながらとらえる方法を陶冶することを目的としつつ、活発に討論したい。

**授業内容：**

本科目で取り上げる（担当教員が専門とする）テーマは、およそ次のようなものである。

- ・生活環境と生活水準
- ・労働と消費生活
- ・家族・親族・共同体と個人主義
- ・人的移動の諸相

受講者の専門・研究テーマ・興味関心が広い意味でこれらのテーマと重なり合えば、問題はない。また、考察対象地域についても、欧米に限定するものではない。

演習形式を採用する。参加者には、本科目の趣旨を

踏まえた上で、各自の専門領域の研究史・研究動向を幅広くしかも詳細に紹介し、その中で自らの研究の位置づけを明らかにするような報告を求める。この報告を参加者全員で共有し、それについて議論したい。このことを通じて、何よりも参加者各自の研究が刺激され、またそれが同時に参加者全員への刺激となることが望まれる。

---

## 日本経済史

教授 杉山 伸也  
教授 柳沢 遊

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

戦間期の日本経済に関する研究書・論文をとりあげ、院生による報告とディスカッションを中心に行なう。テキストは、老川慶喜・大豆生田稔編『商品流通と東京市場』（日本経済評論社、2000年）を予定しているが、参加者の関心を考慮に入れて選択する。

成績評価は、授業での報告や討論への参加等を考慮して総合的に判断する。

履修に際しては、日本経済史の基本的事実関係について、すでに履修していることが前提となる。また留学生の場合は、日本経済史の基本的用語をふくめ、十分な日本語能力を備えていることが望ましい。

---

## 日本経済史

教授 杉山 伸也  
教授 柳沢 遊

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

徳川期および明治期の日本経済に関する研究書・論文をとりあげ、院生による報告とディスカッションを中心に行なう。テキストは中林真幸『近代資本主義の組織』（東京大学出版会、2003年）を予定しているが、受講者の関心を考慮に入れて選択する。

成績評価は、授業での報告や討論への参加等を考慮して総合的に判断する。

履修に際しては、日本経済史の基本的事実関係について、すでに履修していることが前提となる。また留学生の場合は、日本経済史の基本的用語をふくめ、十分な日本語能力を備えていることが望ましい。

---

## アジア経済史

教授 古田 和子

授業形態：春学期 2 単位・演習

授業内容：

19世紀後半から20世紀前半における東アジアおよび東南アジアの社会経済構造を、貿易・植民地経済・アジア域内労働力移動の観点から検討していく。参加者は、これらのテーマに関する文献リストの作成とその検討作業を通して、テーマへの専門的な理解を深めていくことが求められる。

---

## アジア経済史

教授 古田 和子

授業形態：秋学期 2 単位・演習

授業内容：

春学期に引続いて、19世紀後半から20世紀前半における東アジアおよび東南アジアの社会経済構造を、貿易・植民地経済・アジア域内労働力移動の観点から検討していく。検討してきた研究文献の整理を通して、先行研究による成果と残された課題について考察を深め、具体的な研究対象を設定する作業を進める。

---

## 産業組織論

教授 中澤 敏明  
助教授 河井 啓希

授業形態：春学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

このコースは、産業組織論の分野全体について広く紹介することを課題とせず、産業組織論の実証分析をレビューすることを通じて、組織論の3分割法でいえばとくに構造・行動に焦点をあてて、事実発見・理論検証を行うことを直接的に目的としている。中澤・河井 2 名で毎週交代しながら、一方が講義し他がコメントを加え質疑する。典型的には、実証分析の中で主要な先行研究を紹介し相互比較しながら論じ、扱われている争点が産業組織論の進展の系譜の中で占める位置・研究が明らかにした点・問題点・今後に残された課題などを紹介する。必要に応じて、実証分析にかかわる基本的な理論をレビューする。昨年（春）では、中澤がコーポレート・ガバナンスの制度紹介・実証分析、河井がプライスコストマージン、推測的変動、製品差別性と価格を中心とする市場構造・行動にかかわる実証分析を扱った。今年度は、コーポレート・ガバナンスと市場競争との関係についての理論的研究を基礎にして、これにかかわる実証分析に進む予定である。河井は、市場参入にかかわる実証研究を特に、ニュー・エンピリカル I O のアプローチの系譜にウエイトを置きながらサーベイする。

## 授業内容：

学部レベルの知識をもっていることを前提とする。  
計量経済学・ゲーム理論についても基礎的知識を備えていることが望まれる。後者については、修士課程で設けられている「産業組織論（ゲーム理論）」を並行して履修することが望ましい。

## テキスト：

講義に使用する参考文献については、講義中に説明するが、履修判断の参考のために、これまで扱った代表的なテキストをいくつか紹介する。論文については、秋学期の部に例示するので、参照されたい。

M.Stephen, *Advanced Industrial Organization*, Blackwell '93,'02

P. Ghemawat, *Games Business Play*, MIT Press,'97

O. Hart, *Firms, Contracts, and Financial Structure*, Oxford, '95

L.Philips(ed), *Applied Industrial Economics*, Cambridge, '98

L. Cabral (ed), *Readings in Industrial Organization*, Blackwell, '00

X.Vives (ed), *Corporate Governance*, Cambridge, '02

E. Rasmussen, *Games and Information*, Blackwell, '89, '01

E. Wolstetter, *Topics in Microeconomics*, Cambridge

---

## 産業組織論

---

教授 中澤 敏 明  
助教授 河 井 啓 希

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

## 目標・意義・方法：

講義の目的・進め方は、春学期と同じである。そちらを参照されたい。テーマとしては、昨年の例（秋）では、中澤がコーポレート・ガバナンスの理論面、とくに外部ガバナンスとして、市場競争が企業統治を促す効果を持つか否かについて、理論分析を紹介した。河井は、春学期に続き、製品差別性他の市場構造・行動にかかわる実証分析をレビューするとともに、市場への参入の実態・参入発生件数および均衡企業数の実証分析の系譜を紹介した。今年度は、春学期の進捗をみて、カバーするテーマを確定することになる。コーポレートガバナンス・製品差別性・参入以外の可能なテーマとしては、オークション・カルテル・価格またはプライスコストマージン・合併・垂直統合・取引費用・広告・研究開発などである。

## 授業内容：

学部レベルの知識をもっていることを前提とする。  
計量経済学・ゲーム理論についても基礎的知識を備えていることが望まれる。後者については、修士課程で設けられている「産業組織論（ゲーム理論）」科目を並行して履修することが望ましい。

## リーディング・リスト：

講義に使用する参考文献については、講義中に説明するが、履修判断の参考のために、昨年扱った論文をいくつか紹介する。テキストについては、春学期の案内を参照されたい。

B. Holmstrom, "Moral Hazard In Teams" Bell Journal, vol13 no2, '82

B. Nalebuff and J. Stiglitz, "Information, Competition, and Markets", AER vol73. No2. '83

R. Bliss and R. Rosen, "CEO compensation and bank mergers", JFE, 61(01)

H. Demsetz and K. Lehn, "The Structure of Corporate Ownership: Causes and Consequences", JPE

R. Aggarwal and A. Samwick, "Executive Compensation, Strategic Competition. And Relative Performance Evaluation: Theory and Evidence", Journal of Finance vol LIV no6, '99

R. Gibbons and K. Murphy, "Relative Performance Evaluation for Chief Executive Officers", Industrial and Labor Relations Review, vol 43, Issue3, '90

J. Barro and R. Barro, "Pay, Performance and Turnover of Bank CEOs", Journal of Labor Economics, vol8, Issue4, '90

B. Hall and J. Liebman, "Are CEOs Really Paid Like Bureaucrats ?", vol CXIII Issue3, '98

J. Liang, "Price Reaction Functions and Conjectural Variations", Review of IO, vol 4. n2

F. Gasmi, J Laffont, Q Vuong, "Econometric Analysis of Collusive Behavior in a Soft-Drink Market", Journal of Economics and Management Strategy 1(2), '92

M. Slade, "Interfirm Rivalry in a Repeated Game: An Empirical Test of Tacit Collusion", Journal of Industrial Economics 35(4), '87

D. Epple, "Hedonic Prices and Implicit Markets: Esimating Demand and Supply Functions for Differentiated Prodcuts", Vol 95, Issue 1, '87

G. Iwata, "Measurement of Conjectural Variations an Oligopoly", Econometrica 42(5) '74

R. Porter, "A Study of Cartel Stability: The Joint Executive Committee 1880-86", *Bell Journal*, 14(2) '83  
 T. Bresnahan, "Competition and Collusion in the American Auto Industry: The 1955 Price War", *Journal of Industrial Economics* 35(4), '87  
 R. Feenstra and J. Levinsohn, "Estimating Markups and Market Conduct with Multidimensional Product Attributes", *RES*, vol62. Issue 1, '95  
 S. Berry, J. Levinson and A. Pakes, "Automobile Prices In Market Equilibrium", *Econometrica* 63(4), '95  
 V. Kadiyali, "Entry, Its Deterrence, and its Accomodation: A Study of the U.S. Photographic Film Industry", *RAND Journal*, vol 27,no3, '96  
 T. Bresnahan, P. Reiss, R. Willig, G. Stigler, "Do Entry Conditions Vary Across Makets?", *Brookings Papers on Economic Activity*, vol 1987, no3, '87

産業組織論 (ゲーム理論)

教授 中山 幹 夫  
 助教授 グレーヴァ 香子

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

この授業では講義と演習を通じて、産業組織理論を中心とした経済分析に使われる中級ゲーム理論を学ぶ。学部レベルの初級ゲーム理論の知識を前提とする。成績は演習と学期末のレポートによって決まる。

授業内容：

1. 非協力ゲーム
  - (a) 復習：ナッシュ均衡，部分ゲーム完全均衡，フォーク定理，契約
  - (b) ベイジアンゲームとベイジアンナッシュ均衡
  - (c) Trembling-hand perfect equilibrium, 完全ベイジアン均衡，逐次均衡とその応用
  - (d) 進化ゲーム
2. 協力ゲーム
  - (a) TU ゲームとその応用：コア，安定集合，交渉集合，カーネル，仁
  - (b) NTU ゲームとその応用： $\lambda$ -transfer value, 市場ゲーム
  - (c) 協力ゲームの戦略形：強均衡，coalition-proof ナッシュ均衡
  - (d) コア分析：アルファコア，ベータコア，自己拘束的戦略，優位懲罰戦略など
  - (e) Scarf の定理と純粋交換ゲーム，NTU 市場ゲーム

リーディング・リスト：

1. 中山幹夫『はじめてのゲーム理論』有斐閣，1997
2. 岡田章『ゲーム理論』有斐閣，1996
3. Fudenberg and Tirole, *Game Theory*, MIT Press, 1991
4. Osborne and Rubinstein, *A Course in Game Theory*, MIT Press, 1994

労働経済論

教授 島田 晴 雄

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

日本経済の制度と政策に関する主要なテーマを選んで、概説を行うとともに、関連文献を読み、参加者の興味も勘案して議論を深める。

労働経済論

教授 島田 晴 雄

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

春学期参照

社会政策論

講師 中川 清

授業形態：春学期 2 単位・講義および演習

目標・意義・方法：

家族生活と社会政策の関係史をテーマとします。近現代の日本をフィールドとして、家族生活と社会政策との複雑な相互関係を丹念に検討する作業をします。従来の家族政策や家族法の枠にとらわれなで、広範な関係史を素描したいと考えます。かなり集中した作業と、議論への積極的な参加が求められます。

授業内容：

- 春学期は、『内務省史』や『警視庁史』などを素材に、さしあたり以下の枠組みで検討作業を行います。具体的な進め方は参加者と相談して決定します。
- 1) 関係史の視点と枠組みについて
  - 2) 制度・政策と生活実態の乖離—政策基盤の整備—
  - 3) 政策平面の形成と組織化—相互昂進関係の形成—
  - 4) 家族生活と社会政策の接近—総力戦と戦後改革—
  - 5) 雇用者家族モデルと政策対応—生活保障の体系化—
  - 6) 家族の関係をめぐる新たな政策調整

リーディング・リスト：

- G. エスピン - アンデルセンの諸著作

Goodman, Roger ed., *Family and Social Policy in Japan*, Cambridge Univ. Press, 2002

横山文野『戦後日本の女性政策』勁草書房, 2002年  
佐口・中川編『講座福祉社会2 労働と生活の社会史』ミネルヴァ書房, 2004年(予定)

---

## 社会政策論

---

講師 中川 清

授業形態：秋学期2単位・講義

目標・意義・方法：

家族生活と社会政策の関係史をテーマとします。

近現代の日本をフィールドとして、家族生活と社会政策との複雑な相互関係を丹念に検討する作業をします。従来の家族政策や家族法の枠にとらわれずに、広範な関係史を素描したいと考えます。かなり集中した作業と、議論への積極的な参加が求められます。

授業内容：

秋学期は、『医制百年史』や『学制百年史』などを素材に、さしあたり以下の枠組みで検討作業を行います。具体的な進め方は参加者と相談して決定します。

- 1) 関係史の視点と枠組みについて
- 2) 制度・政策と生活実態の乖離—政策基盤の整備—
- 3) 政策平面の形成と組織化—相互昂進関係の形成—
- 4) 家族生活と社会政策の接近—総力戦と戦後改革—
- 5) 雇用者家族モデルと政策対応—生活保障の体系化—
- 6) 家族の関係をめぐる新たな政策調整

リーディング・リスト：

G. エスピン-アンデルセンの諸著作

Goodman, Roger ed., *Family and Social Policy in Japan*, Cambridge Univ. Press, 2002

横山文野『戦後日本の女性政策』勁草書房, 2002年  
佐口・中川編『講座福祉社会2 労働と生活の社会史』ミネルヴァ書房, 2004年(予定)

---

## 工業経済論

---

教授 渡辺 幸男  
助教授 駒形 哲哉

授業形態：春学期2単位・合同講義

目標・意義・方法：

急速に発展する中国工業を題材にとりあげ、それを地域産業・産業集積の視点から検討する。具体的には、駒形、渡辺の中国工業発展について研究成果を利用して講義を行うとともに、中国研究者による中国地域産業発展についての研究も取り上げる。

中国研究者による中国語での研究成果も輪読するこ

とになるが、その場合は駒形等による日本語でのレジュメを利用して検討することになる。それゆえ中国語での輪読が困難なものにも履修可能である。

---

## 工業経済論

---

教授 渡辺 幸男  
助教授 駒形 哲哉

授業形態：秋学期2単位・合同講義

目標・意義・方法：

春学期参照

---

## 農業経済論

---

教授 寺出 道雄

授業形態：春学期2単位・講義

目標・意義・方法：

この講義では、農業経済論の領域から大きく2つの問題を取りあげて概観する。

すなわち、環境と農業(林業・水産業を含む)の係わりについての問題と、資本主義の発展と農業の変化に係わる問題である。この2つの話題は、それぞれ農業経済論の新たな研究課題と伝統的な研究課題であり、相互に十分に連続した問題として講義することは困難であるが、研究課題が大きく変わっていったなかで、農業経済論の概観を得るためには、双方にふれる必要があると考える。

授業内容：

前者については、1. 植物の物質生産と農業 2. 農法・農業技術の変化 3. 再生可能資源の利用 4. 現代の農業技術等の話題を、

後者については、1. 農民層分解 2. 農工間の労働力移動 3. 19世紀末以来のいくつかの農業不況 4. 現代の農業政策等の話題を取り上げる。

リーディング・リスト：

講義の全体をカバーする文献はないので、授業中に参考文献を指示する。なお、後者の話題では、速水佑次郎他『農業経済論』(岩波書店, 2002年)に言及することが多い。

---

## 経済政策論

---

教授 大村 達弥

授業形態：春学期2単位・講義

目標・意義・方法：

講義の目標は、変容しつつある経済システムや産業構造の動きを踏まえ、法・政治システムとの関わりも含め学際的視点から現代の経済問題の検討を進めるこ

とにある。

**授業内容：**

今年度の具体的内容としては、情報通信および関連産業における規制緩和とネットワークの発展が産業構造の変化を促している点に着目して、関連する経済規制改革、ネットワーク外部性、電子取引の理論的・実際の検討等を扱う予定である。

**テキスト：**

授業開始の時点で指定する。

**リーディング・リスト：**

下記の文献は 2003 年度で取り上げたものである。  
 依田高典『ネットワーク・エコノミクス』日本評論社、2001 年  
 J. Laffon and J. Tirole, *Competition in Telecommunications*, MIT Press, 2000 (邦訳：『テレコム産業における競争』エコノミスト)

---

**経済政策論**

---

教授 大村 達 弥

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法 他：

春学期参照

---

**金融論**

---

教授 櫻 川 昌 哉

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

国内外の金融にかかわる重要なテーマに触れ、論文を書けるようにする。

授業内容：

国内外の金融にかかわる最新の英語の学術論文を読む。「国際金融論」と 2 コマ続けて行う。

テキスト：

なし。初回にリーディングリストを渡す。

リーディング・リスト：

初回にリーディングリストを渡す。櫻川昌哉『金融危機の経済分析』（東京大学出版会）を参考書として適宜使う。

---

**金融論**

---

教授 吉 野 直 行

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

以下の論文などを読みながら、マクロ Monetary Theory の基礎的な知識を得ることを目指す。さら

に、計量分析を用いた金融マクロ経済の実証方法を学ぶ予定。

リーディング・リスト：

1. Kydland and Prescott, *Business Cycles: Real Facts and a Monetary Myth*
2. Sumru Altug, *Time to Build and Aggregate Fluctuations: Some New Evidence*
3. Xavier Freixas and Jean-Charles Rochet, *Microeconomics of Banking*
4. *Exchange Rate Regimes and Macroeconomic Stability*, Kluwer Academic Publisher
5. John Black, *Monetary Policy*
6. David Gowland, *Inflation*
7. Richard Layard, *Inflation/Unemployment Quandary*

---

**財政論**

---

本年度休講

---

**公共経済学**

---

教授 前 多 康 男

助教授 白 井 義 昌

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

春学期開講の「マクロ経済学上級」（前多・白井担当）に引き続き、時間を通じた経済に関わる基礎的分析方法と主要問題についての講義を行う。

授業内容：

講義内容はだまかにわけて二つである。第一は春学期に扱わなかった連続時間の動学的最適化問題とそれを用いた経済成長の諸議論の紹介である。第二は労働市場、金融市場などの分析には市場の摩擦、不完全情報など完全競争ではつかみきれない要素を取り込んだ標準的マクロ諸モデルの解説を行う。

---

**アジア経済と日本**

---

教授 吉 野 直 行

本塾教授 榊 原 英 資

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

1997 年のアジア通貨危機によって、アジア経済は大きな打撃を受けた。

タイ・インドネシアなどの為替が実質的なドルと固定相場制となっていたこと、さらには、二つのミスマッチがアジアの通貨危機の重要な要因でもあるとされる。すなわち、(i)為替のミスマッチ、(ii)期間のミ

スマッチである。こうした通貨危機の経験から、アジア債券市場の育成、チェンマイ・イニシアティブ（通貨スワップ）、資本移動のモニタリングなど、さまざまな試みがなされている。さらには、ヨーロッパの EURO 共通通貨の発足もあり、アジア地域での通貨制度のあり方に関する議論も多数出ている。こうした、アジアの通貨制度、金融危機に至る制度的な問題点、その後のアジア経済と日本との関係、アジア各国の銀行不良債権問題、財政赤字の問題、アジア経済と日本経済の関係について講義を行う。

**授業内容：**

講義の内容としては、

- (1) アジア経済の現況
- (2) アジア通貨危機の原因
- (3) アジアの為替制度
- (4) アジア債券市場と日本の金融市場
- (5) 日本経済の歴史的分析
- (6) 日本の財政・金融政策
- (7) 構造的な経済政策

などのテーマを説明する予定。

毎回、講義を行うが、2・3回の小テストと学期末試験の点数を合計して成績を評価する予定。

---

**現代日本経済論**

本年度休講

---

**現代資本主義論**

教授 北村 洋基

授業形態：春学期 2 単位・講義

**目標・意義・方法：**

現代資本主義を情報化という視覚から分析する。そのことによって現代資本主義の何が明らかになるのかを検討するとともに、経済学の理論的課題を探る。

**授業内容：**

1. 情報をどのようにとらえるか。
2. 道具と機械段階における情報と制御
3. オートメーション・情報ネットワーク段階における情報と制御

**テキスト：**

北村洋基『情報資本主義論』大月書店

**リーディング・リスト：**

適宜紹介する。

---

**現代資本主義論**

教授 北村 洋基

授業形態：秋学期 2 単位・講義

**目標・意義・方法：**

現代資本主義を情報化という視覚から分析する。そのことによって現代資本主義の何が明らかになるのかを検討するとともに、経済学の理論的課題を探る。

**授業内容：**

1. 技術発展と産業構造の変化
2. 労働の歴史的・段階的变化と労働価値論の現代化
3. 資本主義的生産様式の諸段階と現段階

**テキスト：**

北村洋基『情報資本主義論』大月書店

**リーディング・リスト：**

適宜紹介する。

---

**世界経済論**

教授 竹森 俊平

授業形態：春学期 2 単位・講義

**目標・意義・方法：**

国際金融、および国際貿易についての重要な Issue について講義する。また、研究を進めるための文献を紹介する。

**リーディング・リスト：**

文献等については、第一回目の講義の際に指示する。

---

**国際貿易論**

本年度休講

---

**開発経済論**

教授 木村 福成

授業形態：春学期 2 単位・講義

**目標・意義・方法：**

発展途上国の開発に当たって、貿易・直接投資と WTO との関係は避けて通れない重要な問題となっている。本講義では、開発と国際通商政策の関係を鳥瞰し、理論研究、実証・政策研究の可能性を探っていく。

国際貿易論、開発経済学の基礎を身につけていることが望ましいが、経済学研究科の他分野、あるいは他研究科からの参加も歓迎する。

**授業内容：**

講義は、主要論文の批判的読解と関連トピックについてのディスカッションを中心に進めていく。詳しく

は第 1 回目の講義の際に説明する。成績は、授業中のパフォーマンス (40%) と学期末のレポート (60%) によって定める。

テキスト：

第一回目の講義の際に指示する。

リーディング・リスト：

第一回目の講義の際に指示する。

## 国際金融論

教授 櫻川 昌哉

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

国内外の金融にかかわる重要なテーマに触れ、論文を書けるようにする。

授業内容：

国内外の金融にかかわる最新の学術論文を読む。特にアジア通貨危機に関する文献も読む。

テキスト：

なし。

リーディング・リスト：

櫻川昌哉『金融危機の経済分析』東京大学出版会  
Freixas and Rochet, *Microeconomics of Banking*, MIT Press

## 国際マクロ経済学

教授 嘉治 佐保子

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

マクロ経済学とミクロ経済学の基礎をきちんと理解していることを前提に、国際マクロ経済学(open macroeconomics)の諸概念を正しく理解することを目的に講義する。

授業内容：

1. 閉鎖経済と開放経済のマクロモデル
2. 経常収支と資本収支
3. 為替レート決定の諸理論
4. マンデル・フレミングの結論

リーディング・リスト：

深尾光洋『実践ゼミナール国際金融』東洋経済新報社 1990  
須田美矢子『国際マクロ経済学』日本経済新聞社 1988  
深海博明編著『国際経済論』八千代出版 1999 第 14 章 他

## 国際マクロ経済学

教授 嘉治 佐保子

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

マクロ経済学、ミクロ経済学および国際マクロ経済学の基礎をきちんと理解していることを前提に、開放マクロ経済モデルを用いた基本的な分析について講義する。

授業内容：

1. マンデル・フレミングの結論
2. オーバーシュooting・モデル
3. カンゾネリ・ヘンダーソン・モデル

リーディング・リスト：

浜田宏一『国際金融の政治経済学』創文社 1979  
高木信二『為替レート変動と国際通貨制度』東洋経済新報社 1989  
Dornbusch, Rudiger, *Open Economy Macroeconomics*, Basic Books, 1980  
Canzoneri, M. and D. Henderson, *Monetary Policy in Interdependent Economies*, MIT Press, 1991  
Giavazzi, F. and A. Giovannini, *Limiting Exchange Rate Flexibility, The European Monetary System*, MIT Press, 1989 他

## 経済地理学

本年度休講

## 都市経済論

教授 瀬古 美喜

授業形態：春学期 2 単位・講義および演習

目標・意義・方法：

市場メカニズムが都市においてどのように働いているのかという観点に立って、都市経済学や新経済地理学の基礎的な理論モデルと実証研究について学ぶ。学部修了程度の経済理論と、計量経済学の知識がある方が望ましい。

授業内容：

具体的には、都市空間構造の理論的実証的分析、住宅市場と住宅問題、都市における集積と規模の経済、都市の成長、都市交通などに関する文献を取り上げ、検討する。

テキスト：

具体的な文献については、授業の中で指示する。

リーディング・リスト：

Edwin S. Mills and Bruce W. Hamilton, *Urban*

*Economics*, 5th edition, Scott, Foresman & Co. 1994

Denise DiPasquale and William C. Wheaton, *Urban Economics and Real Estate Markets*, Prentice Hall, 1996 (瀬古美喜・黒田達朗訳『都市と不動産の経済学』創文社, 2001年)

J. V. Henderson, *Economic Theory and the Cities*, 2nd edition, Academic Press, 1985

Peter Nijkamp and Edwin S. Mills, eds., *Handbook of Regional and Urban Economics*, Vol.1: *Regional Economics*, Vol.2: *Urban Economics*, Vol.3: *Applied Urban Economics*, North-Holland and Elsevier Science Publisher

M. Fujita, P. Krugman and A. J. Venables, *The Spatial Economy*, MIT Press, 1999 (小出訳『空間経済学』東洋経済新報社)

M.Fujita and J-F Thisse, *Economics of Agglomeration*, Cambridge University Press, 2002

日本住宅総合センター『季刊・住宅土地経済』(各版)

中村良平・田渕隆俊『都市と地域の経済学』日本評論社, 1996

瀬古美喜『土地と住宅の経済分析—日本の住宅市場の計量経済学的分析』創文社, 1998

金本良嗣『都市経済学』東洋経済新報社, 1997

---

## 都市経済論

---

教授 瀬古美喜

授業形態：秋学期2単位・講義および演習

目標・意義・方法：

市場メカニズムが都市においてどのように働いているのかという観点に立って、都市経済学や新経済地理学の基礎的な理論モデルと実証研究について学ぶ。学部修了程度の経済理論と、計量経済学の知識がある方が望ましい。

授業内容：

具体的には、都市空間構造の理論的実証的分析、住宅市場と住宅問題、都市における集積と規模の経済、都市の成長、都市交通などに関する文献を取り上げ、検討する。

テキスト：

具体的な文献については、授業の中で指示する。

リーディング・リスト：

Edwin S. Mills and Bruce W. Hamilton, *Urban Economics*, 5th edition, Scott, Foresman & Co., 1994

Denise DiPasquale and William C. Wheaton, *Urban Economics and Real Estate Markets*, Prentice Hall, 1996 (瀬古美喜・黒田達朗訳『都市と不動産の経済学』創文社, 2001年)

J. V. Henderson, *Economic Theory and the Cities*, 2nd edition, Academic Press, 1985

Peter Nijkamp and Edwin S. Mills, eds., *Handbook of Regional and Urban Economics*, Vol.1: *Regional Economics*, Vol.2: *Urban Economics*, Vol.3: *Applied Urban Economics*, North-Holland and Elsevier Science Publisher

M. Fujita, P. Krugman and A. J. Venables, *The Spatial Economy*, MIT Press, 1999 (小出訳『空間経済学』, 東洋経済新報社)

M. Fujita and J-F Thisse, *Economics of Agglomeration*, Cambridge University Press, 2002

日本住宅総合センター『季刊・住宅土地経済』(各版)  
中村良平・田渕隆俊『都市と地域の経済学』日本評論社, 1996

瀬古美喜『土地と住宅の経済分析—日本の住宅市場の計量経済学的分析』創文社, 1998

金本良嗣『都市経済学』東洋経済新報社, 1997

---

## 環境経済論

---

教授 細田 衛士

教授 大沼 あゆみ

授業形態：春学期2単位・合同講義

目標・意義・方法：

本授業では、環境経済学の理論的基礎を講義する。環境経済学の理論としては、伝統的な新古典派のアプローチや新制度学のアプローチなど多様な分析手法がある。ここでは、環境経済学のテキストで既に定着しつつあるものを中心に講義を進める。

授業内容：

講義の流れは以下の通りである。尚、取り上げる内容には若干の変更もあり得る。

第1章 環境経済学の流れ

第2章 公共財としての環境

第3章 環境問題と所有権：制度学派的アプローチ

第4章 オープンアクセスと再生可能資源

第5章 再生不可能資源

第6章 課税政策

第7章 排出権売買制度

第8章 デポジット制度

第9章 コースの定理

- 第10章 廃棄物とリサイクル
- 第11章 汚染者支払い原則
- 第12章 開発と環境保全

社会史（ラテンアメリカ社会史とオーラルヒストリーの方法） (1) 木曜日 1 時限 (2) 木曜日 2 時限

教授 清水 透

授業形態：春学期 2 単位・講義 [木曜日 1・2 時限いずれも履修しなければなりません。]

目標・意義・方法：

2 コマ連続の集中講義のため、1 コマ目をテキストの輪読・報告と講義にあて、2 コマ目を参加者の修論の準備報告と指導にあてる。

授業内容：

ここ 20 年来、担当者が実施してきたメキシコの原住民村落でのフィールドワークの体験と、それを基礎とする歴史研究を踏まえつつ、以下の 3 点を中心に議論・検討する。

- ① 歴史学の方法：文献史学とオーラルヒストリー
- ② 研究者と研究対象との関係性：知的営みとしての歴史研究と日常
- ③ 個と普遍の問題：個と大状況、日常と非日常  
成績評価方法は平常点とする。

リーディング・リスト：

適宜紹介する。

社会史

教授 松村 高夫  
教授 矢野 久

授業形態：春学期 2 単位・合同講義

授業内容：

社会史は、「下からの歴史」を「上からの歴史」との関連において描くために、「総合の学」＝関連諸ディシプリンの援用をもってその方法的特長としている。講義とそれに続く討論を通じて、新しい論点の提起、方法的枠組の再構築を試行したい。読むべき文献は、そのテーマ毎に指示する。

成績評価方法は平常点（出席状況および授業態度による評価）とする。

社会史

教授 松村 高夫  
教授 矢野 久

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

授業内容：

春学期参照

人口論

教授 津谷 典子

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目的・意義・方法：

本科目の目的は、わが国の少子高齢化について、近年の人口学および経済学における理論的および計量分析的展開を理解し、それを学生諸君の今後実証的分析に基づく研究に応用するための学習をすることにある。ここでは特に、人口高齢化や出生率低下などの人口変動に関する形式人口学的研究と、ライフコース分析（Life course analysis）を中心とした多変量解析モデルを用いた研究に関する内外の文献を講読し、その理論的（theoretical）かつ技術的（technical）意味を多面的に検討する。

近年、多変量解析のためのマイクロ・データの入手が以前に比べ容易になり、またライフコース分析を応用することのできるパネル調査および出産歴、就業歴、結婚歴などのライフ・ヒストリーに関する大規模調査データも収集されている。これら調査データを使っての学生諸君自身の研究への応用についても適宜アドバイスする。春学期に「社会科学分析演習（Ⅰ）、（Ⅱ）」を受講した学生諸君の受講を歓迎する。

授業内容：

本科目では、担当者があらかじめ選定した論文のリーディング・リストに従い、毎週学生諸君が論文の内容について報告を行う。その後、担当者および学生報告者への質疑応答、そしてクラス全体での討論を行い、最後に担当者が論文テーマおよび内容についてのまとめとして短い講義を行う。学期の終わりには、担当者が指示するテーマについてレポートを課すが、もし自分自身のテーマでレポートを書きたい場合は、それも可能である。

さらに、学生諸君が現在行っている（もしくは行うためのプロポーザルを作成中である）研究論文についての報告も、時間的余裕とニーズがあれば実施する。担当者および他の学生諸君からの質問とコメントをもらい、クラス討論を行う。これによって、学会での報告および論文執筆の準備とすることが望まれる。

リーディング・リスト：

学期の最初に配布する。

## 演習科目

### ミクロ経済学演習

教授 長 名 寛 明

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

文献講読

授業内容：

機構設計 (mechanism design) の問題に関する文献を中心に幾つかの基本的文献を展望した上で、学生の関心を考慮して関連文献を講読する。

テキスト：

特に指定しない。

リーディング・リスト：

適宜指示する。

### ミクロ経済学演習

教授 長 名 寛 明

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

文献講読

授業内容：

春学期に引き続き、機構設計 (mechanism design) の問題に関する文献を講読する。

テキスト：

特に指定しない。

リーディング・リスト：

適宜指示する。

### ミクロ経済学演習

教授 川 又 邦 雄

教授 長 名 寛 明

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

—不確実性と情報—

履修のためには、ミクロ経済学中級の基礎知識を前提とする。情報の非対称性、シグナリング、依頼人 (プリンシパル) と使用人 (エイジェント) の問題等について研究し、論文指導を行う。

—社会的選択理論上—

社会的選択理論を中心とする領域の研究指導を行う。集団的意思決定機構の望ましい性質を、結果の効率性、機構の運営に必要な情報伝達量、参加者の行動

誘因との両立性、民主主義の要請等の側面から把握し、市場機構や企業組織等の性質を吟味する。研究領域としては、実行 (implementation) 理論、本人・代理人問題等も含む。

リーディング・リスト：

- (1) Matthew O. Jackson and Sanjay Srivastava, *A Characterization of Game-Theoretic Solutions Which Lead to Impossibility Theorems*, Review of Economic Studies, Vol.63, (1996), 23-38
- (2) F. Vega-Redondo, *Evolution in Games: Theory and Economic Applications*, Oxford University Press, 1995
- (3) J. Hofbauer and J. W. Weibull, *Evolutionary Selection against Dominated Strategies*, Journal of Economic Theory, Vol.71, 1996, 558-573

### ミクロ経済学演習

教授 川 又 邦 雄

教授 長 名 寛 明

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法

—厚生経済学—

履修のためには、ミクロ経済学中級及び厚生経済学の基礎理論の知識を前提とする。資源配分の効率性の条件、非効率の尺度、分配の公正、市場の失敗、最適課税論等について研究し、論文指導を行う。

—社会的選択理論下—

春学期に開講される「ミクロ経済学演習」(社会的選択理論上) と同じ領域について、秋学期にも引き続いて研究指導を行う。

### ミクロ経済学演習

助教授 白 井 義 昌

助教授 玉 田 康 成

助教授 津 曲 正 俊

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

経済主体が意思決定を行う際に用いる情報そしてその行動誘引の問題を明示的に取り扱う経済諸モデルの文献を講読する。論文をいかに読み込むか、そして経済問題をどのように組み立て分析するのかということ習得すること、さらに修士論文作成のための問題意識醸成を演習の目的とする。

授業内容：

扱うトピックスとしては契約および組織の基礎理

論，その応用としての産業組織論，労働市場金融市場分析，政治経済分析などである。

**ミクロ経済学演習**

助教授 白井義昌  
助教授 津曲正俊

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

経済主体が意思決定を行う際に用いる情報そしてその行動誘引の問題を明示的に取り扱う経済諸モデルの文献を講読する。論文をいかに読み込むか，そして経済問題をどのように組み立て分析するのかということを知得すること，さらに修士論文作成のための問題意識醸成を演習の目的とする。

授業内容：

扱うトピックスとしては契約および組織の基礎理論，その応用としての産業組織論，労働市場金融市場分析，政治経済分析などである。

**ミクロ経済学演習**

教授 中村慎助

授業形態：春学期 2 単位・演習

授業内容：

ミクロ経済学ならびにゲームの理論に関する基本的な文献の講読及び各自の論文報告を行う。詳細は開講時に指定する。

**ミクロ経済学演習**

教授 中村慎助

授業形態：秋学期 2 単位・演習

授業内容：

ミクロ経済学ならびにゲームの理論に関する基本的な文献の講読及び各自の論文報告を行う。詳細は開講時に指定する。

**マクロ経済学演習**

教授 塩澤修平  
名誉教授 大山道廣

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

文献講読と論文指導

授業内容：

家計の貯蓄行動，企業の投資行動，さらには企業の生産技術や労働，土地等の本源的生産要素の賦存量およびその効率が所与とされるような静態経済のマクロ

均衡モデルを分析対象とする文献を展望し，学生の関心を考慮して幾つかの重要なトピックスを選び，関連文献を講読するとともに修士論文の作成を指導する。

テキスト：

特に指定しない。

リーディング・リスト：

適宜指示する。

**マクロ経済学演習**

教授 塩澤修平  
名誉教授 大山道廣

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

文献講読と論文指導

授業内容：

企業の生産技術や労働，資本等の本源的生産要素の賦存量およびその効率が時間を通じて変化するような動態経済のマクロ均衡モデルを分析対象とする文献を展望し，学生の関心を考慮して幾つかの重要なトピックスを選び，関連文献を講読するとともに修士論文の作成を指導する。

テキスト：

特に指定しない。

リーディング・リスト：

適宜指示する。

**マクロ経済学演習**

教授 前多康男  
講師 酒井良清

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

マクロ経済学に関する内外の論文を読み進むことにより，マクロ経済学で用いられているさまざまなフレームワークを理解することを目的とする。今年度は，経済の金融の側面をテーマとする。そのために，金融のミクロ経済学的な論文も，輪読の対象とする。秋学期開講の前多康男・酒井良清担当「マクロ経済学演習」と同時に履修することが望ましい。

成績は平常点により決定する。

テキスト：

使用しない。

リーディング・リスト：

授業中に適宜配付する。

---

## マクロ経済学演習

---

教授 前多康男  
講師 酒井良清

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

マクロ経済学に関する内外の論文を読み進むことにより、マクロ経済学で用いられているさまざまなフレームワークを理解することを目的とする。今年度は、経済の金融の側面をテーマとする。そのために、金融のミクロ経済学的な論文も、輪読の対象とする。春学期開講の前多康男・酒井良清担当「マクロ経済学演習」と同時に履修することが望ましい。

成績は平常点により決定する。

テキスト：

使用しない。

リーディング・リスト：

授業中に適宜配付する。

---

## 数理経済学演習（Ⅰ）

---

教授 丸山 徹  
教授 須田 伸一  
商学部教授 小宮 英敏

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

参加者による数理経済学上の新しい研究結果の報告ならびにそれをめぐる討論。塾内だけでなく塾外からも、経済学・数学両分野の専門家に参加を求め、研究の向上と視野の拡大に資したいと願っている。

授業内容：

とりわけ経済分析を支える解析学的方法を中心とするが、今年度の重点的テーマは次のとおりである。

- (Ⅰ) 非線形動学と景気変動
- (Ⅱ) 確率解析と金融資産価格の変動
- (Ⅲ) 凸解析と変分法（多価作用素の解析を含む）
- (Ⅳ) 均衡分析の基本問題

「数理経済学演習（Ⅱ）」と併せて履修することが望ましい。

---

## 数理経済学演習（Ⅱ）

---

教授 丸山 徹  
教授 中村 慎助  
商学部教授 小宮 英敏

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

参加者による数理経済学上の新しい研究結果の報告

ならびにそれをめぐる討論。塾内だけでなく塾外からも、経済学・数学両分野の専門家に参加を求め、研究の向上と視野の拡大に資したいと願っている。

授業内容：

とりわけ経済分析を支える解析学的方法を中心とするが、今年度の重点的テーマは次のとおりである。

- (Ⅰ) 非線形動学と景気変動
- (Ⅱ) 確率解析と金融資産価格の変動
- (Ⅲ) 凸解析と変分法（多価作用素の解析を含む。）
- (Ⅳ) 均衡分析の基本問題

「数理経済学演習（Ⅰ）」と併せて履修することが望ましい。

---

## 経済数学演習

---

教授 須田 伸一

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

昨年度に引き続き、Guillemin and Pollack, *Differential Topology*, Prentice Hall, 1974（邦訳：ギルマン=ポラック『微分位相幾何学』現代数学社, 1998 年）をレポーター形式で輪読する。本書は微分位相幾何学の教科書であり、サルドの定理、横断性定理、指数定理など、近年の均衡理論でしばしば利用される数学的内容を含んでいる。時間が許せば、それらの定理が均衡理論の中でどのように利用されるかについても見ていきたい。

---

## 経済数学演習

---

教授 須田 伸一

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

春学期の続き。Guillemin and Pollack, *Differential Topology*, Prentice Hall, 1974（邦訳：ギルマン=ポラック『微分位相幾何学』現代数学社, 1998 年）をレポーター形式で輪読する。本書は微分位相幾何学の教科書であり、サルドの定理、横断性定理、指数定理など、近年の均衡理論でしばしば利用される数学的内容を含んでいる。時間が許せば、それらの定理が均衡理論の中でどのように利用されるかについても見ていきたい。

---

## 計量経済学演習

---

助教授 田中 辰雄  
兼担教授 清水 雅彦

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

### 目標・意義・方法：

本講義の目的は2つある。(1)GAUSS を使って計量経済学の基礎を学ぶこと、(2)情報通信産業に関する実証分析のペーパーを読み、自分の論文のテーマを見つけること、の2点である。順に説明する。

(1) ガウス(GAUSS)は行列演算が得意なソフトウェアであり、計量分析の推定プログラムが効率よく組める。たとえば、最小2乗法の推定値は  $b=(X'X)^{-1}X'y$  であるが、ガウスではこのままこの式をプログラム中に書けば良い。理論式がそのままプログラム中に現われるので、理論との対応関係が明瞭であり、理解に役立つ。コマンド一つで統計量をやまほど計算してくれる統計ソフトウェアと異なり、自分で理論内容を理解しないと利用できないが、その代り、推定の中身を自分で確認できるうえに、必要に応じて自分で推定方法を工夫できる利点がある。演習参加にあたっては、コンピュータプログラムの知識は必須ではないがあった方が便利であろう。少なくとも厭わない覚悟は必要である。ただし、演習で行うのは入門から入って基本的なプログラムまでであり高度なことは行わない。それ以上の内容は学生の自習に期待する。

(2) 情報通信産業は近年、もっとも成長が著しく、また産業構造に大きな影響を与えている産業である。90年代の日米逆転の一因もこの産業での成功・失敗にある。また理論的にもネットワーク外部性や収穫増、スイッチングコスト、ベンチャー型産業構造、コンテンツ産業での知的財産権訴訟など特徴的な現象が多く観察されており興味はつきない。しかし、経済学の間から見ると、どちらかといえば理論研究が先行し、実証研究は遅れている。たとえばマイクロソフト裁判はそれが端的に現われた例であり、訴訟にまでなっているにもかかわらず、結局有力な実証分析は経済学者から出されなかった。実証研究は不可能ではなく、努力さえすればテーマは多数見つけられる。そして、現象が新しいために若い院生諸君に比較優位がある。インターネット上で起こっている現象の実証などは、一定年齢上の人にはそもそもアイデアの点で難しいだろう。本講義ではいくつかの実証分析のペーパーを読みながら、学生諸君の論文のテーマを探していく。

ここで、(1)と(2)の関係は未定である。やり方としては一つの学期ではどちらかに特化して行い1年交代にする方法と、少々密度を下げた両方とも同時にやる方法がある。この点は演習参加者と相談して決めたい。なお、GAUSS プログラムのライセンスの関係上

(恐らくは関係ないと思われるが)履修数には上限がある。

---

### 計量経済学演習

---

教授 辻村和佑  
兼担教授 清水雅彦

授業形態：春学期2単位・合同演習

### 目標・意義・方法：

この演習では、経済発展過程における経済構造の変化、とりわけ生産構造（産業部門間の技術的相互依存関係）の変化に関する比較静学分析の基礎的手法である産業連関分析の応用問題を取りあげる。伝統的な一國産業連関表に基づく分析手法に対して、最近では、さまざまな拡充がなされている。その一つは、国際取引すなわち交易関係をもつ国々の産業連関表を、各国間財別輸出・入統計によって連結した国際産業連関表に基づく分析手法である。この手法によれば、従来の集計された輸出および輸入概念による国際経済関係に対して、各国産業構造の相互依存関係を計量的に分析することが可能である。また、発展段階の異なる国々の間における貿易パターンを、伝統的な要素賦存による分析だけでなく、各国産業構造の技術特性によって分析することも可能である。さらに、異時点の国際産業連関表に基づけば、各国の産業構造変化と相互依存関係の変化を分析することもできる。なかでも注目すべきは、産業技術の国際間移転がもたらす国際相互依存関係の変化に関する分析である。いまなお未開拓の分析領域であるが、今後、国際産業連関モデルの拡充によって開拓可能な領域である。この演習の履修者としては、およそ以上のような問題あるいは関連する領域に研究上の関心をもつ人が望ましい。

なお、履修希望者は、学部設置の「計量経済学」、研究科設置の「計量経済学中級」もしくは「応用計量経済学」を履修しておくことが望ましい。演習の形式としては、上記の応用問題に関連する領域を自らの研究テーマとする履修者の報告とそれに対する討論を中心とするが、随時、関連論文の講読と講義も行う。

---

### 計量経済学演習

---

教授 辻村和佑  
兼担教授 清水雅彦

授業形態：秋学期2単位・合同演習

### 目標・意義・方法：

この演習では、経済発展過程における経済構造の変化、とりわけ生産構造（産業部門間の技術的相互依存

関係)の変化に関する比較静学分析の基礎的手法である産業連関分析の応用問題を取りあげる。伝統的な一  
国産業連関表に基づく分析手法に対して、最近では、  
さまざまな拡充がなされている。その一つは、国際取  
引すなわち交易関係をもつ国々の産業連関表を、各国  
間財別輸出・入統計によって連結した国際産業連関表  
に基づく分析手法である。この手法によれば、従来の  
集計された輸出および輸入概念による国際経済関係に  
対して、各国産業構造の相互依存関係を計量的に分析  
することが可能である。また、発展段階の異なる国々  
の間における貿易パターンを、伝統的な要素賦存によ  
る分析だけでなく、各国産業構造の技術特性によっ  
て分析することも可能である。さらに、異時点の国際産  
業連関表に基づけば、各国の産業構造変化と相互依存  
関係の変化を分析することもできる。なかでも注目す  
べきは、産業技術の国際間移転がもたらす国際相互依  
存関係の変化に関する分析である。いまなお未開拓の  
分析領域であるが、今後、国際産業連関モデルの拡充  
によって開拓可能な領域である。この演習の履修者と  
しては、およそ以上のような問題あるいは関連する領  
域に研究上の関心をもつ人が望ましい。

なお、履修希望者は、学部設置の「計量経済学」、  
研究科設置の「計量経済学中級」もしくは「応用計量  
経済学」を履修しておくことが望ましい。演習の形式  
としては、上記の応用問題に関連する領域を自らの研  
究テーマとする履修者の報告とそれに対する討論を中  
心とするが、随時、関連論文の講読と講義も行う。

---

### 計量経済学演習

教授 マッケンジー, コリン

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

修士論文作成の指導・研究を行うこと、応用エコノ  
メトリックスの知識を深めること、質の高い実証研究  
ができることや他人の実証分析を建設的に批判するこ  
とを目的とする。

授業内容：

各学生が興味を持っている分野に関する文献を紹介  
し、その文献又は自分の論文について順番に報告して  
もらい、論文指導を行う。それ以外に、プロビット・  
ロジット・トービット等モデル、単位根・共和分分  
析、パネル・データ分析や非入れ子型検定という計量  
経済学の基礎となる推定・検定方法についての理論・  
実証論文を輪読する。

テキスト：

Wooldidge, J. M., *Econometric Analysis of Cross  
Section and Panel Data*, 2002

リーディング・リスト：

開講時に配布する。

---

### 計量経済学演習

教授 マッケンジー, コリン

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

春学期に続き、修士論文作成の指導・研究を行うこ  
と、応用エコノメトリックスの知識を深めること、質  
の高い実証研究ができることや他人の実証分析を建設  
的に批判することを目的とする。

授業内容：

各学生が興味を持っている分野に関する文献を紹介  
し、その文献又は自分の論文について順番に報告して  
もらい、論文指導を行う。それ以外に、プロビット・  
ロジット・トービット等モデル、単位根・共和分分  
析、パネル・データ分析や非入れ子型検定という計量  
経済学の基礎となる推定・検定方法についての理論・  
実証論文を輪読する。

テキスト：

Wooldidge, J. M., *Econometric Analysis of Cross  
Section and Panel Data*, 2002

リーディング・リスト：

開講時に配布する。

---

### 計量経済学演習

教授 蓑谷 千風彦

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

計量経済学の基礎的知識を復習した後で、金融デー  
タの統計分析とファイナンスの基礎となる数学へと進  
みたい。TSP を用いる。

授業内容：

1. 基礎的知識の復習
2. 正規性の検定
3. ランダム・ウォークとその検定
4. ランダム・ウォークからブラウン運動へ
5. ARIMA モデル
6. 伊藤積分
7. ブラック・ショールズモデル

テキスト：

1. 蓑谷千風彦『金融データの統計分析』東洋経済新  
報社

2. 蓑谷千鳳彦『よくわかるブラック・ショールズモデル』東洋経済新報社

リーディング・リスト：

開講時に紹介する。

---

計量経済学演習

教授 蓑谷 千鳳彦

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法 他：

春学期参照

---

経済学史演習

教授 池田 幸弘

名誉教授 飯田 裕康

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

アダム・スミスの『国富論』を輪読する。スミス『国富論』の重要性についてはいまさら述べる必要がないほどである。経済学の始点となった著作であるばかりでなく、社会思想史上の古典でもある。また、現代の政策的な議論にあたって常参照されるべき著作だといっても過言ではない。今年度は、新しく出た杉山忠平訳を使いながら輪読をすすめていく。既存の邦訳との比較対照それ自体も試みてみたい。参加希望者は、水田洋監訳、杉山忠平訳『国富論(1)-(4)』岩波文庫を準備されたい。ときおり、参加者自身の研究テーマについて報告を求めることがある。

---

経済学史演習

教授 池田 幸弘

名誉教授 飯田 裕康

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

春学期の続き。詳細については春学期の講義要綱を見られたい。

---

経済学史演習

教授 池田 幸弘

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

近年、研究文献の増加が著しいフリードリッヒ・ハイエクの著作を輪読する。かつて、この思想家の著作は主として新自由主義的な視角から扱われてきたが、現在ではさまざまな角度から自由に議論されるようになってきている。まずは、ハイエクのテキストに内在

して、厳格な読解を訓練することからはじめたい。参加者の積極的な討論に期待する。なお、初回にテキストの選択を含めて相談するので、参加希望者は必ず出席されたい。

授業内容：

輪読形式。もちろん、適宜担当者が解説を加える。

テキスト：

次のうちどちらかを選択したい。参加者の希望、関心も考慮した上、決定する。

Friedrich Hayek, *The Road to Serfdom*, Routledge and Kegan Paul, London, 1944

Ditto, *Constitution of Liberty*, Routledge and Kegan Paul, London, 1960

リーディング・リスト：

毎回の授業の際に指示する。

---

社会思想演習

教授 坂本 達哉

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

この授業の目標は、社会思想史研究の基本的方法を、文献解読、資料収集、論文執筆などの観点から身につけさせることである。授業は、履修者による研究発表を基本とするが、必要に応じて、最新の学術論文などを取り上げ、検討する。

---

社会思想演習

教授 高草木 光一

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

サン・シモンの思想を中心にして、18 世紀思想から 19 世紀思想への転換を考察する。

授業内容：

サン・シモン『産業省の教理問答』をテキストにして輪読を行なう。参加者はリポーターの義務を負う。リポーターは、テキスト中の割り当てられた箇所の要約をつかった上で、参考文献を調べて問題点を整理する。

テキスト：

サン・シモン（森博訳）『産業省の教理問答』岩波文庫

リーディング・リスト：

デュルケム（森博訳）『社会主義およびサン・シモン』恒星社厚生閣

マニュエル（森博訳）『サン・シモンの新世界』（上・

下) 恒星社厚生閣

シャルレティ (沢崎・小杉訳) 『サン=シモン主義の歴史』法政大学出版局

---

### 経済思想演習 (日本社会経済思想史演習)

---

教授 小室 正 紀

授業形態: 春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法:

履修者に、何らかの意味で日本の経済思想を視野に置いた研究発表を求めながら、論文作成指導を行う。なお、小室担当の「経済思想 (日本社会経済思想史)」とあわせて履修することが望ましい。

---

### 経済史演習

---

教授 杉 山 伸 也

教授 古 田 和 子

教授 柳 沢 遊

授業形態: 春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法:

経済史を専攻する院生を主な対象とする共同セミナーである。春学期は、個別の研究発表と討論を行なう。必要に応じて『社会経済史学の課題と展望』(有斐閣, 2002 年) も参考にする。

成績は、授業での研究報告や討論への参加等を考慮して総合的に評価する。

---

### 経済史演習【経商連携 COE 科目】

---

教授 杉 山 伸 也

教授 古 田 和 子

教授 柳 沢 遊

商学部助教授 牛 島 利 明

授業形態: 秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法:

経商連携 COE プログラム「市場の質に関する理論形成とパネル実証分析」の歴史分析班による共同セミナーである。今年度は、テーマとして戦前・戦後における日本およびアジア諸地域の石炭産業に焦点をあて、基本的な研究文献を体系的にとりあげて報告と討論を行なう。

成績評価は、授業での報告や討論への参加などを考慮に入れて、総合的に判断する。

---

### 古文書演習

---

教授 友 部 謙 一

授業形態: 春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法:

本演習は、経済学研究科の設置科目であることを考慮して、古文書(とくに本演習では、近世以降を扱う)とは何であり、それらがどのようにどこに保存され、そしてそれらを利用する者がどのようにアプローチするのかというきわめて基本的なことから始まって、つぎに、古文書の読解を行い、そして、それを加工してデータに仕上げ、実際の社会経済史研究に利用するという、〈分析のための古文書利用〉に必要なプロセスをできるかぎり、実体験を通じて、確認することを目的としたい。したがって、日本経済史にかぎらず興味をもつ幅広い分野からの院生諸君に加わっていただきたい。最後に、実際の分析結果を各自で報告することにしたい。

授業内容:

以下の要領にて進めることにしたい。

1. 分析アジェンダの設定/必要史料の確定/基本的読解訓練
2. 史料所在の探索と確認  
(ライブラリーワークも含める)
3. 所蔵地訪問/史料の確認/史料の複写・筆写・撮影  
(一連の最低限のマナーを確認する。その際 historian としての必要な skill を身につける)
4. 史料の解読/読み合わせ(ねばり強く、地道な作業です)
5. データの作成と利用  
(分析アジェンダならびに仮説とのすりあわせ/machine readable data の作成も視野において)
6. 分析
7. 報告レポートの作成

テキスト:

「古文書解読辞典」(何でもよいので、1冊用意すること)

---

### 古文書演習

---

教授 友 部 謙 一

授業形態: 秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法:

本演習は、経済学研究科の設置科目であることを考慮して、古文書(とくに本演習では、近世以降を扱う)とは何であり、それらがどのようにどこに保存され、そしてそれらを利用する者がどのようにアプローチするのかというきわめて基本的なことから始まって、つぎに、古文書の読解を行い、そして、それを加工してデータに仕上げ、実際の社会経済史研究に利用

するという、〈分析のための古文書利用〉に必要なプロセスをできるかぎり、実体験を通じて、確認することを目的としたい。したがって、日本経済史にかぎらず興味をもつ幅広い分野からの院生諸君に加わっていただきたい。最後に、実際の分析結果を各自で報告することにしたい。

**授業内容：**

以下の要領にて進めることにしたい。

1. 分析アジェンダの設定／必要史料の確定／基本的読解訓練
2. 史料所在の探索と確認  
(ライブラリーワークも含める)
3. 所蔵地訪問／史料の確認／史料の複写・筆写・撮影  
(一連の最低限のマナーを確認する。その際 historian としての必要な skill を身につける)
4. 史料の解説／読み合わせ (ねばり強く、地道な作業です)
5. データの作成と利用  
(分析アジェンダならびに仮説とのすりあわせ／machine readable data の作成も視野において)
6. 分析
7. 報告レポートの作成

**テキスト：**

「古文書解読辞典」(何でもよいので、1冊用意すること)

---

**産業論演習**

教授 寺 出 道 雄

授業形態：春学期 2 単位・演習

**目標・意義・方法：**

この演習では、参加者の論文の作成にむけての報告を求めることの他、大きくは担当者が研究科における講義で取り上げる話題と関連した文献の講読を行う。  
すなわち、環境と農業(林業・水産業を含む)の係わりについての問題と、資本主義の発展と農業の変化に係わる問題についての文献である。第1回目の授業で、いくつかの候補をあげて、受講者の関心にも応じてその後に輪読する文献を決定する。

---

**産業論演習**

教授 寺 出 道 雄

授業形態：秋学期 2 単位・演習

**目標・意義・方法：**

この演習では、参加者の論文の作成にむけての報告を求めることの他、大きくは担当者が研究科における

講義で取り上げる話題と関連した文献の講読を行う。

すなわち、環境と農業(林業・水産業を含む)の係わりについての問題と、資本主義の発展と農業の変化に係わる問題についての文献である。第1回目の授業で、いくつかの候補をあげて、受講者の関心にも応じてその後に輪読する文献を決定する。

---

**産業論演習**

教授 渡 辺 幸 男  
教授 北 村 洋 基

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

**目標・意義・方法：**

—現代資本主義と産業—

本演習では、現代資本主義論と産業論との接合に留意しながら、主要には日本を対象として、現代資本主義の現段階把握、そして諸産業・産業構造の急速な変化と現段階把握をめざす。

春学期は主に現代産業経済の全体構造を検討する。

---

**産業論演習**

教授 渡 辺 幸 男  
教授 北 村 洋 基

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

**目標・意義・方法：**

—現代資本主義と産業—

本演習では、現代資本主義論と産業論との接合に留意しながら、主要には日本を対象として、現代資本主義の現段階把握、そして諸産業・産業構造の急速な変化と現段階把握をめざす。

秋学期は主に現代産業経済の分業構造を検討する。

---

**産業組織論演習**

教授 中 澤 敏 明  
助教授 河 井 啓 希

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

**目標・意義・方法：**

学生が修士論文のテーマを模索し、プレゼンテーションの練習をする場を提供している。

産業組織論の領域を主たる対象として、この分野で行われてきた優れた研究論文を担当者・履修学生が選択し、学生が当該論文を解説する中で、研究系譜、研究者の着眼点・論理展開・データ所在・計量的手法などを学ぶ。個々の学生は、1 学期を通じて、ほぼテーマを決め、当該テーマの論文として優れていると定評のあるもの、それに準ずるもの、顕著に新規性のある

ものなどを選ぶ。輪番で行う。修士 2 年生については、修士論文作成のプロセスに合わせ仮説提示・関係論文解説・中間発表・完成論文発表を行うことを、選択できる。

**授業内容：**

産業組織論および計量経済学の学部レベルの知識をそなえていることがのぞましい。

**テキスト：**

テーマは、産業組織論の領域にかかわるものであれば基本的に自由である。しかし、他の履修者も予習する必要があるために、担当者が選択についてチェックする。可能なテーマを例示すると、

1. SCP Approach and New Empirical IO
2. Supply and Demand
3. Monopoly and Contestable Market
4. Cartel and Collusion
5. Product Differentiation
6. Market Power
7. Entry Dynamics
8. Price Discrimination
9. Innovation and R&D
10. Standards and Network Externality
11. Firm Structure and Incentives
12. Vertical Integration
13. Information and Advertising
14. Price Rigidity and Macro Economics
15. Optimal Regulation

昨年、選択された論文を、キーワードで例示すれば、Hedonic Price, Moral Hazard, Contract Duration, Advertisement, Market Power, Subcontracting, Executive Compensation, Merger, Technological Progress, Transaction Cost 等である。

---

**産業組織論演習**

教授 中澤敏明  
助教授 河井啓希

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

学生が修士論文のテーマを模索し、プレゼンテーションの練習をする場を提供している。

産業組織論の領域を主たる対象として、この分野で行われてきた優れた研究論文を担当者・履修学生が選択し、学生が当該論文を解説する中で、研究系譜、研究者の着眼点・論理展開・データ所在・計量的手法などを学ぶ。個々の学生は、1 学期を通じて、ほぼテ

マを決め、当該テーマの論文として優れていると定評のあるもの、それに準ずるもの、顕著に新規性のあるものなどを選ぶ。輪番で行う。修士 2 年生については、修士論文作成のプロセスに合わせ仮説提示・関係論文解説・中間発表・完成論文発表を行うことを、選択できる。

**授業内容：**

産業組織論および計量経済学の学部レベルの知識をそなえていることがのぞましい。

**テキスト：**

テーマは、産業組織論の領域にかかわるものであれば基本的に自由である。しかし、他の履修者も予習する必要があるために、担当者が選択についてチェックする。可能なテーマを例示すると、

1. SCP Approach and New Empirical IO
2. Supply and Demand
3. Monopoly and Contestable Market
4. Cartel and Collusion
5. Product Differentiation
6. Market Power
7. Entry Dynamics
8. Price Discrimination
9. Innovation and R&D
10. Standards and Network Externality
11. Firm Structure and Incentives
12. Vertical Integration
13. Information and Advertising
14. Price Rigidity and Macro Economics
15. Optimal Regulation

昨年、選択された論文を、キーワードで例示すれば、Hedonic Price, Moral Hazard, Contract Duration, Advertisement, Market Power, Subcontracting, Executive Compensation, Merger, Technological Progress, Transaction Cost 等である。

---

**労働経済論演習**

教授 島田晴雄

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

労働経済を中心とした研究テーマにつき、演習参加者の研究発表ならびに各自の研究の発展を促進するための指導と助言を行う。指導や助言は、演習における発表時のみでなく、eメール等を通じて適時、必要に応じて、密接に行う。

**労働経済論演習**

教授 島田 晴 雄

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

労働経済を中心とした研究テーマにつき、演習参加者の研究発表ならびに各自の研究の発展を促進するための指導と助言を行う。指導や助言は、演習における発表時のみでなく、eメール等を通じて適時、必要に応じて、密接に行う。

**社会政策論演習**

本年度休講

**経済政策論演習**

教授 大村 達 弥

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

担当者が担当する「経済政策論」の講義内容と関連したテーマを選択し、受講者の事情を考慮しつつ運営も一体で進める。ねらいは経済システムや産業構造の動きを踏まえ、法・政治システムとの関わりも含め学際的視点から現代の経済問題の検討を進めることにある。

授業内容：

今年度の具体的内容としては、情報通信および関連産業における規制緩和とネットワークの発展が産業構造の変化を促している点に着目して、関連する経済規制改革、ネットワーク外部性、電子取引の理論的・実際の検討等を扱う予定である。なお 2003 年度で用いた文献は下記のとおりであるが、今年度の教材については授業開始の時点で指定する。

テキスト：

De Bijl and Peitz, *Regulation and Entry into Telecommunications Markets*, Cambridge, 2002

**経済政策論演習**

教授 大村 達 弥

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法、テキスト：

春学期参照

**金融論演習**

教授 吉野 直 行

授業形態：春学期 2 単位・演習

授業内容：

毎回、報告者を決め、(1)為替制度のあり方、(2)公共投資と大量国債発行、(3)銀行行動の実証分析、(4)中小企業金融機関の破綻に関する計量分析、(5)公的金融の経済分析などのテーマに従った演習を行う。修士論文や博士論文のテーマに基づいた研究報告を行い、関連文献や計量分析に関するコメントを行う予定。

**金融論演習【経商連携 COE 科目】**

教授 吉野 直 行

授業形態：秋学期 2 単位・演習

授業内容：

幅広く財政・金融政策について、経済学部と商学部の教員が合同で大学院生の指導を行う。産業構造の変化に関する計量分析、日本の金融政策とインフレーション、雇用問題、公共投資の効率性の実証分析、国債市場・日本の債券市場などのテーマについて、報告と質疑応答を行う予定。

テキスト：なし。

リーディング・リスト：なし。

**金融論演習**

教授 吉野 直 行

教授 池尾 和 人

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

修士課程に在籍で、金融に関連する論文を作成している学生、あるいは、金融に興味のある学生による論文発表と、関連論文に関する議論を行う。各学生は、必ず発表することが義務付けられる。修士課程の 1 年生は、興味のある分野の論文紹介、修士課程 2 年生は、修士論文の内容に関する報告で演習を進める。論文報告に対する議論に参加し、幅広い金融の知識を身に付けることが望まれる。

**財政論演習**

教授 山田 太 門

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

我々の経済学はもはや純粋な市場経済を分析することはできない。何らかの市場の失敗を修正する経済政策が施された混合経済しか存在しない。このような経済を公共経済とよび、この演習ではこの公共経済に関連した事象をさまざまな分析手法で検討することによって、分析手法自体の習得を目的とする。

我々の経済はかなりの速度でグローバル化してい

る。それにともなう技術や制度の変化を公共性という観点と、選択行動という経済学的な定式化とによって把えてみようと思っている。我々の経済の変化の本質的特徴と原因が何なのかを探求してゆきたい。

**授業内容：**

参加者は数冊の文献を輪読することによって思索し、討論することによって互いに啓発しあうことが求められ、同時並行的に各自の論文作成をすすめなければならぬ。

---

**財政論演習**

教授 山田 太門

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

春学期参照

---

**公共経済学演習**

教授 瀬古 美喜  
教授 木村 福成  
教授 マッケンジー, コリン  
助教授 赤林 英夫  
助教授 土居 丈朗

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

公共経済学を中心とした理論経済学および応用理論経済学に関する参加者の研究報告ならびに討論を行う。

**授業内容：**

出席者は議論への積極的な参加が望まれる。履修者は、原則として自己の論文かまたは各自の関心分野の代表的な文献の内容を報告するものとする。なお、定期的に学内外の専門家を招いての講演ならびに討論を行うことにより、セミナーの活性化をはかる予定である。

---

**公共経済学演習**

教授 瀬古 美喜  
教授 木村 福成  
教授 マッケンジー, コリン  
教授 若杉 隆平  
助教授 グレーヴァ 香子

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

公共経済学を中心とした理論経済学および応用理論経済学に関する参加者の研究報告ならびに討論を行

う。

**授業内容：**

出席者は議論への積極的な参加が望まれる。履修者は、原則として自己の論文かまたは各自の関心分野の代表的な文献の内容を報告するものとする。

なお、定期的に学内外の専門家を招いての講演ならびに討論を行うことにより、セミナーの活性化をはかる予定である。

---

**日本経済論演習**

教授 池尾 和人

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

一定のテーマを定めて、関連論文を輪読する。過去のテーマとしては、internal capital markets や law and finance, corporate governance などである。今年度のテーマに関しては、受講者と相談して決める。

---

**日本経済論演習**

教授 池尾 和人

授業形態：秋学期 2 単位・演習

授業内容：

春学期と同様に、一定のテーマを定めて、関連論文を輪読する。春学期と秋学期の演習は、それぞれ独立に受講可能である。

---

**国際経済論演習**

名誉教授 大山 道廣

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

文献講読と論文指導

授業内容：

国際貿易論の理論的文献を展望・解説し、最近の重要トピックスをいくつか選んで、関連文献を講読するとともに学生自身による論文作成を指導する。

テキスト：

特に指定しない。

リーディング・リスト：

開講時に配布する。

---

**国際経済論演習**

名誉教授 大山 道廣

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

文献講読と論文指導

**授業内容：**

国際金融論の理論的文献を展望・解説し、最近の重要トピックスについて関連文献を講読する。併せて学生自身による論文作成を指導する。

**テキスト：**

特に指定しない。

**リーディング・リスト：**

開講時に配布する。

**国際経済論演習**

教授 嘉 治 佐保子

授業形態：春学期 2 単位・演習

**目標・意義・方法：**

修士論文作成のための指導・研究を行うことを目的とする。

**授業内容：**

各学生の興味に応じて論文作成の参考となるような文献や自分の論文について、順番に報告してもらう。その報告についてのコメントや討論を通じて論文指導を行う。国際経済の分野でも、発展途上国経済や国際貿易の分野に興味のある学生には、この演習は適していない。国際マクロ経済学（Open macroeconomics）の分野で論文を書くことをめざす学生に適している。

**国際経済論演習**

教授 嘉 治 佐保子

授業形態：秋学期 2 単位・演習

**目標・意義・方法：**

春学期に続き、修士論文の作成のための指導・研究を行うことを目的とする。

**授業内容：**

各学生の興味に応じて論文作成の参考となるような文献や自分の論文について、順番に報告してもらう。その報告についてのコメントや討論を通じて論文指導を行う。国際経済の分野でも、発展途上国経済や国際貿易の分野に興味のある学生には、この演習は適していない。国際マクロ経済学（Open macroeconomics）の分野で論文を書くことをめざす学生に適している。

**国際経済論演習 (1) 水曜日 4 時限 (2) 水曜日 5 時限**

教授 櫻 川 昌 哉

授業形態：秋学期 2 単位・演習

**目標・意義・方法：**

マクロ経済学・金融・国際経済に関する最新のテーマに触れる。最終的には論文を仕上げることを目標と

する。

**授業内容：**

マクロ経済学・金融・国際経済に関する最新の学術論文を輪読する。2 コマ連続で行なうので履修者は注意されたい。金融のミクロ的構造とマクロ経済学の相互作用のメカニズムについて理解を深めることを念頭に置いた内容とする。この分野は理論だけやっても意味がないので実証の論文も適宜読む。

**テキスト：**

Blanchard and Fischer, *Lectures on Macroeconomics*, MIT Press

D. Romer, *Advanced Macroeconomics*, McGraw-Hill  
Freixas and Rochet, *Microeconomics of Banking*, MIT Press

Dewatripont and Tirole, *The Prudential Regulation of Bank*, MIT Press

櫻川昌哉『金融危機の経済分析』東京大学出版社

**リーディング・リスト：**

追って指示する。

**国際経済論演習**

教授 高 梨 和 紘

授業形態：春学期 2 単位・演習

**目標・意義・方法：**

基本的には、修士論文作成のための指導・研究を行うことを目標とする。しかし修士 1 年生に対しては、そのための基礎的学習や分析の方法・方向についての指導に重点をおいていきたい。具体的な方法としては、その中心を履修する学生達の報告とそれをめぐる討論・指導におきたい。ここでは国際経済論と国際政治経済論および経済発展論とアジアを中心とする地域研究に重点をおく。

**授業内容：**

まず履修者それぞれの問題意識や意図する研究テーマ等について、全体的・個別的に指導を行った上で、それに資するリーディング・リストを与え、それに基づいて各自の研究を進めてもらい、隔月 1 回程度研究報告を課し、その報告をめぐって徹底的な討論や追加指導を行う形で演習を進めたい。

**テキスト、リーディング・リスト：**

履修者のテーマ・問題意識に応じて、演習開始後指示・配付する。

---

## 国際経済論演習

---

教授 高 梨 和 紘

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

基本的には、修士論文作成のための指導・研究を行うことを目標とする。しかし修士 1 年生に対しては、そのための基礎的学習や分析の方法・方向についての指導に重点をおいていきたい。具体的な方法としては、その中心を履修する学生達の報告とそれをめぐる討論・指導におきたい。ここでは国際経済論と国際政治経済論および経済発展論とアジアを中心とする地域研究に重点をおく。

授業内容：

まず履修者それぞれの問題意識や意図する研究テーマ等について、全体的・個別的に指導を行った上で、それに資するリーディング・リストを与え、それに基づいて各自の研究を進めてもらい、隔月 1 回程度研究報告を課し、その報告をめぐって徹底的な討論や追加指導を行う形で演習を進めたい。

テキスト、リーディング・リスト：

履修者のテーマ・問題意識に応じて、演習開始後指示・配付する。

---

## 国際経済論演習

---

教授 竹 森 俊 平

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

指定されたテキストの輪読を通じ、国際金融論の分析手法を学ぶが、その間に受講者の自分で選んだトピックについての報告を交え、また修士論文の指導をする。

テキスト：

M. Obstfeld and K. Rogoff, *Foundations of International Macroeconomics*, MIT Press

リーディング・リスト：

受講者の自発的な報告に関連のあるものを適宜指定する。

---

## 都市経済論演習

---

教授 瀬 古 美 喜

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

市場メカニズムが都市においてどのように働いているのかという観点に立って、都市経済学の基礎的な理論モデルと実証研究について学ぶ。具体的には、理論

的・実証的分析手法に基づいて各自が選んだ研究テーマに関する論文指導を行う。

リーディング・リスト：

Edwin S. Mills and Bruce W. Hamilton, *Urban Economics*, 5th edition, Scott, Foresman & Co., 1994  
J. V. Henderson, *Economic Theory and the Cities*, 2nd edition, Academic Press, 1985

Denise DiPasquale and William C. Wheaton, *Urban Economics and Real Estate Markets*, Prentice Hall, 1996 (瀬古美喜・黒田達朗訳『都市と不動産の経済学』, 創文社, 2001 年)

Peter Nijkamp and Edwin S. Mills, eds., *Handbook of Regional and Urban Economics*, Vol.1: *Regional Economics*, North-Holland and Elsevier Science Publisher, 1987

Peter Nijkamp and Edwin S. Mills, eds., *Handbook of Regional and Urban Economics*, Vol.2: *Urban Economics*, North-Holland and Elsevier Science Publisher, 1987

*Regional and Urban Economics*, Part1, Part2, Harwood and Academic Publishers, 1996

Masahisa Fujita, Paul Krugman and Anthony J-Venables, *The Spatial Economy*, MIT Press, 1999 (小出訳『空間経済学』東洋経済新報社)

M. Fujita and J-F Thisse, *Economics of Agglomeration*, Cambridge University Press, 2002

日本住宅総合センター『季刊・住宅土地経済』(各版)

中村良平・田淵隆俊『都市と地域の経済学』日本評論社, 1996

瀬古美喜『土地と住宅の経済分析』創文社, 1998

金本良嗣『都市経済学』東洋経済新報社, 1997

---

## 環境経済論演習

---

教授 細 田 衛 士

教授 大 沼 あゆみ

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

本演習においては、環境経済論の理解を促進し、より発展した水準の内容にまで到達できるようにすることを目的とする。

授業内容：

まず初めに、環境経済学の理論内容を深めるために次の内容にしたがって、原著論文を中心に読む。

1. 所有権とオープンアクセス問題。ここではオープンアクセスにともなう共有地の悲劇問題を中心に、共有地のルールの形成と機能、囲い込み問題などを扱う。また、権利の配分問題も関係してくるのでコースの定理などもここで取り上げる。
2. 環境経済学における投入産出分析。LCA や現実の政策での汚染物質のコントロールにおいては投入産出分析が用いられることが多い。そこで、環境経済学の理論で用いられる投入産出分析モデルの典型例を取り上げ、理論構造を解明する。
3. 成長経済下における廃棄物排出の理論分析。経済成長モデルのなかで、廃棄物の抑制問題を取り扱う。マクロ経済学のなかでは、環境制約が取り上げられる機会は少ない。新古典派経済成長モデル、およびハロッドの経済成長モデルに環境制約を取り入れたモデルを取り上げて、環境制約と経済成長の対抗関係を分析する。
4. 汚染の動学的コントロールの問題。経済動学のなかに汚染物排出抑制のコントロール問題を導入し、最適汚染の分析を行う。経済厚生最大化問題の観点から排出抑制問題を考える。
5. 再生可能資源と枯渇資源の問題。漁業資源等を例として、持続可能な資源利用のモデル分析を行う。また、ホテリングタイプの枯渇性資源の問題も扱い、最適供給問題を考える。
6. 環境税と排出権売買の理論分析。ミクロ、マクロ双方の観点から排出権売買の経済効果、環境保全効果を分析する。特に、いわゆる共同実施と排出権売買の関係性を解明することによって、排出権売買のパリエーションの実現可能性を取り上げる。
7. 貿易と環境の理論分析。比較優位原理に基づいた環境と貿易のモデル、ヘクシャー＝オリンに基づいたモデル、また最近のゲーム論的なモデルを取り上げ、国際貿易と環境保全の関係を分析する。またポリューションヘイブン（汚染逃避地）の理論的可能性についても論じる。
8. 物質循環論による分析。生態系と経済系を2つの相互依存的系として捕らえた理論モデルを取り上げ、物質循環の構造を経済学的な立場から解明する。そして、2つの系の持続可能性を理論的に定式化する。

リーディング・リスト：

授業中に配布する。

---

環境経済論演習（環境政策）

教授 山口 光 恒

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

年間を通して行う演習の春期分。春学期・秋学期連続した内容となっているので極力年間を通した履修が望ましい。

本演習は環境政策オリエンテッドな内容である。現在国際的に流動的な環境問題を最新且つオリジナルな資料によりながら研究し、日本或いは世界がどうしたらよいかにつき演習形式で進める。

授業内容：

今年度は春秋とも温暖化問題に集中する。講義内容は履修者の知識を見て決める。気候変動枠組条約や京都議定書の理解を前提に、議定書目標達成の為の日、EU、米の政策を学び論議する。EU については 2004 年 4 月迄には部門別 CO<sub>2</sub>排出配分を決める National Allocation Plan が公にされる予定であり、この Plan と域内排出権取引の関係も取り上げるつもりである。また費用・便益分析と割引率の考え方の温暖化対策への適用についても考察を深める。

テキスト：

*Preparing for Implementation of the Kyoto Protocol*, May 1999, European Commission

*Preparing for Implementation of the Kyoto Protocol*, May 1999, European Commission

*EU Proposal for a Directive, Framework for Greenhouse Gas Emission Trading*, 2003

*The Progress of the Netherlands climate change policy*, 2002

*US climate change strategy, a new approach*, 2001

*"Economics and Policy Issues in climate change"*, edited by W. D. Nordhaus, Resources for the future, 1998

リーディング・リスト：

適宜指示する。

---

環境経済論演習（環境政策）

教授 山口 光 恒

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

年間を通して行う演習の秋期分。春学期・秋学期連続した内容となっているので極力年間を通した履修が望ましい。

本演習は環境政策オリエンテッドな内容である。現

在国际的に流動的な環境問題を最新且つオリジナルな資料によりながら研究し、日本或いは世界がどうしたらよいかにつき演習形式で進める。

**授業内容：**

秋学期は温暖化に関する国内対策を中心に上げる。具体的には日本政府のこれまでの対応をレビューした上で、炭素税導入の是非、国内排出権取引の可能性と限界、温暖化対策推進大綱の見直しなどにつき議論する。

次いで各種文献を基に、京都議定書以降の米国及び途上国が参加する新たなレジームの検討を行う。さらに時間の余裕があれば、日中環境協力の具体的可能性についても論議したい。

**テキスト：**

国内対策については、  
D.G.Victor, *The Collapse of the Kyoto Protocol*, Princeton University Press, 2001  
Edited by K. A. Baumert, *Options for protecting the climate*, World Resources Institute, 2002  
“Beyond Kyoto, Energy Dynamics and Climate Stabilization”, International Energy Agency, 2002 など。

**リーディング・リスト：**

都度指示する。

---

**社会史演習（生活環境の社会史）**

教授 友部 謙 一  
助教授 鈴木 晃 仁

**授業形態：**春学期 2 単位・合同演習

**目標・意義・方法：**

「生活水準」は社会経済史の伝統的な課題である。しかし、それを世帯の問題としてとらえ、さらにそこでの世帯員のバーゲニングパワーがかれらの各個人の「生活水準」を決定しているという分析フレームワークで考えると、再度エキサイティングな問題としてよみがえる。歴史の中の「生活水準」とは、すなわち各個人の生活環境そのものを再構築することに他ならない。とくに、本演習では母親と乳幼児の生活環境に着目していきたい。

**授業内容：**

本演習は友部と鈴木の合同演習である。演習であるからには、年度末には受講生は各自研究報告書を提出することになる。そのために、まず「生活環境」の範囲を比較的広く考え、18世紀から20世紀前半にかけての医療・疾病・衛生・保健・人口・家族に関する基

本的な文献をヨーロッパ（鈴木）と日本（友部）について講読・議論する。つぎに、各自のテーマを尊重しつつ、「生活環境の社会史」に関する共同のデータベースを構築していく（データベースの作成については演習時に指示する）。とくに、本年度は日本の各機関に所蔵されている20世紀前半の日本農村における母性と乳幼児の生活環境に関する資（史）料の収集と分類に力を入れていきたい。つまり、本年度はそのことに関する本格的な分析を進めていくための「体力」を蓄える時期として位置付けたい。

最初の時間に演習予定表とシラバスを各担当者が配布する。

---

**社会史演習（生活環境の社会史）**

教授 友部 謙 一  
助教授 鈴木 晃 仁

**授業形態：**秋学期 2 単位・合同演習

**目標・意義・方法：**

「生活水準」は社会経済史の伝統的な課題である。しかし、それを世帯の問題としてとらえ、さらにそこでの世帯員のバーゲニングパワーがかれらの各個人の「生活水準」を決定しているという分析フレームワークで考えると、再度エキサイティングな問題としてよみがえる。歴史の中の「生活水準」とは、すなわち各個人の生活環境そのものを再構築することに他ならない。とくに、本演習では母親と乳幼児の生活環境に着目していきたい。

**授業内容：**

本演習は友部と鈴木の合同演習である。演習であるからには、年度末には受講生は各自研究報告書を提出することになる。そのために、まず「生活環境」の範囲を比較的広く考え、18世紀から20世紀前半にかけての医療・疾病・衛生・保健・人口・家族に関する基本的な文献をヨーロッパ（鈴木）と日本（友部）について講読・議論する。つぎに、各自のテーマを尊重しつつ、「生活環境の社会史」に関する共同のデータベースを構築していく（データベースの作成については演習時に指示する）。とくに、本年度は日本の各機関に所蔵されている20世紀前半の日本農村における母性と乳幼児の生活環境に関する資（史）料の収集と分類に力を入れていきたい。つまり、本年度はそのことに関する本格的な分析を進めていくための「体力」を蓄える時期として位置付けたい。

最初の時間に演習予定表とシラバスを各担当者が配布する。

**社会史演習**

教授 松村 高夫  
 教授 矢野 久  
 教授 金子 勝

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

授業内容：

社会史とは、人間社会を経済のみならず、政治・社会・文化などさまざまな側面からなる全体ととらえる研究方法である。この全体としての人間社会に接近する方法も、経済学のみならず、政治学・社会学・人類学など隣接する人間諸科学を包含したものである。社会史は、具体的・歴史的現象を細部にわたり分析すると同時に、絶えず新しい領域を開拓し、新しい方法論的枠組を創り出すことにある。その意味で、固定した方法・領域をもたない。

報告と討論を重ねていく。担当者の専門には限定されないような仕方で運営していきたい。活発な議論を通して参加者各自の研究が刺激されるよう配慮していきたい。

成績評価方法は、平常点（出席状況および授業態度による評価）とする。

**社会史演習**

教授 松村 高夫  
 教授 矢野 久  
 教授 金子 勝

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

授業内容：

春学期の継続

**社会科学分析演習（Ⅰ）**

教授 津谷 典子  
 助教授 赤林 英夫

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

本演習は（Ⅰ）（Ⅱ）の 2 つからなり、時間割上連続している。したがって、本演習を受講する学生は、（Ⅰ）と（Ⅱ）の両方を受講することが望ましい。（Ⅰ）では、計量分析モデルの説明や使い方などについての説明だけでなく、変数とは何か、データ収集のためのサンプリングのロジック、変数の構築の仕方など、社会調査法の基本についても解説する。また、本演習では、統計分析のためのソフトウェアとして STATA を用いるが、この統計分析ソフトについても、（Ⅰ）でそのロジックを説明する。次に（Ⅱ）では、

その週の（Ⅰ）で説明・解説したトピックや分析モデルについて STATA を用いて実際にデータ分析を行う。この分析演習のためのデータは、人口学および労働経済学の分野のサーベイ調査の個票データを、加工して使用させる。また、多変量解析のためのフラット・ファイルの作り方についても手ほどきをする。さらに、学生個人の研究テーマに関して、分析モデルやデータの所在、および分析のためのファイルの作り方などについて適宜アドバイスする。修士論文を執筆中、もしくはそのためのプロポーザルを準備中の学生諸君の受講を特に歓迎する。

授業内容：

本演習で扱う多変量解析モデルは、Linear causal models と呼ばれるモデルを中心とした以下のようなものである。

- (1) Ordinary least-square multiple regression model
- (2) Binary logit / probit model
- (3) Multinomial logistic regression model
- (4) Ordered logit / probit model
- (5) Cox proportional hazard model
- (6) Time-dependent hazard model

テキスト：

STATA Statistical Software Release 8 User's Guide & Reference Manual

リーディング・リスト：

- (1) Babbie, Earl B. *The Practice of Social Research* 6th Edition, Wadsworth Publishing
- (2) Greene, William H. *Econometric Analysis*, 4th Edition, Prentice Hall
- (3) Retherford, Robert R. and Minja Kim Choe. *Statistical Models for Causal Analysis*, John Wiley & Sons.

**社会科学分析演習（Ⅱ）**

教授 津谷 典子  
 助教授 赤林 英夫

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法 他：

「社会科学分析演習（Ⅰ）」参照

**産業社会論演習**

教授 金子 勝

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

産業社会にかかわる諸問題を、理論的制度的に考察

する。

**授業内容：**

今年度は、日本における経済格差問題について考察する。年金・介護・雇用問題など具体的問題を取り上げながら。

**テキスト：**

経済政策に関する文献を対象に、参加者と相談して決定する。

**リーディング・リスト：**

神野直彦・金子勝『「福祉政府」への提言』岩波書店

---

**産業社会論演習**

---

教授 金子 勝

授業形態：秋学期 2 単位・演習

**目標・意義・方法：**

日本経済の現状と経済政策について、テキストを取り上げつつ議論する。

**授業内容：**

本年度は、つぎの 2 つのテーマを主に取り上げる予定である。一つは、財政赤字と財政政策にかかわる諸問題。いま一つは、不良債権問題と金融システムにかかわる諸問題である。この 2 つのテーマを具体的に考えつつ、マクロ経済学の理論的問題についても深めてゆきたい。

**テキスト：**

参加者と相談して決めたい。

**リーディング・リスト：**

金子勝『市場と制度の政治経済学』東京大学出版会  
神野直彦・金子勝編『財政崩壊を食い止める』岩波書店

---

**プロジェクト科目**

---

**プロジェクト**

---

本年度休講

## 博士課程設置科目講義要綱

おおむね下記のように構成されています。

学則に示される科目名（具体的な科目名）*1	担当者名
1. 授業形態*2	}
2. 当科目の目標・意義・方法	
3. 授業内容	
4. テキスト	
5. リーディング・リスト	

\*1 : ( ) 内の記載がないもの、および項目の記載のないものはそれぞれ省略されています。

\*2 : 本書作成後に変更される場合もありますので、時間割及び掲示を参照してください。

注 : 同一名称の科目については、担当者名は五十音順で並べられています。

## 特 論 科 目

### ミクロ経済学特論（個別経済主体の行動）

教授 長 名 寛 明

教授 須 田 伸 一

授業形態：春学期 2 単位・合同講義

#### 目標・意義・方法：

学部レベルのミクロ経済学を修了している学生を対象にして、消費者行動、生産者行動の基本的性質について講義する。

分析用具としては凸解析および線形代数の初歩を用いる。

#### 授業内容：

1. 消費者行動
2. 生産者行動
3. 不確実性下の意思決定

#### リーディング・リスト：

1. A. Mas-Colell, M. D. Whinston, and J. R. Green, *Microeconomic Theory*, Oxford University Press, 1995

### ミクロ経済学特論（ゲーム理論）

教授 川 又 邦 雄

教授 中 山 幹 夫

授業形態：春学期 2 単位・合同講義

#### 目標・意義・方法：

ゲーム理論の上級の基本的文献を理解し、最近の発展について議論する。

#### リーディング・リスト：

- R. J. Aumann and S. Hart, *Handbook of Game Theory*, Vols. I, II and III.

### ミクロ経済学特論（ゲーム理論）

教授 川 又 邦 雄

教授 中 山 幹 夫

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

#### 目標・意義・方法・リーディング・リスト

春学期参照

### ミクロ経済学特論

教授 塩 澤 修 平

助教授 玉 田 康 成

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

#### 目標・意義・方法：

春学期に開講される「ミクロ経済学特論（個別経済主体の行動）」に引き続き、ミクロ経済学の理論について講義する。

#### 授業内容：

1. 競争均衡の存在，局所的一意性，安定性
2. 厚生経済学の基本定理
3. 競争均衡とコア

#### テキスト：

Mas-Colell, Whinston and Green, *Microeconomic Theory*, Oxford University Press, 1995

### ミクロ経済学特論（都市経済論）

教授 瀬 古 美 喜

授業形態：春学期 2 単位・講義および演習

#### 目標・意義・方法：

市場メカニズムが都市においてどのように働いているのかという観点に立って、都市経済学や新経済地理学の基礎的な理論モデルと実証研究について学ぶ。学部修了程度の経済理論と、計量経済学の知識がある方が望ましい。

#### 授業内容：

具体的には、都市空間構造の理論的実証的分析，住宅市場と住宅問題，都市における集積と規模の経済，都市の成長，都市交通などに関する文献を取り上げ，検討する。

#### テキスト：

具体的な文献については、授業の中で指示する。

#### リーディング・リスト：

Edwin S. Mills and Bruce W. Hamilton, *Urban Economics*, 5th edition, Scott, Foresman & Co., 1994

Denise DiPasquale and William C. Wheaton, *Urban Economics and Real Estate Markets*, Prentice Hall 1996 (瀬古美喜・黒田達朗訳『都市と不動産の経済学』創文社，2001年)

J. V. Henderson, *Economic Theory and the Cities*, 2nd edition, Academic Press, 1985

Peter Nijkamp and Edwin S. Mills, eds., *Handbook of Regional and Urban Economics*, Vol.1: *Regional Economics*, Vol.2: *Urban Economics*, Vol.3: *Applied Urban Economics*, North-Holland and Elsevier Science Publisher

M. Fujita, P. Krugman and A. J. Venables, *The Spatial Economy*, MIT Press, 1999 (小出訳『空間経済学』，東洋経済新報社)

M. Fujita and J-F Thisse, *Economics of Agglomeration*, Cambridge University Press, 2002

日本住宅総合センター『季刊・住宅土地経済』（各版）

中村良平・田淵隆俊『都市と地域の経済学』日本評論社, 1996

瀬古美喜『土地と住宅の経済分析—日本の住宅市場の計量経済学的分析』創文社, 1998

金本良嗣『都市経済学』東洋経済新報社, 1997

### ミクロ経済学特論（都市経済論）

教授 瀬古美喜

授業形態：秋学期 2 単位・講義および演習

目標・意義・方法：

市場メカニズムが都市においてどのように働いているのかという観点に立って、都市経済学や新経済地理学の基礎的な理論モデルと実証研究について学ぶ。学部修了程度の経済理論と、計量経済学の知識がある方が望ましい。

授業内容：

具体的には、都市空間構造の理論的実証的分析、住宅市場と住宅問題、都市における集積と規模の経済、都市の成長、都市交通などに関する文献を取り上げ、検討する。

テキスト：

具体的な文献については、授業の中で指示する。

リーディング・リスト：

Edwin S. Mills and Bruce W. Hamilton, *Urban Economics*, 5th edition, Scott, Foresman & Co., 1994

Denise DiPasquale and William C. Wheaton, *Urban Economics and Real Estate Markets*, Prentice Hall, 1996（瀬古美喜・黒田達朗訳『都市と不動産の経済学』創文社, 2001 年）

J. V. Henderson, *Economic Theory and the Cities*, 2nd edition, Academic Press, 1985

Peter Nijkamp and Edwin S. Mills, eds., *Handbook of Regional and Urban Economics*, Vol.1: *Regional Economics*, Vol.2: *Urban Economics*, Vol.3: *Applied Urban Economics*, North-Holland and Elsevier Science Publisher

M. Fujita, P. Krugman and A. J. Venables, *The Spatial Economy*, MIT Press, 1999（小出訳『空間経済学』, 東洋経済新報社）

M. Fujita and J-F Thisse, *Economics of*

*Agglomeration*, Cambridge University Press, 2002

日本住宅総合センター『季刊・住宅土地経済』（各版）

中村良平・田淵隆俊『都市と地域の経済学』日本評論社, 1996

瀬古美喜『土地と住宅の経済分析—日本の住宅市場の計量経済学的分析』創文社, 1998

金本良嗣『都市経済学』東洋経済新報社, 1997

### ミクロ経済学特論（産業組織論）

教授 中山幹夫

助教授 グレーヴァ香子

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

この授業では講義と演習を通じて、産業組織理論を中心とした経済分析に使われる中級ゲーム理論を学ぶ。学部レベルの初級ゲーム理論の知識を前提とする。成績は演習と学期末のレポートによって決まる。

授業内容：

1. 非協力ゲーム

- (a) 復習：ナッシュ均衡，部分ゲーム完全均衡，フォーク定理，契約
- (b) ベイジアンゲームとベイジアンナッシュ均衡
- (c) Trembling-hand perfect equilibrium, 完全ベイジアン均衡，逐次均衡とその応用
- (d) 進化ゲーム

2. 協力ゲーム

- (a) TU ゲームとその応用：コア，安定集合，交渉集合，カーネル，仁
- (b) NTU ゲームとその応用： $\lambda$ -transfer value, 市場ゲーム
- (c) 協力ゲームの戦略形：強均衡，coalition-proof ナッシュ均衡
- (d) コア分析：アルファコア，ベータコア，自己拘束的戦略，優位懲罰戦略など
- (e) Scarf の定理と純粋交換ゲーム，NTU 市場ゲーム

リーディング・リスト：

- 1. 中山幹夫『はじめてのゲーム理論』有斐閣, 1997
- 2. 岡田章『ゲーム理論』有斐閣, 1996
- 3. Fudenberg and Tirole, *Game Theory*, MIT Press, 1991
- 4. Osborne and Rubinstein *A Course in Game*

---

マクロ経済学特論

---

教授 前多康男  
助教授 白井義昌

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

この講義では、マクロ経済学の動学的な側面を理論的に扱う。モデルとしては、主に離散型の世代重複モデルを使用する。講義の目的は、世代重複モデルの基本的な枠組みを理解し、実際のモデル構築に自在に使用できるようになることにある。特に、政府の政策が資源配分に与える影響について、講義の重点が置かれる。分析のための数学ツールをマスターすることも本講義の目的とする。受講者には、積極的に学習する態度が望まれる。

この授業では、期末試験を、持ち込み不可の筆記試験の形式で行う。各試験の出題の範囲は当該試験以前の講義および宿題で扱ったすべての項目を含む。

本講義の成績は以下のウエイトで決定する。(宿題の提出状況 30%，出席状況：10%，期末試験 60%)

テキスト：

教科書は特に使用しない。

リーディング・リスト：

以下の文献を、適宜参考文献として使用する。

マッキヤンドレス・ウォレス著、川又・國府田・酒井・前多訳『動学マクロ経済学』創文社、1994年(原書：*Introduction to Dynamic Macroeconomics*, Harvard)を使用する。

Azariadis, C., *Intertemporal Macroeconomics*, Blackwell, 1993

Sargent, T.J., *Dynamic Macroeconomic Theory*, Harvard, 1987

---

マクロ経済学特論

---

教授 前多康男  
助教授 白井義昌

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

春学期開講の「マクロ経済学特論」(前多・白井担当)に引き続き、時間を通じた経済に関わる基礎的分析方法と主要問題についての講義を行う。

授業内容：

講義内容はだまかにわけて二つである。第一は春学期に扱わなかった連続時間の動学的最適化問題とそれ

を用いた経済成長の諸議論の紹介である。第二は労働市場、金融市場などの分析には市場の摩擦、不完全情報など完全競争ではつかみきれない要素を取り込んだ標準的マクロ諸モデルの解説を行う。

---

数理経済学特論 (I)

---

講師 山崎 昭

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

測度論の枠組みで表現された経済の母集団 (population) の上に構築される経済理論モデルの定式化に関して必要となる可測対応の積分論および位相解析等について講義すると同時に、測度論および確率論的一般均衡モデルについて講義する。

授業内容：

現在予定している講義項目は以下の通り。

1. 普遍選好集合と位相
2. 可測構造
3. 経済変数の連続性と可測性
4. 経済変数の集計による効果

テキスト：

Werner Hildenbrand, *CORE AND EQUILIBRIA OF A LARGE ECONOMY*, Princeton University Press

山崎 昭『数理経済学の基礎』創文社

リーディング・リスト：

講義のときに適宜配布する予定。

---

数理経済学特論 (II)

---

教授 丸山 徹

授業形態：春学期 2 単位・講義

授業内容：

1. ユニタリ作用素の一径数群のスペクトル表現
2. 弱定常確率過程のスペクトル表現

Slutsky-Frisch の景気変動理論を Fourier 解析の立場から基礎づける試み

---

数理経済学特論 (III)

---

講師 高橋 明彦

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

数理ファイナンスの基礎事項を習得すること。

授業内容：

条件付請求権や最適ポートフォリオに関する理論的・数値的話題を講義する。

テキスト：

特になし。

リーディング・リスト：

授業中に指示する。

---

計量経済学特論（パネルデータの計量経済学）

【経商 COE 連携科目】

---

教授 辻村和佑

助教授 宮内環

助教授 河井啓希

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

春学期と秋学期を通じて、パネルデータを用いた実証分析に必要な計量経済学の方法を講義する。

なおこの授業は、21 世紀 COE プログラム「市場の質に関する理論形成とパネル実証分析—構造的経済政策の構築に向けて—」の連携科目として設置され、商学研究科の「計量経済学」（修士課程）（担当は新保一成助教授）と合同で行う。

授業内容：

授業の計画

- 1 パネルデータの特徴と既存のパネルデータ
- 2 資料発生機構、構造、識別、統御実験
- 3 通常最小二乗法の前提と推定量の性質
- 4 観測されない変数を含む線形モデル  
一般化最小二乗法と実行可能一般化最小二乗法  
ランダム効果と固定効果  
1 元配置と 2 元配置  
特定化検定
- 5 パネルデータモデルと一般積率法
- 6 漸近理論と最尤推定法

春学期と秋学期の両方を履修することが望ましい。

成績評価方法は、各学期末に各自の研究と計量経済学との関連について述べたタームペーパーを提出してもらう。

テキスト：

Paul A. Ruud, *An Introduction to Classical Econometric Theory*, Oxford University Press

リーディング・リスト：

Jefferey M. Wooldridge, *Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data*, MIT Press

Badi H. Baltagi, *Econometric Analysis of Panel Data*, Wiley

小尾恵一郎『計量経済学入門』日本評論社

---

計量経済学特論（パネルデータの計量経済学）

【経商 COE 連携科目】

---

教授 辻村和佑

助教授 宮内環

助教授 河井啓希

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

春学期と秋学期を通じて、パネルデータを用いた実証分析に必要な計量経済学の方法を講義する。

なおこの授業は、21 世紀 COE プログラム「市場の質に関する理論形成とパネル実証分析—構造的経済政策の構築に向けて—」の連携科目として設置され、商学研究科の「計量経済学」（修士課程）（担当は新保一成助教授）と合同で行う。

授業内容：

授業の計画

- 1 パネルデータと不均一分散
- 2 パネルデータと系列相関
- 3 パネルデータと多変量回帰
- 4 パネルデータと同時方程式体系
- 5 離散的選択モデル
- 6 打ち切りデータと切断データ
- 7 動学的パネルデータ分析
- 8 その他のパネルデータに関する話題  
不完全パネルデータ、擬似パネルデータ、非定常パネルデータなど

春学期と秋学期の両方を履修することが望ましい。

成績評価方法は、各学期末に各自の研究と計量経済学との関連について述べたタームペーパーを提出してもらう。

テキスト：

Paul A. Ruud, *An Introduction to Classical Econometric Theory*, Oxford University Press

リーディング・リスト：

Jefferey M. Wooldridge, *Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data*, MIT Press

Badi H. Baltagi, *Econometric Analysis of Panel Data*, Wiley

小尾恵一郎『計量経済学入門』日本評論社

---

計量経済学特論

---

教授 蓑谷千鳳彦

授業形態：春学期 2 単位・講義および演習

目標・意義・方法：

講義、履修者の報告、補足説明、コンピュータある

いはパソコン演習の形式を、春学期、秋学期とも採り入れる。

**授業内容：**

1. 予備知識の復習
  - (1) 行列と行列式
  - (2) 2次形式の分布
  - (3) 最尤推定量の性質
2. 古典的正規線形回帰モデルのまとめ
  - (1) パラメータ推定法
  - (2) 説明力
  - (3) 仮説検定
  - (4) 制約つき最小2乗法
  - (5) 一般化最小2乗法
  - (6) 包括テスト
3. 回帰診断
4. 影響分析
5. 応用時系列分析
  - (1) 非定常過程
  - (2) 共和分
  - (3) 応用

**テキスト：**

1. 蓑谷千鳳彦『計量経済学の理論と応用』日本評論者
2. 蓑谷千鳳彦『計量経済学の新しい展開』多賀出版
3. Patterson, K., *An Introduction to Applied Econometrics—A Time Series Approach*, Macmillan Press, 2000

**リーディング・リスト：**

1. Judge, G. G., Hill, R. C., Griffiths, W. E., Lutkepohl, H., Lee, T. C., *Introduction to the Theory and Practice of Econometrics*, 2nd ed., John Wiley & Sons, 1988
2. 1と同じ著者たちによる  
*The Theory and Practice of Econometrics*, 2nd ed., John Wiley & Sons, 1985
3. Davidson, R., Mackinnon, J. G., *Estimation and Inference in Econometrics*, Oxford University Press, 1993
4. Griffiths, W. E., Hill, R. C., Judge, G. G., *Learning and Practicing Econometrics*, John Wiley & Sons, 1993
5. Spanos, A., *Statistical Foundations of Econometric Modeling*, Cambridge University Press, 1986
6. Hendry, D. F., *Dynamic Econometrics*, Oxford University Press, 1995
7. Hamilton, J. D., *Time Series Analysis*, Princeton

University Press, 1993

---

**計量経済学特論**

---

教授 蓑谷 千鳳彦

授業形態：秋学期2単位・講義および演習

目標・意義・方法 他：

春学期参照

---

**経済学史・思想史特論（日本社会経済思想史）**

---

教授 小室 正紀

授業形態：秋学期2単位・講義

目標・意義・方法：

山片蟠桃『夢の代』を輪読しながら、懐徳堂朱子学の経済思想としての射程を考える。山片蟠桃は懐徳堂を代表する町人学者であるが、彼の著作には、幕藩制に基礎をおいた大坂大商人のイデオロギーと同時に、新たな経済状況の中でいかに自己を確立してゆくかといった思想との両面があった。この講義では『夢の代』を読みながら、近代日本経済思想の原点を考えてみたい。また、関連して山片蟠桃関係の文献につき、履修者に報告を求めることもある。なお、小室担当の「経済学史・思想史演習（日本社会経済思想史演習）」とあわせて履修することが望ましい。

---

**経済学史・思想史特論**

---

教授 高草木 光一

授業形態：春学期2単位・講義

目標・意義・方法：

サン＝シモンの思想を中心にして、18世紀思想から19世紀思想への転換を考察する。

授業内容：

『サン＝シモン著作集』（全5巻）および仏語・英語・邦語の研究文献を題材に使い、サン＝シモンにおける「科学」「産業」「宗教」などの独自性を考察する。必要に応じて、参加者にはリポーターの役割を果たしてもらう。

テキスト：

森博編訳『サン＝シモン著作集（全5巻）』恒星社厚生閣

リーディング・リスト：

デュルケム（森博訳）『社会主義およびサン＝シモン』恒星社厚生閣

マニユエル（森博訳）『サン＝シモンの新世界（上・下）』恒星社厚生閣

シャルレティ（沢崎・小杉訳）『サン＝シモン主義

---

### 経済学史・思想史特論

---

講 師 的 場 昭 弘

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

マルクスのフランス三批判（『フランスの内乱』、『ルイ・ボナパルトのブリュメールの 18 日』『フランスにおける階級闘争』）を講義します。

授業内容：

講義予定

- 1) マルクスの政治学
- 2) フランス三批判の位置付け
- 3) フランス三批判の文献学的位置付け
- 4) 『フランスにおける階級闘争』
- 5) 『フランスにおける階級闘争』
- 6) 『ルイ・ボナパルトのブリュメールの 18 日』
- 7) 『ルイ・ボナパルトのブリュメールの 18 日』
- 8) 『フランスの内乱』
- 9) 『フランスの内乱』
- 10) レーニンの『国家と革命』
- 11) 国家論論争

テキスト：

岩波文庫版、国民文庫、あるいは全集版を講義までに読んでおくこと。

---

### 経済史特論

---

名誉教授 岡 田 泰 男

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

経済史研究の課題と方法。

今日、経済史研究の対象は、時代、地域ともに拡大しており、方法もさまざまである。しかし、経済史研究の多様性、細分化のみを強調すべきではなく、共通の関心もまた育ちつつある。

個々の研究テーマは、しばしば偶然によって決定された特殊なものであることが多いが、それを経済史研究の大きな問題群と関連させることにより、より豊かな研究成果が期待できる。

この講義では、問題の立て方、研究史とのつながり、史料の扱い方、叙述と分析の方法などを、論文や書物の輪読と討論を通じて、具体的に検討する。また必要に応じ、論文作成のための助言を与える。なお対象は欧米経済史と限定しない。

---

### 経済史特論

---

名誉教授 岡 田 泰 男

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

春学期参照

---

### 経済史特論（日本経済史）

---

教 授 杉 山 伸 也

教 授 柳 沢 遊

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

戦間期の日本経済に関する研究書・論文をとりあげ、院生による報告とディスカッションを中心に行なう。テキストは、老川慶喜・大豆生田稔編『商品流通と東京市場』（日本経済評論社、2000 年）を予定しているが、参加者の関心を考慮に入れて選択する。

成績評価は、授業での報告や討論への参加等を考慮して総合的に判断する。

履修に際しては、日本経済史の基本的事実関係について、すでに履修していることが前提となる。また留学生の場合は、日本経済史の基本的用語をふくめ、十分な日本語能力を備えていることが望ましい。

---

### 経済史特論（日本経済史）

---

教 授 杉 山 伸 也

教 授 柳 沢 遊

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

徳川期および明治期の日本経済に関する研究書・論文をとりあげ、院生による報告とディスカッションを中心に行なう。テキストは中林真幸『近代資本主義の組織』（東京大学出版会、2003 年）を予定しているが、受講者の関心を考慮に入れて選択する。

成績評価は、授業での報告や討論への参加等を考慮して総合的に判断する。

履修に際しては、日本経済史の基本的事実関係について、すでに履修していることが前提となる。また留学生の場合は、日本経済史の基本的用語をふくめ、十分な日本語能力を備えていることが望ましい。

---

### 経済史特論

---

教 授 古 田 和 子

授業形態：春学期 2 単位・演習

授業内容：

19 世紀後半から 20 世紀前半における東アジアおよ

び東南アジアの社会経済構造を、貿易・植民地経済・アジア域内労働力移動の観点から検討していく。参加者は、これらのテーマに関する文献リストの作成とその検討作業を通して、テーマへの専門的な理解を深めていくことが求められる。

---

### 経済史特論

---

教授 古田 和子

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

春学期に引続いて、19 世紀後半から 20 世紀前半における東アジアおよび東南アジアの社会経済構造を、貿易・植民地経済・アジア域内労働力移動の観点から検討していく。検討してきた研究文献の整理を通して、先行研究による成果と残された課題について考察を深め、具体的な研究対象を設定する作業を進める。

---

### 経済史特論

---

教授 矢野 久

助教授 飯田 恭

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

本科目では、社会経済史の視点から、欧米を中心とする各地の歴史を考察する。とりわけ「日常」にかかわる具体的な歴史事象を、社会経済の「構造」と関連づけながらとらえる方法を陶冶することを目的としつつ、活発に討論したい。

授業内容：

本科目で取り上げる（担当教員が専門とする）テーマは、およそ次のようなものである。

- ・生活環境と生活水準
- ・労働と消費生活
- ・家族・親族・共同体と個人主義
- ・人的移動の諸相

受講者の専門・研究テーマ・興味関心が広い意味でこれらのテーマと重なり合えば、問題はない。また、考察対象地域についても、欧米に限定するものではない。

演習形式を採用する。参加者には、本科目の趣旨を踏まえた上で、各自の専門領域の研究史・研究動向を幅広くしかも詳細に紹介し、その中での自らの研究の位置づけを明らかにするような報告を求める。この報告を参加者全員で共有し、それについて議論したい。このことを通じて、何よりも参加者各自の研究が刺激され、またそれが同時に参加者全員への刺激となるこ

とが望まれる。

---

### 経済史特論

---

教授 矢野 久

助教授 飯田 恭

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

本科目では、社会経済史の視点から、欧米を中心とする各地の歴史を考察する。とりわけ「日常」にかかわる具体的な歴史事象を、社会経済の「構造」と関連づけながらとらえる方法を陶冶することを目的としつつ、活発に討論したい。

授業内容：

本科目で取り上げる（担当教員が専門とする）テーマは、およそ次のようなものである。

- ・生活環境と生活水準
- ・労働と消費生活
- ・家族・親族・共同体と個人主義
- ・人的移動の諸相

受講者の専門・研究テーマ・興味関心が広い意味でこれらのテーマと重なり合えば、問題はない。また、考察対象地域についても、欧米に限定するものではない。

演習形式を採用する。参加者には、本科目の趣旨を踏まえた上で、各自の専門領域の研究史・研究動向を幅広くしかも詳細に紹介し、その中での自らの研究の位置づけを明らかにするような報告を求める。この報告を参加者全員で共有し、それについて議論したい。このことを通じて、何よりも参加者各自の研究が刺激され、またそれが同時に参加者全員への刺激となることが望まれる。

---

### 制度・政策論特論

---

教授 大村 達 弥

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

講義の目標は、変容しつつある経済システムや産業構造の動きを踏まえ、法・政治システムとの関わりも含め学際的視点から現代の経済問題の検討を進めることにある。

授業内容：

今年度の具体的内容としては、情報通信および関連産業における規制緩和とネットワークの発展が産業構造の変化を促している点に着目して、関連する経済規制改革、ネットワーク外部性、電子取引の理論的・実

際的検討等を扱う予定である。

テキスト：

授業開始の時点で指定する。

リーディング・リスト：

以下の文献は2003年度で取り上げたものである。

依田高典『ネットワーク・エコノミクス』日本評論社、2001年

J. Laffon and J. Tirole, *Competition in Telecommunications*, MIT Press, 2000 (邦訳：『テレコム産業における競争』エコノミスト)

---

#### 制度・政策論特論

---

教授 大村 達 弥

授業形態：秋学期2単位・講義

目標・意義・方法：

春学期参照

---

#### 制度・政策論特論

---

教授 北村 洋 基

授業形態：春学期2単位・講義

目標・意義・方法：

現代資本主義を情報化という視点から分析する。そのことによって現代資本主義の何が明らかになるのかを検討するとともに、経済学の理論的課題を探る。

授業内容：

1. 情報をどのようにとらえるか
2. 道具と機械段階における情報と制御
3. オートメーション・情報ネットワーク段階における情報と制御

テキスト：

北村洋基『情報資本主義論』大月書店

リーディング・リスト：

適宜紹介する。

---

#### 制度・政策論特論

---

教授 北村 洋 基

授業形態：秋学期2単位・講義

目標・意義・方法：

現代資本主義の情報化という視点から分析する。そのことによって現代資本主義の何が明らかになるのかを検討するとともに、経済学の理論的課題を探る。

授業内容：

1. 技術発展と産業構造の変化
2. 労働の歴史的・段階的変化と労働価値論の現代化
3. 資本主義的生産様式の諸段階と現段階

テキスト：

北村洋基『情報資本主義論』大月書店

リーディング・リスト：

適宜紹介する。

---

#### 制度・政策論特論

---

教授 櫻川 昌 哉

授業形態：春学期2単位・演習

目標・意義・方法：

国内外の金融にかかわる重要なテーマに触れ、論文を書けるようにする。

授業内容：

国内外の金融にかかわる最新の英語の学術論文を読む。「国際経済論特論」と2コマ続けて行う。

テキスト：

なし。初回にリーディングリストを渡す。

リーディング・リスト：

初回にリーディングリストを渡す。櫻川昌哉『金融危機の経済分析』（東京大学出版会）を参考書として適宜使う。

---

#### 制度・政策論特論

---

教授 島田 晴 雄

授業形態：春学期2単位・講義

目標・意義・方法：

日本経済の制度と政策に関する主要なテーマを選んで、概説を行うとともに、関連文献を読み、参加者の興味も勘案して議論を深める。

---

#### 制度・政策論特論

---

教授 島田 晴 雄

授業形態：秋学期2単位・講義

目標・意義・方法：

春学期参照

---

#### 制度・政策論特論

---

教授 寺出 道 雄

授業形態：春学期2単位・講義

目標・意義・方法：

この講義では、農業経済論の領域から大きく2つの問題を取りあげて概観する。

すなわち、環境と農業（林業・水産業を含む）の係わりについての問題と、資本主義の発展と農業の変化に係わる問題である。この2つの話題は、それぞれ農業経済論の新たな研究課題と伝統的な研究課題であ

り、相互に十分に連続した問題として講義することは困難であるが、研究課題が大きく変わっていったなかで、農業経済論の概観を得るためには、双方にふれる必要があると考える。

**授業内容：**

前者については、1. 植物の物質生産と農業 2. 農法・農業技術の変化 3. 再生可能資源の利用 4. 現代の農業技術等の話題を、

後者については、1. 農民層分解 2. 農工間の労働力移動 3. 19世紀末以来のいくつかの農業不況 4. 現代の農業政策等の話題を取り上げる。

**リーディング・リスト：**

講義の全体をカバーする文献はないので、授業中に参考文献を指示する。なお、後者の話題では、速水佑次郎他『農業経済論』（岩波書店、2002年）に言及することが多い。

---

**制度・政策論特論（社会政策論）**

講師 中川 清

授業形態：春学期 2 単位・講義および演習

**目標・意義・方法：**

家族生活と社会政策の関係史をテーマとします。

近現代の日本をフィールドとして、家族生活と社会政策との複雑な相互関係を丹念に検討する作業をします。従来の家族政策や家族法の枠にとらわれずに、広範な関係史を素描したいと考えます。かなり集中した作業と、議論への積極的な参加が求められます。

**授業内容：**

春学期は、『内務省史』や『警察庁史』などを素材に、さしあたり以下の枠組みで検討作業を行います。具体的な進め方は参加者と相談して決定します。

- 1) 関係史の視点と枠組みについて
- 2) 制度・政策と生活実態の乖離—政策基盤の整備—
- 3) 政策平面の形成と組織化—相互昂進関係の形成—
- 4) 家族生活と社会政策の接近—総力戦と戦後改革—
- 5) 雇用者家族モデルと政策対応—生活保障の体系化—
- 6) 家族の関係をめぐる新たな政策調整

**リーディング・リスト：**

G.エスピン-アンデルセンの諸著作

Goodman, Roger ed., *Family and Social Policy in Japan*, Cambridge Univ. Press, 2002

横山文野『戦後日本の女性政策』勁草書房、2002年  
佐口・中川編『講座福祉社会 2 労働と生活の社会史』ミネルヴァ書房、2004年（予定）

---

**制度・政策論特論（社会政策論）**

講師 中川 清

授業形態：秋学期 2 単位・講義および演習

**目標・意義・方法：**

家族生活と社会政策の関係史をテーマとします。

近現代の日本をフィールドとして、家族生活と社会政策との複雑な相互関係を丹念に検討する作業をします。従来の家族政策や家族法の枠にとらわれずに、広範な関係史を素描したいと考えます。かなり集中した作業と、議論への積極的な参加が求められます。

**授業内容：**

秋学期は、『医制百年史』や『学制百年史』などを素材に、さしあたり以下の枠組みで検討作業を行います。

具体的な進め方は参加者と相談して決定します。

- 1) 関係史の視点と枠組みについて
- 2) 制度・政策と生活実態の乖離—政策基盤の整備—
- 3) 政策平面の形成と組織化—相互昂進関係の形成—
- 4) 家族生活と社会政策の接近—総力戦と戦後改革—
- 5) 雇用者家族モデルと政策対応—生活保障の体系化—
- 6) 家族の関係をめぐる新たな政策調整

**リーディング・リスト：**

G.エスピン-アンデルセンの諸著作

Goodman, Roger ed., *Family and Social Policy in Japan*, Cambridge Univ. Press, 2002

横山文野『戦後日本の女性政策』勁草書房、2002年  
佐口・中川編『講座福祉社会 2 労働と生活の社会史』ミネルヴァ書房、2004年（予定）

---

**制度・政策論特論**

教授 中澤 敏 明

助教授 河井 啓 希

授業形態：春学期 2 単位・合同講義

**目標・意義・方法：**

このコースは、修士課程開講の「産業組織論」と同じであるが、博士課程の学生については、その蓄積された知見をもとに質疑・コメントにおいて、クラスへの質的貢献を期待する。

このコースは、産業組織論の分野全体について広く紹介することを課題とせず、産業組織論の実証分析をレビューすることを通じて、組織論の3分割法でいえばとくに構造・行動に焦点をあてて、事実発見・理論検証を行うことを直接的に目的としている。中澤・河井 2 名で毎週交代しながら、一方が講義し他がコメントを加え質疑する。典型的には、実証分析の中で

主要な先行研究を紹介し相互比較しながら論じ、扱われている争点が産業組織論の進展の系譜の中で占める位置・研究が明らかにした点・問題点・今後に残された課題などを紹介する。必要に応じて、実証分析にかかわる基本的な理論をレビューする。昨年の例（春）では、中澤がコーポレート・ガバナンスの制度紹介・実証分析、河井が製品差別性他の市場構造・行動にかかわる実証分析を扱った。今年度は、コーポレート・ガバナンスと市場競争との関係についての理論的研究を基礎にして、これにかかわる実証分析に進む予定である。河井は、市場参入にかかわる実証研究を特に、ニュー・エンピリカル IO のアプローチの系譜にウエイトを置きながらサーベイする。

#### 授業内容：

学部レベルの知識をもっていることを前提とする。計量経済学・ゲーム理論についても基礎的知識を備えていることが望まれる。後者については、博士課程で設けられている「マイクロ経済学特論（産業組織論）」を並行して履修することが望ましい。

#### テキスト：

講義に使用する参考文献については、講義中に説明するが、履修判断の参考のために、これまで扱った代表的なテキストをいくつか紹介する。論文については、秋学期の案内に例示するので、参照されたい。

M.Stephen, *Advanced Industrial Organization*, Blackwell '93, '02

P. Ghemawat, *Games Business Play*, MIT Press, '97

O. Hart, *Firms, Contracts, and Financial Structure*, Oxford, '95

L. Philips (ed), *Applied Industrial Economics*, Cambridge, '98

L. Cabral (ed), *Readings in Industrial Organization*, Blackwell, '00

X. Vives (ed), *Corporate Governance*, Cambridge, '02

E. Rasmussen, *Games and Information*, Blackwell, '89, '01

E. Wolstetter, *Topics in Microeconomics*, Cambridge

#### 制度・政策論特論

教授 中澤 敏 明  
助教授 河井 啓 希

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

#### 目標・意義・方法：

講義の目的・進め方は、春学期に同じである。こちらを参照されたい。テーマとしては、昨年の例（秋）

では、中澤がコーポレート・ガバナンスの理論面、とくに外部ガバナンスとして、市場競争が企業統治を促す効果を持つか否かについて、理論分析を紹介した。河井は、春学期に続き、製品差別性他の市場構造・行動にかかわる実証分析をレビューするとともに、市場への参入の実態・参入発生件数および均衡企業数の実証分析の系譜を紹介した。今年度は、春学期の進捗をみて、カバーするテーマを確定することになる。コーポレートガバナンス・製品差別性・参入以外の可能なテーマとしては、オークション・カルテル・価格またはプライスコストマージン・合併・垂直統合・取引費用・広告・研究開発などである。

#### 授業内容：

学部レベルの知識をもっていることを前提とする。計量経済学・ゲーム理論についても基礎的知識を備えていることが望まれる。後者については、博士課程で設けられている「マイクロ経済学特論（産業組織論）」を並行して履修することが望ましい。

#### リーディング・リスト：

講義に使用する参考文献については、講義中に説明するが、履修判断の参考のために、昨年扱った論文をいくつか紹介する。テキストについては、春学期の案内を参照されたい。

B. Holmstrom, "Moral Hazard In Teams" Bell Journal, vol13 no2, '82

B. Nalebuff and J. Stiglitz, "Information, Competition, and Markets", AER vol73. No2. '83

R. Bliss and R. Rosen, "CEO compensation and bank mergers", JFE, 61(01)

H. Demsetz and K. Lehn "The Structure of Corporate Ownership: Causes and Consequences", JPE

R. Aggarwal and A. Samwick, "Executive Compensation, Strategic Competition. And Relative Performance Evaluation: Theory and Evidence", Journal of Finance vol LIV no6, '99

R. Gibbons and K. Murphy, "Relative Performance Evaluation for Chief Executive Officers", Industrial and Labor Relations Review, vol 43, Issue3, '90

J. Barro and R. Barro, "Pay, Performance and Turnover of Bank CEOs", Journal of Labor Economics, vol8, Issue4, '90

B. Hall and J. Liebman, "Are CEOs Really Paid Like Bureaucrats ?", vol CXIII Issue3, '98

J. Liang, "Price Reaction Functions and Conjectural Variations", Review of IO, vol 4. n2

F. Gasmi, J Laffont, Q Vuong, "Econometric Analysis of Collusive Behavior in a Soft-Drink Market", Journal of Economics and Management Strategy 1(2), '92

M. Slade, "Interfirm Rivalry in a Repeated Game: An Empirical Test of Tacit Collusion", Journal of Industrial Economics 35(4), '87

D. Epple, "Hedonic Prices and Implicit Markets: Estimating Demand and Supply Functions for Differentiated Products", Vol 95, Issue 1, '87

G. Iwata, "Measurement of Conjectural Variations in an Oligopoly", Econometrica 42(5) '74

R. Porter, "A Study of Cartel Stability: The Joint Executive Committee 1880-86", Bell Journal, 14(2) '83

T. Bresnahan, "Competition and Collusion in the American Auto Industry: The 1955 Price War", Journal of Industrial Economics 35(4), '87

R. Feenstra and J. Levinsohn, "Estimating Markups and Market Conduct with Multidimensional Product Attributes", RES, vol62. Issue 1, '95

S. Berry, J. Levinson and A. Pakes, "Automobile Prices in Market Equilibrium", Econometrica 63(4), '95

V. Kadiyali, "Entry, Its Deterrence, and its Accommodation: A Study of the U.S. Photographic Film Industry", RAND Journal, vol 27, no3, '96

T. Bresnahan, P. Reiss, R. Willig, G. Stigler, "Do Entry Conditions Vary Across Markets?", Brookings Papers on Economic Activity, vol 1987, no3, '87

---

#### 制度・政策論特論

---

教授 吉野 直行

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

以下の論文などを読みながら、マクロ Monetary Theory の基礎的な知識を得ることを目指す。さらに、計量分析を用いた金融マクロ経済の実証方法を学ぶ予定。

リーディング・リスト：

1. Kydland and Prescott, *Business Cycles: Real Facts and a Monetary Myth*
2. Sumru Altug, *Time to Build and Aggregate Fluctuations: Some New Evidence*
3. Xavier Freixas and Jean-Charles Rochet, *Microeconomics*

*of Banking*

4. *Exchange Rate Regimes and Macroeconomic Stability*, Kluwer Academic Publisher

5. John Black, *Monetary Policy*

6. David Gowland, *Inflation*

7. Richard Layard, *Inflation/Unemployment Quandary*

---

#### 制度・政策論特論

---

教授 渡辺 幸男

助教授 駒形 哲哉

授業形態：春学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

急速に発展する中国工業を題材にとりあげ、それを地域産業・産業集積の視点から検討する。具体的には、駒形、渡辺の中国工業発展について研究成果を利用して講義を行うとともに、中国研究者による中国地域産業発展についての研究も取り上げる。

中国研究者による中国語での研究成果も輪読することになるが、その場合は駒形等による日本語でのレジュメを利用して検討することになる。それゆえ中国語での輪読が困難なものにも履修可能である。

---

#### 制度・政策論特論

---

教授 渡辺 幸男

助教授 駒形 哲哉

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

春学期参照

---

#### 国際経済論特論

---

教授 櫻川 昌哉

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

国内外の金融にかかわる重要なテーマに触れ、論文を書けるようにする。

授業内容：

国内外の金融にかかわる最新の学術論文を読む。特にアジア通貨危機に関する文献も読む。

テキスト：

なし。

リーディング・リスト：

櫻川昌哉『金融危機の経済分析』東京大学出版会  
Freixas and Rochet, *Microeconomics of Banking*, MIT Press

## 国際経済論特論

教授 竹 森 俊 平

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

国際金融、および国際貿易についての重要な Issue について講義する。また、研究を進めるための文献を紹介する。

リーディング・リスト：

文献等については、第一回目の講義の際に指示する。

社会・環境論特論（ラテンアメリカ社会史とオーラルヒストリーの方法）(1) 木曜日 1 時限 (2) 木曜日 2 時限

教授 清 水 透

授業形態：春学期 2 単位・講義 [木曜日 1・2 時限いずれも履修しなければなりません。]

目標・意義・方法：

2 コマ連続の集中講義のため、1 コマ目をテキストの輪読・報告と講義にあて、2 コマ目を参加者の博論の準備報告と指導にあてる。

授業内容：

ここ 20 年来、担当者が実施してきたメキシコの原住民村落でのフィールドワークの体験と、それを基礎とする歴史研究を踏まえつつ、以下の 3 点を中心に議論・検討する。

- ① 歴史学の方法：文献史学とオーラルヒストリー
- ② 研究者と研究対象との関係性：知的営みとしての歴史研究と日常
- ③ 個と普遍の問題：個と大状況、日常と非日常  
成績評価方法は平常点とする。

テキスト：

なし。

リーディング・リスト：

適宜紹介する。

## 社会・環境論特論

教授 津 谷 典 子

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

本特論の目的は、わが国の少子高齢化について、近年の人口学および経済学における理論的および計量分析の展開を理解し、それを学生諸君の今後実証的分析に基づく研究に応用するための学習をすることにある。ここでは特に、人口高齢化や出生率低下などの人口変動に関する形式人口学的研究と、ライフコース分

析 (Life course analysis) を中心とした多変量解析モデルを用いた研究に関する内外の文献を講読し、その理論的 (theoretical) かつ技術的 (technical) 意味を多面的に検討する。

近年、多変量解析のためのマイクロ・データの入手が以前に比べ容易になり、またライフコース分析を応用することのできるパネル調査および出産歴、就業歴、結婚歴などのライフ・ヒストリーに関する大規模調査データも収集されている。これら調査データを使っての学生諸君自身の研究への応用についても適宜アドバイスする。

授業内容：

本特論では、担当者が予め選定した論文のリーディング・リストに従い、毎週学生諸君が論文の内容について報告を行う。その後、担当者および学生報告者への質疑応答、そしてクラス全体での討論を行い、最後に講師が論文テーマおよび内容についてのまとめとして短い講義を行う。学期の終わりには、担当者が指示するテーマについてレポートを課すが、もし自分自身のテーマでレポートを書きたい場合は、それも可能である。

さらに、学生諸君が現在行っている（もしくは行うためのプロポーザルを作成中である）研究論文や学位論文についての報告も、ニーズがあれば実施する。担当者および他の学生諸君からの質問とコメントをもらい、クラス討論を行う。これによって、学会での報告および学位論文執筆の準備とすることが望まれる。

リーディング・リスト：

学期の最初に配布する。

## 社会・環境論特論

教授 細 田 衛 士

教授 大 沼 あゆみ

授業形態：春学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

本授業では、環境経済学の理論的基礎を講義する。環境経済学の理論としては、伝統的な新古典派のアプローチや新制度学のアプローチなど多様な分析手法がある。ここでは、環境経済学のテキストで既に定着しつつあるものを中心に講義を進める。

授業内容：

講義の流れは以下の通りである。尚、取り上げる内容には若干の変更もあり得る。

第 1 章 環境経済学の流れ

第 2 章 公共財としての環境

- 第3章 環境問題と所有権：制度学派的アプローチ
- 第4章 オープンアクセスと再生可能資源
- 第5章 再生不可能資源
- 第6章 課税政策
- 第7章 排出権売買制度
- 第8章 デポジット制度
- 第9章 コースの定理
- 第10章 廃棄物とリサイクル
- 第11章 汚染者支払原則
- 第12章 開発と環境保全

---

**社会・環境論特論**

---

教授 松村 高夫  
教授 矢野 久

授業形態：春学期2単位・合同講義

授業内容：

社会史は、「下からの歴史」を「上からの歴史」との関連において描くため、「総合の学」＝関連諸ディシプリンの援用をもってその方法的特長としている。講義とそれに続く討論を通じて、新しい論点の提起、方法的枠組の再構築を試行したい。読むべき文献は、そのテーマ毎に指示する。

成績評価方法は平常点（出席状況および授業態度による評価）とする。

---

**社会・環境論特論**

---

教授 松村 高夫  
教授 矢野 久

授業形態：秋学期2単位・合同講義

授業内容：

春学期参照

**演習科目**

---

**ミクロ経済学演習（均衡理論）**

---

教授 川又 邦雄  
教授 長名 寛明

授業形態：春学期2単位・合同演習

目標・意義・方法：

理論経済学の基本的問題に関する討論，研究報告を行う。修士課程で「ミクロ経済学」を履修済の学生，あるいはそれと同等の学力を有する者を対象とする。

授業内容：

博士論文の基礎となる文献についての要約，あるいは各人の博士論文の構想について報告し，出席者の意見をきく。さらに自分独自のまとまった論文について発表することが要請される。

リーディング・リスト：

- J. Tirole, *The Theory of Industrial Organization*, MIT Press, 1988
- D. Fudenberg and J. Tirole, *Game Theory*, MIT Press, 1991
- D. M. Kreps, *A Course in Microeconomic Theory*, Princeton University Press, 1990
- O. J. Blanchard and S. Fischer, *Lectures on Macroeconomics*, MIT Press, 1989
- G. M. Grossman and E. Helpman, *Innovation and Growth in the Global Economy*, MIT Press, 1991
- K. Arrow and M. D. Intriligator (eds.), *Handbook of Mathematical Economics*, North-Holland, Vol. II 1982, Vol. III 1986
- A. Mas-colell, M. D. Whinston and J. R. Green, *Microeconomic Theory*, Oxford U Press, 1995

---

**ミクロ経済学演習（均衡理論）**

---

教授 川又 邦雄  
教授 長名 寛明

授業形態：秋学期2単位・合同演習

目標・意義・方法 他：

春学期参照

---

**ミクロ経済学演習（ゲーム理論）**

---

教授 川又 邦雄  
教授 中山 幹夫

授業形態：春学期2単位・合同演習

目標・意義・方法：

ゲーム理論、ミクロ経済学とそれらの応用、とりわけ産業組織論についての特徴ある論文を輪読し、独自の研究成果をまとめる。

授業内容：

ミクロ経済学上級およびゲーム理論についての修士レベルの授業を履修していることを前提とする。

リーディング・リスト：

R. J. Aumann and S. Hart, *Handbook of Game Theory*, Vols. I, II and III.  
J. Tirole, *The Theory of Industrial Organization*, MIT Press, 1988

---

ミクロ経済学演習（ゲーム理論）

教授 川 又 邦 雄  
教授 中 山 幹 夫

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

春学期参照。

授業内容：

春学期参照。

リーディング・リスト：

R. J. Aumann and S. Hart, *Handbook of Game Theory*, Vols. I, II and III.  
J. Tirole, *The Theory of Industrial Organization*, MIT Press, 1988

---

ミクロ経済学演習（都市経済論）

教授 瀬 古 美 喜

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

市場メカニズムが都市においてどのように働いているのかという観点に立って、都市経済学の基礎的な理論モデルと実証研究について学ぶ。具体的には、理論的・実証的分析手法に基づいて各自が選んだ研究テーマに関する論文指導を行う。

リーディング・リスト：

Edwin S. Mills and Bruce W. Hamilton, *Urban Economics*, 5th edition, Scott, Foresman & Co., 1994  
J. V. Henderson, *Economic Theory and the Cities*, 2nd edition, Academic Press, 1985  
Denise DiPasquale and William C. Wheaton, *Urban Economics and Real Estate Markets*, Prentice Hall, 1996 (瀬古美喜・黒田達朗訳『都市と不動産の経済学』創文社, 2001年)

Peter Nijkamp and Edwin S. Mills, eds., *Handbook of Regional and Urban Economics*, Vol.1: Regional Economics, North-Holland and Elsevier Science Publisher, 1987

Peter Nijkamp and Edwin S. Mills, eds., *Handbook of Regional and Urban Economics*, Vol.2: Urban Economics, North-Holland and Elsevier Science Publisher, 1987

*Regional and Urban Economics*, Part 1, Part 2, Harwood and Academic Publishers

Masahisa Fujita, Paul Krugman and Anthony J. Venables, *The Spatial Economy*, MIT Press, 1999 (小出訳『空間経済学』東洋経済新報社)

M. Fujita and J-F Thisse, *Economics of Agglomeration*, Cambridge University Press, 2002

日本住宅総合センター『季刊・住宅土地経済』（各版）

中村良平・田淵隆俊著『都市と地域の経済学』日本評論社, 1996

瀬古美喜著『土地と住宅の経済分析』創文社, 1998

金本良嗣『都市経済学』東洋経済新報社, 1997

---

ミクロ経済学演習

教授 中 村 慎 助

授業形態：春学期 2 単位・演習

授業内容：

ミクロ経済学ならびにゲームの理論に関する基本的な文献の講読及び各自の論文報告を行う。詳細は開講時に指定する。

---

ミクロ経済学演習

教授 中 村 慎 助

授業形態：秋学期 2 単位・演習

授業内容：

ミクロ経済学ならびにゲームの理論に関する基本的な文献の講読及び各自の論文報告を行う。詳細は開講時に指定する。

---

マクロ経済学演習

教授 塩 澤 修 平  
名誉教授 大 山 道 廣

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

文献講読と論文指導

授業内容：

家計の貯蓄行動、企業の投資行動、さらには企業の

生産技術や労働，土地等の本源的生産要素の賦存量およびその効率が所与とされるような静態経済のマクロ均衡モデルを分析対象とする文献を展望し，学生の関心を考慮して幾つかの重要なトピックスを選び，関連文献を講読するとともに博士論文の作成を指導する。

**テキスト：**

特に指定しない。

**リーディング・リスト：**

適宜指示する。

---

**マクロ経済学演習**

---

教授 塩澤修平  
名誉教授 大 山 道 廣

**授業形態：**秋学期 2 単位・合同演習

**目標・意義・方法：**

文献講読と論文指導

**授業内容：**

企業の生産技術や労働，資本等の本源的生産要素の賦存量およびその効率が時間を通じて変化するような動態経済のマクロ均衡モデルを分析対象とする文献を展望し，学生の関心を考慮して幾つかの重要なトピックスを選び，関連文献を講読するとともに博士論文の作成を指導する。

**テキスト：**

特に指定しない。

**リーディング・リスト：**

適宜指示する。

---

**マクロ経済学演習**

---

教授 前多康男  
講師 酒井良清

**授業形態：**春学期 2 単位・合同演習

**目標・意義・方法：**

マクロ経済学に関する内外の論文を読み進むことにより，マクロ経済学で用いられているさまざまなフレームワークを理解することを目的とする。今年度は，経済の金融の側面をテーマとする。そのために，金融のミクロ経済学的な論文も，輪読の対象とする。秋学期開講の前多康男・酒井良清担当「マクロ経済学演習」と同時に履修することが望ましい。

成績は平常点により決定する。

**テキスト：**

教科書は使用しない。

**リーディング・リスト：**

授業中に適宜配付する。

---

**マクロ経済学演習**

---

教授 前多康男  
講師 酒井良清

**授業形態：**秋学期 2 単位・合同演習

**目標・意義・方法：**

マクロ経済学に関する内外の論文を読み進むことにより，マクロ経済学で用いられているさまざまなフレームワークを理解することを目的とする。今年度は，経済の金融の側面をテーマとする。そのために，金融のミクロ経済学的な論文も，輪読の対象とする。春学期開講の前多康男・酒井良清担当「マクロ経済学演習」と同時に履修することが望ましい。

成績は平常点により決定する。

**テキスト：**

教科書は使用しない。

**リーディング・リスト：**

授業中に適宜配付する。

---

**数理経済学演習 (I)**

---

教授 丸山 徹  
教授 須田 伸一  
商学部教授 小宮 英敏

**授業形態：**春学期 2 単位・合同演習

**目標・意義・方法：**

参加者による数理経済学上の新しい研究結果の報告ならびにそれをめぐる討論。塾内だけでなく塾外からも，経済学・数学両分野の専門家に参加を求め，研究の向上と視野の拡大に資したいと願っている。

**授業内容：**

とりわけ経済分析を支える解析学的方法を中心とするが，今年度の重点的テーマは次のとおりである。

- (I) 非線形動学と景気変動
- (II) 確率解析と金融資産価格の変動
- (III) 凸解析と変分法 (多価作用素の解析を含む。)
- (IV) 均衡分析の基本問題

「数理経済学演習 (II)」と併せて履修することが望ましい。

---

**数理経済学演習 (II)**

---

教授 丸山 徹  
教授 中村 慎助  
商学部教授 小宮 英敏

**授業形態：**秋学期 2 単位・合同演習

**目標・意義・方法：**

参加者による数理経済学上の新しい研究結果の報告

ならびにそれをめぐる討論。塾内だけでなく塾外からも、経済学・数学両分野の専門家に参加を求め、研究の向上と視野の拡大に資したいと願っている。

#### 授業内容：

とりわけ経済分析を支える解析学的方法を中心とするが、今年度の重点的テーマは次のとおりである。

- (I) 非線形動学と景気変動
- (II) 確率解析と金融資産価格の変動
- (III) 凸解析と変分法（多価作用素の解析を含む。）
- (IV) 均衡分析の基本問題

「数理経済学演習（I）」と併せて履修することが望ましい。

#### 経済数学演習

教授 須田 伸一

授業形態：春学期 2 単位・演習

#### 目標・意義・方法：

昨年度に引き続き、Guillemin and Pollack, *Differential Topology*, Prentice Hall, 1974（邦訳：ギルマン=ポラック『微分位相幾何学』現代数学社, 1998 年）をレポーター形式で輪読する。本書は微分位相幾何学の教科書であり、サルドの定理、横断性定理、指数定理など、近年の均衡理論でしばしば利用される数学的内容を含んでいる。時間が許せば、それらの定理が均衡理論の中でどのように利用されるかについても見ていきたい。

#### 経済数学演習

教授 須田 伸一

授業形態：秋学期 2 単位・演習

#### 目標・意義・方法：

春学期の続き。

Guillemin and Pollack, *Differential Topology*, Prentice Hall, 1974（邦訳：ギルマン=ポラック『微分位相幾何学』現代数学社, 1998 年）をレポーター形式で輪読する。本書は微分位相幾何学の教科書であり、サルドの定理、横断性定理、指数定理など、近年の均衡理論でしばしば利用される数学的内容を含んでいる。時間が許せば、それらの定理が均衡理論の中でどのように利用されるかについても見ていきたい。

#### 計量経済学演習

助教授 田 中 辰 雄

兼任教授 清 水 雅 彦

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

#### 目標・意義・方法：

本講義の目的は 2 つある。(1)GAUSS を使って計量経済学の基礎を学ぶこと、(2)情報通信産業に関する実証分析のペーパーを読み、自分の論文のテーマを見つけること、の 2 点である。順に説明する。

(1) ガウス(GAUSS)は行列演算が得意なソフトウェアであり、計量分析の推定プログラムが効率よく組める。たとえば、最小 2 乗法の推定値は  $b=(X'X)^{-1}X'y$  であるが、ガウスではこのままこの式をプログラム中に書けば良い。理論式がそのままプログラム中に現われるので、理論との対応関係が明瞭であり、理解に役立つ。コマンド一つで統計量をやまほど計算してくれる統計ソフトウェアと異なり、自分で理論内容を理解しないと利用できないが、その代り、推定の中身を自分で確認できるうえに、必要に応じて自分で推定方法を工夫できる利点がある。演習参加にあたっては、コンピュータプログラムの知識は必須ではないがあつた方が便利であろう。少なくとも厭わない覚悟は必要である。ただし、演習で行うのは入門から入って基本的なプログラムまでであり高度なことは行わない。それ以上の内容は学生の自習に期待する。

(2) 情報通信産業は近年、もっとも成長が著しく、また産業構造に大きな影響を与えている産業である。90 年代の日米逆転の一因もこの産業での成功・失敗にある。また理論的にもネットワーク外部性や収穫逓増、スイッチングコスト、ベンチャー型産業構造、コンテンツ産業での知的財産権訴訟など特徴的な現象が多く観察されており興味はつきない。しかし、経済学の目から見ると、どちらかといえば理論研究が先行し、実証研究は遅れている。たとえばマイクロソフト裁判はそれが端的に現われた例であり、訴訟にまでなっているにもかかわらず、結局有力な実証分析は経済学者から出されなかった。実証研究は不可能ではなく、努力さえすればテーマは多数見つけられる。そして、現象が新しいために若い院生諸君に比較優位がある。インターネット上で起こっている現象の実証などは、一定年齢上の人にはそもそもアイデアの点で難しいだろう。本講義ではいくつかの実証分析のペーパーを読みながら、学生諸君の論文のテーマを探していく。

ここで、(1)と(2)の関係は未定である。やり方としては一つの学期ではどちらかに特化して行い 1 年交代にする方法と、少々密度を下げて両方とも同時にやる方法がある。この点は演習参加者と相談して決めたい。なお、GAUSS プログラムのライセンスの関係上

(恐らくは関係ないと思われるが)履修数には上限がある。

---

### 計量経済学演習

---

教授 辻村和佑  
兼担教授 清水雅彦

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

#### 目標・意義・方法：

この計量経済学演習では、「経済発展過程における構造変化の実証理論分析」に関連した研究テーマに取り組んでいる大学院生を対象にして、各人の研究報告とそれに対する討論を行う。したがって、履修者は、どのような段階であれ自らの研究内容について報告することが義務づけられる。

上記の共通テーマに関連していえば、「経済発展」は、必ずしも発展途上国だけの問題ではない。アメリカをはじめ西ヨーロッパ諸国や最近の日本のように、先進工業国といわれる国々においても、新たな「経済発展」の在り方とその可能性が模索されている。経済発展に関する分析の歴史を振り返ってみると、意外なことに、経済発展に関する一般理論といえるものは、ほとんど見当たらない。このことは、一般理論の可能性を否定するものではないが、時間的にも空間的にもさまざま異なる条件をもつ経済社会に対して普遍的な経済発展の在り方を模索するという従来の分析視点あるいは分析の姿勢について、再検討する必要があることを示唆しているともいえる。他方、これまでの経験的分析によれば、どのような段階であれ、経済発展は現象形態として経済構造の変化を随伴すること、さらに発展過程における構造変化が経済成長と強く結び付いていることなどが、観測事実としての長期経済統計に基づいて指摘されている。しかし、これらの経験的事実をもってしても、「経済発展は、構造変化と経済成長が結び付いた経済社会の動態現象である」という蓋然的な指摘にとどまるといわざるをえない。この演習では、およそ以上のような分析状況を脱却するためにいかなる分析視点が必要かを議論しながら、履修者各人のテーマ毎に研究指導をすすめていく。なお、この演習は、春学期と秋学期に設置されており、履修者は 2 学期とも連続して履修することが望ましい。

#### リーディング・リスト：

参考文献等については、各人の報告と討論の際に取り上げる。

---

### 計量経済学演習

---

教授 辻村和佑  
兼担教授 清水雅彦

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

#### 目標・意義・方法：

この計量経済学演習では、「経済発展過程における構造変化の実証理論分析」に関連した研究テーマに取り組んでいる大学院生を対象にして、各人の研究報告とそれに対する討論を行う。したがって、履修者は、どのような段階であれ自らの研究内容について報告することが義務づけられる。

上記の共通テーマに関連していえば、「経済発展」は、必ずしも発展途上国だけの問題ではない。アメリカをはじめ西ヨーロッパ諸国や最近の日本のように、先進工業国といわれる国々においても、新たな「経済発展」の在り方とその可能性が模索されている。経済発展に関する分析の歴史を振り返ってみると、意外なことに、経済発展に関する一般理論といえるものは、ほとんど見当たらない。このことは、一般理論の可能性を否定するものではないが、時間的にも空間的にもさまざま異なる条件をもつ経済社会に対して普遍的な経済発展の在り方を模索するという従来の分析視点あるいは分析の姿勢について、再検討する必要があることを示唆しているともいえる。他方、これまでの経験的分析によれば、どのような段階であれ、経済発展は現象形態として経済構造の変化を随伴すること、さらに発展過程における構造変化が経済成長と強く結び付いていることなどが、観測事実としての長期経済統計に基づいて指摘されている。しかし、これらの経験的事実をもってしても、「経済発展は、構造変化と経済成長が結び付いた経済社会の動態現象である」という蓋然的な指摘にとどまるといわざるをえない。この演習では、およそ以上のような分析状況を脱却するためにいかなる分析視点が必要かを議論しながら、履修者各人のテーマ毎に研究指導をすすめていく。なお、この演習は、春学期と秋学期に設置されており、履修者は 2 学期とも連続して履修することが望ましい。

#### リーディング・リスト：

参考文献等については、各人の報告と討論の際に取り上げる。

---

### 計量経済学演習

---

教授 マッケンジー、コリン

授業形態：春学期 2 単位・演習

**目標・意義・方法：**

博士論文作成の指導・研究を行うこと，応用エコノメトリックスの知識を深めること，質の高い実証研究ができることや他人の実証分析を建設的に批判することを目的とする。

**授業内容：**

各学生が興味を持っている分野に関する文献を紹介し，その文献又は自分の論文について順番に報告してもらい，論文指導を行う。それ以外に，プロビット・ロジット・トービット等モデル，単位根・共和分分析，パネル・データ分析や非入れ子型検定という計量経済学の基礎となる推定・検定方法についての理論・実証論文を輪読する。

**テキスト：**

Wooldidge, J. M., *Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data*, 2002

**リーディング・リスト：**

開講時に配布する。

---

**計量経済学演習**

教授 マッケンジー，コリン

授業形態：秋学期 2 単位・演習

**目標・意義・方法：**

春学期に続き，博士論文作成の指導・研究を行うこと，応用エコノメトリックスの知識を深めること，質の高い実証研究ができることや他人の実証分析を建設的に批判することを目的とする。

**授業内容：**

各学生が興味を持っている分野に関する文献を紹介し，その文献又は自分の論文について順番に報告してもらい，論文指導を行う。それ以外に，プロビット・ロジット・トービット等モデル，単位根・共和分分析，パネル・データ分析や非入れ子型検定という計量経済学の基礎となる推定・検定方法についての理論・実証論文を輪読する。

**テキスト：**

Wooldidge, J. M., *Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data*, 2002

**リーディング・リスト：**

開講時に配布する。

---

**計量経済学演習**

教授 蓑谷 千風彦

授業形態：春学期 2 単位・演習

**目標・意義・方法：**

計量経済学の基礎的知識を復習した後で，金融データの統計分析とファイナンスの基礎となる数学へと進みたい。TSP を用いる。

**授業内容：**

1. 基礎的知識の復習
2. 正規性の検定
3. ランダム・ウォークとその検定
4. ランダム・ウォークからブラウン運動へ
5. ARIMA モデル
6. 伊藤積分
7. ブラック・ショールズモデル

**テキスト：**

1. 蓑谷千風彦『金融データの統計分析』東洋経済新報社
2. 蓑谷千風彦『よくわかるブラック・ショールズモデル』東洋経済新報社

**リーディング・リスト：**

開講時に紹介する。

---

**計量経済学演習**

教授 蓑谷 千風彦

授業形態：秋学期 2 単位・演習

**目標・意義・方法 他：**

春学期参照

---

**経済学史・思想史演習**

教授 池田 幸弘  
名誉教授 飯田 裕康

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

**目標・意義・方法：**

アダム・スミスの『国富論』を輪読する。スミス『国富論』の重要性についてはいまさら述べる必要がないほどである。経済学の始点となった著作であるばかりでなく，社会思想史上の古典でもある。また，現代の政策的な議論にあたって常にも参照されるべき著作だといっても過言ではない。今年度は，新しく出た杉山忠平訳を使いながら輪読をすすめていく。既存の邦訳との比較対照それ自体も試みてみたい。参加希望者は，水田洋監訳，杉田忠平訳『国富論(1)-(4)』岩波文庫を準備されたい。ときおり，参加者自身の研究テーマについて報告を求めることがある。

---

## 経済学史・思想史演習

---

教授 池田幸弘  
名誉教授 飯田裕康

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

春学期の続き。詳細については春学期の講義要綱を見られたい。

---

## 経済学史・思想史演習

---

教授 池田幸弘

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

近年、研究文献の増加が著しいフリードリッヒ・ハイエクの著作を輪読する。かつて、この思想家の著作は主として新自由主義的な視角から扱われてきたが、現在ではさまざまな角度から自由に議論されるようになってきている。まずは、ハイエクのテキストに内在して、厳格な読解を訓練することからはじめたい。参加者の積極的な討論に期待する。なお、初回にテキストの選択を含めて相談するので、参加希望者は必ず出席されたい。

授業内容：

輪読形式。もちろん、適宜担当者が解説を加える。

テキスト：

次のうちどちらかを選択したい。参加者の希望、関心も考慮した上、決定する。

Friedrich Hayek, *The Road to Serfdom*, Routledge and Kegan Paul, London, 1944

Ditto, *Constitution of Liberty*, Routledge and Kegan Paul, London, 1960

リーディング・リスト：

毎回の授業の際に指示する。

---

## 経済学史・思想史演習（日本社会経済思想史演習）

---

教授 小室正紀

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

履修者に、何らかの意味で日本の経済思想を視野に置いた研究発表を求めながら、論文作成指導を行う。なお、小室担当の「経済学史・思想史特論（日本社会経済思想史）」とあわせて履修することが望ましい。

---

## 経済学史・思想史演習

---

教授 坂本達哉

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

この授業の目標は、社会思想史研究の基本的方法を、文献解読、資料収集、論文執筆などの観点から身につけさせることである。授業は、履修者による研究発表を基本とするが、必要に応じて、最新の学術論文などを取り上げ、検討する。

---

## 経済学史・思想史演習

---

教授 高草木光一

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

サン＝シモンの思想を中心にして、18 世紀思想から 19 世紀思想への転換を考察する。

授業内容：

サン＝シモン『産業省の教理問答』をテキストにして輪読を行なう。参加者はリポーターの義務を負う。リポーターは、テキスト中の割り当てられた箇所の要約をつかった上で、参考文献を調べて問題点を整理する。

テキスト：

サン＝シモン（森博訳）『産業省の教理問答』岩波文庫

リーディング・リスト：

デュルケム（森博訳）『社会主義およびサン＝シモン』恒星社厚生閣

マニュエル（森博訳）『サン＝シモンの新世界』（上・下）恒星社厚生閣

シャルレティ（沢崎・小杉訳）『サン＝シモン主義の歴史』法政大学出版局

---

## 経済史演習

---

教授 杉山伸也

教授 古田和子

教授 柳沢遊

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

経済史を専攻する院生を主な対象とする共同セミナーである。春学期は、個別の研究発表と討論を行う。必要に応じて『社会経済史学の課題と展望』（有斐閣、2002 年）も参考にする。

成績は、授業での研究報告や討論への参加を考慮して総合的に評価する。

---

**経済史演習【経商連携 COE 科目】**

---

教授 杉山伸也  
教授 古田和子  
教授 柳沢遊  
商学部助教授 牛島利明

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

経商連携 COE プログラム「市場の質に関する理論形成とパネル実証分析」の歴史分析班による共同セミナーである。今年度は、テーマとして戦前・戦後における日本およびアジア諸地域の石炭産業に焦点をあて、基本的な研究文献を体系的にとりあげて報告と討論を行う。

成績評価は、授業での報告や討論への参加などを考慮に入れて、総合的に判断する。

---

**制度・政策論演習**

---

教授 池尾和人

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

一定のテーマを定めて、関連論文を輪読する。過去のテーマとしては、internal capital markets や law and finance, corporate governance などである。今年度のテーマに関しては、受講者と相談して決める。

---

**制度・政策論演習**

---

教授 池尾和人

授業形態：秋学期 2 単位・演習

授業内容：

春学期と同様に、一定のテーマを定めて、関連論文を輪読する。春学期と秋学期の演習は、それぞれ独立に受講可能である。

---

**制度・政策論演習**

---

教授 大村達弥

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

担当者が担当する「制度・政策論特論」の講義内容と関連したテーマを選択し、受講者の事情を考慮しつつ運営も一体で進める。ねらいは経済システムや産業構造の動きを踏まえ、法・政治システムとの関わりも含め学際的視点から現代の経済問題の検討を進めることにある。今年度の具体的内容としては、情報通信および関連産業における規制緩和とネットワークの発展が産業構造の変化を促している点に着目して、関連す

る経済規制改革、ネットワーク外部性、電子取引の理論的・実地的検討等を扱う予定である。なお 2003 年度で用いた文献は下記の通りであるが、今年度の教材については授業開始の時点で指定する。

De Bijl and Peitz, *Regulation and Entry into Telecommunications Markets*, Cambridge, 2002

---

**制度・政策論演習**

---

教授 大村達弥

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

春学期参照

---

**制度・政策論演習**

---

教授 島田晴雄

授業形態：春学期 2 単位・講義および演習

目標・意義・方法：

日本経済の制度と政策を中心とした研究テーマにつき、演習参加者の研究発表ならびに、各自の研究の発展を促進するための指導と助言を行う。

指導と助言は演習における発表時のみでなく、eメール等を通じて、必要に応じ、適時、密接に行う。

---

**制度・政策論演習**

---

教授 島田晴雄

授業形態：秋学期 2 単位・講義および演習

目標・意義・方法：

日本経済の制度と政策を中心とした研究テーマにつき、演習参加者の研究発表ならびに、各自の研究の発展を促進するための指導と助言を行う。

指導と助言は演習における発表時のみでなく、eメール等を通じて、必要に応じ、適時、密接に行う。

---

**制度・政策論演習【経商連携 COE 科目】**

---

教授 瀬古美喜

教授 木村福成

教授 マッケンジー, コリン

助教授 赤林英夫

助教授 土居文朗

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

公共経済学を中心とした理論経済学および応用理論経済学に関する参加者の研究報告ならびに討論を行う。

授業内容：

出席者は議論への積極的な参加が望まれる。履修者は、原則として自己の論文かまたは各自の関心分野の代表的な文献の内容を報告するものとする。

なお、定期的に学内外の専門家を招いての講演ならびに討論を行うことにより、セミナーの活性化をはかる予定である。

---

#### 制度・政策論演習【経商連携 COE 科目】

---

教授 瀬 古 美 喜  
教授 木 村 福 成  
教授 マッケンジー, コリン  
教授 若 杉 隆 平  
助教授 グレーヴァ 香子

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

#### 目標・意義・方法：

公共経済学を中心とした理論経済学および応用理論経済学に関する参加者の研究報告ならびに討論を行う。

#### 授業内容：

出席者は議論への積極的な参加が望まれる。履修者は、原則として自己の論文かまたは各自の関心分野の代表的な文献の内容を報告するものとする。

なお、定期的に学内外の専門家を招いての講演ならびに討論を行うことにより、セミナーの活性化をはかる予定である。

---

#### 制度・政策論演習

---

教授 寺 出 道 雄

授業形態：春学期 2 単位・演習

#### 目標・意義・方法：

この演習では、参加者の論文の作成にむけての報告を求めることの他、大きくは担当者が研究科における講義で取り上げる話題と関連した文献の講読をおこなう。

すなわち、環境と農業（林業・水産業を含む）の係わりについての問題と、資本主義の発展と農業の変化に係わる問題についての文献である。第 1 回目の授業で、いくつかの候補をあげて、受講者の関心にも応じてその後に輪読する文献を決定する。

---

#### 制度・政策論演習

---

教授 寺 出 道 雄

授業形態：秋学期 2 単位・演習

#### 目標・意義・方法：

この演習では、参加者の論文の作成にむけての報告

を求めることの他、大きくは担当者が研究科における講義で取り上げる話題と関連した文献の講読をおこなう。

すなわち、環境と農業（林業・水産業を含む）の係わりについての問題と、資本主義の発展と農業の変化に係わる問題についての文献である。第 1 回目の授業で、いくつかの候補をあげて、受講者の関心にも応じてその後に輪読する文献を決定する。

---

#### 制度・政策論演習

---

教授 中 澤 敏 明  
助教授 河 井 啓 希

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

#### 目標・意義・方法：

学生に論文のテーマを模索し、プレゼンテーションの練習をする場を提供することが主たる目的になっているが、博士課程の学生にはその蓄積された知見をもとにクラスの水準を高めることを期待したい。

産業組織論の領域を主たる対象として、この分野で行われてきた優れた研究論文を担当者・履修学生が選択し、学生が当該論文を解説する中で、研究系譜、研究者の着眼点・論理展開・データ所在・計量的手法などを学ぶ。個々の学生は、1 学期を通じて、ほぼテーマを決め、当該テーマの論文として優れていると定評のあるもの、それに準ずるもの、顕著に新規性のあるものなどを選ぶ。輪番で行う。

#### 授業内容：

産業組織論および計量経済学の学部レベルの知識をそなえていることがのぞましい。

#### テキスト：

テーマは、産業組織論の領域にかかわるものであれば基本的に自由である。しかし、他の履修者も予習する必要があるために、担当者が選択についてチェックする。可能なテーマを例示すると、

1. SCP Approach and New Empirical IO
2. Supply and Demand
3. Monopoly and Contestable Market
4. Cartel and Collusion
5. Product Differentiation
6. Market Power
7. Entry Dynamics
8. Price Discrimination
9. Innovation and R&D
10. Standards and Network Externality
11. Firm Structure and Incentives

- 12. Vertical Integration
- 13. Information and Advertising
- 14. Price Rigidity and Macro Economics
- 15. Optimal Regulation

昨年、選択された論文を、キーワードで例示すれば、Hedonic Price, Moral Hazard, Contract Duration, Advertisement, Market Power, Subcontracting, Executive Compensation, Merger, Technological Progress, Transaction Cost 等である。

---

**制度・政策論演習**

教授 中澤敏明  
助教授 河井啓希

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

学生に論文のテーマを模索し、プレゼンテーションの練習をする場を提供することが主たる目的になっているが、博士課程の学生にはその蓄積された知見をもとにクラスの水準を高めることを期待したい。

産業組織論の領域を主たる対象として、この分野で行われてきた優れた研究論文を担当者・履修学生が選択し、学生が当該論文を解説する中で、研究系譜、研究者の着眼点・論理展開・データ所在・計量的手法などを学ぶ。個々の学生は、1 学期を通じて、ほぼテーマを決め、当該テーマの論文として優れていると定評のあるもの、それに準ずるもの、顕著に新規性のあるものなどを選ぶ。輪番で行う。

授業内容：

産業組織論および計量経済学の学部レベルの知識をそなえていることがのぞましい。

テキスト：

テーマは、産業組織論の領域にかかわるものであれば基本的に自由である。しかし、他の履修者も予習する必要があるために、担当者が選択についてチェックする。可能なテーマを例示すると、

1. SCP Approach and New Empirical IO
2. Supply and Demand
3. Monopoly and Contestable Market
4. Cartel and Collusion
5. Product Differentiation
6. Market Power
7. Entry Dynamics
8. Price Discrimination
9. Innovation and R&D
10. Standards and Network Externality

- 11. Firm Structure and Incentives
- 12. Vertical Integration
- 13. Information and Advertising
- 14. Price Rigidity and Macro Economics
- 15. Optimal Regulation

昨年、選択された論文を、キーワードで例示すれば、Hedonic Price, Moral Hazard, Contract Duration, Advertisement, Market Power, Subcontracting, Executive Compensation, Merger, Technological Progress, Transaction Cost 等である。

---

**制度・政策論演習**

教授 山田太門

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

混合経済における政府の財政の役割を、経済学の枠組を抜け公共経済論の立場から検討する。国家の権限を民主主義システムの中で位置づけたり、制度としての行政のあり方なども研究の対象となる。市場経済と非市場経済の相互関係は最も重要な分析対象となり、通常の経済学の範囲からは与件とされる文化的背景などについても議論されよう。参加者は各自のテーマにしたがって論文作成をすすめ中間報告しなければならない。

---

**制度・政策論演習**

教授 山田太門

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

春学期参照

---

**制度・政策論演習**

教授 吉野直行

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

毎回、報告者を決め、(1)為替制度のあり方、(2)公共投資と大量国債発行、(3)銀行行動の実証分析、(4)中小企業金融機関の破綻に関する計量分析、(5)公的金融の経済分析などのテーマに従った演習を行う。修士論文や博士論文のテーマに基づいた研究報告を行い、関連文献や計量分析に関するコメントを行う予定。

---

**制度・政策論演習【経商連携 COE 科目】**

教授 吉野直行

授業形態：秋学期 2 単位・演習

**授業内容：**

幅広く財政・金融政策について、経済学部と商学部の教員が合同で大学院生の指導を行う。産業構造の変化に関する計量分析、日本の金融政策とインフレーション、雇用問題、公共投資の効率性の実証分析、国債市場・日本の債券市場、などのテーマについて、報告と質疑応答を行う予定。

---

**制度・政策論演習**

教授 吉野直人  
教授 池尾和人

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

博士課程に在籍で、金融に関連する論文を作成している学生、あるいは、金融に興味のある学生による論文発表と、関連論文に関する議論を行う。各学生は、必ず発表することが義務付けられる。博士課程の学生は各自の研究進捗中の論文に関する発表形式で演習を進める。論文報告に対する議論に参加し、幅広い金融の知識を身に付けることが望まれる。

---

**制度・政策論演習**

教授 渡辺幸男  
教授 北村洋基

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

現代資本主義ならびに日本経済は大きな曲がり角にある。今日の主要な現代資本主義論の日本経済論を政治経済学的方法によって理論的・批判的に再検討し、問題意識の涵養と理論的深化をめざす。今年度は主に日本の産業経済に焦点をあてる。

---

**制度・政策論演習**

教授 渡辺幸男  
教授 北村洋基

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

春学期参照

---

**国際経済論演習**

名誉教授 大山道廣

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

文献講読と論文指導

授業内容：

国際貿易論の理論的文献を展望・解説し、最近の重要トピックスをいくつか選んで、関連文献を講読するとともに学生自身による論文作成を指導する。

テキスト：

特に指定しない。

リーディング・リスト：

開講時に配布する。

---

**国際経済論演習**

名誉教授 大山道廣

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

文献講読と論文指導

授業内容：

国際金融論の理論的文献を展望・解説し、最近の重要トピックスについて関連文献を講読する。併せて学生自身による論文作成を指導する。

テキスト：

特に指定しない。

リーディング・リスト：

開講時に配布する。

---

**国際経済論演習**

教授 嘉治佐保子

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

博士論文の作成のための指導・研究を行うことを目的とする。

授業内容：

各学生の興味に応じて論文作成の参考となるような文献や自分の論文について、順番に報告してもらう。その報告についてのコメントや討論を通じて論文指導を行う。国際経済の分野でも、発展途上国経済や国際貿易の分野に興味のある学生には、この演習は適していない。国際マクロ経済学(Open macroeconomics)の分野で論文を書くことをめざす学生に適している。

---

**国際経済論演習**

教授 嘉治佐保子

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

春学期に続き、博士論文の作成のための指導・研究を行うことを目的とする。

授業内容：

各学生の興味に応じて論文作成の参考となるような

文献や自分の論文について、順番に報告してもらおう。その報告についてのコメントや討論を通じて論文指導を行う。国際経済の分野でも、発展途上国経済や国際貿易の分野に興味のある学生には、この演習は適していない。国際マクロ経済学(Open macroeconomics)の分野で論文を書くことをめざす学生に適している。

---

国際経済論演習 (1) 水曜日 4 時限 (2) 水曜日 5 時限

---

教授 櫻川昌哉

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

マクロ経済学・金融・国際経済に関する最新のテーマに触れる。最終的には論文を仕上げることを目標とする。

授業内容：

マクロ経済学・金融・国際経済に関する最新の学術論文を輪読する。2 コマ連続で行なうので履修者は注意されたい。金融のミクロ的構造とマクロ経済学の相互作用のメカニズムについて理解を深めることを念頭に置いた内容とする。この分野は理論だけやっても意味がないので実証の論文も適宜読む。

テキスト：

Blanchard and Fischer, *Lectures on Macroeconomics*, MIT Press

D. Romer, *Advanced Macroeconomics*, McGraw-Hill  
Freixas and Rochet, *Microeconomics of Banking*, MIT Press

Dewatripont and Tirole, *The Prudential Regulation of Bank*, MIT Press

櫻川昌哉『金融危機の経済分析』東京大学出版社

リーディング・リスト：

追って指示する。

---

国際経済論演習

---

教授 高梨和紘

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

基本的には、博士論文作成のための指導・研究を行うことを目標とする。

授業内容：

まず履修者それぞれの問題意識や意図する研究テーマ等について、全体的・個別的に指導を行った上で、それに資するリーディング・リストを与え、それに基づいて各自の研究を進めてもらい、隔月 1 回程度研究報告を課し、その報告をめぐって徹底的な討論や追加

指導を行う形で演習を進めたい。

テキスト、リーディング・リスト：

履修者のテーマ・問題意識に応じて、演習開始後指示、配付する。

---

国際経済論演習

---

教授 高梨和紘

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

基本的には、博士論文作成のための指導・研究を行うことを目標とする。

授業内容：

まず履修者それぞれの問題意識や意図する研究テーマ等について、全体的・個別的に指導を行った上で、それに資するリーディング・リストを与え、それに基づいて各自の研究を進めてもらい、隔月 1 回程度研究報告を課し、その報告をめぐって徹底的な討論や追加指導を行う形で演習を進めたい。

テキスト、リーディング・リスト：

履修者のテーマ・問題意識に応じて、演習開始後指示、配付する。

---

国際経済論演習

---

教授 竹森俊平

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

指定されたテキストの輪読を通じ、国際金融論の分析手法を学ぶが、その間に受講者の自分で選んだトピックについての報告を交え、また博士論文の指導をする。

テキスト：

M. Obstfeld and K. Rogoff, *Foundations of International Macroeconomics*, MIT Press

リーディング・リスト：

受講者の自発的な報告に関連のあるものを適宜指定する。

---

社会・環境論演習

---

教授 金子勝

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

産業社会にかかわる諸問題を、理論的制度的に考察する。

授業内容：

今年度は、日本における経済格差問題について考察

する。年金・介護・雇用問題など具体的問題を取り上げながら。

**テキスト：**

経済政策に関する文献を対象に、参加者と相談して決定する。

**リーディング・リスト：**

神野直彦・金子勝『「福祉政府」への提言』岩波書店

---

**社会・環境論演習**

教授 金子 勝

授業形態：秋学期 2 単位・演習

**目標・意義・方法：**

日本経済の現状と経済政策について、テキストを取り上げつつ議論する。

**授業内容：**

本年度は、つぎの 2 つのテーマを主に取り上げる予定である。一つは、財政赤字と財政政策にかかわる諸問題。いま一つは、不良債権問題と金融システムにかかわる諸問題である。この 2 つのテーマを具体的に考えつつ、マクロ経済学の理論的問題についても深めてゆきたい。

**テキスト：**

参加者と相談して決めたい。

金子勝『市場と制度の政治経済学』東大出版会

**リーディング・リスト：**

神野直彦・金子勝編『財政崩壊を食い止める』岩波書店

---

**社会・環境論演習（Ⅰ）**

教授 津谷 典子

助教授 赤林 英夫

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

**目標・意義・方法：**

本演習は（Ⅰ）（Ⅱ）の 2 つからなり、時間割上連続している。したがって、本演習を受講する学生は、（Ⅰ）と（Ⅱ）の両方を受講することが望ましい。（Ⅰ）では、計量分析モデルの説明や使い方などについての説明だけでなく、変数とは何か、データ収集のためのサンプリングのロジック、変数の構築の仕方など、社会調査法の基本についても解説する。また、本演習では、統計分析のためのソフトウェアとして STATA を用いるが、この統計分析ソフトについても、（Ⅰ）でそのロジックを説明する。次に（Ⅱ）では、その週の（Ⅰ）で説明・解説したトピックや分析モデルについて、STATA を用いて実際にデータ分析を行

う。この分析演習のためのデータは、人口学および労働経済学の分野のサーベイ調査の個票データを、加工して使用させる。また、多変量解析のためのフラット・ファイルの作り方についても手ほどきをする。さらに、学生個人の研究テーマに関して、分析モデルやデータの所在、および分析のためのファイルの作り方などについて適宜アドバイスする。学位論文を執筆中、もしくはそのためのプロポーザルを準備中の学生諸君の受講を特に歓迎する。

**授業内容：**

本演習で扱う多変量解析モデルは、Linear causal models と呼ばれるモデルを中心とした以下のものである。

- (1) Ordinary least-square multiple regression model
- (2) Binary logit/probit model
- (3) Multinomial logistic regression model
- (4) Ordered logit/probit model
- (5) Cox proportional hazard model
- (6) Time-dependent hazard model

**テキスト：**

STATA Statistical Software Release 8 User's Guide & Reference Manual

**リーディング・リスト：**

- (1) Babbie, Earl B. *The Practice of Social Research*, 6th Edition, Wadsworth Publishing
- (2) Greene, William H. *Econometric Analysis*, 4th Edition, Prentice Hall
- (3) Retherford, Robert R. and Minja Kim Choe. *Statistical Models for Causal Analysis*, John Wiley & Sons.

---

**社会・環境論演習（Ⅱ）**

教授 津谷 典子

助教授 赤林 英夫

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

**目標・意義・方法：**

「社会・環境論演習（Ⅰ）」参照

---

**社会・環境論演習（生活環境の社会史）**

教授 友部 謙一

助教授 鈴木 晃仁

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

**目標・意義・方法：**

「生活水準」は社会経済史の伝統的な課題である。しかし、それを世帯の問題としてとらえ、さらにそこ

での世帯員のバーゲニングパワーがかれらの各個人の「生活水準」を決定しているという分析フレームワークで考えると、再度エキサイティングな問題としてよみがえる。歴史の中の「生活水準」とは、すなわち各個人の生活環境そのものを再構築することに他ならない。とくに、本演習では母親と乳幼児の生活環境に着目していきたい。

#### 授業内容：

本演習は友部と鈴木の合同演習である。演習であるからには、年度末には受講生は各自研究報告書を提出することになる。そのために、まず「生活環境」の範囲を比較的広く考え、18世紀から20世紀前半にかけての医療・疾病・衛生・保健・人口・家族に関する基本的な文献をヨーロッパ（鈴木）と日本（友部）について講読・議論する。つぎに、各自のテーマを尊重しつつ、「生活環境の社会史」に関する共同のデータベースを構築していく（データベースの作成については演習時に指示する）。とくに、本年度は日本の各機関に所蔵されている20世紀前半の日本農村における母性と乳幼児の生活環境に関する資（史）料の収集と分類に力を入れていきたい。つまり、本年度はそのことに関する本格的な分析を進めていくための「体力」を蓄える時期として位置付けたい。

#### テキスト：

最初の時間に演習予定表とシラバスを各担当者が配布する。

#### リーディング・リスト：

最初の時間に演習予定表とシラバスを各担当者が配布する。

#### 社会・環境論演習（生活環境の社会史）

教授 友部 謙一  
助教授 鈴木 晃仁

授業形態：秋学期2単位・合同演習

#### 目標・意義・方法：

「生活水準」は社会経済史の伝統的な課題である。しかし、それを世帯の問題としてとらえ、さらにそこでの世帯員のバーゲニングパワーがかれらの各個人の「生活水準」を決定しているという分析フレームワークで考えると、再度エキサイティングな問題としてよみがえる。歴史の中の「生活水準」とは、すなわち各個人の生活環境そのものを再構築することに他ならない。とくに、本演習では母親と乳幼児の生活環境に着目していきたい。

#### 授業内容：

本演習は友部と鈴木の合同演習である。演習であるからには、年度末には受講生は各自研究報告書を提出することになる。そのために、まず「生活環境」の範囲を比較的広く考え、18世紀から20世紀前半にかけての医療・疾病・衛生・保健・人口・家族に関する基本的な文献をヨーロッパ（鈴木）と日本（友部）について講読・議論する。つぎに、各自のテーマを尊重しつつ、「生活環境の社会史」に関する共同のデータベースを構築していく（データベースの作成については演習時に指示する）。とくに、本年度は日本の各機関に所蔵されている20世紀前半の日本農村における母性と乳幼児の生活環境に関する資（史）料の収集と分類に力を入れていきたい。つまり、本年度はそのことに関する本格的な分析を進めていくための「体力」を蓄える時期として位置付けたい。

#### テキスト：

最初の時間に演習予定表とシラバスを各担当者が配布する。

#### リーディング・リスト：

最初の時間に演習予定表とシラバスを各担当者が配布する。

#### 社会・環境論演習

教授 細田 衛士  
教授 大沼 あゆみ

授業形態：秋学期2単位・合同演習

#### 目標・意義・方法：

本演習においては、環境経済論の理解を促進し、より発展した水準の内容にまで到達できるようにすることを目的とする。

#### 授業内容：

まず初めに、環境経済学の理論内容を深めるために次の内容にしたがって、原著論文を中心に読む。

1. 所有権とオープンアクセス問題。ここではオープンアクセスにとまなう共有地の悲劇問題を中心に、共有地のルール形成と機能、囲い込み問題などを扱う。また、権利の配分問題も関係してくるのでコースの定理などもここで取り上げる。
2. 環境経済学における投入産出分析。LCAや現実の政策での汚染物質のコントロールにおいては投入産出分析が用いられることが多い。そこで、環境経済学の理論で用いられる投入産出分析モデルの典型例を取り上げ、理論構造を解明する。
3. 成長経済下における廃棄物排出の理論分析。経済成長モデルのなかで、廃棄物の抑制問題を取り扱

う。マクロ経済学のなかでは、環境制約が取り上げられる機会は少ない。新古典派経済成長モデル、およびハロッドの経済成長モデルに環境制約を取り入れたモデルを取り上げて、環境制約と経済成長の対抗関係を分析する。

4. 汚染の動的コントロールの問題。経済動学のなかに汚染物排出抑制のコントロール問題を導入し、最適汚染の分析を行う。経済厚生を最大化問題の観点から排出抑制問題を考える。
5. 再生可能資源と枯渇資源の問題。漁業資源等を例として、持続可能な資源利用のモデル分析を行う。また、ホテリングタイプの枯渇性資源の問題も扱い、最適供給問題を考える。
6. 環境税と排出権売買の理論分析。ミクロ、マクロ双方の観点から排出権売買の経済効果、環境保全効果を分析する。特に、いわゆる共同実施と排出権売買の関係性を解明することによって、排出権売買のバリエーションの実現可能性を取り上げる。
7. 貿易と環境の理論分析。比較優位原理に基づいた環境と貿易のモデル、ヘクシャー=オリンに基づいたモデル、また最近のゲーム論的なモデルを取り上げ、国際貿易と環境保全の関係を分析する。またポリューションヘイブン（汚染逃避地）の理論的可能性についても論じる。
8. 物質循環論による分析。生態系と経済系を2つの相互依存系として捕らえた理論モデルを取り上げ、物質循環の構造を経済学的な立場から解明する。そして、2つの系の持続可能性を理論的に定式化する。

#### リーディング・リスト：

授業中にリストを配布する。

(注意) この他、定期的な研究会に出席し、報告することが義務づけられる。

---

#### 社会・環境論演習

教授 松村 高夫  
教授 矢野 久  
教授 金子 勝

授業形態：春学期2単位・合同演習

授業内容：

社会史とは、人間社会を経済のみならず、政治・社会・文化などさまざまな側面からなる全体ととらえる研究方法である。この全体としての人間社会に接近する方法も、経済学のみならず、政治学・社会学・人類

学など隣接する人間諸学科を包含したものである。社会史は、具体的・歴史的な事象を細部にわたり分析すると同時に、絶えず新しい領域を開拓し、新しい方法論的枠組を創りだすことにある。その意味で、固定した方法・領域をもたない。

報告と討論を重ねていく。担当者の専門には限定されないような仕方で運営していきたい。活発な議論を通して参加者各自の研究が刺激されるよう配慮していきたい。

成績評価方法は平常点（出席状況および授業態度による評価）とする。

---

#### 社会・環境論演習

教授 松村 高夫  
教授 矢野 久  
教授 金子 勝

授業形態：秋学期2単位・合同演習

授業内容：

春学期参照

---

#### 社会・環境論演習（環境政策）

教授 山口 光恒

授業形態：春学期2単位・演習

目標・意義・方法：

年間を通して行う演習の春期分。春学期・秋学期連続した内容となっているので極力年間を通した履修が望ましい。

本演習は環境政策オリエンテッドな内容である。現在国際的に流動的な環境問題を最新且つオリジナルな資料によりながら研究し、日本或いは世界がどうしたらよいかにつき演習形式で進める。

授業内容：

今年度は春秋とも温暖化問題に集中する。講義内容は履修者の知識を見て決める。気候変動枠組条約や京都議定書の理解を前提に、議定書目標達成の為の日、EU、米の政策を学び論議する。EUについては、2004年4月迄には部門別CO<sub>2</sub>排出配分を決めるNational Allocation Planが公にされる予定であり、このPlanと域内排出権取引の関係も取り上げるつもりである。また費用・便益分払と割引率の考え方の温暖化対策への適用についても考察を深める。

テキスト：

*Preparing for Implementation of the Kyoto Protocol, May 1999, European Commission*  
*EU Proposal for a Directive, Framework for*

## プロジェクト科目

## プロジェクト

本年度休講

*Greenhouse Gas Emission Trading*, 2003  
*The Progress of the Netherlands climate change policy*, 2002  
*US climate change strategy, a new approach*, 2001  
 Edited by W. D. Nordhaus, “*Economics and Policy Issues in climate change*” Resources for the future, 1998

リーディング・リスト：

適宜支持する。

---

 社会・環境論演習（環境政策）
 

---

教授 山口 光 恒

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

年間を通して行う演習の秋期分。春学期・秋学期連続した内容となっているので極力年間を通した履修が望ましい。

本演習は、環境政策オリエンテッドな内容である。現在国際的に流動的な環境問題を最新且つオリジナルな資料によりながら研究し、日本或いは世界がどうしたらよいかにつき演習形式で進める。

授業内容：

秋学期は温暖化に関する国内対策を中心に取り上げる。具体的には日本政府のこれまでの対応をレビューした上で、炭素税導入の是非、国内排出権取引の可能性と限界、温暖化対策推進大綱の見直しなどにつき議論する。

次いで各種文献を基に、京都議定書以降の米国及び途上国が参加する新たなレジームの検討を行う。さらに時間の余裕があれば、日中環境協力の具体的可能性についても議論したい。

テキスト：

国内対策については、

D. G. Victor, *The Collapse of the Kyoto Protocol*, Princeton University Press, 2001

Edited by K. A. Baumert, *Options for protecting the climate*, World Resources Institute, 2002

“*Beyond Kyoto, Energy Dynamics and Climate Stabilization*”, International Energy Agency, 2002  
 など。

リーディングリスト：

都度指示する。

## 慶應義塾大学 夏季在外研修プログラム

慶應義塾大学 — ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座

The Keio University College of William & Mary Cross-Cultural Collaboration

柏崎 千佳子 経済学部助教授

大串 尚代 文学部助手

### 授業科目の内容：

慶應義塾大学では、「慶應義塾大学 — ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座」を夏季休業期間に開講します。ウィリアム・アンド・メアリー大学（所在地：東海岸ヴァージニア州ウィリアムズバーグ）は、教育・研究で高い評価を得ている州立大学です。創立は1693年で、アメリカではハーバード大学について古い歴史を誇っています。

本講座は、毎年定められるテーマ（2004年度は“American Dreams: Lost and Found”）に沿った講義、グループワーク、フィールドワーク、インタビュー、プレゼンテーション等で構成されています。現地では、大学内での寮生活や、ボランティアワーク、住民との交流、講演会、ホームステイ等を通じ、さまざまな異文化交流が体験できるように工夫されています。短期間に質の高い充実した内容が盛り込まれていますので、アメリカでの生活体験をしたい方、語学力向上を期待する方、将来長期の留学を考えている方などにとって、ふさわしい講座といえるでしょう。現地研修には本学の教職員が同行します。また、ビデオ会議などを含めた事前・事後研修を、日吉キャンパスで実施します。

なお、この講座は、自然災害、戦争・テロ災害、航空機等交通機関にかかわる事故ならびに前期以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する可能性があることをあらかじめご了承ください。詳しくは、国際センター作成の募集要項やホームページ等を参照してください。

### 教科書：

特にありませんが、研修に参加するにあたり必要と思われる文献・資料は事前研修の際にお知らせします。

### 授業の計画：

現地研修期間：2004年7月30日（金）～8月19日（木）

4月下旬より事前研修（6回程度）、また、帰国後には事後研修（2回程度）を行います。

研修内容：ウィリアム・アンド・メアリー大学教員による講義および質疑応答、ダイアローグクラス、ウィリアム・アンド・メアリー大生をまじえてのグループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション、ワシントン DC 近郊の家庭でのホームステイなど。

### 参加申し込みについて：

- (1) 募集人数：40名（提出書類により選考を行います。）
- (2) 募集対象：全学部・研究科正規生（ただし通信教育部をのぞく）
- (3) 提出書類：①参加申込書（所定用紙）、②学習計画書（日本語及び英語。各A4一枚程度）、③最新の学業成績表のコピー（3月中旬に保証人宛に送付されるもの）、④あれば英語能力証明書のコピー（TOEFL, TOEIC, 各種英語検定など）、⑤RESEARCH PROPOSAL（所定用紙）書類選考後、グループ分けの時に利用します。
- (4) 募集期間：4月7日（水）～4月15日（木）各地区国際センター（※窓口時間終了後の提出は一切受け付けません。）
- (5) 募集ガイダンス：4月5日（月）三田133番教室 13:00～14:30  
4月5日（月）SFC Ω12教室 17:00～18:30  
4月6日（火）矢上 14-201教室 13:00～14:30  
4月6日（火）日吉 J11教室 17:00～18:30
- (6) 選考結果発表：4月28日（水）13:00（予定）

### 履修者へのコメント：

This program gives you a rare opportunity to stay at a prestigious American college and to work closely with its staff members. We welcome highly motivated students.（柏崎 千佳子 経済学部助教授）

### 成績評価方法：

事前・事後研修の出席、中間発表、現地研修期間中の活動、Final Presentation、日本帰国後のFinal Reportにより採点します。

### 質問・相談：

問い合わせ先：三田国際センター URL <http://www.ic.keio.ac.jp/j-index.html> 「塾生向け海外留学情報」のページをご覧ください。

前野 隆 司 理工学部助教授  
池田 幸 弘 経済学部教授

### 授業科目の内容：

慶應義塾大学では、「慶應義塾大学—ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座」を夏季休業期間中、英国・ケンブリッジにおいて開講します。ケンブリッジ大学は、オックスフォード大学と並ぶ英国の名門校で、美しいキャンパスは勉学に最適な環境にあります。授業は英語による講義およびディスカッションを中心としており、講義は原則としてケンブリッジ大学の教員が担当します。講座期間中は、専門分野の知識を深めるだけでなく、ダウニングコレッジ内での寮生活や、ケンブリッジ大生が企画する様々なアクティビティを通して、現地の学生との交流も体験できます。このように本講座は、国際性豊かな学生を育成することを目的としています。現地研修には本学の教職員が同行します。また、現地への出発前に、事前研修を3回程度三田キャンパスで実施する予定です。

なお、この講座は、自然災害、戦争・テロ災害、航空機等交通機関にかかわる事故ならびに前期以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する可能性があることをあらかじめご了承ください。詳しくは国際センター作成の募集要項やホームページ等を参照してください。

### 教科書：

現地での開講科目の参考文献を、国際センター作成の募集要項に記載しています。また、事前研修時にリストにして配布します。

### 授業の計画：

現地研修期間：2004年8月9日（月）～9月8日（水）

5月～7月に三田キャンパスにて事前研修を3回程度行います。

講義日程：第1週：8月10日（火）～8月16日（月）

Placement Interviews, English & writing preparation classes

第2週：8月17日（火）～8月23日（月）

Acient Greece and Western Civilization および Genethics: ethical issues arising from developments in genetics

第3週：8月24日（火）～8月30日（月）

Society and Politics in Contemporary Britain および The Science of Chaos

第4週：8月31日（火）～9月6日（月）

English Literature および Astronomy: Unveiling the Universe

9月7日（火） Closing ceremony

第2週から第4週までは、各週2科目ずつ用意された授業の内1科目を選択、合計3科目を選択履修。

※ 各科目とも定員が30名のため、事前に参加者の希望をもとに履修調整を行います。

※ 開講科目は事情により変更されることがあります。

研修内容：ケンブリッジ大学の教員による講義及び質疑応答（午前）

ケンブリッジ大生 (TA: Teaching Assistant) を交えてのディスカッション（午後）。エッセイ作成・提出。

参加申し込みについて：

- (1) 募集人数：60名（提出書類により選考を行います。）
- (2) 募集対象：全学部・研究科正規生（ただし通信教育部をのぞく）
- (3) 提出書類：①参加申込書（所定用紙）、②学習計画書（日本語及び英語。各A4一枚程度）、③最新の学業成績表のコピー（3月中旬に保証人宛に送付されるもの）、④あれば英語能力証明書のコピー（TOEFL, TOEIC, 各種英語検定など）、⑤履修希望科目申告表（所定用紙）
- (4) 募集期間：4月7日（水）～4月15日（木） 各地区国際センター（※窓口時間終了後の提出は一切受け付けません。）
- (5) 募集ガイダンス： 4月5日（月）三田133番教室 13:00～14:30  
4月5日（月）SFC Ω12教室 17:00～18:30  
4月6日（火）矢上 14-201教室 13:00～14:30  
4月6日（火）日吉 J11教室 17:00～18:30
- (6) 選考結果発表： 4月28日（水）13:00～14:30（予定）

### 履修者へのコメント：

私もかつて、カリフォルニア大、ハーバード大に留学したことがあります。国際経験は、世界観・人生観を1次元から2次元へ（線から面へ）広げることのできるすばらしい経験です。大いに学び、大いに楽しみましょう。（前野 隆司 理工学部助教授）

これからの若い人たちには、海外で職探しをするくらい気合を期待したいと思います。本プログラムは、イギリスの文化や制度を知るためにも、また日本を見直すための一助となるものと信じます。Good Luck!（池田 幸弘 経済学部教授）

### 成績評価方法：

現地でのエッセイの評価をもとに行います。

### 質問・相談：

問い合わせ先：三田国際センター URL <http://www.ic.keio.ac.jp/j-index.html> 「塾生向け海外留学情報」のページをご覧ください。

## 国際センター設置講座

国際研究講座ならびに日本研究講座受講希望者へ

国際センターでは、外国および日本の文化や社会、国際関係を理解するための英語による講座を開講しています。本年度国際研究講座で取り扱う国／地域は、米国、カナダ、オーストラリア、東南アジア、ラテンアメリカにおよび、EU関係の講座も開講します。一方日本研究講座では、経済、産業、文学、芸術、マスコミなど幅広い側面から日本を探求します。

なお、本講座の履修単位の取り扱いは各学部・研究科により異なりますので、履修申告の際には履修単位の取り扱いを必ず確認してください。

### 1. 対象

#### 1) 外国研究講座

本塾大学学部生ならびに大学院生

#### 2) 日本研究講座

本塾大学に在籍する外国人留学生を対象としていますが、日本人学生の受講も奨励しています。海外からの外国人留学生と共に英語で学ぶ授業としてユニークなものであり、学問を通しての国際交流の場として日本人学生の積極的な参加を歓迎します。

### 2. 手続方法

学事センターで所定の履修申告をしてください。国際センターに出向く必要はありません。 学部・大学院が設置主体の科目については、学部・大学院の登録番号を使用して登録手続きをしてください。

所属する学部・研究科で履修対象とならない科目については、三田、日吉の国際センターにある所定の用紙に必要事項を記入し、次の手続期間内に国際センターに直接申し込んでください。

国際センター受付期間：

春学期開講科目 4月15日(木)～21日(水) 10:00～16:00

秋学期開講科目 10月2日(土)～8日(金) 10:00～16:00

\* いずれも日吉は10:00～11:30、12:30～16:00

\* 土曜日は10:00～11:30、12:30～14:00

### 3. 受講料

無料です。

### 4. 掲示

休講などの連絡事項は、三田西校舎国際センター掲示板(日吉では第四校舎・藤山記念館の国際センター掲示板、学事センターの共通掲示板)に掲示されます。

---

異文化研究:文化、価値と自己理解	(2単位) (春 火3)
CULTURE AND THE UNCONSCIOUS: LOOKING FOR THE HIDDEN ROOTS OF CULTURAL DIFFERENCE	(2 Credits) (Spring Tue 3)
ショールズ, ジョセフ 国際センター講師(立教大学助教授)	
Joseph Shaules Lecturer International Center (Associate Professor, Rikkyo University)	

---

Course Description:

Culture has two sides, a visible side – food, clothing, architecture – and a hidden side of unconscious beliefs, values and assumptions. In this course we will learn the story of the discovery of hidden culture. We will explore culture's unconscious influence over us, and see how hidden cultural difference creates conflict in relationships and communication. This will involve learning hidden patterns of cultural difference related to things like: time, personal space, cooperation, independence, fairness, equality, emotion. Students will discuss their intercultural experiences, share their opinions and give presentations. The ultimate goal of this course is a deeper self-understanding.

Text Book:

Handouts to be supplied by the teacher.

Recommended Readings:

Different Realities – Adventures in intercultural communication, by Shaules & Abe, published by Nan'un-do.  
Riding the Waves of Culture, by Trompenaars and Hampden-Turner, published by McGraw Hill

Class Schedule (Subject to change):

1. Class introduction
2. The discovery of hidden culture – Mead, Sapir & Whorf, Hall
3. A model of hidden culture – The onion model.
4. Student presentations
5. Cultural in human relations – independence and cooperation
6. Culture, emotion and self-expression – How we show feelings
7. Culture and status – Who is important and why?
8. Student presentations
9. Culture and gender – Gender separate vs. gender similar
10. Different modes of time – polychronic and monochronic
11. Student presentations
12. Final class

Message to those taking this Course:

This course is designed for students who have an interest in understanding people. An important part of our identity and values comes from how we were raised – in particular, the hidden values and assumptions of our culture. To understand this hidden side of ourselves, we must examine not only cultural difference, but our own personality. There will be lectures, discussion, and students presentations.

Evaluation:

Grades will be based on attendance, in-class presentations and a short final exam.

---

世界政治におけるラテンアメリカ	(2単位) (春 火5)
LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS	(2 Credits) (Spring Tue 5)
アントリネス, マリオ 国際センター講師	
Mario Antolinez Lecturer, International Center	

---

Course Description:

The countries of Latin America and the Caribbean form a vast and complex part of the Western Hemisphere. Although the strategic geopolitical relevance of the region has been recognized, Latin American values and attitudes regarding politics, business and life in general remain profoundly misunderstood, if not totally unknown by many. Not surprisingly, what people think they know about the region is based on unfair stereotypes and generalizations generated by some dramatic event covered by the world media.

Thus, the main objective of this course is to foster a greater understanding of the region's realities. The

course is designed as a multidisciplinary study focusing on Latin American politics, economics and foreign policy, and it is divided in two parts. Part I deals with the main features of Latin America as a region, while Part II consists mainly of a country-by-country approach.

Text Book:

Hillman Richard, "Understanding Contemporary Latin America". Lynne Rienner Publishers, 2001.

Recommended Readings:

Atkins Pope, "Latin America in the International Political System". Westview Press, 1995.  
Black Knippers Jan, "Latin America: Its Problems and Its Promise". Westview Press, 1998.  
Calvert Peter, "The International Politics of Latin America". Manchester University Press, 1994.  
Cortes Roberto, "The Latin American Economies". Holmes & Meir, 1985.  
Child Jack, "Geopolitics and Conflict in South America". Praeger, 1985.  
Lael Richard, "Arrogant Diplomacy". Scholarly Resources, 1987.  
Levine Donrel, "Religion and Politics in Latin America". Princeton University Press, 1981.  
Lowenthal Abraham, "Partners in Conflict: The United States and Latin America". Johns Hopkins University Press, 1990.  
Molineu Harold, "U.S Policy toward Latin America: From Regionalism to Globalism", Westview Press, 1990.  
Peeler John, "Latin American Democracies". University of North Carolina Press, 1983.  
Rosenberg Mark, "Americas: An Anthology". Oxford University Press, 1992.  
Smith Peter, "Modern Latin America". Oxford University Press, 1997.  
Tokatlian Juan, "Teoria y Practica de la Politica Exterior Latinoamericana", 1983.  
Wesson Robert, "U.S. Influence in Latin American in the 1980's. Praeger.

Class Schedule (Subject to change):

PART I

Session 1: Introduction  
Session 2: The Actors  
Session 3: The Inter-American System  
Session 4: Latin American Integration and Association  
Session 5: Economic Outlook  
Session 6: International Relations  
Session 7: Latin America and the United States

PART II

Session 8: Mexico and Brazil: The Regional Giants  
Session 9: Cuba: The Socialist Way  
Session 10: The Andean Region: Breakdown and Recovery  
Session 11: The Southern Cone: Authoritarianism and Democracy  
Session 12: Central America: Dictatorship and Revolution  
The Caribbean: Colonies and Micro-states  
Session 13: Final Exam

Evaluation:

The course is organized as a combination of lecture and seminar, and will be conducted in English. Performance will be evaluated on the basis of attendance (30%), class participation (20%), oral presentation (20%) and a final exam (30%).

---

国際人権法

(2単位) (春 火5)

INTERNATIONAL HUMAN RIGHTS LAW: ISSUES, PROCEDURES, AND  
ADVOCACY, STRATEGIES REGARDING THE PROMOTION AND  
PROTECTION OF HUMAN RIGHTS WORLDWIDE

(2 Credits) (Spring Tue 5)

細谷明子

国際センター講師

Akiko Hosotani

Lecturer International Center

---

Course Description:

Students will study five different aspects of international human rights including:

1. Procedures for implementing international human rights involving state reporting to treaty bodies; individual complaints; thematic, country rapporteurs, and other U.N. emergency procedures for dealing with gross violations; humanitarian intervention; criminal prosecution and procedures for compensating victims; diplomatic intervention; state v. state complaints; litigation in domestic courts; the work of nongovernmental organizations; etc.
2. Major international institutions including the human rights treaty bodies; the U.N. Commission on Human Rights and its Sub-Commission on the Promotion and Protection of Human Rights; the U.N. Security Council; international criminal tribunals; the International Criminal Court; U.N. field operations authorized by the U.N. Security Council or under the authority of the U.N. High Commissioner for Human Rights; the Inter-American Commission on and Court of Human Rights; the European Court of Human Rights and other parts of the European human rights system; the U.N. High Commissioner for Refugees; and the International Labor Organization
3. Human rights situations in various countries such as South Africa, Iran, Myanmar, East Timor, Kosovo, Cambodia, former Yugoslavia, the Democratic Republic of Congo, Japan, the United States, Europe, Sudan, Ghana, and India
4. Substantive human rights problems related to the rights of the child, economic rights, the right to development, torture and other ill-treatment, minority rights, the right to a free and fair election, human rights in armed conflict, crimes against humanity, arbitrary killing, indigenous rights, self-determination, discrimination against women, the rights of refugees, etc.
5. Learning methods such as advising a client, role-playing, the dialogue methods, drafting, and advocacy in litigation

Text Book:

David Weissbrodt, Joan Fitzpatrick, and Frank Newman, International Human Rights: Law, Policy and Process (3<sup>rd</sup> ed. 2001) and supplement Selected International Human Rights Instruments and Bibliography for Research on International Human Rights Law

Class Schedule (Subject to change):

Assignments are listed below as to each class session:

- Apr. 13: Preface and Chapter 1: Introduction to International Human Rights Law and Drafting Human Rights Treaties
- Apr. 20: Chapter 4: Ratification and Implementation of Treaties; the Covenant on Economic, Social, and Cultural Rights
- Apr. 27: Chapter 5: State Reporting under International Human Rights Treaties; Cultural Relativism
- May 11: Chapter 6: What U.N. Charter-Based Procedures are Available for Violation of Human Rights?
- May 18: Chapter 7: Humanitarian Intervention
- May 25: Chapter 8: Can Human Rights Violation Be Held Accountable?; ad hoc Tribunal for the former Yugoslavia, or; Documentary, Long Night's Journey into Day (South African Truth Commission)
- June 2: Chapter 9: International Human Rights Fact-Finding  
Lecture: Professor David Weissbrodt, the Rights of Non-Citizens (tentative)
- June 9: Chapter 10: How Can the Government Influence Respect for Human Rights in Other Countries?  
Lecture: Professor David Weissbrodt, Transnational Corporations and Human Rights Norms for Business (tentative)
- June 15: Chapter 11: Inter-American Human Rights System; the Organization of African Unity
- June 22: Chapter 12: European Human Rights System
- June 29: Chapter 13: Domestic Remedies for Human Rights Violations; Enforcing International Human Rights in Japan's Courts, Legislature and Administration
- July 6: Chapter 15: Refugee and Asylum Law; Jurisprudence of Human Rights; Cultural Relativism
- July 13: Questions & Answers for reviewing the exam

Message to those Taking the Course:

The class encourages students to analyze case situation and to evaluate the most effective methods to prevent human rights violations. Because of the evolving nature of the laws and issues in this field, students can participate as strategists and investigators.

Evaluation:

Students will receive their grade for the course based on (1) class attendance (10%), (2) significant

contribution to class discussion (10%), (3) an essay (30%), and (4) a final Exam (50%).

Office Hours:

Tuesday, 1-3 p.m. or by appointment

---

オーストラリアにおける死と喪失 (2単位) (春 水3)  
DEATH AND LOSS IN AUSTRALIAN SOCIETY: A CULTURAL INTRODUCTION (2 Credits) (Spring Wed 3)  
ケルヒア, アラン 国際センター講師(ラトローブ大学教授)  
Allan Kellehear Lecturer, International Center (Professor, La Trobe University)

---

Course Description:

This is an introduction to Australian society examined through the prism of its experiences in death and loss. We will examine important dimensions of Australian history, politics and society by describing and reflecting on how these sociological dimensions shape – and are shaped by – experiences of Australian mortality.

The aims of this subject are:

- To provide a basic introduction to the culture and history of Australian society
- To provide a comparative basis for reflections about Australian national character with that of contemporary Japanese
- To provide an understanding of the most important patterns of national conflict – race, gender and class – that characterize the zeitgeist [‘spirit of the times’] for Australian society today.
- To understand Australian experiences of death and loss

Our discussions will revolve around a weekly reading. The topics and citations to these readings are supplied to you in this outline.

Your teacher for this course is:

Professor Allan Kellehear, PhD, is Professor of Palliative Care and Director of the Palliative Care Unit at La Trobe University in Melbourne, Australia. He is also Professorial Fellow at the University of Melbourne Medical School and Chair of the Scientific Advisory Committee of the National Centre for HIV Social Research in Sydney. In 2000 he was British Academy Visiting Professor at the University of Bath and the Religious Experience Research Centre at Westminster College, Oxford. He is the author or editor of 17 books and is currently in Japan as Visiting Professor of Australian Studies at the University of Tokyo.

Weekly Topic Outline and Readings:

1. Introduction to Australian Society – some historical background  
Reading: Eyewitness Travel Guide (2002) “History of Australia” Eyewitness Travel Guide: Australia. Dorling Kindersley Ltd, London
2. Introduction to Australian Society – some contemporary background  
Reading: A. Kellehear (2000) “The Australian Way of death” [pp 1-13] From A. Kellehear [ed] Death & Dying in Australia Oxford University Press, Melbourne.
3. The Role of Death and Loss in the formation of a nation  
Reading: A. Kellehear and I. Anderson (1997) “Death in the Country of Matilda” [pp1-14] From K. Charmaz et al [eds] The Unknown Country: Death in Australia, Britain and the USA, Macmillan, London.
4. The demography of death  
Reading: J.M. Najman (2000) “The demography of death: Patterns of Australian mortality” [pp 17-39]. From A. Kellehear [ed] Death & Dying in Australia Oxford University Press, Melbourne.
5. Death, religion and cultural diversity  
Reading: G.M. Griffin (2000) “Defining Australian Death: Religion and the State”. [ pp 40-51] From A. Kellehear [ed] Death & Dying in Australia Oxford University Press, Melbourne.
6. Funerals and Burial customs  
Reading: G. Howarth (2000) “Australian Funerals” [pp 80-91] From A. Kellehear [ed] Death & Dying in Australia Oxford University Press, Melbourne.
7. Grief and loss in Australia  
Reading: “Grief & Loss in Australian Society” [116-129] From A. Kellehear [ed] Death & Dying in Australia Oxford University Press, Melbourne.
8. Aging and dying in Australia

- Reading: J. Stevens et al (2000) "Ageing and dying". [pp 173-189] From A. Kellehear [ed] Death & Dying in Australia Oxford University Press, Melbourne.
9. The health and palliative care system response  
Reading: O. Kanitsaki (1998) "Palliative Care and cultural diversity" [pp 32-45]. From Palliative Care: Explorations and challenges. MacLennan & Petty, Sydney.
10. Death and the Law  
Reading: I. Freckelton (2000) "Death and the Law". From A. Kellehear [ed] Death & Dying in Australia Oxford University Press, Melbourne.
11. Death, Australian Art and Literature  
Reading: L. Fitzpatrick (1997) "Secular, Savage and Solitary: Death in Australian Painting" [pp 15-30]. From K. Charmaz et al [eds] The Unknown Country: Death in Australia, Britain and the USA. Macmillan, London.
12. Australians, War and National Disasters  
Reading: P. D'Alton (1997) "Prayers to Broken Stones: war and death in Australian Society". [pp45-57] From K. Charmaz et al [eds] The Unknown Country: Death in Australia, Britain and the USA Macmillan, London.
13. Beliefs about Personal Survival of Death  
Reading: H.J. Irwin (2000) "The End: A view from Parapsychology" [pp 342-354]. From A. Kellehear [ed] Death & Dying in Australia Oxford University Press, Melbourne.

Evaluation:

One major essay of 1200-1500 words.

This essay is due on Friday 16th July 2004.

Answer ONE of the following questions:

- How has death and loss shaped Australian identity?
- How has the Australian experience of death and loss shaped Australian responses to immigrants?
- Reflect on the differences and similarities of the experience of death and loss in contemporary Australian and Japanese societies.

This essay will comprise 70% of your total assessment with 30% dedicated to class participation.

---

グローバルビジネスにおける革新と戦略

(2単位) (春 金3)

INNOVATION AND STRATEGY IN GLOBAL BUSINESS

(2 Credits) (Spring Fri 3)

トビン, ロバート I. 商学部教授

Robert I. Tobin Professor, Faculty of Business and Commerce

---

Course Description:

This course examines successful innovations in global organizations-including market-changing products, inventive approaches to leadership and work, synergy between technology and product development, and the crafting, implementing and executing of business strategy. Ideas, customers, leadership, technology, markets, and talent are all part of the mix when companies innovate and craft business strategy--and will be examined in this course.

Students will develop the skills and tools that are critical for inventing and utilizing new business concepts, re-inventing old ones, and making innovation part of their lives.

The course will be conducted seminar-style with lecture-discussions, student group presentations, case studies, video segments, experiential class activities, and research assignments..

Text Book:

Leading the Revolution by Gary Hamel

Supplementary Reading Materials and Case Studies

Additional Book To Be Assigned

Recommended Readings:

Students are encouraged to read related materials in The Asian Wall Street Journal, Business Week, and Fast Company and to watch related business television broadcasts.

Class Schedule (Subject to change):

List of Topics:

- Introduction: Time of Change & Innovation
- Trends In International Business Leadership \ and Strategy
- Encouraging Ideas & Innovation
- What to Do About Decaying Strategy
- How to Become A Global Innovator
- New Market Expansion and Entry
- U.S. ,China, Thailand, Japan
- Global Leaders/Global Partnerships
- A look at Global Leaders
- Global Companies/Working Overseas
- Impact and Meaning of Anti-Globalization Forces
- Creativity in Leadership
- Future of International Business

Additional information about this course available at [www.tobinkeio.com](http://www.tobinkeio.com)

Message to those taking this Course:

A challenging, innovative course designed to encourage you to think in new, innovative ways. Be prepared for a challenging, rigorous course. This course attracts a large number of Keio's top students from every faculty and exchange students from around the world. No business background is necessary. There is substantial opportunity for student interaction and collaboration.

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

Evaluation:

Evaluation based on successful completion of assignments and projects, participation and on-time attendance, and an examination. In the event of unavoidable absence, please contact another student for assignments and be prepared for the next class. All assignments must be typed and no late papers are accepted.

Website: <http://www.tobinkeio.com>

---

産業史各論(科学技術政策史)

(2単位) (秋 月1)

HISTORY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY POLICY

(2 Credits) (Fall Mon 1)

ルイス, ジョナサン 商学部非常勤講師(一橋大学助教授)

Jonathan Lewis Part-time Lecturer, Faculty of Business and Commerce (Associate Professor, Hitotsubashi University)

---

Course Description:

This course investigates the aims, effectiveness and unexpected consequences of science and technology policies around the world. It considers the roles of states, enterprises and universities in scientific research and technological development in the context of globalization from a variety of perspectives.

The class will be in English and Japanese.

Recommended Readings:

Etzkowitz, Henry, 2002. MIT and the Rise of Entrepreneurial Science. Routledge.

Fuller, Steve, 1997. Science. Open University Press.

Hafner, Katie and Lyons, Matthe, 1998. Where Wizards Stay Up Late. Simon & Schuster.

L\_vy, Pierre, 2001. Cyberculture. University of Minnesota Press.

Low, Morris; Nakayama, Shigeru and Yoshika, Hitoshi, 1999. Science, technology and society in contemporary Japan. Cambridge University Press.

Mani, Sunil, 2002. Government, innovation and Technology Policy: an international comparative analysis. Edward Elgar.

Penely, Constance. 1997. NASA/Trek: popular science and sex in America. Verso.

Samuels, Richard J. 1994. "Rich Nation, Strong Army". Cornell University Press.

加藤弘一 著「電腦社会の日本語」文春新書, 2000

中山茂 他 著「通史 日本の科学技術」ガクヨウ書房, 1995

Evaluation:

Each student is provided with a website. Students follow policy developments in a field of science and technology of interest to them, and posts their findings frequently to their website. Points are awarded for class attendance and for website entries.

Inquiries:

Jonathan\_lewis@mac.com

[http://homepage.mac.com/jonathan\\_lewis/ja/teaching/Keio/index.html](http://homepage.mac.com/jonathan_lewis/ja/teaching/Keio/index.html)

---

アジアの政治、宗教、文化

(2単位) (秋 月4)

POLITICAL CULTURES OF SOUTHEAST ASIA: POLITICS, RELIGION, AND  
CULTURE

(2 Credits) (Fall Mon 4)

秋尾沙戸子 国際センター講師(ジャーナリスト)

Satoko Akio Lecturer, International Center (Journalist)

---

Course Description:

This course surveys the values and the attitudes which supply the original assumptions and the patterns which determine the political behavior influenced by the conventional traditions in Southeast Asia. Unique topics such as the role of Islam, Buddhism, and patron-client relations should be focused on while discussing the political leadership. Video presentation of historical events will help to understand the background of this region. Course requirements are active participation in the classroom, oral presentation and term paper.

Text Book:

Funston, John, (ed), *Government and Politics in Southeast Asia*, Singapore, Institute of Southeast Asian Studies, 2001.

Class Schedule (Subject to change):

1. Prologue
  2. Colonialism
  3. Indonesia: Sukarno and Nationalism
  4. Indonesia: Suharto and Megawati
  5. The Philippines: America, Marcos and Catholic role
  6. Singapore: Lee Kwan Yew and Chinese Networks
  7. Malaysia: Mahathir and Plural Society
  8. Thailand: Nation, Buddhism and Kingship
  9. Myanmar: Ne Win and Aun Sun Suu Kyi
  10. Vietnam: Ho Chi Minh and Communism
  11. Islam in Southeast Asia
  12. Current Situation in Southeast Asia: Impact of Islamic Revivalism
- Note: Term paper due: List of topics to be distributed later.
13. ASEAN, U.S. and Japan

Message to those taking this course:

Students are expected to understand Southeast Asia through the leader's biography, where Japan occupied during WW II and where students might pay a visit as businessmen for near future.

Evaluation:

Term paper 50% overall class participation 20% oral presentation 20% mapping test 10%

---

アメリカ研究: アフリカ系アメリカ人の視点からみたアメリカ史

(2単位) (秋 月4)

AMERICAN STUDIES: HISTORY OF THE UNITED STATES FROM AN  
AFRICAN-AMERICAN PERSPECTIVE

(2 Credits) (Fall Mon 4)

奥田暁代 法学部助教授

Akiyo Okuda Associate Professor, Faculty of Law

---

Course Description:

The objective of this course is to promote the student's understanding of American history and culture by

exploring the diverse experiences of black people in the United States. Emphasis will be placed on contemporary public issues as well as on the historical events. By means of discussion, lectures, videos, reading, writing, and class presentation, this course will provide new insights and perspectives into American history and culture.

Recommended Readings:

John Hope Franklin: From Slavery to Freedom

Class Schedule (Subject to change):

Introduction

Class 1 African Americans  
Movie: *Time to Kill* (1996)

Slavery

Class 2 History: The Middle Passage  
Movie: *Amistad* (1998)  
Class 3 History: Slave Culture and Insurrections  
Movie: *Gone with the Wind* (1939)  
Class 4 Contemporary Issue: Reparation Movement  
Student Presentations

Reconstruction

Class 5 History: Civil War and the Emancipation  
Movie: *Glory* (1989)  
Class 6 History: The Rise of Ku Klux Klan  
Movie: *The Birth of a Nation* (1915)  
Class 7 Contemporary Issue: Racist Symbols  
Student Presentations

Civil Rights

Class 8 History: Segregation in the South  
Movie: *Souder* (1972)  
Class 9 History: Civil Rights Movement  
Movie: *Long Walk Home* (1990)  
Class 10 Contemporary Issue: Affirmative Action  
Student Presentations

Backlash

Class 11 History: Post-Civil Rights Era  
Movie: *Hoop Dreams* (1994)  
Class 12 Contemporary Issue: Hate Crimes  
Movie: *Blood in the Face* (1991)  
Class 13 Contemporary Issue: "Two Nations"  
Student Presentations

Evaluation:

Class attendance is required and discussion is expected. There are four requirements for the course: attendance, assignments, class presentation, and final paper. Evaluation will be based on all four requirements.

Attendance and Participation --- 40%  
Assignments --- 20%  
Presentation --- 20%  
Final Paper --- 20%

---

地球環境問題と企業・政府・消費者	(2単位) (秋 月4)
GLOBAL ENVIRONMENTAL ISSUES AND ACTORS	(2 Credits) (Fall Mon 4)
山口光恒	経済学部教授
Mitsutsune Yamaguchi	Professor, Faculty of Economics

---

Course Description:

This course is offered in English.

By attending this course, you will understand what's happening on global environment and how important they are to our economy, health and future generations. I will focus on the actors, such as firms, governments and consumers and explain their roles. Then move on to selected issues; First, climate change (including international as well as domestic policies and measures), second, waste minimization focusing on EPR (Extended Producer Responsibility), and, if time allows, compatibility of free trade and environment.

1. Nature of global environmental problems
2. Global environmental issues and firms
3. SO Environment Management and Firm
4. Government activity (1) - Cost benefit analysis and value of the environment
5. Government activity (2) - Policies and measures
6. Role of consumers and NGO's
7. Climate change (1) -IPCC report and Framework Convention on Climate Change
8. Climate change (2) -Kyoto Protocol and US withdrawal
9. Climate change (3) -Domestic measures
10. Waste problems, Extended Producer Responsibility
11. Waste Problems, EPR -Japanese situation
12. Free trade and the environmental protection

Text books:

F.Cairncross, "Costing the Earth", Harvard Business School Press, 1991  
山口光恒「地球環境問題と企業」岩波書店 2000 年

Message to those taking this course:

Students must have a strong command of the English Language.

Evaluation:

Report and in class participation.

---

金融特論	(2単位) (秋 火2)
ADVANCED STUDY OF FINANCE: CORPORATE GOVERNANCE	(2 Credits) (Fall Tue 2)
深尾光洋	商学部教授
Mitsuhiro Fukao	Professor, Faculty of Business and Commerce

---

Course Description:

The governance structure of limited liability companies that stipulates the relationship among the management, stockholders, creditors, employees, suppliers and customers is important in determining the performance of the economy. Although the OECD countries are generally characterized as market economies, there are considerable differences among these countries in the organizational structure of the economy.

One of the major aims of this course is to understand the institutional differences in corporate-governance structures of companies in major industrial countries including the United States, Japan, Germany, France, and the United Kingdom. The differences in the corporate-governance structure have a number of implications for the performance of companies. For example, the cost of capital and the effective use of human resources would be affected by this structure.

In recent years, the deepening international integration of economic activities has heightened awareness of cross-country differences in corporate-governance structure and putting a strong pressure for convergence in

some aspects of corporate governance systems. The course will also survey these trends.

1. General Concept  
Fukao, Mitsuhiro, Financial Integration, Corporate Governance, and the Performance of multinational Companies, Brookings, 1995.
2. Hostile Takeovers  
Scheifer, Andrei and Lawrence H. Summers, "Breach of Trust in Hostile Takeovers", in corporate Takeovers: Causes and Consequences, edited by Alan J. Auerbach, University of Chicago Press, 1988.
3. Elements of Governance  
Kaplan, Steven N., "Top Executive Rewards and Firm Performance: A Comparison of Japan and the United States," JPE, Vol. 102, No.3, June 1994  
Franks, Julian R., "Lessons from a comparison of US and UK Insolvency Codes," Oxford Review of Economic Policy, Vol.8, No.3, June 1994  
Bank of Japan, "The Japanese Employment System," Bank of Japan Quarterly Bulletin, May 1994.  
Black, Bernard, "Creating Strong Stock Market by Protecting Outside Shareholders," remarks at OECD/KDI conference on Corporate Governance in Asia: A comparative Perspective, Seoul, March 3-5, 1999.  
Newbury, Robert W., Rachel Leahey, Annick Siegl and Stacey Burke, Board Practices 2000, IRRc, 2000.  
William C. Powers, Jr. Raymond S. Trough, and Herbert S. Winokur, Jr., "Report of Investigation by the special investigative committee of the board of directors of Enron corp.," February, 2002.
4. Financial System  
Fukao, Mitsuhiro, "Japanese Financial Instability and Weakness in the Corporate Governance Structure," Seoul Journal of Economics, Vol.11, No.4, 1998.  
Fukao, Mitsuhiro, "Barriers to Financial Restructuring: Japanese Banking and Life-Insurance Industries," paper for a NBER conference on Structural Impediments to Growth in Japan" on March 18-19, 2002

Text:

Fukao, Mitsuhiro, Financial Integration, Corporate Governance, and the Performance of Multinational Companies, Brookings, 1995.

---

異文化研究:国際化と異文化理解プロセス (2単位) (秋 火4)  
INTERNATIONALISM AND CULTURAL LEARNING: HUMAN RELATIONS IN THE NEW GLOBAL COMMUNITY (2 Credits) (Fall Tue 4)  
ショールズ, ジョセフ 国際センター講師(立教大学助教授)  
Joseph Shaules Lecturer, International Center (Associate Professor, Rikkyo University)

---

Course Description:

Traveling, living abroad and dealing with people from other cultures sometimes leads to understanding, tolerance and rich human relations. At other times, it increases stereotypes, creates conflict, causes culture shock and even identity crises. In this course, we will study this process of cultural learning. We will look at the stages that sojourners (travelers, expatriates etc.) go through when adapting to new environments, including how one's view of the world, values, and even identity can change. We will try to understand what it means to be "international" or "bi-cultural". The emphasis will be on the personal cultural learning experience, rather than geopolitical issues. There will strong emphasis on student discussion, student presentations, and students' intercultural experiences.

Text Books:

Handouts to be supplied by the teacher.

Recommended Readings:

Different Realities – Adventures in intercultural communication, by Shaules & Abe, published by Nan'un-do  
Identity, by Shaules, Tsujioka & Iida, published by Oxford University Press

Class Schedule (Subject to change):

1. Class introduction
2. The nature of intercultural contact – Deep and shallow cultural learning
3. Visible and invisible culture – the cultural onion
4. Student presentations
5. The goals of cultural learning – sympathy, empathy & constructions of reality
6. The “Deep difference” model of intercultural development - the three reactions
7. The roots of prejudice – Intercultural resistance
8. Student presentations
9. Towards ethnorelativism – Intercultural acceptance
10. Biculturalism and beyond – Intercultural adaptation
11. Community and the “multi-cultural man”
12. Student presentations
13. final class

Message to those taking this Course:

This class is especially recommended for students with interest in (or experience of) living abroad. Students will share their personal point of view, and are expected to share experiences and ideas during discussion and presentations. This class is open to all students, regardless of their previous level of intercultural experience.

---

カナダという国とカナダの国際的な役割	(2単位) (秋 火5)
CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE	(2 Credits) (Fall Tue 5)
イエローリーズ, ジェームズ 国際センター講師(カナダ日本連盟日本代表)	
James Yellowlees                      Lecturer, International Center (Director-Japan, Canadian Education Alliance)	

---

Course Description:

The course will focus on introducing the history, economy and social and political systems of Canada. Students will then examine contemporary Canada and its role in the international community. We will make use of videos and computer assisted media.

Message to Students:

Canada is a very interesting nation that has a lot of potential. If you are interested in learning more about Canada please consider taking this course.

Evaluation:

A five-page written Report on one aspect of Canadian Politics, Economy, Society or Culture.

---

比較映画論:映画における過去観の諸文化比較	(2単位) (秋 水2)
VISIONS OF THE PAST: CROSS-CULTURAL COMPARISON OF HISTORICAL FILM	(2 Credits) (Fall Wed 2)
エインジ, マイケル W. 経済学部助教授	
Michael W. Ainge                      Associate Professor, Faculty of Economics	

---

Course Description:

Historical Drama is a well-established film genre in most nations. While the majority of historical films ostensibly try to “re-create” past events, and present a “window on the past”, others depict the past in such a way as to comment on the nature of presenting history on film. In this course, we will examine historical films from around the world—Asia, Africa, Europe, Latin America and North America—with an eye on how they treat their historical subjects and on which attendant historiographical issues they raise. We will learn to recognize the basic issues and problems of presenting history on film (as compared to history recorded in books and manuscripts, for example), and this will allow us to discuss and compare how filmmakers in different cultures have responded to those problems.

First, we will define the two dominant types of historical film, the drama and documentary, analyzing their

conventions, as well as assessing their limitations. Then, we will proceed to survey some alternative approaches to representing the past on film. All along, we will try to uncover the "hidden" ideological and interpretive assumptions in the films. We will have to consider the relationship between fact and film, and the questions of accuracy, completeness, complexity, argument. Finally, students will be expected to view a film independently, and to write a paper analyzing that particular film in light of the questions and theories discussed in the class.

Students will be required to watch the assigned films on video before class, as homework, and to prepare questions for discussion in English in class. Assigned films will be available with English and/or Japanese subtitles. Evaluation will be based on: class participation(40%), and understanding of the course material as demonstrated in a term paper(60%).

A partial list of films on the course syllabus:

*CEDDO* (SENEGAL, 1978)

*FRIDA, NATURALEZA VIVA* (Mexico, 1984)

*HEARTS AND MINDS* (U.S.A., 1975)

*JFK* (U.S.A., 1991)

*THE MARRIAGE OF MARIA BRAUN* (W. GERMANY, 1979)

*QUILOMBO* (BRAZIL, 1984)

*REDS* (U.S.A., 1981)

*SANS SOLEIL* (FRANCE, 1982)

*TANGO* (SPAIN/ARGENTINA, 1998)

*WALKER* (U.S.A., 1987)

Additionally, written material for background reading and historical analysis will be available, for a small fee. The class will be conducted as a lecture-discussion, with frequent student presentations.

---

国際経済		(2単位) (秋 木5)
International Economy		(2 Credits) (Fall Thu 5)
小島明	商学研究科教授	
Akira Kojima	Professor, Graduate Scholl of Business and Commerce	

---

Course Description:

The class covers various international economic policy issues including trade, Investment (foreign direct investment), foreign exchange policy, WTO process, FTAs(Free Trade Agreements), regional integration, competitiveness issue, economic development strategy and so on.

Students will be put in the very front line of policy debate of international economy. Real voices of policy makers, business leaders and scholars will often be given to the students through recorded tapes and videos. As I have good many chances to participate to many important international policy debates, the student can be given the chance of sharing such experiences of mine. Practical, as well as theoretical approach will be introduced.

Texts:

“Globalization and its Discontent”, Joseph E. Stiglitz, Norton, 2002

METI “White Paper on International Trade 2002” (This document can be accessed through METI website, both in Japanese and English.)

Recommended Readings:

Various analytical reports and documents of IMF, World Bank and other institutions are recommended as required.

---

アフリカン イシューズ: アフリカにおける近代と危機の意味	(2単位) (秋 木5)
AFRICAN ISSUES: THE MEANING OF MODERNITY AND CRISES IN AFRICA	(2 Credits) (Fall Thu 5)
近藤英俊	国際センター講師(関西外国語大学助教授)
Hidetoshi Kondo	Lecturer, International Center (Associate Professor, Kansai Gaidai University)

---

Course Description:

Children, who are emaciated with protruding bellies and fly-infested faces, are crying for food, or worse, already motionless in their mothers' arms. For many, such a shocking scene is typically associated with Africa. This popular imagery has its origin in mass media that are often sensationalistic as to African coverage. The truth is that Africa is the continent of wonderfully rich and diverse cultures, where people live their vibrant everyday life. Yet, from this, it does not immediately follow that Africa is a trouble-free region. Just as Japan and other industrial countries have many social problems, Africa does have critical issues to be pursued.

This course is intended to explore some of the major problems that Africa is currently facing. This year we will focus on the issues of medicine and illness in contemporary Africa. Using wide range of academic disciplines, we will explore the social and cultural aspects of medicine and illness in Africa. Thus, the topics we deal with include: (1) complexity and flow of medical cultures, (2) social relations and power in medicine, (3) capitalism, the state and medicine, (4) development and decline of bio-medicine, (5) traditional medicine and professionalisation, (6) religion as medicine, (7) cultural understandings and social consequences of AIDS pandemic.

The course comprises lectures and class works. For class works, students are required to read and summarise a part of books or articles (minimum 30 pages per week) before attending the class. In the class, students will discuss their readings in a small group and then present it in front of all the rest. This is by no means an easy course! Assessment is based on active participation in class works and an essay (3000 words) submitted at the end of the term.

---

プロジェクト科目・欧州統合	(2単位) (秋 木5)
GRADUATE SEMINAR ON EUROPEAN INTEGRATION	(2 Credits) (Fall Thu 5)
田中俊郎	ジャン＝モネ チェア教授
Toshiro Tanaka	Professor, Jean Monnet Chair
細谷雄一	法学部専任講師
Yuichi Hosoya	Lecturer, Faculty of Law
庄司克宏	法学部非常勤講師
Shoji Katsuhiko	Part-time Lecturer, Faculty of Law

---

Course Description:

The European Union strives to establish a new order in Europe. While the EU attempts to deepen its construction through the Maastricht Treaty, the Amsterdam Treaty, the Nice Treaty and the Draft Treaty establishing a Constitution for Europe, it will enlarge its scope South and East, from 15 to 25 member states by May 1 2004.

This year, the seminar will focus on the enlargement and the deepening of the EU, trying to shed more lights on the historical development, to analyze its problems and outline future perspectives on the subject.

Course Schedule (Subject to Change):

1. Official Language: English
2. Presentation by students and discussion to follow.
3. Special guests will be invited from the European Commission, Embassies of the member states and Acceding countries in Japan, and researchers including professor from "Science Po" in Paris will be invited.

Evaluation:

Each student will be expected to give oral presentations and join in discussion during the semester. Each student is also expected to submit a term paper by the end of the semester (Length: 15 double-spaced typewritten pages including footnotes.)

Inquiries:

Call extension 22006 for appointment.

---

アジア諸国におけるビジネスマネジメント	(2単位) (秋 金3)
BUSINESS MANAGEMENT IN ASIAN COUNTRIES	(2 Credits) (Fall Fri 3)
トビン, ロバート I.	商学部教授
Robert Tobin I.	Professor, Faculty of Business and Commerce

---

Course Description:

This course focuses on strengthening your understanding of the major issues and challenges involved in the leadership of businesses in Asia. There will be a special focus on businesses and the styles of management of firms headquartered in Asia outside of Japan.

Students will explore traditional and emerging issues for Asia's business and political leaders and their organizations. In addition students will enhance their communication and leadership skills on group projects with other students.

Among the topics will be the unique political, economic, social and cultural influences on Asian management, issues related to corporate governance and ownership, entrepreneurship and strategy.

The course will be conducted seminar-style with presentations and discussions based on assigned readings, case studies, video segments, open-space activities, projects, experiential class activities, and research assignments.

Text Book:

*Asian Management Systems*, Min Chen.

Additional assigned articles and supplementary readings

Recommended Readings:

Students are encouraged to read related materials in The Wall Street Journal, Business Week, and The Economist and to watch related television broadcasts.

Class Schedule (Subject to change):

Introduction  
How to Succeed in Asian Markets  
Asian Market Leaders  
Development of Hybrid Management Styles  
Successful Asian Businesses  
Local Company and Country Trends  
Country Information Presentations  
Strategy-Country and Pan-Asia Strategy  
Case Studies: Challenges of Joint Ventures and Blending Styles  
Country Profiles: Group Presentations  
Political and Economic Risks in Asia  
CHINA - Chinese Management Systems, Changes and Opportunities  
Overseas Chinese Business  
Challenges of Family Businesses  
Business in Frontier Markets  
The Re-positioning of Korean companies  
Success in Japan, Singapore, Thailand, Vietnam, Korea  
Company Presentations: Asia's Most Successful Companies

Additional information about this course available at [www.tobinkeio.com](http://www.tobinkeio.com)

Message to those taking this Course:

A challenging, innovative course that examines the business approaches of countries and companies that are usually not included in traditional management and strategy classes. Students call this an eye-opening course. Be prepared for a challenging, rigorous course. This course attracts a large number of Keio's top

students from every faculty and exchange students from around the world. No background in business is required. There is substantial opportunity for student interaction and collaboration.

Evaluation:

Evaluation based on successful completion of assignments and projects, participation and on-time attendance, and an examination. In the event of unavoidable absence, please contact another student for assignments and be prepared for the next class. All assignments must be typed and no late papers are accepted.

Inquiries:

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

Website: <http://www.tobinkeio.com>

---

国際開発協力論	(2単位) (秋 金4)
INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION	(2 Credits) (Fall Fri 4)
後藤一美	法学部非常勤講師 (法政大学教授)
Kazumi Goto	Part-time Lecturer, Faculty of Law (Professor, Hosei University)

---

Course Description:

The twenty-first century is an era of global governance. The realm of contemporary international relations has seen the commencement of new political attempts to gradually reform existing systems in complex governance with different players and multi-tiered networks for the creation of a convivial global society, in which the common values of peace, prosperity and stability are pluralistically shared, overcoming the risks of asymmetry and tit-for-tat sequences. In this new political initiative towards an unknown world, there are some critical challenges, including the pursuit of public goals in the international community and of effective measures to reach them. In the new world of international development cooperation, aid donors and aid recipients have different dreams yet lie in the same bed with a dynamic and tense relationship. By reviewing frontline efforts in international development cooperation with a view towards sustainable growth and poverty reduction from the perspective of cooperation policies, this course is intended to provide some basic foundations and applications for the management of international development cooperation with students that are interested in the main issues of poverty and development in the developing regions, and that wish to be involved in the world of international development cooperation in the future. Several guest speakers shall be invited from international aid agencies.

Text Book:

Textbook is not used in particular. Resume and list of reading materials will be available during the course and via e-mail.

Recommended Readings:

Some recommended readings are as follows:

Finn Tarp, *Foreign Aid and Development: Lessons Learned and Directions for the Future*, Routledge, 2000.

John Degenbol-Martinussen and Poul Engberg-Pedersen, *Aid: Understanding International Development Cooperation*, Zed Books, 2003.

唐木圀和・後藤一美・金子芳樹・山本信人 (編)『現代アジアの統治と共生』慶應義塾大学出版会、2002年。

青木健・馬田啓一 (編)『政策提言／日本の対アジア経済政策』日本評論社、2004年。

後藤一美 (監修)『国際協力用語集』(第3版)、国際開発ジャーナル社、2004年。

Class Schedule (Subject to change):

Session 1	Orientation
Session 2-3	Introduction to international development cooperation
Session 4-6	Current topics (Part 1)
Session 7-9	Current topics (Part 2)
Session 10-12	Current topics (Part 3)
Session 13	Prospects of international development cooperation

Message to Those Taking This Course:

Active participation in class discussions is required.

Evaluation:

Some short essays are requested to be submitted during the course. Evaluation will be made, based on the final report (five pages of A4 size) submitted at the end of the course, with the following criteria: originality; logic; and persuasiveness.

Inquiries:

Should you have any inquiries, feel free to contact with the following address:  
<k-goto@i.hosei.ac.jp>

---

EU・ジャパン・エコノミック・リレーションズ	(2単位) (秋 土2)
EU – JAPAN ECONOMIC RELATIONS	(2 Credits) (Fall Sat 2)
嘉治佐保子	経済学部教授
Sahoko Kaji	Professor, Faculty of Economics

---

Course Description:

This course is offered in English. The text used in this course is Julie Gilson, Japan and the European Union, Macmillan Press (in the UK), St Martin's Press (in the USA), 2000. The contents of the book are as follows:

- Chapter 1 Introduction: Assessing Bilateral Relations
- Chapter 2 Developing Cooperation, 1950s – 80s
- Chapter 3 Japan and its Changing Views of Japan
- Chapter 4 European Integration and Changing Views of Europe
- Chapter 5 The 1990s and a New Era in Japan-EU Relations
- Chapter 6 Cooperation in Regional Forums
- Chapter 7 Addressing Global Agendas
- Chapter 8 Conclusions: A Partnership for the Twenty-first Century

Lectures will be based mostly on chapters of this text. Emphasis will be on the economic side of EU-Japan relations, rather than the political or historical. The plan is to use the first lecture for introduction. During the following weeks, one to two lecture-hours will be spent discussing each of the chapters 1 through 8.

The topic to be discussed in the following week will be announced at the end of each lecture. Students must submit a report on the Topic each week. They should thus familiarize themselves with the topic before coming to class. Several copies of the text will be on reserve at the library.

Evaluation is by class participation and an essay at the end of the term. For lighter reading on Japan, students may turn to Kaji, Hama and Rice, The Xenophobe's Guide to the Japanese, Oval Books, 1999, £3.99. Reading and/or purchasing of this latter book are not necessary.

Evaluation:

Report and class participation.

異文化コミュニケーション1－日本のコミュニケーションパターンから見た場合－  
 INTERCULTURAL COMMUNICATION 1: SEEN FROM JAPANESE  
 COMMUNICATION PATTERNS

(2単位) (春 月5)  
 (2 Credits) (Spring Mon 5)

手塚千鶴子 国際センター助教授  
 Chizuko Tezuka Associate Professor, International Center

Course Description:

This course has three interrelated purposes. The first is to help students learn some essential elements of Japanese psychology and culture, and their implications for communication patterns of Japanese people both among themselves and in intercultural settings. The second is to help students to examine both difficulties/challenges and excitements/joys of intercultural communication by learning key concepts and issues of intercultural communication. The third is to facilitate both Japanese and international students' on-going intercultural communication both by increasing self-awareness of how their respective cultures affect their communication patterns and by arranging them to learn to work together successfully on group projects which will serve as testing grounds for their intercultural communication.

Text Books:

No designated textbook and handouts will be distributed.

Recommended Readings:

*Japanese culture and behavior: selected readings* by Takie Lebra & William Lebra  
*Japanese patterns of behavior* by Takie Sugiyama Leba  
*Dependency and Japanese socialization* by Frank A. Johnson  
*Conflict in Japan* edited by Ellis Krauss, Thomas Rohlen, and Patricia G. Steinhoff  
*An introduction to intercultural communication* by John C. Condon & Fathi Yousef  
*Intercultural communication :a reader* (6<sup>th</sup> edition) by L.A.Samovar & R.E.Peter

Class Schedule (Subject to change):

1. Orientation and quiz on the impact of globalization on Japan
2. Conformity pressure vs. individualism in Japanese culture: a case study of Toko Shinoda, a female artist
3. What puzzles you about Japanese culture and society ? and Orientation to Group Projects
4. Understanding Japanese culture through examining mother-child relationship pictures and How to have good intercultural communication in class
5. Culture as mental software, functions of culture, and culture and communication
6. Comparing 'Peanuts' and 'Doraemon' to understand *Amae* psychology: prototype and functions of *Amae*, and culture specificity and universality of *Amae*
7. How *Amae* psychology and an emphasis on *Wa* gets translated into Japanese communication patterns: *Sasshi*, *Enryo* and *Honne* vs. *Tatema*
8. How to overcome overcome difficulties in intercultural communication: attribution, empathy and ethnocentrism
9. Preparation for Group Project
10. The Concept of *Sunao* and its implications for Japanese communication patterns: conflict avoidance, readiness to compliance ?, and open-mind
11. Comparing concepts of self between individualistic cultures and collectivistic cultures and its implications for intercultural communication between the two
12. Group project presentation 1
13. Group project presentation 2 and wrap-up

Message to Those Taking This Course:

Students who take this course are strongly encouraged to do risk-taking by sharing your opinions and feelings. Thus contributing to class by active participation in pair-work, group work and class discussion is a must, as the instructor believes that students learn a great deal from their classmates. As group projects, a major source for students' satisfaction, take so much time and energy in and outside of class, students' commitment is essential here. And your input to make this class better and interesting is always welcome by the instructor.

Evaluation:

Overall grades will be based on attendance, essays, participation in class, group project presentation, and

final individual project paper based on group project.

Inquiries:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp.

---

日本の金融ビッグバン	(2単位) (春 火3)
FINANCIAL DEREGULATION (BIG BANG) IN JAPAN	(2 Credits) (Spring Tue 3)
ハリス, グレアム O.B.E. 商学部非常勤講師	
Graham Harris O.B.E. Part-time Lecturer, Faculty of Business and Commerce	

---

Course Description:

In this class we will study the role of foreign and Japanese financial institutions in Japan including banks, securities and insurance companies. We will evaluate the Big Bang changes and ascertain whether or not they are achieving their purpose.

Text Book:

Current materials will be used.

Class Schedule (Subject to change):

Big Bang deregulatory changes, together with the general turmoil in the financial markets are creating new opportunities for both foreign and Japanese institutions. Existing companies are having to modify their strategies and new financial companies are being established – many basing their business model on the Internet.

We will examine these opportunities, separate the real from the imaginary and discuss the currents and future effect that foreign financial institutions are having on the Japanese financial scene.

We will also include topics such as the Japanese Post Office; accountancy changes leading to more corporate disclosure and transparency; and the government/FSA involvement in the continuing deregulation process.

Evaluation:

Students will be evaluated on the basis of attendance, class participation, essays, and oral presentation.

---

英国と米国のマスコミに描かれた日本	(2単位) (春 火3)
JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION	(2 Credits) (Spring Tue 3)
キンモンス, アール H. 国際センター講師(大正大学教授)	
Earl H. Kinmonth Lecturer, International Center (Professor, Taisho University)	

---

Course Description:

This course examines foreign (primarily Anglo-American) views of Japan from the earliest awareness of Japan until the present. For Japanese, the course serves as an introduction to the many ways Japan has been and is seen by foreign observers. For non-Japanese, the course serves to introduce students to the limits and peculiarities of scholarly and journalistic writing on Japan. For both, the course is intended to give students an awareness of the degree to which not just journalists but also allegedly objective scholarly observers are in fact heavily influenced by the historical and political circumstances in which they write.

Recommended Readings:

Appropriate readings will be suggested in conjunction with the lectures.

Class Schedule (Subject to change):

1. Introduction to the course - "Whose images of which Japan?"
2. European knowledge of Japan before the coming of Perry
3. The Meiji Restoration and the Meiji Renovation as seen by foreign observers
4. The avid students become the Yellow Peril

5. Taisho Democracy and interwar Japan as seen by foreigners
6. Shame and constipation - Anglo-American anthropologists psyche out the Japanese enemy during the Pacific War
7. New Dealers in the American Occupation - progressive misunderstanding of the causes of militarism
8. Cold War politics and post-war American studies of Japan
9. The many and varied explanations for Japanese economic and technological success
10. Rote memory or creative teaching - the variegated image of Japanese education
11. Erotic geisha or smothering mother - the variegated image of Japanese women
12. Waiting for convergence, planning for containment - rational choice versus revisionism in the American view of Japan's "bubble economy"
13. "Comfort Women" and "The Rape of Nanking" - American self-righteousness confronts Japanese evasiveness
14. Taking Japan Seriously? The who, the why, and how of foreign reporting on Japan
15. From super state to superannuated state - American images of "post bubble Japan"

Message to Those Taking This Course:

The final examination will be based on the lectures. Because no textbook is used, attendance is particularly important.

Evaluation:

Students will be expected to write one short paper on some aspect the foreign image of Japan or the Japanese image of a foreign country. There will be a final examination for the course based on the lectures. The final examination will be given during the scheduled examination period. The course grade will be computed as attendance and participation (20%), report (40%), and final examination (40%).

Inquiries:

Questions during or after lecture are welcome. Questions may be submitted in English or Japanese by email to ehk@gol.com. Special consultation before or after lecture can be provided upon request.

---

多民族社会としての日本

(2単位) (春 火4)

MULTIETHNIC JAPAN

(2 Credits) (Spring Tue 4)

柏崎千佳子

経済学部助教授

Chikako Kashiwazaki

Associate Professor, Faculty of Economics

---

Course Description:

This course introduces students to 'multiethnic Japan'. Although Japanese society is often portrayed as ethnically homogeneous, its members include diverse groups of people such as the Ainu, Okinawans, *zainichi* Koreans, and various 'newcomer' foreign residents. In this course, students will learn about minority groups in Japan and their relations with the majority 'Japanese' population. The goal of this course is to acquire basic knowledge and analytic tools to discuss issues concerning ethnic relations in Japan and elsewhere.

Texts:

Reading materials consist of excerpts from a variety of sources and will be provided by the instructor.

Class Schedule (Subject to change):

1. Introduction
2. Is Japan ethnically/culturally homogeneous?
3. Theories of ethnic relations
4. Zainichi Koreans: past and present
5. Zainichi Koreans: identity formation
6. Nikkei-Brazilians
7. Visa overstayers
8. "Foreign brides"
9. People from buraku
10. The Ainu
11. Okinawans
12. Presentations on the final project
13. Summary -- Rethinking Japanese society

### Message to Those Taking This Course:

The class is conducted entirely in English. Much of class activity is devoted to oral presentations and discussion. Students are expected to read the assigned materials beforehand and to participate actively in the class.

### Evaluation:

Evaluation will be based on participation in classroom discussion (30%), presentations (20%), and writing assignments including a short essay and a term paper (50%).

---

日本企業の経営戦略と管理手法	(2単位) (春 火4)
CORPORATE STRATEGIES, MANAGEMENT SYSTEMS AND PRACTICES IN JAPAN: Understanding Key Success Factors for Developing and Implementing Corporate Strategies	(2 Credits) (Spring Tue 4)
稲葉エツ 国際センター講師(財団法人貿易研修センター人材育成部長)	
Etsu Inaba Lecturer, International Center (Director, Human Resource Development Department, Institute for International Studies and Training)	

---

### Course Description:

#### Objectives:

1. This course tries to identify key success factors of linking corporate strategies with the management systems and practices. Using case studies and discussion, we will look at the micro level management strategies and practices.
2. The course also tries to develop analytical and experiential learning skills as well as discussion/presentation skills in students.

Under the increasingly global economy, companies are constantly reviewing their strategies and management practices to meet the new challenges. It is recognized that the competitiveness of corporations includes their ability to modify and change, as the environment changes, their management systems and practices. The course offers the opportunity to understand the linkage between corporate strategies and the process of developing management practices. In-depth understanding of selected corporations in Japan as "best practice" will be pursued through case studies, company visits and student's own research. Basic frameworks will be provided during the course. Each student is expected to develop individual list of key success factors of implementing strategies through management practices, based on the case studies used during the course.

Classes are conducted in English. Discussions and information sharing will also take place through e-mails. Both undergraduate and graduate level students are welcome.

### Recommended Readings:

Will be advised at the beginning of the course.

### Class Schedule (Subject to change):

1. Course Orientation (1 session)
2. Discussion of Strategy development framework (1 session)
3. Discussion of cases (Major Japanese companies) (4 sessions)
4. Discussion of cases (Medium scale and entrepreneur cases) (2 sessions)
5. Students research presentations (4 sessions)
6. Company visit (2 sessions)

To develop these skills and enhance understanding, students are required to read and analyze assigned case studies and do some further fieldwork.

### Evaluation:

Performance will be evaluated on the basis of:

1) Participation in class discussion, 2) field work report and presentations, and 3) a final report. Fieldwork can take either group visit to companies and/or research on a company with student's own initiative.

### Inquiries:

Questions and discussions can take place through e-mails as well as in the classroom.

---

浮世と道行き	(2単位) (春 水3)
JOURNEY THROUGH THE FLOATING WORLD	(2 Credits) (Spring Wed 3)
アーマー, アンドルー 文学部教授	
Armour Andrew Professor, Faculty of Letters	

---

Course Description:

This course focuses on the pre-modern Japanese literature of the Edo period (1600-1867). Marking a contrast with both the war tales of the samurai and the contemplative works of the solitary priests, much of the literature of this period reflects the concerns and tastes of the common townspeople. It was their prosperity and vitality that spurred the growth of printed literature and popular drama, encouraging men like Saikaku, Bashô, Chikamatsu and Akinari. As well as the “floating world” of prose fiction, we shall be covering such topics as haiku poetry and love suicides in the puppet theatre.

Texts:

Students will be presented with materials in class or via the class website ([www.armour.cc/ukiyo.htm](http://www.armour.cc/ukiyo.htm)).

Recommended Readings:

A list of reference works and useful links are available on-line.

Class Schedule (Subject to change):

A detailed list of the works covered in this course is available on the website.

On completion of this lecture course, students should:

1. Be familiar with the major works of poetry, prose and drama in the period covered;
2. Comprehend the major literary currents in the period covered and be able to identify the importance of the major works in the development of these currents;
3. Be familiar with the major figures in Japanese literary history (including commentators and critics) and their achievements;
4. Understand the cultural background (including religious aspects) of the works covered and, where necessary, the political events that form a backdrop to the literature;
5. Be familiar with the reception of Japanese literature in the West.

In the last few weeks of the course, those students requiring a grade will have an opportunity to report on a reading and research project of their own choosing.

Message to Those Taking This Course:

The course assumes that the student has a working knowledge of English. Prior knowledge of Japanese literature is not required, though it is desirable. Naturally some familiarity with the Japanese language, spoken and written, is a plus.

Evaluation:

Grading is primarily based on the student’s research project, presented to the class (using PowerPoint) according to a published schedule; a Q&A session will follow each presentation and a student’s responses are taken into consideration in the grading process. Overseas students who want their credits to be transferred to their home university are advised to present their research results in the form of an academic paper, complete with notes and bibliography. Naturally, regular attendance is important in order to receive a passing grade; the International Center requires that a record be kept.

---

日本の経営	(2単位) (春 水3)
JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS	(2 Credits) (Spring Wed 3)
梅津光弘 商学部専任講師	
Mitsuhiro Umezu Lecturer, Faculty of Business and Commerce	

---

Course Description:

Goal:

In this course, we will analyse contemporary Japanese society and business from an ethical perspective.

Through lecture and case discussion, I would like to find a balancing point of culturally contextualized management and globally acceptable norms for future international business. Also, I would like to discuss the strong points of Japanese Style Management which could be transferable to other cultures, and the weak points which would be universally unacceptable.

**Method:**

First, I will highlight the historical and theoretical aspects fundamental to analyzing Japanese society and business from an ethical perspective. Then I will assign you to read short cases which describe recent incidents that have caused public controversy both in Japan and elsewhere.

**Texts:**

Reischauer, E.O. The Japanese Today: Change and Continuity. The Belknap Press of Harvard University Press, 1988.  
Handouts

**Recommended Readings:**

TBA

**Class Schedule (Subject to change):**

1. Introduction: Geography, Climate and Demography of Japan
2. Historical Orientation of Japan.
3. Interpretation of Contemporary Japanese Society 1
4. Interpretations of Contemporary Japanese Society 2
5. Interpretations of Contemporary Japanese Society 3
6. Midterm Exam.
7. Government and Business Interface
8. Japanese Corporate Governance
9. Ethical Issues in Japanese Workplace 1
10. Ethical Issues in Japanese Workplace 2
11. Japanese Business in Transition 1: Community
12. Japanese Business in Transition 2: Environment
13. Final Exam.

**Message to Those Taking This Course:**

This is a course for international students who want to learn about the fundamentals of Japanese society and business. It is necessary for you to have advanced-level English discussion skills. Through this discussion, I hope you will deepen your understanding of Japanese society and business, and develop cultural insights that help in dealing with practical issues in an international setting.

**Evaluation:**

Mid-Term Examination (TBA) ..... 30%  
Final Exam/ Project (TBA) ..... 40%  
Class Participation ..... 20%  
Home work ..... 10%

---

美術を「よむ」ー日本美術史入門	(2単位) (春 水4)
INTRODUCTION TO THE ARTS OF JAPAN	(2) (Spring Wed 4)
河合正朝	文学部教授
Kawai Masatomo	Professor, Faculty of Law
ルーマニエール, ニコル	国際センター講師(セインズベリー日本藝術研究所所長)
Nicole Rousmaniere	Lecturer, International Center (Director, The Sainsbury Institute for Study of Japanese Arts and Cultures)
カーペンター, ジョン	国際センター講師(ロンドン大学東洋アフリカ学院助教授)
John Carpenter	Lecturer, International Center (Assistant Professor, SOAS, University of London)

---

**Course Description:**

Through an examination of selected topics ranging from prehistory through to the 19<sup>th</sup> century, this

introductory course aims to familiarize students with concepts and processes at work in Japanese art history. The course will provide a basic introduction to Japanese artistic formats, such as screen painting, calligraphy and ceramics, and to genres such as Zen painting, rinpa and literati styles. Primary emphasis is placed on understanding the work of art itself and its context.

#### Requirements:

Two short written assignments (4-5 double spaced A4 pages)  
Active participation in class discussions and on field trips. Attendance and participation will be reflected in the final grade for the course.

#### Field Trips:

One field trip to Tokyo National Museum (Ueno Park) will be taken during the course in conjunction with a paper assignment.

#### Lecture Topics:

Japanese Prehistory  
Todaiji and the Shosoin  
Courtly Literature and Kana Calligraphy  
Zen Painting and Calligraphy  
Japanese Ceramics  
Japanese trade and relations with China and Europe  
Rinpa Painting and Calligraphy  
Literati Painting and Calligraphy  
Japanese Ceramics  
Kabuki and 17<sup>th</sup> Century Genre Painting  
Kazari, Japanese Design and Decoration  
Ukiyo-e and Surimono  
Collecting Japan in 19<sup>th</sup>-century America and Britain

#### Texts:

There is no single textbook for the course. Instead, a list of suggested books will be distributed and photocopies of selected sections will be available.

Castile, Rand (ed), The Burghley House Porcelains. New York: Japan Society, 1986.

Clunas, Craig, "Oriental Antiquities/ Far Eastern Art," *Positions: East Asian Cultures Critique* vol. 2, no.2 (Fall 1994), pp.318-354.

Nishi, Kazuo and Kazuo Hozumi, What is Japanese Architecture? (Translated by H. Mack Horton) Tokyo: Kodansha International.

Fontein, Jan and Money Hickman, Zen Painting and Calligraphy. Boston: Museum of Fine Arts, 1970.

Guth, Christine, Art of Edo Japan: The Artist and The City 1615-1868. New York: H.N. Abrams, 1996.

Impey, Oliver and John Ayers and J.V.C. Mallet (ed), Porcelain for Palaces. London: The Oriental Ceramic Society, 1990.

Mason, Penelope, History of Japanese Art. New York: H.N. Abrams, 1993.

Mikami Tsugio. Japanese Ceramics. New York: Heibonsha International, 1977.

Nishi, Kazuo and Kazuo Hozumi, What is Japanese Architecture? (Translated by H. Mack Horton) Tokyo: Kodansha International, 1985.

Pearson, Richard, Ancient Japan. Washington, DC: Smithsonian Institution.

Rousmaniere, Nicole (ed), Kazari, Decoration and Display in Japan 15<sup>th</sup> – 19<sup>th</sup> Centuries. London: British Museum Press, 2003.

Singer, Robert, Edo, Arts of Japan. Washington D.C., National Gallery of Art, 1998.

Wilson, Wilson, Inside Japanese Ceramics. Tokyo and New York: Weatherhill, 1995.

#### Also See:

Chanoyu Quarterly (Urasenke Foundation)

The Kodansha Encyclopedia of Japan (9 vols.), New York: Kodansha International, 1983

The Shibata Collection Catalogues (6 vols) published by The Kyushu Ceramic Museum, 1995 onwards.

---

ジャパニーズ・エコノミー

(2単位) (春 木5)

JAPANESE ECONOMY

(2 Credits) (Spring Thu 5)

小島明

商学研究科教授

Akira Kojima

Professor, Graduate School of Business and Commerce

---

Course Description:

Japan's Economic Performance and policy debate in post war period up to now is covered with global economy perspective. Issues such as management practices, financial big-bang, foreign direct investment (FDI), bad loan problems, exchange rate, system reforms are all discussed with preferably active participation of students. Students can have real exposure to the most current policy debate amongst special through Video and Tapes etc.

Recommended Readings:

Japan's Policy Trap – Dollars, Deflation and the Crisis of Japanese Finance, by Akio Mikuni and R. Taggart Murphy. (Brookings Institution Press, 2002)

Balance Sheet Recession – Japan's struggle with uncharted economics and its global implications, by Richard C, Koo, 2003 John Wiley & Sons

Message to Those Taking This Course:

Active participation by students strongly desired.

Evaluation:

Report and in-class exam.

---

日本の政治と外交

(2単位) (春 木5)

JAPANESE POLITICS AND DIPLOMACY

(2 Credits) (Spring Thu 5)

添谷芳秀

法学部教授

Yoshihide Soeya

Professor, Faculty of Law

---

Course Description:

This course aims to evaluate the evolution of Japanese politics and diplomacy since the end of the World War II. It will deal with several key issues and questions relating to the emergence, evolution, and demise of the so-called 1955 regime of Japanese domestic politics, as well as the so-called Yoshida "doctrine" in its foreign policy.

Texts:

Reading assignments, show in the syllabus to be distributed in the first class, will be available from the University Co-op.

Class Schedule (Subject to change):

Course syllabus will be distributed in the first class. The course will address the following areas and issues:

1. Politics and Diplomacy under the 1955 Regime
2. Politics and Diplomacy in an Era of High Growth
3. Japan's Response to Détente
4. Politics and Diplomacy under the New Cold War
5. The End of the Cold War and the Demise of the 1955 Regime
6. Political and Diplomatic Challenges in the Post-Cold War Era
7. Changes in the 1990s
8. Politics and Diplomacy after the 9.11

Evaluation:

Attendance, Participation, and Term-paper

エコノミー・オブ・ジャパン

(2単位) (春 土2)

ECONOMY OF JAPAN

(2 Credits) (Spring Sat 2)

嘉治佐保子 経済学部教授

Sahoko Kaji Professor, Faculty of Economics

Course Description:

This course is offered in English.

The text book is Takatoshi Ito, The Japanese Economy, MIT Press, 1992.

Lectures will be based on chapters of this text.

The book's contents are as follows:

## Part I Background

Chapter 1 An Introduction to the Japanese economy

Chapter 2 Historical background of the Japanese economy

## Part II Economic Analysis

Chapter 3 Economic growth

Chapter 4 Business cycles and economic policies

Chapter 5 Financial markets and monetary policy

Chapter 6 Public finance and fiscal policies

Chapter 7 Industrial structure and policy

Chapter 8 Labour market

Chapter 9 Saving the cost of capital

Chapter 10 International trade

Chapter 11 International finance

## Part III Contemporary Topics

Chapter 12 US – Japan economic conflicts

Chapter 13 The distribution system

Chapter 14 Asset prices; land and equities

Students must submit a report on the chapter to be discussed each week. They should thus familiarize themselves with the topic before coming to class. Several copies of the text will be on reserve at the library.

Recommended Readings:

For lighter reading on Japan, students may turn to Kaji, Hama and Rice, The Xenophobe's Guide to the Japanese, Oval Books, 1999, £3.99. Reading and/or purchase of this latter book is not necessary.

Evaluation:

Class participation and an essay at the end of term

近代日本の対外交流史

(2単位) (秋 月5)

MODERN HISTORY OF DIPLOMATIC AND CULTURAL RELATIONS

(2 Credits) (Fall Mon 5)

BETWEEN JAPAN AND THE WORLD

太田昭子 法学部教授

Akiko Ohta Professor, Faculty of Law

Course Description:

The course aims to provide an introductory and comprehensive view of the history of diplomatic and cultural relations between Japan and the World in the latter half of the nineteenth century and early twentieth century. A basic knowledge of Japanese history is desirable, but no previous knowledge of this particular subject will be assumed. A small amount of reading will be expected each week.

Texts:

No specific textbook will be used.

Recommended Readings:

The reading list will be given at the beginning of the term.

Class Schedule (Subject to change):

1. Japan and the World before the Opening of Japan (2 lectures) : General introduction and the reappraisal of the Seclusion Policy
  2. The Opening of Japan and international society in the 1850s and 1860s
  3. The First Treaty with the West and the subsequent treaties(2 lectures) : the analysis of the U.S.-Japanese Treaty of Peace and Amity will be included
  4. Japanese Visits Abroad (2 lectures) : the evaluation of the cultural and diplomatic significance of the Japanese visits abroad (official missions / official students / stowaways and castaways
  5. Japanese perception of the West, changing attitudes and feelings in the 1860s (1 lecture)
  6. Western perception of Japan in the 1850s and 1860s (1 lecture)
  7. The significance of the Iwakura Mission (1~2 lectures)
  8. Development of Japanese Nationalism in the Meiji Era (2 lectures) : comparative analysis of several primary sources
- ☆ Optional excursion to the Yokohama Archives of History may be included in the programme.

Evaluation:

Students are expected to make a short report on a research project of their own choosing and hand in a term paper of about 2,000 words (about five pages, A4, double space) by the end of the term, and take the final examination.

Volunteers for a mini-presentation (about 10-15 minutes) on the topics related to the lecture are most welcome. (Details will be explained in class.)

---

異文化コミュニケーション2ー異文化接触における日本人のアイデンティティー	(2単位) (秋 月5)
INTERCULTURAL COMMUNICATION 2: IDENTITY OF JAPANESE SOJOURNERS	(2 Credits) (Fall Mon 5)
手塚千鶴子	国際センター助教授
Chizuko Tezuka	Associate Professor, International Center

---

Course Description:

The first purpose is to help students learn how Japanese people have been experiencing exciting as well as confusing encounters with cultures different from their own and how such cross cultural encounters in and outside of Japan have been affecting their sense of identity and communication styles as an individual (and as people) from the times of Japan's First Opening to the world in the late Edo Period up to the present from the three perspectives: history, cultural adjustment, and intercultural communication, utilizing case studies. The second purpose is to help both Japanese and international students who are brought together to Mita campus by the globalization and internationalization to make best use of this class to communicate effectively through discussion and other student-centered activities.

Texts:

There is no designated textbook. Handouts will be distributed.

Recommended Readings:

- Tsuda Umeko and Women's Education in Japan* by Barbara Ross, Yale Univ Press, 1992.  
*The White Plum: a biography of Ume Tsuda* by Yoshiko Furuki, Weatherhiesel, 1991.  
*Nitobe Inazo: Japan's bridge across the Pacific* by John F. Howes, Westview Press, 1995.  
*Foreign Studies* (translated from Japanese by Mark Williams) by Shusaku Endo, Charles E. Tuttle, 1989.  
*Intercultural Communication: reader 5<sup>th</sup> ed.*, Larry Samovar and Richard E Porter, Wadsworth Publishing Company, 1989.  
*Japanese Culture and Behavior (revised edition)* ed.by Takie Sugiyama Lebra and William Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1986.  
*Japanese Patterns of behavior* ed by Takie Sugiyama Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1976.  
*Exploring Japaneseness: on Japanese Enactments of Culture and Consciousness* ed by Ray T. Donahue, Ablex Publishing Company, 2002.  
*Japan Encounters The Barbarian: Japanese travelers in America and Europe*

Class Schedule (Subject to change):

1. Orientation to the course
2. A brief historical review of Japan's encounter with the outside world as an island nation up to the late

## Edo Period

3. Japan's attitude towards the West after the First Opening of Japan with an emphasis on absorbing the Western civilization
4. Japan's endeavor to modernize herself in comparison with Korea and China
5. A case study of Umeko Tsuda 1: a successful sojourn in America
6. A case study of Umeko Tsuda 2: many years of struggle adjusting back to Japan
7. Cross cultural adjustment1: culture as mental softwear, stages of cross cultural adjustment, and facilitating factors of cross cultural adjustment
8. A case study of Paris Syndrome or Double Suicide in Los Angeles: overadjustment and challenges for Japanese sojourners
9. A case study of a Malaysian woman married to a Japanese: cultural identity
10. Identity: ego identity, personal identity, and social identity, process of identity formation, and issues of identity fluctuation in cross cultural adjustment
11. A case of Jiro, a Japanese returnee who spent 6 years in U.S.A.: formulation and transformation of cultural identity and adjustment issue back in Japan
12. A case study of Masao Miyamoto adjusting back to Japan in the Showa Period in comparison with Umeko Tsuda in the Meiji Period
13. Challenge for Japanese and other sojourners: empathy, tolerance towards cultural differences and intercultural identity

Messages to Those Taking This Course:

Those students who are willing to participate actively in class are most welcome. Students are strongly encouraged to engage actively in pair work, a small group discussion and class discussion in addition to listening to mini-lectures. Thus what you can learn from this class largely depends on how much you can contribute to this class while the instructor's responsibility is that of a facilitator. And your input to make this class better and interesting is always welcome by the instructor.

Evaluation:

Overall grad will be based on attendance, homework, essays, participation in class, and final term paper.

Inquiries:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp

日本の文学

(2単位) (秋 水3)

JAPANESE LITERATURE

(2 Credits) (Fall Wed 3)

アーマー, アンドルー

文学部教授

Andrew Armour

Professor, Faculty of Letters

Course Description:

This course is intended to cover the history of Japanese literature from earliest times up to the modern era. Starting with the writing system, we will trace the conspicuous developments in poetry, prose and drama through the Nara, Heian, Kamakura, Muromachi and Edo periods. Included are such works as the *Manyôshû*, *Genji monogatari*, *Heike monogatari*, *Oku-no-hosomichi* and *Sonezaki shinjû*.

Texts:

Students will be presented with materials in class or via the class website ([www.armour.cc/jlit.htm](http://www.armour.cc/jlit.htm)).

Recommended Readings:

A list of reference works and useful links are available on-line.

Class Schedule (Subject to change):

A detailed list of the works covered in this course is available on the website.

On completion of this lecture course, students should:

1. Understand how the Japanese writing system developed, how it came to be used to compose works of literature, the problems it poses, and how the modern reader can decipher a manuscript such as that of *Genji monogatari*;
2. Be familiar with the major works of poetry, prose and drama in the period covered;

3. Comprehend the major literary currents in the period covered and be able to identify the importance of the major works in the development of these currents;
4. Be familiar with the major figures in Japanese literary history (including commentators and critics) and their achievements;
5. Understand the cultural background (including religious aspects) of the works covered and, where necessary, the political events that form a backdrop to the literature;
6. Be familiar with the reception of Japanese literature in the West.

In the last few weeks of the course, those students requiring a grade will have an opportunity to report on a reading and research project of their own choosing.

#### Messages to Those Taking This Course:

The course assumes that the student has a working knowledge of English. Prior knowledge of Japanese literature is not required, though it is desirable. Naturally some familiarity with the Japanese language, spoken and written, is a plus.

#### Evaluation:

Grading is primarily based on the student's research project, presented to the class (using PowerPoint) according to a published schedule; a Q&A session will follow each presentation and a student's responses are taken into consideration in the grading process. Overseas students who want their credits to be transferred to their home university are advised to present their research results in the form of an academic paper, complete with notes and bibliography. Naturally, regular attendance is important in order to receive a passing grade; the International Center requires that a record be kept.

---

20世紀日本の文学に与えたヨーロッパ文学の影響

(2単位) (秋 水4)

THE IMPACT OF WESTERN LITERATURE ON JAPANESE

(2 Credits) (Fall Wed 4)

TWENTIETH-CENTURY FICTION

レイサイド, ジェイムス 法学部教授

James M. Raeside Professor, Faculty of Law

---

#### Course Description:

This course of lectures is intended to give a selective account of the way that Western literature was received in Japan during the 20<sup>th</sup> century, and the different ways that Japanese novelists engaged with the genres and techniques of foreign predecessors and contemporaries.

Consideration will be limited to Japanese novelists, though poets will also figure amongst the Western writers. The lectures will follow a basically chronological order, beginning with the Natsume Soseki and ending with Murakami Haruki. Students interested in this course should try to read at least some of the following (names appear without macrons).

Natsume Soseki 夏目漱石 『草枕』

*English Translation A Three-Cornered World/ Unhuman Tour*

Nagai Kafu 永井荷風 『墨東奇談』

*English Translation: A strange Tale from East of the River*

Akutagawa Ryunosuke 芥川龍之介 「蜘蛛の糸」、「地獄変」、「河童」

*English Translation "The Spider's Thread"; "The Hell Screen" Kappa*

Tanizaki Junichiro 谷崎潤一郎 『痴人の愛』『夢喰う虫』

*English Translation Naomi; Some Prefer Nettles*

Mishima Yukio 三島由紀夫 『愛の渇き』『憂国』

*English Translation: Thirst for Love; "Patriotism"*

Endo Shusaku 遠藤周作 『沈黙』

*English Translation Silence*

Noma Hiroshi 野間宏 『わが塔はそこに立つ』

(There Stands my Pagoda)

Oe Kenzaburo 大江健三郎 『新しい人よ眼ざめよ』

*English Translation Rouse Up O Young Men of the New Age!*

Murakami Haruki. 『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』

*English Translation Hard-boiled Wonderland*

General surveys of Japanese literature such as those by Donald Keene and Shuichi Kato will also provide good background information.

---

日本の経済システムにおける政府の役割－規制と介入の特殊性を中心に－	(2単位) (秋 木4)
THE ROLE OF GOVERNMENT IN THE JAPANESE ECONOMIC SYSTEM: A	(2 Credits) (Fall Thu 4)
Critical Look at the Unique Features of Japanese Regulations and Government Involvement	
伊藤規子 商学部助教授	
Noriko Ito Associate Professor, Faculty of Business and Commerce	

---

Course Description:

This course aims to help the student to understand the Japanese style of economic regulation and how and why the central/local government's involvement in many areas of the economy is distinctive to that of other industrial nations. The lectures will (A) cover the contents of the text book, '*Arthritic Japan*' which is useful in explaining the postwar Japanese economic system and the problems the Japanese have been facing during the last decade, (B) briefly explain general concepts and approaches in theories of industrial organization, public choice and regulatory economics and (C) survey some distinctively Japanese approaches to developing infrastructure and regulating industries.

Texts:

Edward, J. Lincoln, *Arthritic Japan: the slow pace of economic reform*, Brookings, 2001.

Recommended Readings:

Additional materials will be provided during some sessions if necessary.

Class Schedule (Subject to change):

- Session 1 guidance and introduction
- Session 2-3 the Japanese postwar economic system
- Session 4-5 framework of government intervention and involvement in the economy
- Session 6-8 brief guidance to related theories of industrial organization and public choice
- Session 9-10 Japanese society, its traditions, structure and implications for the economic system
- Session 11-13 problems (in topics) with regard to current systemic economic reform

Message to Those Taking This Course:

The students who will attend this course do not need to have more than a basic knowledge of economics, but they are expected to have a general interest in the Japanese economy in all its aspects. Quite often the lecturer will give them copies of journal articles (such as those from the Japan Times). We will discuss these during the sessions. Sometimes the lecturer will ask the students to submit specific essays based on some of these articles.

Evaluation:

Evaluation will be carried out by (A) essays which will be submitted after the course ends and (B) essays submitted during some sessions based on articles provided.

Inquiries:

The lecturer's contact address will be notified at the beginning of the first session.

---

科学技術文化特論	(2単位) (秋 金2)
SCIENCE, TECHNOLOGY AND CULTURE	(2 Credits) (Fall Fri 2)
ドゥウルフ, チャールズ 理工学部教授	
Charles De Wolf Professor, Faculty of Science and Technology	

---

Course Description:

Japan is often viewed, by Japanese and non-Japanese alike, from seemingly polar opposite perspectives: on the one hand, as a non-Western country that, more thoroughly and successfully than any other, has

adopted the life-style of the “global” West; on the other, as, certainly among the advanced industrial democracies, the most insular and self-absorbed, obsessed with its own ethnic-national identity and holding “foreigners” at arm’s length. How is it possible, for example, that a country at the pinnacle of technological achievement could produce politicians who speak of skys produced in foreign countries as unusable on Japanese snow? How is it that the residents of the “high-tech” Japanese metropolis, the largest urban complex in the world, can wax enthusiastic about a freely elected governor who describes non-Yamato residents as “criminals” waiting to attack pure-blooded Japanese in the event of a major earthquake? In this course, we shall examine this seeming paradox from various perspectives: historical, social, linguistic, and religious. A related sub-theme will be the question of how culture and science, in the broadest senses of the terms, are interrelated.

Texts:

Materials to be distributed by instructor

Recommended Readings:

To be announced

Class Schedule (Subject to change)

1. The concept of science: words in different languages for 'science' and their meanings.
2. 'scientific', 'non-scientific', 'unscientific': Where do we draw the line?
3. What is meant by 'the scientific method'? Is linguistics, for example, a science? Pre-modern vs. modern Japanese linguistics as a case in point
4. Science and 'Weltanschauung': How philosophically/religiously 'neutral' is science?
5. Science and culture: Can modern science be regarded as an 'Occidental' invention?
6. The History of Science in Japan I: pre-16th century
7. The History of Science in Japan II: rangaku
8. The History of Science in Japan III: science in the Meiji Era
9. The theory of evolution in historical and cultural perspective, with particular emphasis on Japan
10. Ambivalent views of technology in historical and cultural context
11. Science and current issues I: Global warming
12. Science and current issues II: Cloning
13. Science and current issues III: Population control
14. Science and current issues IV: Globalization
15. Science and current issues V: Technology and human rights

Evaluation:

Attendance and participation are most important. Final reports are also required.

---

芸術と戦争：日本の戦時体制と作家、詩人、評論家

(2単位) (秋 金3)

THE ART OF WAR: JAPANESE WRITERS, FILMMAKERS, POETS, AND CRITICS

(2 Credits) (Fall Fri 3)

UNDER THE WARTIME STATE

ドーシー, ジェームス 国際センター講師(ダートマス大学助教授)

James Dorsey Lecturer, International Center (Associate Professor, Dartmouth University)

---

Course Description:

The course will examine a variety of Japanese literary and critical texts from the 1930s and 1940s, with a focus on those that deal directly or peripherally with the war efforts in China and the Pacific. Students will gain an understanding of the workings and relationship of nationalism, colonialism, censorship, propaganda, publishing practices, interpretive strategies, and the literary imagination.

Texts:

John W. Dower, War Without Mercy: Race & Power in the Pacific War (New York: Pantheon Books, 1986), 2000 円.

Kawabata Yasunari, Snow Country, trans by Edward Seidensticker (New York: Vintage, 1996), 2000 円.

Ishikawa Tatsuzô, Soldiers Alive, trans by Zeljko Cipris (Honolulu: University of Hawai'i Press, 2003), 2500 円.

All other readings will be made available in copy form.

Class Schedule (Subject to change):

1. COURSE INTRODUCTION  
(Course mechanics, syllabus, expectations, introductions)
2. THE LIBERAL ROOTS OF THE RADICAL RIGHT (1920s)  
(Kobayashi Takiji, Nakano Shigeharu, marxism, proletarian literature, *tenkō*/conversion)
3. "HOME IS WHERE THE HEART IS" (1930s)  
(Kawabata Yasunari, Kobayashi Hideo, cultural identity, rural roots/*furusato*, purity)
4. THE LITERARY GENIUS, PROPAGANDA EXPERT OR AVERAGE FIGHTING MAN?  
(Hino Ashihei, hero prototypes, authenticity, interpretation)
5. WRITERS AND THE STATE TANGO  
(Ishikawa Tatsuzō, censorship, publishing practices, war correspondents)
6. INSIDE-OUT AND OUTSIDE-IN  
(colonialism, imperialism, *naichi*/the center, *gaichi*/the periphery)
7. PURE AND SIMPLE?  
(propaganda in the U.S. and Japan)
8. "THINGS JAPANESE"  
(Hagiwara Sakutarō, Sakaguchi Ango, cultural identity, an imaginary Japan)
9. RECYCLED HEROES  
(the 47 rōnin, Miyamoto Musashi, Yoshikawa Eiji, nationalism, hero myths)
10. THE ATTACK ON PEARL HARBOR (2 sessions)  
(fascism, hero myths, nationalism)
  10. 1 Film (*Kaigun*/The Navy, 1942)
  10. 2 Literature (Sakaguchi Ango, "Pearls")
11. CHANGELESS CHANGE: POSTWAR JAPAN  
(Sakaguchi Ango, nationalism, cultural identity, colonialism)
12. WHERE ARE WE TODAY?  
(summary, review)

Message to Those Taking the Course:

War, suicide bombers, propaganda, surprise attacks, nationalism, the West vs. the non-West. These are all very much a part of our world today, and they were very much a part of it in the 1930s and 1940s. All students willing to explore and discuss these issues in the context of Japan's modern history are welcome. A field trip to the Yasukuni Shrine and museum will be part of the course.

Evaluation:

- Class participation: 35%  
 Two response papers (2 pgs each): 25%  
 One final paper (8 pages): 40%

日本経済の展望

(2単位) (秋 金4)

ECONOMIC SURVEY OF CONTEMPORARY JAPAN

(2 Credits) (Fall Fri 4)

市川博也

国際センター講師(上智大学教授)

Hiroya Ichikawa

Lecturer, International Center (Professor, Sophia University)

Course Description:

An advanced applied course of economics concerning the contemporary Japanese economy. The course will examine the roots of the instability of the present financial system and critically examine the Japan Model, which once was used to explain the success of the Japanese economy in the postwar period. This examination includes discussion of the legacy of wartime control and debates over the East Asia Miracle. Problems related to the aging population, social security, the burden of government debt, competition policy, deregulation (including the financial big bang), corporate governance, government-business relations, trade disputes, foreign direct investment, ODA policy, environmental issues, and the role of Japan in the world will be discussed. Students are required to read economic and financial news every day for class discussion.

Text Book:

Takafusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy" University of Tokyo Press, 1995

Class Schedule (Subject to change):

1. Introduction  
Identify major economic problems facing Japanese economy.
2. Discuss Paul Krugman "The Myth of Asia's Miracle" Foreign Affairs, November/December 1994.
3. Discuss Takahusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy," chapter 2. "Reform and Reconstruction" University of Tokyo Press. 1995.
4. Discuss chapter 3 "Rapid Growth" in Takahusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy"
5. Discuss "The Mechanism and Policies of Growth"  
See Nakamura chapter 4.
6. Discuss the dual structure: Labor, Small Business, and Agriculture" Richard Katz, "Japanese Phoenix-the long road to economic Revival", M.E. Sharp. 2003.  
chapter 3 "Overcoming the dual economy – backward sectors are the key to Japan's revival".  
chapter 4 "Overcoming Anorexia – the labours Sisyphus-"  
See Nakamura chapter 5.
7. Discuss "The End of Rapid Growth" See Nakamura. Chapter 6.
8. Discuss Japanese Economy and International Environment  
Richard Katz, chapter 9 "Globalization -the Linchpin of Reform-"  
chapter 11 "Foreign Direct Investment -A Sea Change-".  
See Nakamura chapter 7.
9. Discuss "The Collapse of the Bubble Economy" Thomas F. Cargill, Michael M. Hutchinson, Takatoshi Ito, "The political Economy of Japanese monetary Policy,"  
chapter 5 "The Bubble Economy and its Collapse"  
chapter 6 "Asset-Price Deflation: Nonperforming Loans, Usen Companies, and Regulatory Inertia." The MIT Press. 1997  
Richard Katz, chapter 12. "Financial integration – The Iceberg Cracks-".  
See also Nakamura chapter 8.
10. Restoring Japan's Economic Growth  
chapter 1 "Diagnosis: Macroeconomic Mistakes, Not Structural Stagnation"  
chapter 2 "Fiscal Policy Works When it is tried".  
chapter 3 "The Short and Long of Fiscal Policy" in Adam S. Posen, Restoring Japan's Economic Growth, Institute for International Economics, 1998.  
Richard Katz, chapter 6 "Fiscal dilemmas," chapter 7 "Monetary magic bullets are blanks", chapter 8 "Japan cannot export its way out".  
Richard Katz, chapter 13 "What is structural reform?" chapter 14 "Financial reform" chapter 15 "Corporate Reform-No competitiveness without more competition".
11. Discuss Financial and International Risks and Inflation Target.  
Chapter 4. "Mounting Downside Risks: Financial and International"  
Chapter 6. Recognizing a mistake, not blaming a model" in Adam S Posen.
12. Can Japan Compete?  
Chapter 2. "Challenging the Japanese Government Model"  
Chapter 3. " Rethinking Japanese Management",  
Chapter 5. " How Japan can Move Forward: The Agenda for Government"  
Chapter 6. "Transforming the Japanese Company" Michael E. Porter, Hirotaka Takeuchi & Mariko Sakakibara, "Can Japan Compete?" Macmillan Press Ltd. 2000  
Richard Katz, chapter 16 "Competition policy – Not enough competition, even less policy".
13. Deregulation and state enterprises, Tax reform Richard Katz, chapter 18 "deregulation and state enterprises – The Moment is Clear, the destination is not."  
Chapter 19. "Tax Reform – Don't Exacerbate Anorexia".

Message to Those Taking This Course:

Basic knowledge of Microeconomics & Macroeconomics prerequisite.  
High proficiency in English required: TOEFL (PB)550+ (CB)213+

Evaluation:

Class Participation (Active Discussion) + Essay + Term Examination

---

NPO/NGO 実践講座－日本のケース	(2単位) (秋 金4)
REALITY OF NPO/NGO IN THE CASE OF JAPAN	(2 Credits) (Fall Fri 4)
石井宏明 国際センター講師(ピース ウィンズ ジャパン 渉外)	
Hiroaki Ishii Lecturer, International Center (External Relations, Peace Winds Japan)	

---

Course Description:

Recently NGOs and their activities have become more and more publicized in Japan, since the Hanshin-Awaji Earthquake occurred. Ordinary people who did not have access to NGOs may have a big question, such as “Why does this happen and why is NGO work so important in the Japanese context?” This course will define the development of Japanese NPO/NGOs and their activities, responding to such questions, and examine the role of NGOs, especially in the field of international cooperation.

Through introducing the “live” activities of various kinds of NGOs, this course will show the real pictures of Japan-based NGOs as well as the environment surrounding them. Students could also learn strength and weakness of NGOs, particularly in the Japanese context, and the relations with other agencies such as the government, military forces, UN, and business sectors.

Guest speakers from NGOs and other players related to NGO’s activities would be invited to address in the course. Handouts will be periodically provided during the class session, and the lecturer will introduce some relevant reading materials.

Students should be able at the end of the course to:

1. Understand the definition and the diversity of NGOs and their activities, particularly in humanitarian assistance.
2. Develop a basic knowledge of NGO activities, including implementation of project implementation, advocacy, administration activity, public relations, and so on, through lecture, guest speech.
3. Acquire practical methodology throughout the group activity in terms of how an NGO can be organized and develop its capacity.

Class Schedule (Subject to change):

In the first half of the course will consist of mainly lectures and discussions facilitated by either lecturer or guest speakers, and in the latter half, the main activity will be a group activity to practice to design and found a new NGO. Preferably, each group will consist of 4-5 students working together to choose a specific area of NGO activity and plan to found, and then examine how it works. The lecturer will assist to provide a basic knowledge and skills to organize an NGO.

Last 1-2 classes (depending on the number of students) will be a group presentation based on the group activities, which every students can be an examiner as well as an examinee.

Message to Those Taking This Course:

This class is suitable to the students who want to learn the ongoing change of the Japanese NGOs, particularly International Cooperation NGOs, which the lecturer belongs to. Not much background information on NPO/NGOs or comparative analysis to other countries ones. Do not expect too much academically from this class.

Evaluation:

Class participation	20%
Group Activity	50%
Final Report (group based)	30%

---

日本の宗教: 救済の探求	(2単位) (秋 金4)
RELIGIONS IN JAPAN: IN SEARCH OF SALVATION	(2 Credits) (Fall Fri 4)
ナコルチェフスキー, アンドリイ	文学部助教授
Andrei Nakortchevski	Associate Professor, Faculty of Letters

---

Course Description:

In this course I would like to introduce main religious teachings existed in Japan from old times and up to our days. For the reason the name of the course is specified purposely as “Religions in Japan” and not as

“Japanese Religions.” Otherwise we have to limit our discourse to the only genuine Japanese religion – Shinto and maybe some eclectic so called “new religions”, and forget about Buddhism or Christianity.

Each of these religions will be presented in three aspects: dogmatic (the only exception will be done for Christianity and I will accent the peculiarity of a perception of this religion in Japan), historical and cultural. Dogmatic aspect means an introduction to the core postulates and their transformation over time. Historical aspect allows us to trace a destiny of a religious teaching in Japanese history, and cultural aspect implies a study of influences to and interactions with other spheres of cultural activities – art, literature, science, etc.

Besides the above mentioned aspects, the fourth theme, namely religion’s promise to solve the individual’s existential and social problems, will be constantly touched on in this course. From these theme derives the subtitle – “In Search of Salvation.” Especially this aspect becomes important when we deliberate “new religions”, including the notorious Aum Shinrikyo in particular.

About half of the lectures will be devoted to Buddhism as the most philosophically profound and variable teaching, but I would like to introduce not only institutionalized religion as Buddhism, Shinto, Christianity, as well as Taoism and Confucianism to some extension, but also the most interesting so called folk religions, for example, tradition of *shugendou* (mountain asceticism), different variants of shamanic practices, etc.

## 知的資産センター設置講座（平成 16 年度開講）

### 1. 知的資産センター設置講座開講にあたり

慶應義塾大学では、研究成果の社会への還元を、教育・研究と並ぶ大学の使命と考えています。そして、「慶應義塾で生れた研究成果は義塾にとって貴重な知的資産であり、大学はこれら知的資産の保護と活用を積極的に促進・支援する」という理念を公表しています。

こうした方針に基づき、知的資産センターは慶應義塾で生れた研究成果を社会へ還元するために、慶應義塾大学の技術移転機関として 1998 年 11 月に設立されました。技術に関するものだけでなく、電子メディアを始めとして広汎な研究成果を対象とするとともに、新しい事業の創出に資するという意味をこめて「知的資産センター」と名付けられました。

知的資産センターの事業は、研究成果に対する特許保護から始め、技術の移転、起業の支援と段階的に拡充していく計画です。そして、教職員の熱意と高いポテンシャルをもった研究成果に支えられ、既に数多くの慶應義塾の特許出願が生まれ、技術移転も活発化してきました。

また、知的資産センターは技術移転に密接に関係する知的財産に関する教育・研究も任務としています。

情報技術の劇的な革新に伴い電子メディア、ビジネスモデル特許に代表されるように、知的財産は社会のあらゆる分野に密接に関係してきました。こうした時代の変化に対応していくためには、専攻分野に係わらず知的財産に関する幅広い知識と理解が求められています。

そこで、知的財産に関する教育の一貫として、全学部の学生を対象として知的財産全般について基本的な事項の理解を図るため、設置講座を開設しました。

### 2. 設置科目、履修上の取扱いについて

今年度は「知的資産概論」の 1 科目を、春学期三田キャンパスで開講します。

授業時間は 18:10~19:40、単位は 2 単位です。その他授業に関する情報は、三田共通掲示板（西校舎 1 階）、<http://www.ipc.keio.ac.jp> でお知らせします。

受講を希望する場合は、履修の取扱いについて各学部、研究科の履修案内で確認の上、各学部窓口で履修申告をしてください。

### 3. 講義要綱

知的資産概論 ―知的財産の保護と活用をめぐる課題―

（ナテグリニド特別講座）

コーディネーター 知的資産センター所長（商学部教授）清水 啓 助

授業科目の内容：

研究活動や創造活動の成果を知的財産として、戦略的に保護・活用し、我が国産業の国際競争力を強化するという国家戦略が策定され、知的財産に対する関心は高まっています。知的財産には、技術（特許）、デザイン（意匠）、ブランド（商標）、音楽・映画のコンテンツ（著作権）といったものがあり、権利の内容や活用法はそれぞれ固有な特色があります。本講義では、代表的な知的財産の権利保護・活用における現状と課題についての理解を深め、知的財産に関する幅広い知識を得ることを目標とします。

教科書：

講義資料を配布します。

参考書：

「知的創造時代の知的財産」清水啓助他著、慶應義塾大学出版会

授業の計画：

- 1 知的財産の新たな時代
- 2 特許の仕組み
- 3 著作権の仕組み
- 4 マルチメディアに関する知的財産

- 5 知的財産の契約
- 6 商標ブランドの価値
- 7 知的財産の裁判
- 8 著作権処理に関する問題
- 9 企業における知的財産戦略
- 10 知的財産に関する世界の動向
- 11 知的財産の紛争処理
- 12 ベンチャー・起業の仕組み
- 13 技術の移転

なお、講義は外部講師を含め、オムニバス形式で行います。

**履修者へのコメント：**

積極的に学ぶ意欲を持つ学生を歓迎します。

単位の取扱については、学部により異なりますので注意してください。

**成績評価方法：**

平常点及びレポートによる評価

**質問・相談：**

授業の最後に質疑の時間を設けます。

# 関係規程抜粋

経済学研究科在籍者に特に関わりの深い規程について抜粋してありますので、履修要項と合わせて参照してください。なお、大学院学則については、入学時に配付する慶應義塾大学大学院学則を参照してください。

- 1 学 位
  - 1 - 1 学位規程 (抜粋)
  - 1 - 2 学位の授与に関する内規
- 2 奨 学 金
  - 2 - 1 大学院奨学規程
  - 2 - 2 小泉信三記念大学院特別奨学金規程
  - 2 - 3 小泉信三記念大学院特別奨学金規程細則
- 3 授業料減免
  - 3 - 1 授業料等減免規程
  - 3 - 2 留学期間中の学費の取り扱いに関する規程
- 4 そ の 他
  - 4 - 1 学生の国外留学に関する取扱い規則
  - 4 - 2 大学院在学期間延長者取扱い内規
  - 4 - 3 大学院在学期間延長者並びに年度途中の修了者に対する在学料その他の学費に関する取扱い内規

学位請求論文製本表紙見本

# 1 学 位

## 1 - 1 学位規程 (抜粋)

昭和31年2月17日制定  
平成13年12月7日改正

第1条 (目的) 本規程は、慶應義塾大学学部学則及び大学院学則に規定するもののほか、慶應義塾大学が授与する学位について必要な事項を定めることを目的とする。

第2条 (学位) 本大学において授与する学位は次の通りとする。

### 1 学 士

#### 文 学 部

##### 人文社会学科

哲学専攻	学士 (哲学)
倫理学専攻	学士 (哲学)
美学美術史学専攻	学士 (美学)
日本史学専攻	学士 (史学)
東洋史学専攻	学士 (史学)
西洋史学専攻	学士 (史学)
民族学考古学専攻	学士 (史学)
国文学専攻	学士 (文学)
中国文学専攻	学士 (文学)
英米文学専攻	学士 (文学)
独文学専攻	学士 (文学)
仏文学専攻	学士 (文学)
図書館・情報学専攻	学士 (図書館・情報学)
社会学専攻	学士 (人間関係学)
心理学専攻	学士 (人間関係学)
教育学専攻	学士 (人間関係学)
人間科学専攻	学士 (人間関係学)

##### 経済学部

学士 (経済学)

##### 法 学 部

学士 (法学)

##### 商 学 部

学士 (商学)

##### 医 学 部

学士 (医学)

##### 理工学部

機械工学科	学士 (工学)
電子工学科	学士 (工学)
応用化学科	学士 (工学)
物理情報工学科	学士 (工学)
管理工学科	学士 (工学)
数理科学科	
数学専攻	学士 (理学)
統計学専攻	学士 (工学)
物理学科	学士 (理学)
化学科	学士 (理学)
システムデザイン工学科	学士 (工学)
情報工学科	学士 (工学)
生命情報科	学士 (理学) 又は 学士 (工学)

総合政策学部 学士 (総合政策学)

環境情報学部 学士 (環境情報学)

看護医療学部 学士 (看護学)

### 2 修 士

#### 文学研究科

哲学・倫理学専攻 修士 (哲学)

美学美術史学専攻	修士 (美学)
史学専攻	修士 (史学)
国文学専攻	修士 (文学)
中国文学専攻	修士 (文学)
英米文学専攻	修士 (文学)
独文学専攻	修士 (文学)
仏文学専攻	修士 (文学)
図書館・情報学専攻	修士 (図書館・情報学)
経済学研究科	修士 (経済学)
法学研究科	修士 (法学)
社会学研究科	
社会学専攻	修士 (社会学)
心理学専攻	修士 (心理学)
教育学専攻	修士 (教育学)
商学研究科	修士 (商学)
医学研究科	
医科学専攻	修士 (医科学)
理工学研究科	
基礎理工学専攻	修士 (理学) 又は 修士 (工学)
総合デザイン工学専攻	修士 (理学) 又は 修士 (工学)
開放環境科学専攻	修士 (工学)
経営管理研究科	修士 (経営学)
政策・メディア研究科	
政策・メディア専攻	修士 (政策・メディア)

### 3 博 士

#### 文学研究科

哲学・倫理学専攻	博士 (哲学)
美学美術史学専攻	博士 (美学)
史学専攻	博士 (史学)
国文学専攻	博士 (文学)
中国文学専攻	博士 (文学)
英米文学専攻	博士 (文学)
独文学専攻	博士 (文学)
仏文学専攻	博士 (文学)
図書館・情報学専攻	博士 (図書館・情報学)
経済学研究科	博士 (経済学)
法学研究科	博士 (法学)
社会学研究科	
社会学専攻	博士 (社会学)
心理学専攻	博士 (心理学)
教育学専攻	博士 (教育学)
商学研究科	博士 (商学)
医学研究科	博士 (医学)
理工学研究科	
基礎理工学専攻	博士 (理学) 又は 博士 (工学)
総合デザイン工学専攻	博士 (理学) 又は 博士 (工学)
開放環境科学専攻	博士 (工学)
経営管理研究科	博士 (経営学)
政策・メディア研究科	
政策・メディア専攻	博士 (政策・メディア)

前項第3号に定めるほか博士 (学術) の学位を授与することができる。

第5条に定める者には、学位論文を提出した研究科に応じ第1項第3号の学位を授与する。

第2条の2(学士学位の授与要件) 学士の学位は、大学を卒業した者に与えられる。

第3条(修士学位の授与要件) 修士の学位は、大学院前期博士課程を修了した者に与えられる。

第4条(課程による博士学位の授与要件) 博士の学位は、大学院博士課程を修了した者に与えられる。

第5条(論文による博士学位の授与要件) 博士の学位は、研究科委員会の承認を得て学位論文を提出して論文の審査に合格し、かつ大学院博士課程の修了者と同等以上の学識があることを確認(以下「学識の確認」という)された者に与えられる。

第6条(学識の確認の特例) 大学院博士課程における教育課程を終え、学位論文を提出しないで退学した者のうち、退学の日から起算して研究科委員会が定める年限以内に論文による博士学位を申請した者については、研究科委員会が適当と認めた場合、学識の確認の一部若しくはすべてを行わないことができる。

学位論文以外の業績及び経歴の審査によって、研究科委員会が学識の確認の一部若しくはすべてを行う必要がないと認めた場合には、当該審査をもって学識の確認の一部若しくはすべてに代えることができる。

第7条(課程による学位の申請) 第3条の規定に基づき修士学位を申請する者は、学位論文3部を指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。

第4条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部及び所定の書類を添え、指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。

第8条(論文による学位の申請) 第5条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部及び所定の書類を添え、その申請する学位の種類を指定して、学長に提出しなければならない。

第9条(審査料) 第5条の規定に基づき博士学位を申請する者に対する審査料は、次の通りとする。

- 1 本大学大学院博士課程の教育課程を終え学位論文を提出しないで退学した者 50,000円
  - 2 本大学学士又は修士の学位を与えられた者で前号の定め以外の者 70,000円
  - 3 第1号・第2号のいずれにも該当しない者 100,000円
  - 4 本塾専任教職員である者 20,000円
- (医学研究科については40,000円)

第10条(審査並びに期間) 修士及び博士の学位論文の審査並びにこれに関連する試験等の合否は、当該研究科委員会が判定する。

博士の学位論文の審査並びにこれに関連する試験及び学識の確認等は、論文受理後1年以内に終了するものとする。

第11条(審査委員会) 研究科委員会は、学位論文の審査並びにこれに関連する試験等を行うために、関係指導教授及び関連科目担当教授2名以上から成る審査委員会(主査及び副査)を設置しこれに当たらせる。ただし、必要がある場合は助教又は専任講師・講師(非常勤)等を特に審査委員会に加えることができる。

第12条(審査結果の報告・判定方法) 審査委員会は、論文審査の要旨並びに試験の成績等を記録して研究科委員会に報告し、かつ、その意見を開陳する。

研究科委員会は、委員の3分の2以上の出席により成立し、その3分の2以上の賛同をもって学位論文の審査並びに試験の合否を決定する。

前項の議決は、無記名投票をもって行う。

第13条(学位授与) 研究科委員会において学位論文の審査並びに試験に合格した者に対し、学長は当該研究科委員会の報告に基づき学位を授与する。

第14条(学位論文要旨の公表) 本大学は博士の学位を授与したとき、当該博士の学位を授与した日から3月以内にその論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を公表する。

第15条(学位論文の公表) 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位の授与を受けた日から1年以内にその論文を印刷公表し「慶應義塾大学審査学位論文」と明記するものとする。ただし、学位の授与を受ける前にすでに印刷公表したときはこの限りではない。

第16条(学位の表示) 学位の授与を受けた者が学位の名称を用いるときは、学位の後にこれを授与した本大学名を「(慶應義塾大学)」と付記するものとする。

第17条(学位の取消) 不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したとき、又は学位を得た者がその名誉を汚辱する行為があったときは、当該研究科委員会及び大学院委員会の議を経てその学位を取消するものとする。

第18条(学位記及び書類) 学位記及び学位授与申請関係書類の様式は、別表の通りとする。

第19条(規程の改廃) この規程の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。ただし、第2条第1項第1号及び第2条の2については大学評議会の議を経てこれを行う。

附 則

この規程は平成14年4月1日から施行する。

[以下省略]

## 1 - 2 学位の授与に関する内規

昭和59年3月16日制定

平成12年5月16日改正

第1条 慶應義塾大学学位規程第13条(学位授与)に関する取扱いは、この内規の定めるところによる。

第2条 論文博士の学位授与及び博士課程単位修得退学者で再入学しない者に対する課程博士の学位授与に関しては、次の通り行うものとする。

1 学位授与日は、研究科委員会の議決日とする。

2 研究科委員会が学位論文審査合格を議決した日以降、「学位取得証明書」を発行できるものとする。

3 学位の授与手続きは、次の通りとする。

イ 研究科委員会の合否判定議決に基づき、研究科委員長はその結果を速やかに学長に報告する。

ロ 学長は、研究科委員長の報告に基づき合格者に学位を授与する。

4 学位記は、学位授与式において授与する。

第3条 修士の学位授与及び博士課程に在学している者に対する課程博士の学位授与に関しては、前第2条第3号と同様の手続きを経て当該年度末(3月23日)をもって学位を授与する。

前項の規定にかかわらず、修士課程においてあらかじめ研究科委員会の承認を得て、学位論文を提出締切期日までに提出せず次年度も引続き在学している者が、研究科委員会の特に認められた期日までに学位論文を提出し課程修了を認定された場合には、春学期末日をもって学位を授与することができる。

第1項の規定にかかわらず、後期博士課程（医学研究科にあつては博士課程）に在学する者で、大学院学則第109条第3項のただし書（医学研究科については同条第4項のただし書）の適用を受け、春学期末日をもって課程修了を認定された場合には、当該春学期末日をもって学位を授与することができる。

前項の規定にかかわらず後期博士課程（医学研究科にあつては博士課程）に在学する者で、大学院学則第109条第3項のただし書（医学研究科については同条第4項のただし書）の適用を受け、在学する年度途中において特に課程修了を認定された場合には、認定された日をもって学位を授与することができる。

第1項の規定にかかわらず、「大学院在学期間延長者取扱い内規」により在学する者が、春学期末日をもって課程修了を認定された場合には、当該第1学期末日をもって学位を授与することができる。

前項の規定にかかわらず、「大学院在学期間延長者取扱い内規」により在学する者が、在学する年度途中において、特に課程修了を認定された場合には、認定された日をもって学位を授与することができる。

学位記は、学位授与式において授与する。

第4条 学長は、学位を授与した者の氏名その他必要事項を取りまとめて、年2回大学院委員会の各委員に報告しなければならない。

第5条 この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。

附 則（平成8年3月8日）

第1条 この内規は、平成12年4月1日から実施する。

第2条 この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。

## 2 奨学金

### 2 - 1 大学院奨学規程

平成2年4月13日制定

平成10年4月21日改正

#### 第1章 総 則

第1条（根拠） 慶應義塾大学は、大学院学則第16節奨学制度に基づき、貸費及び給費の奨学制度を置く。

第2条（奨学金の種類・金額） 奨学金の種類は、次の通りとする。

1 貸費奨学金（無利子） 修士課程（前期博士課程）学生対象（但し、外国人留学生を除く。）

2 給費奨学金 後期博士課程（以下「博士課程」という。）学生、医学研究科博士課程学生、私費外国人留学生対象  
前項に定める奨学金の年額は、次の通りとする。

1 文、経済、法、社会、商学研究科 400,000円

2 医学、経営管理研究科 600,000円

3 理工学、政策・メディア研究科 500,000円

#### 第2章 貸 費 生

第3条（資格） 貸費生の資格は、大学院修士課程の学生（但し、外国人留学生を除く。）とし、次の条件を備えていなければならない。

1 研究の意欲を持ち、経済的に修学が困難であること。

2 学業成績・人物共に優秀で健康であること。

3 原則として、修士課程1年生であること。

第4条（期間） 貸費の期間は、大学院学則に定める修士課程標準修業年限の2か年とする。但し、修士課程2年生が貸費生に採用された場合は、1か年とする。

第5条（申請） 貸費を受けようとする者は、所定の申請書に学業成績証明書、健康診断書及び連帯保証人等の所得証明書を添えて、学生総合センターに申請するものとする。

第6条（選考） 貸費生は、第3条の条件により選考する。

第7条（決定） 前条による選考は、別に定める大学院奨学委員会（以下「委員会」という。）において行い、塾長がこれを決定する。

第8条（家計急変者に対する救済措置等） 天災その他の災害及び家計支持者の死亡、失職等のため家計が急激に変化し、学費の納入が困難になった者等若干名については、第3条第3号の規定にかかわらず、貸費生として追加採用することができる。

第9条（誓約書） 貸費生として決定された者は、所定の誓約書を連帯保証人と連署の上、学生総合センターに提出しなければならない。

第10条（身分等変更の届出） 貸費生は、次の各号に該当する場合は、直ちに学生総合センターに届け出なければならない。但し、本人の病気・死亡などの場合は、連帯保証人が代わって届け出なければならない。

1 休学、留学、就学、退学

2 本人及び連帯保証人の氏名、住所、その他重要事項の変更

第11条（貸与の休止） 委員会は、貸費生が休学・留学した場合、その間貸費生の資格を休止することができる。

第12条（貸与の復活） 前条の規定により貸費生の資格を休止された者が、休止の理由となったものが消滅した場合、委員会は、申請により貸与を復活することができる。但し、休止された時から3か年を経過したときは、この限りではない。

第13条（失格） 委員会が次の各号により不適格と認めた場合、貸費生はその資格を失う。

1 大学院学則に基づく退学、停学の場合

2 申請書及び提出書類の記載内容に虚偽があった場合

3 正当な理由がなく第10条に定める届け出を怠った場合

4 その他貸費生として不適当と認められた場合

第14条（貸与の辞退） 貸費生は、いつでも貸与を辞退することができる。この場合には、連帯保証人と連署の届出書を、学生総合センターに提出しなければならない。

第15条（貸与金借用証書の提出） 貸費生が次の各号に該当する場合は、貸与金借用証書に貸与金返還総額等を記載し、連帯保証人及び保証人と連署の上、学生総合センターに提出しなければならない。連帯保証人及び保証人の使用する印鑑については、印鑑証明を必要とする。

1 貸与期間が満了した場合

2 貸与を期間中に辞退した場合

3 第13条による失格の場合

第16条（貸与金の返還） 貸与金の返還は、原則として貸与が終了した年の12月から毎年1回の年賦とし、貸与年数の4倍の年数以内に全額を返還するものとする。但し、貸与金はいつでも繰り上げ返還することができる。

第13条による失格者については、貸与金の全額を直ちに返還しなければならない。

第17条（返還猶予） 貸費生であった者が次の各号に該当

する場合には、委員会は、本人の申請により貸与金の返還を猶予することができる。

- 1 災害又は疾病により返済が困難となった場合
- 2 貸与期間終了後、引き続き修士課程に在学している場合
- 3 修士課程修了後、博士課程進学を目指している場合

前項の規定にかかわらず、委員会は、その理由が相当であると認めるときは、申請により貸与金の返還を猶予することができる。

返還猶予期間は1か年とするが、返還猶予の理由が存続する場合は、第1項第3号に基づく場合を除いて、申請により1年ごとに延長することができる。但し、原則として3か年を超えて延長することはできない。

第18条（返還免除） 貸費生であった者が次の各号に該当する場合には、委員会は、本人又は連帯保証人の申請により、貸与金の全部又は一部の返還を免除することができる。

- 1 博士課程に進学し、学位を取得した場合、あるいは博士課程に3か年以上在学して所定の単位を取得し退学した場合。但し、博士課程を途中で退学した者については免除を認めない。
- 2 貸与金返還完了前に死亡した場合。この場合には、連帯保証人又は相続人は、死亡時から6か月以内に、貸与金返還免除申請書を、死亡診断書又は戸籍抄本を添えて、学生総合センターに提出しなければならない。

前項の規定にかかわらず、委員会は、その理由が相当であると認めるときは、申請により貸与金の全部又は一部の返還を免除することができる。

### 第3章 給費生

第19条（資格） 給費生の資格は、大学院博士課程学生及び私費外国人留学生とし、次の条件を備えていなければならない。

- 1 研究の意欲を持ち、経済的に修学が困難であること。
- 2 学業成績・人物共に優秀で健康であること。

第20条（期間） 給費の期間は、1か年とする。引き続き給費を希望する場合、再申請は妨げないが、3か年（医学研究科は4か年）を超えて給費を受けることはできない。

第21条（申請） 給費を受けようとする者は、所定の申請書に、学業成績証明書、健康診断書及び連帯保証人等の所得証明書を添えて、学生総合センターに申請するものとする。

第22条（選考） 給費生は、第19条の条件により選考する。

第23条（決定） 前条による選考は、委員会において行い、塾長がこれを決定する。

第24条（身分等変更の届出） 給費生は、次の各号に該当する場合は、直ちに学生総合センターに届け出なければならない。但し、本人の病気・死亡などの場合は、連帯保証人が代わって届け出なければならない。

- 1 休学、留学、退学
- 2 本人及び連帯保証人の氏名、住所、その他重要事項の変更

第25条（失格） 委員会が次の各号により不適格と認めた場合、給費生はその資格を失う。

- 1 大学院学則に基づく休学、退学、停学の場合
- 2 申請書及び提出書類の記載内容に虚偽があった場合
- 3 正当な理由がなく第24条に定める届け出を怠った場合
- 4 その他給費生として不適当と認められた場合

第26条（返還） 給費生が前条の規定により給費生としての資格を失った場合は、既にその年度に給付された金額の全部又は一部を返還しなければならない。委員会は、この場合の返還方法を、審査の上定める。

前項の規定にかかわらず、次の各号に該当する場合は、委員会は、申請により既に給付された奨学金の全部又は一部の返還を免除することができる。

- 1 死亡した場合
- 2 第25条第1号の規定により、給費生として資格を失った場合

第27条（事務） 本制度の運営事務は、学生総合センターの所管とする。

第28条（規定の改廃） この規程の改廃は、委員会の議を経て、塾長がこれを行う。

附 則（平成10年4月21日）

この規程は、平成10年4月1日から施行する。

平成3年3月31日以前の課程入学者については、旧・慶應義塾大学大学院奨学規程を適用する。

平成10年4月1日以後の修士課程（前期博士課程）第1学年入学者については、本規程第3条から第18条を適用しない。

平成10年4月1日以後の修士課程（前期博士課程）入学者を、本規程第2条第1項第2号及び第19条の対象に加えるものとする。

## 2 - 2 小泉信三記念大学院特別奨学金規程

昭和52年4月12日制定

昭和54年7月27日改正

第1条 小泉信三記念奨学金規程第2条第1号に基づき、研究者の養成を目的として大学院に特別奨学金による奨学研究生を置く。

第2条 奨学研究生は、学部第4学年に在学し大学院への進学を志願する学生、または大学院に在学する学生の中から、これを選考する。

第3条 奨学研究生の選考は、各研究科委員会の推薦により、小泉基金運営委員会の議を経て学長がこれを決定する。

第4条 奨学研究生には特別奨学金として、月額30,000円を給付し、その期間は1年とする。ただし、審査の上、この期間を更新することができる。

第5条 この特別奨学金規程に関する事務は、研究助成室が担当する。

第6条 この規程に関する細則は別に定める。

附 則

この規程は、昭和52年4月1日から施行する。

現行小泉信三記念大学院特別奨学金規程は旧・小泉信三記念大学院特別奨学金規程とする。

附 則（昭和54年7月27日）

この規程は、昭和54年9月1日から施行する。

## 2 - 3 小泉信三記念大学院特別奨学金規程施行細則

昭和52年4月12日制定

昭和54年7月27日改正

第1条 小泉基金運営委員会委員長は、毎年奨学研究生を公募する。

第2条 奨学研究生は、大学院に在学し、次に掲げる各号の条

件を備えていなければならない。

- 1 学業成績・人物共に優秀であること
- 2 将来、研究者たり得る資質ありと認められること
- 3 健康であること

第3条 奨学研究生を志望する者は、次の書類を整えて、保証人連署の上、研究助成室に提出しなければならない。

- 1 願書
- 2 履歴書
- 3 成績証明書 大学学部1年から申請時までの成績証明書
- 4 健康診断書

第4条 各研究科委員会は、奨学研究生を志望した者について審議し、順位を付して小泉基金運営委員会に推薦しなければならない。

第5条 奨学研究生は、次の理由により身分に変更を生じた場合は、保証人連署の上、直ちに学長に届け出なければならない。

- 1 休学・復学・退学
- 2 本人及び保証人の身分・住所その他重要事項の変更。ただし、本人が病氣・死亡等の場合は、保証人が代って届け出なければならない。

第6条 小泉基金運営委員会が、次の理由により不適格と認められた場合は、奨学研究生としての資格を失うものとし、すでに支給した奨学金の全部もしくは一部を返還させることがある。

- 1 この奨学金設定の趣旨に反し、かつ塾生としての本分にもとる行為があった場合
- 2 提出書類に虚偽の記載をした場合
- 3 正当な理由なく第5条に定める届け出を怠った場合

第7条 奨学研究生が退学した場合は、給付を打ち切るものとする。

付 則

この細則は、昭和52年4月1日から施行する。

現行小泉信三記念大学院特別奨学金規程施行細則は旧・小泉信三記念大学院特別奨学金規程施行細則とする。

附 則（昭和54年7月27日）

この細則は、昭和54年9月1日から施行する。

### 3 授業料減免

#### 3 - 1 授業料等減免規程

平成元年7月18日制定

平成11年11月26日改正

平成12年4月1日施行

第1条（目的） 慶應義塾大学は、疾病・傷害によって授業を長期にわたり休学している学部学生並びに大学院生で、経済上授業料等（大学院にあっては在学料等、以下授業料等という）の納入が著しく困難な学生に対し、審査のうえ、一定の期間授業料等を減免することが出来る。

第2条（対象） 減免を受けようとする者は、1年以上の長期にわたり入院又は通院している者並びに自宅療養をしている者で、休学の2年目以降の者でなければならない。

母国において兵役に就くために休学する者。この場合に限り1年目から減免する。

第3条（申請） 前条に該当する者が減免を申請する場合は、所定の申請書に休学許可書、診断書並びに家計支持者の所得

を証明する書類を添えて、学生総合センター長に提出しなければならない。

第4条（減免額） 減免を認められた者の減免額は、文科系学部・同大学院研究科については授業料等の半額、医学部・同大学院研究科、理工学部・同大学院研究科、総合政策学部、環境情報学部及び大学院政策メディア研究科については授業料等の半額及び実験実習費の半額とする。なお、総合政策学部、環境情報学部、大学院政策・メディア研究科及び法学部政治学科9月入学者は、休学期間が6か月毎のため減免額も半年分の半額とする。

正課又は課外活動中の事故による傷害で休学している場合、その事由を斟酌し、減免額を全額とすることができる。

第5条（審査） 第1条による審査は、大学学部生については大学奨学委員会、大学院生については大学院奨学委員会が行い、塾長が決定する。

第6条（減免の取消し） 休学者が虚偽の申請その他不正の方法で減免を受けた場合には、減免の措置を取り消すとともに、既に減免を受けた授業料等の全部又は一部を納入させることが出来る。

第7条（就学の届出） 休学者が就学した時は、速やかに書面をもってその旨学生総合センター長に届け出なければならない。

第8条（規程の改廃） この規程の改廃は、大学奨学委員会並びに大学院奨学委員会の議を経て、塾長が決定する。

第9条（所管） この規程の運営事務は、学生総合センターの所管とする。

附 則（平成11年11月26日）

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

#### 3 - 2 留学期間中の学費の取り扱いに関する規程

平成元年5月23日制定

平成2年4月1日施行

第1条 慶應義塾大学学部学則第153条及び慶應義塾大学大学院学則第124条により外国の大学に留学する学生（以下留学生という）の学費に関する取り扱いは、この規程の定めるところによる。

第2条 留学期間中の学費の取り扱いは、次の通りとする。

1 留学の始まる日（以下留学開始日という）の属する年度の学費は納入するものとする。但し、留学の奨励を図るため、別に定めるところにより、留学に要する経費の一部を補助することがある。

2 留学の延長が認められ、その許可された延長期間が留学開始日から起算して1年6か月以上2年以内の場合は、留学開始日から1年を経過した日の属する年度の授業料（在学料）及び実験実習費の半額を免除する。

3 留学の再延長が認められ、その許可された延長期間が留学開始日から起算して2年6か月以上3年以内の場合は、留学開始日から2年を経過した日の属する年度の授業料（在学料）及び実験実習費の半額を免除する。

第3条 留学生が留学の許可を取り消された場合は、その間に免除した学費の一部又は全額を納入させることがある。

第4条 この規程の適用に当たり疑義を生じた場合は、その都度塾長が決定する。

第5条 この規程の改廃は、塾長がこれを決定する。

附 則（平成元年5月23日）

この規程は、平成2年4月1日から施行する。

この規程の制定により、昭和56年5月12日制定、同年4月1日施行の留学期間中の学費の取り扱いに関する規程は、これを旧・留学期間中の学費の取り扱いに関する規程とする。

この規程は、留学開始日が平成2年4月1日以降の者に適用する。

この規程の施行前、既に留学を許可され留学している者の学費については、旧・留学期間中の学費の取り扱いに関する規程を適用する。

## 4 その他

### 4 - 1 学生の国外留学に関する取扱い規則

昭和56年5月7日経済学研究科委員会報告  
昭和56年4月1日実施

第1条 学部学則第153条及び大学院学則第124条により、学生が外国の大学へ留学する場合の取扱いは、この規則の定めるところによる。

第2条 国外留学を希望する者は、原則として、出発の3カ月前迄に所定の国外留学申請書を学長に提出しなければならない。所定の国外留学申請書には、履修を希望する授業科目名、履修期間、単位数、授業時間数、講義内容等を明記しなければならない。なお、事情により申請内容の一部を欠く場合には、教授会（または研究科委員会）の指示により、後日改めて追加することができる。

第3条 教授会（または研究科委員会）は、前項より提出のあった国外留学申請書に基づき、外国の大学において学習することが教育上有益であると判断した場合は、学則第153条（または大学院学則第124条）に定める留学として取扱う。審議にあたっては、国際センター所長に意見を徴することができる。

第4条 この適用を受けて留学する学生の学籍の取扱いは留学とする。ただし、在学中に休学が認められ外国の大学において学習することはさしつかえない。この場合、この規則は適用しない。

第5条 外国の大学で履修する期間は1年以内とする。ただし、やむを得ない事情があると認めるときは、更に学部学年は1年、大学院年は2年以内に限り、その延長を許可することができる。留学期間の延長を希望する者は、国外留学延長申請書を提出しなければならない。

第6条 留学の期間は1年間に限り、学部学則（または大学院学則）に定める在学年数に含めることができる。

第7条 外国の大学で取得した単位は学部において30単位、大学院においては10単位を超えない範囲内で、これを学部学則（または大学院学則）の規定する単位に認定することができる。

第8条 外国の大学で取得した単位を学部学則（または大学院学則）の規定する単位として認定を希望する者は、所定の取得単位認定申請書に、次の資料を添付して、学部長（または研究科委員長）に提出しなければならない。

1 履修証明書（授業科目名、学習期間、時間数、単位数、成績等を明記）

2 受講した授業科目の内容

第9条 教授会（または研究科委員会）は科目の内容、授業時間数、評価等について審査し、単位認定の可否を決定する。

この際、必要に応じて書類による審査の他、面接による審査を行うことがある。教授会（または研究科委員会）は、外国の大学等で修得した授業科目を本大学（または本学大学院）の授業科目として認定する場合は、次の事項を決定する。

(1) 授業科目名

(2) 授業科目の単位数

(3) 授業科目の評価（必修科目、選択科目、専門科目等の区別）

(4) 評価（学則上の評語）

第10条 外国の大学に留学する前後に履修した授業科目は、次のとおり取扱うものとする。

(1) 前期集中、前期終了科目の前期末試験を受験した場合は、その成績を評価し、所定の単位を与えることができる。

(2) 通年授業科目は前期に受講し、帰国後、同一担当者の同一科目名の授業科目を後期に履修した場合は、その成績を評価し、所定の単位を与えることができる。

(3) 後期科目、後期集中科目は、後期授業開始以前に帰国している場合には履修できるものとする。

第11条 履修申告書は帰国後、教授会（または研究科委員会）の指示に基づき、所定の期間内に提出しなければならない。

第12条 外国の大学に留学することによって、学部の研究会・卒業研究の履修（または修士・博士学位論文の研究）が中断する場合の取扱いについては担当指導教員の指示によるものとする。

第13条 学部学生の外国の大学で取得した単位の認定による進級・卒業の取扱いは、次により取扱うものとする。

(1) 外国の大学において取得した単位を認定し、進級に必要な単位数を取得した場合の進級の時期は、帰国後単位認定した時期の属する年度初めとする。

(2) 外国の大学に留学中に、外国の大学の単位を取得しなかった場合は原級に留めるものとする。

留学中に取得した単位を認定し、その結果、進級に必要な単位数を充足しなかった場合も同様とする。

(3) 前項より、同一学年に2年間在学し、なお、進級し得ない場合の学部学則第156条の適用については、事情を考慮した上で決定するものとする。第5条ただし書きにより2年間の留学を認め、この2年間で進級に必要な単位を取得できなかった場合も同様とする。

(4) 外国の大学で取得した単位の認定により卒業に必要な単位を充足できた場合の卒業の時期は、帰国した期日の属する年度末とする。

第14条 大学院学生が外国の大学で取得した単位を研究科委員会が認定することにより、課程修了に必要な単位が充足された場合、課程修了認定の時期は研究科委員会が決定する。

第15条 外国の大学に留学している学生が、次の各号の1つに該当するときは、学長は留学先学長と協議のうえ、留学生としての許可を取消すときがある。

(1) 留学先大学において、学習の実があがらないと認められたとき。

(2) 学生としての本分に反する行為があると認められたとき。

(3) 留学の趣旨に反する行為があると認められたとき。

第16条 留学期間中の学費は所定のとおりに納入しなければならない。ただし、事情を考慮して別に定める規定により減免することができる。

第17条 この規則の改廃は、各学部教授会（または各研究科委

員会)に諮り大学評議会の審議を経て、学長が決定する。

#### 付 則

第1条 この規則は昭和56年4月1日から施行する。

## 4 - 2 大学院在学期間延長者取扱い内規

昭和59年3月16日制定

第1条 本塾大学大学院後期博士課程(医学研究科にあっては博士課程)において、当該課程修了要件のうち学位論文の審査並びに最終試験を除き所定の教育課程を終えた後、引続き博士學位取得のために在学する者の取扱いは、この内規の定めるところによる。

第2条 在学期間延長を希望する者は、指導教授の許可を得て研究科委員会に「在学期間延長許可願」を提出し、承認を得なければならない。

第3条 研究科委員会は、研究継続の必要性等在学を延長する充分な理由があると認め、かつ教育並びに研究に支障のない場合、大学院学則第128条に定める在学最長年限を超えない範囲で引続き1年間(4月1日~翌年3月31日)の在学を許可できるものとする。

第4条 在学期間延長者が延長期間終了後も引続き在学を希望するときには、新たに「在学期間延長許可願」を提出し、研究科委員会の承認を得なければならない。

第5条 学則定員その他の理由から延長が認められない場合は、大学院学則第153条に定める研究生として受け入れることができる。

#### 付 則

第1条 この内規は、昭和59年4月1日から施行する。

第2条 この内規は、昭和58年度以降に医学研究科博士課程に入学した者並びに昭和60年度以降に後期博士課程に入学又は進学した者に適用する。

第3条 付則第2条の規定にかかわらず、博士課程所定単位修得退学者に対して課程による学位論文提出年限を「博士學位に関する内規」に沿って定めている研究科に在学する者については、昭和59年4月1日からこの内規を適用することができる。

第4条 この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。

## 4 - 3 大学院在学期間延長者並びに年度途中の修了者に対する在学料その他の学費に関する取扱い内規

昭和59年3月30日制定

平成8年3月8日改正

第1条 本塾大学大学院において「学位の授与に関する内規」

第3条第2項若しくは第3項により第1学期末日をもって課程修了する者の学費は、次の通りとする。

#### 1 在学料(毎年)

大学院学則第131条に定める金額の2分の1に相当する額

#### 2 施設設備費(毎年)

大学院学則第131条に定める金額

#### 3 実験実習費(毎年)

大学院学則第132条に定める金額

第2条 本塾大学大学院後期博士課程(医学研究科にあっては博士課程)において「大学院在学期間延長者取扱い内規」による在学期間延長者の学費は、次の通りとする。

#### 1 在学料(毎年)

大学院学則第131条に定める金額の4分の3

#### 2 施設設備費(毎年)

免除

#### 3 実験実習費(毎年)

大学院学則第132条に定める金額

在学期間延長者が「学位の授与に関する内規」第3条第4項および第5項により年度途中の日をもって課程修了する場合の在学料は、その課程修了の日が第1学期末日までの者に限り前項に定める金額の2分の1に相当する額。

第3条 「大学院在学期間延長者取扱い内規」第5条による研究生は、大学院学則第153条第2項に定める登録料を免除し、初年度に限り選考料を徴収しない。

#### 附 則

第1条 この内規は、平成8年4月1日から施行する。

第2条 この内規の修士課程に係る本則第1条については、昭和59年4月1日から適用する。

第3条 この内規の後期博士課程(医学研究科にあっては博士課程)に係る本則第2条及び第3条については、昭和58年度以降に医学研究科博士課程に入学した者並びに昭和60年度以降に後期博士課程に入学又は進学した者に適用する。

前項の規定にかかわらず、博士課程所定単位修得退学者に対して課程による学位論文提出期限を「博士學位に関する内規」に沿って定めている研究科に在学する者については、昭和59年4月1日からこの内規を適用することができる。

第4条 この内規の改廃は、塾長が決定する。

## 学位請求論文製本表紙見本

(1) 表紙

論文 平成 年度 ( 2 0 )
論 題
慶應義塾大学大学院 研究科
氏 名

(2) 背表紙

	} 1.0 cm
2 0	
	} 1.0 cm
論 文	
	} 1.0 cm
論 題	
氏 名	} 5.0 ~ 6.0 cm

